

令和元年度
八千代市農業振興計画策定に係る基礎調査
報告書

令和2年3月

株式会社流通研究所

目次

1	業務の目的と実施内容	1
2	現行計画の総括	5
3	統計データの整理	9
4	関連計画等の整理	29
5	ヒアリング調査	51
6	農業者アンケート調査	57
7	市民アンケート調査	125
8	八千代市の農業の現状と振興に向けた課題	201

業務の目的と実施内容

1 業務の目的

本市においては、現行の農業振興計画の対象期間の終了を控えており、また、本市の農業をとりまく状況も現行計画策定時から大きく変化していることから、本市の農業をどのような形で方向づけていくか、新たに定めなければならない時期をむかえている。

このことから、本年度と来年度の2ヶ年をかけて、現在の本市の農業の現状に即した新たな農業振興計画を概ね20年程度を対象期間として策定することを予定しており、本年度は計画策定に向けた基礎調査を実施する。

本調査業務は統計やアンケート等から本市の農業の現状を客観的に把握・分析し、図表等を用い、多くの人にわかりやすい形で見える化を図るものとする。これにより本市の農業の方向性を見極めるとともに、指標と出来るデータを検討するための基礎資料とすることを目的とする。

2 実施内容

基礎調査として、以下の業務を実施した。

① 現行計画の総括

現行の八千代市農業振興計画の総括を行った。

② 統計データの整理

農林業センサス等各種既存統計・調査を収集・整理し課題を把握した。

③ 関連計画等の整理

世界、国、千葉県、八千代市及びJ A八千代市の関連計画等を整理した。

④ ヒアリング調査

関係団体等にヒアリング調査を実施し農業振興に係る要望や課題を把握した。

⑤ 農業者アンケート調査

八千代市内の農業者を対象に経営の問題や今後の意向等を把握するアンケート調査を実施した。

⑥ 市民アンケート調査

八千代市内の市民を対象に農産物の購入状況や農業との関わり等を把握するアンケート調査を実施した。

⑦ 八千代市の農業の現状と振興に向けた課題

各調査結果を踏まえ、八千代市の農業の現状と振興に向けた課題として整理した。

現行計画の総括

1 水田の再基盤整備

水田については、一定の基盤整備が進んでいましたが、生産性の向上に向けて、県営土地改良事業を導入し、大区画化と汎用化を進めてきました。その結果、再基盤整備を行った水田の面積は、平成 17 年度の約 260ha から、約 307ha へと約 47ha 増加しました。

2 認定農業者の確保

効率的で安定した農業経営に取り組む担い手の育成に向けて、認定農業者を確保すべく、農業者に対し、認定農業者になることのメリットや制度の説明を行ってきました。この結果、認定農業者数は、平成 17 年度の 30 件から、90 件に増加しました。

3 家族経営協定

担い手の家族が、意欲をもって農業経営に参加できる環境整備に向けて、家族経営協定の締結を促進してきました。この結果、家族経営協定の締結数は、平成 17 年の 5 件から、31 件に増加しました。

4 地場農産物を使って加工品を生産した生産者数

食に関する消費者ニーズに対応するとともに、農業者の所得の向上に向けて、市内の農産物を原料とした加工品を確保すべく、取り組んできました。この結果、地場農産物を使って加工品を生産した生産者は、平成 21 年の 72 人から、平成 26 年は 75 人に増加しました。

5 エコファーマー戸数

持続性の高い農業生産を拡大するとともに、持続性の高い農業により生産された農産物の需要を拡大するため、エコファーマーの認定を促進してきました。この結果、エコファーマーの戸数は、平成 17 年の 22 件から、115 件に増加しました。

6 体験農園利用者数

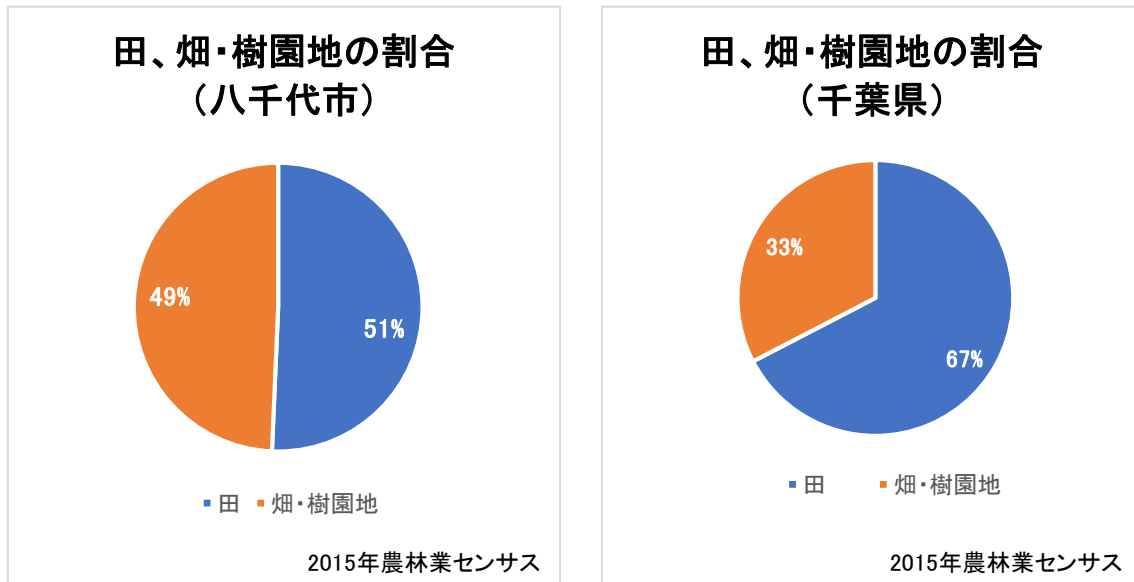
市民が農業に触れ合う機会を整備し、農業に対する理解を促進する取組みの一環として、農業交流センターの周辺の農地において体験農園を整備するとともにさまざまな農業体験ができる機会を設けました。この結果、体験農園の利用者数は、増加の傾向にあります。

統計データの整理

1 農地

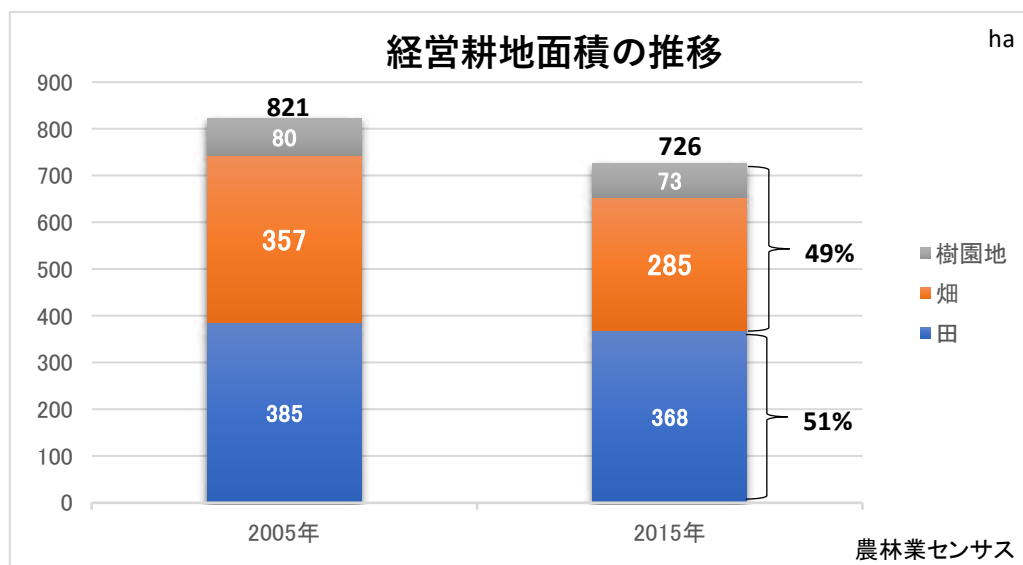
① 田、畑・樹園地の割合

八千代市の農地は、水田と畑・樹園地の割合が、おおむね半々となっている。県全体と比べて畑の割合が多い。



② 経営耕地面積 (農業経営体) の推移

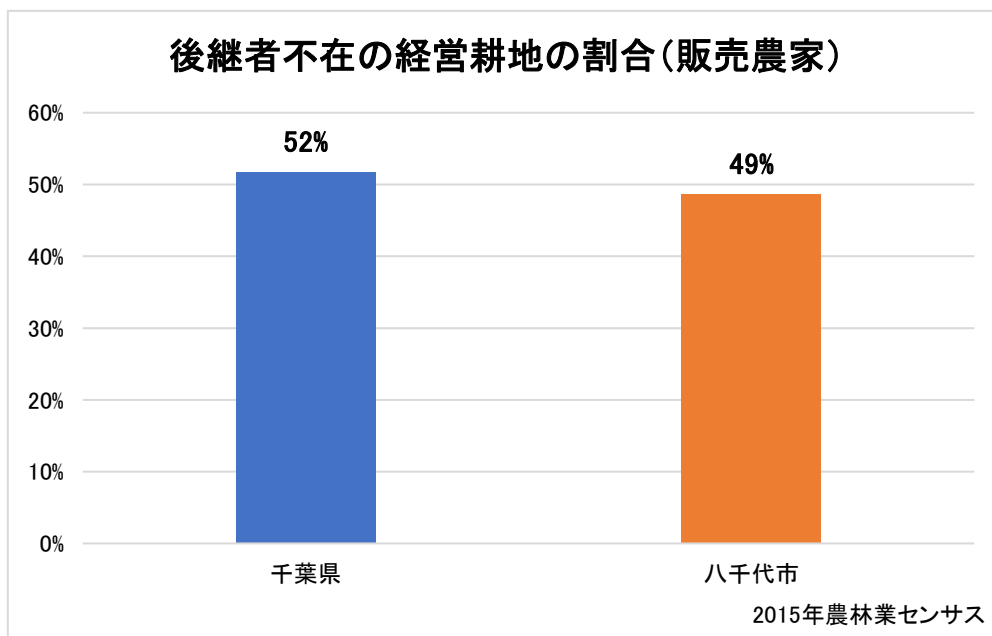
経営耕地面積は、10年間で約100ha減少した。特に、畑・樹園地が79haと大きく減少した。



※ 経営耕地面積とは、所有農地+借りている農地(貸している農地と耕作放棄地は除く)

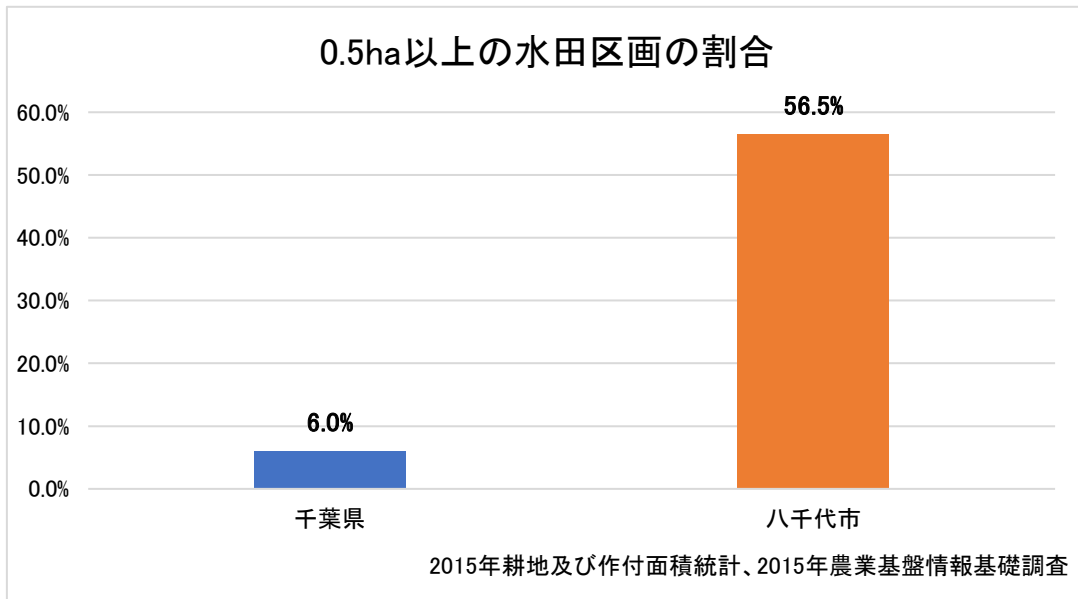
③ 後継者不在の経営耕地の割合

販売農家の経営耕地面積のうち、後継者がいない販売農家の農地の割合は、おおむね半分となっている。県全体より若干、後継者がいない販売農家の農地の割合は少ない。



④-1 田の整備率

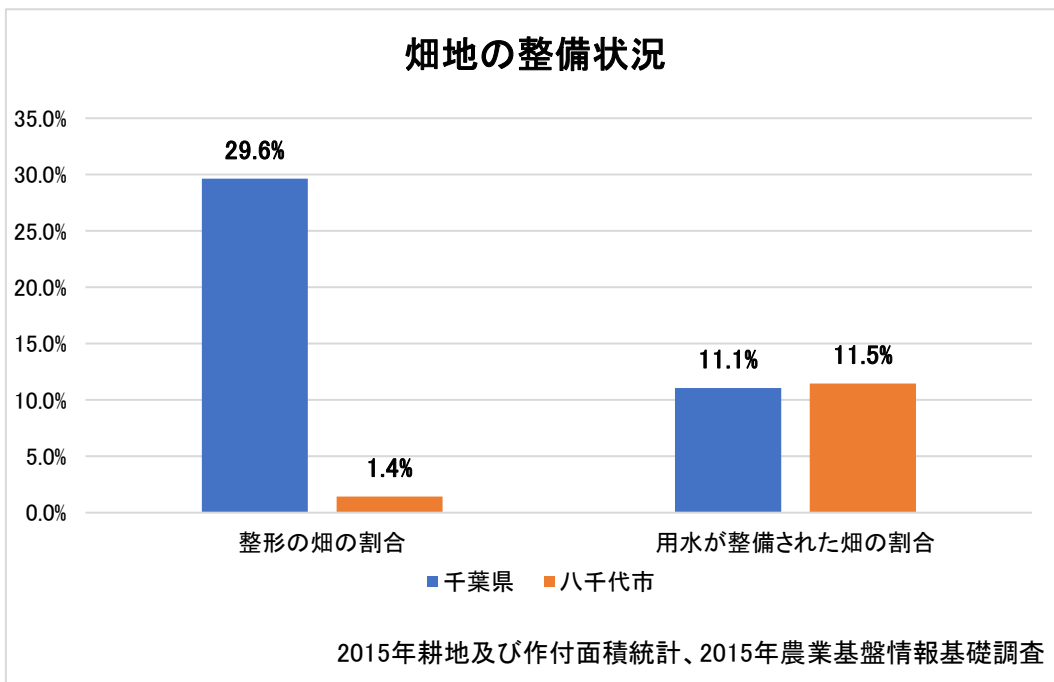
田は、0.5ha以上の区画の割合が県全体と比べて高く、整備が進んでいる。



※0.5ha以上の区画割合=0.5ha以上の区画面積÷田耕地面積より算出。

④-2 畑の整備率

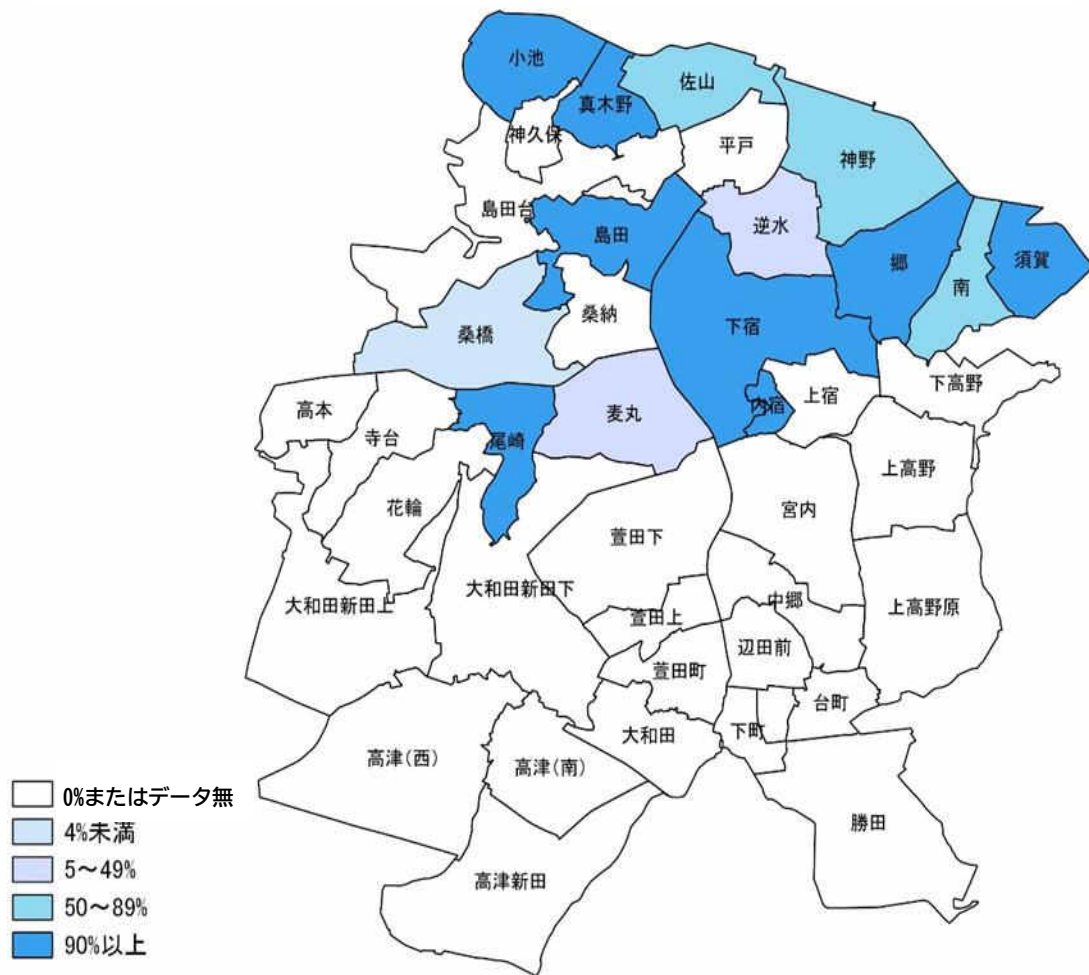
畑地の整備状況は、整形の面積の割合が、千葉県全体に比べて少ない。用水は、千葉県と同程度の整備割合となっている。



※ 整形の畑の割合=整形の畑の面積÷畑耕地面積、用水が整備された畑の割合=畑かん有り(事業により末端施設まで整備済み)面積÷畑耕地面積により算出

(地区別 田の整備状況)

八千代市における田の整備状況 (0.5ha 以上の水田区画の割合)

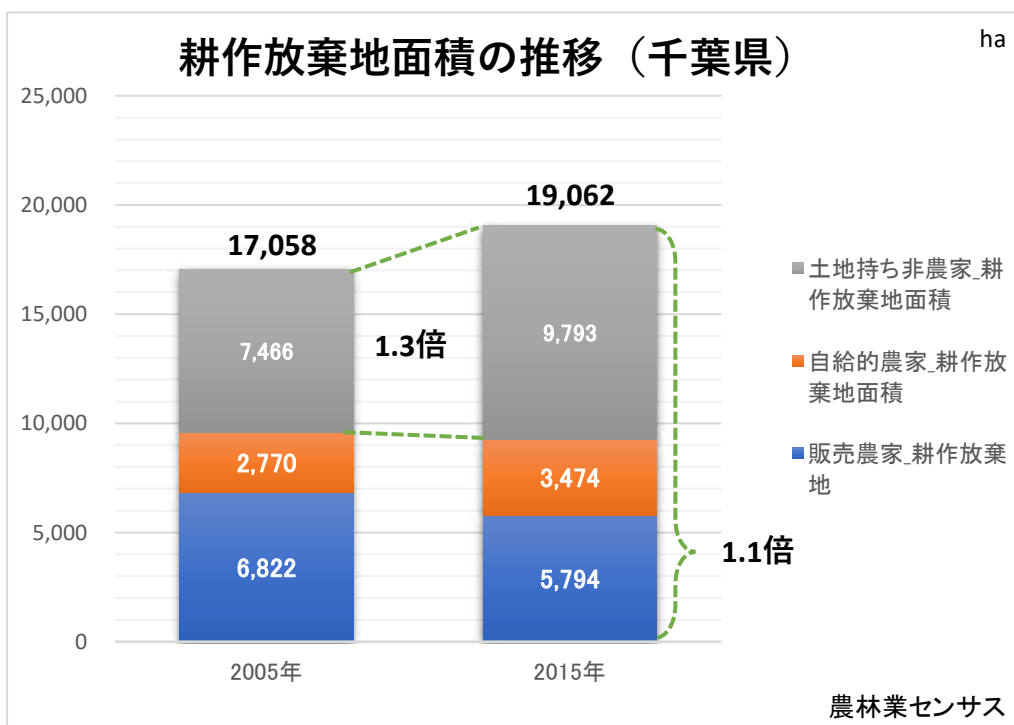
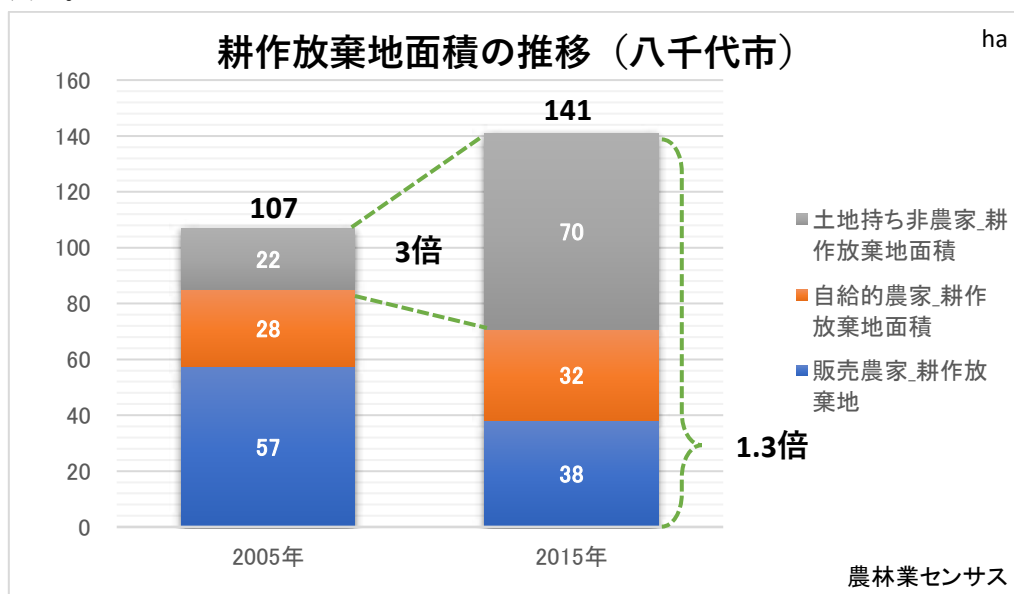


2015年農林業センサス

⑤ 耕作放棄地面積（総農家等）の推移

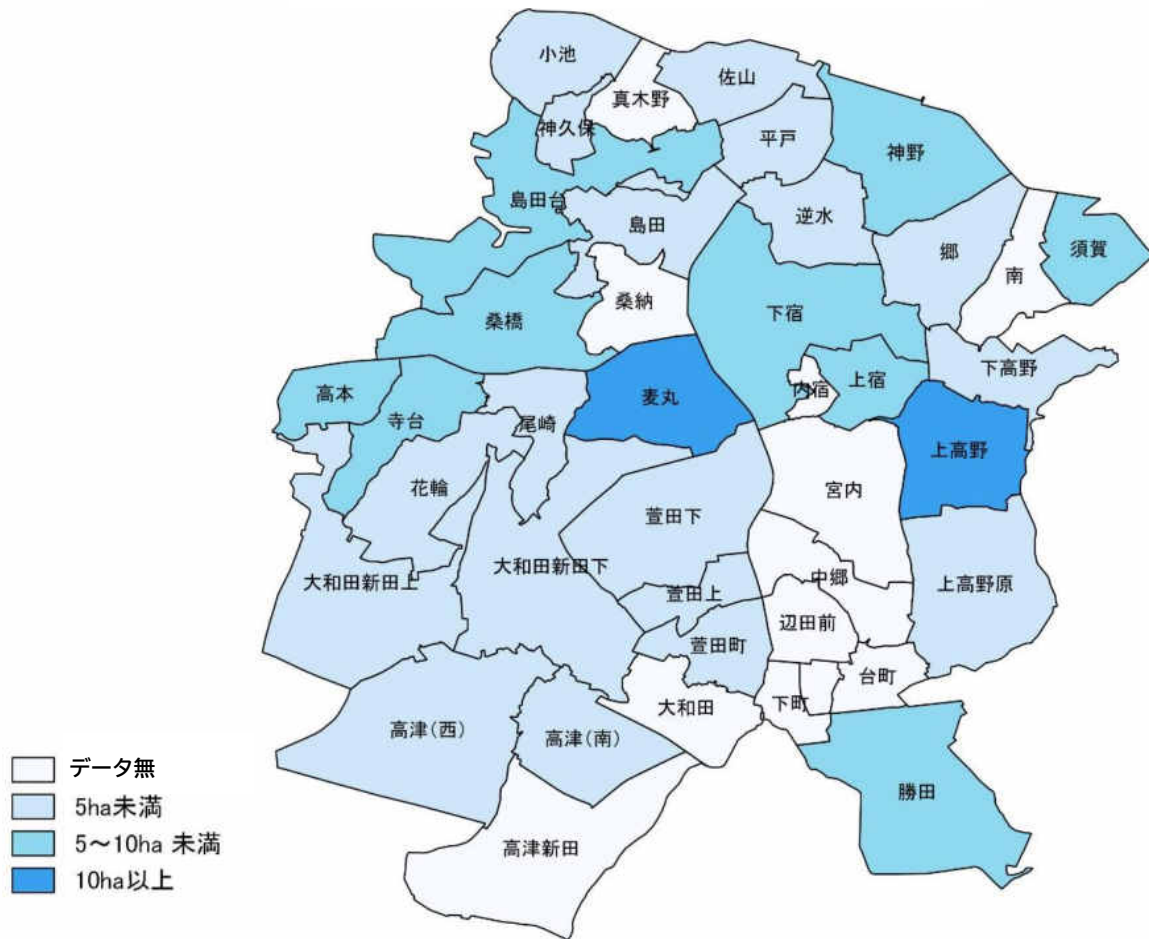
耕作放棄地は、10年間で34ha増加した。販売農家の耕作放棄地が減少しているのに対し、土地持ち非農家の耕作放棄地は3倍以上に増えた。

県全体と比べて、土地持ち非農家の耕作放棄地の増加率、耕作放棄地面積全体の増加率が高い。



(地区別 耕作放棄地面積)

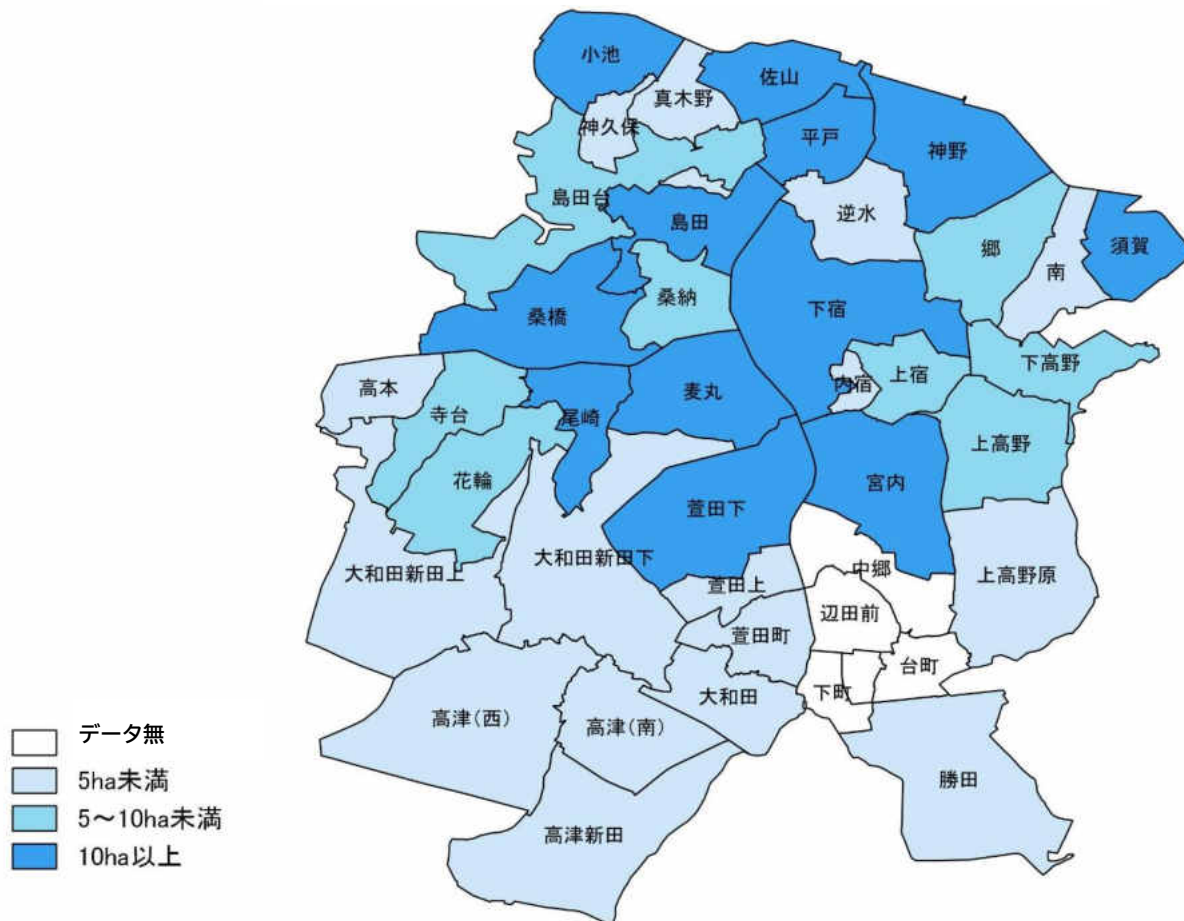
八千代市における耕作放棄地の状況



2015年農林業センサス

(地区別 後継者不在の経営耕地面積)

八千代市における後継者がいない経営耕地面積の状況

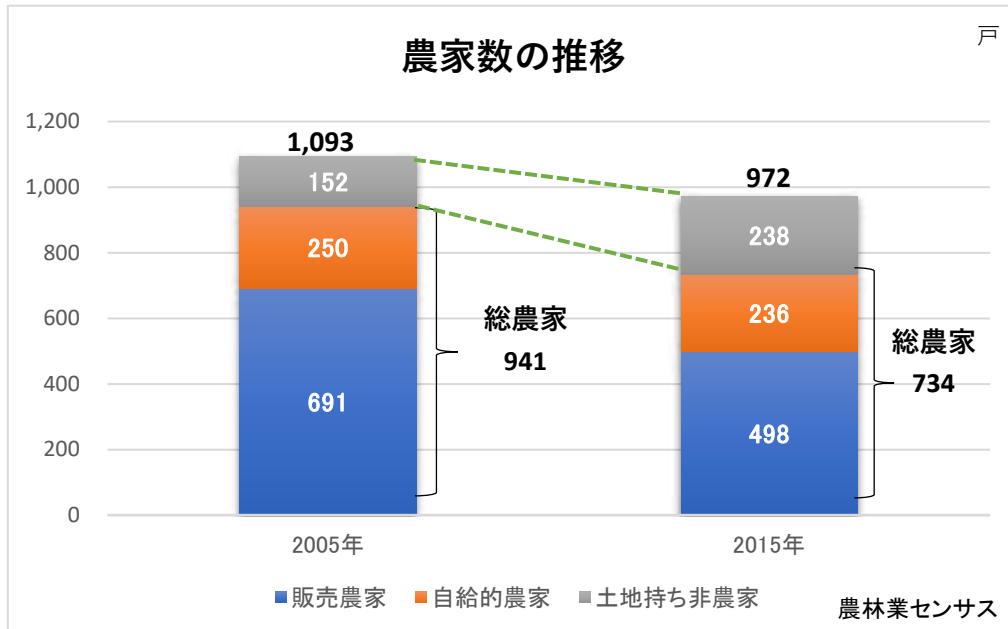


2015年農林業センサス

2 担い手

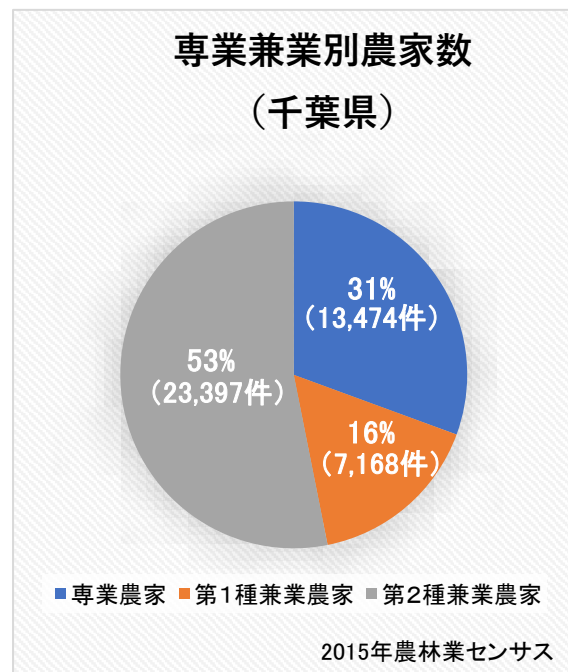
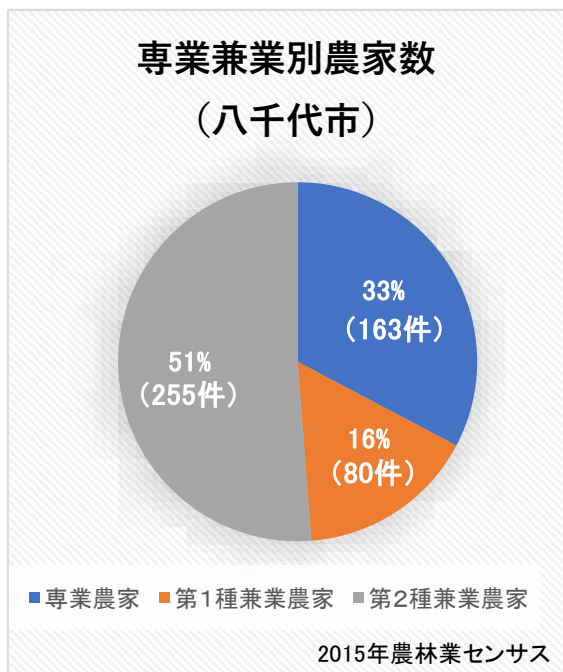
① 総農家等の推移

販売農家と自給的農家、土地持ち非農家を合計した総農家等の人数は、10年間で121人減少した。販売農家が減少し、土地持ち非農家が増えている。



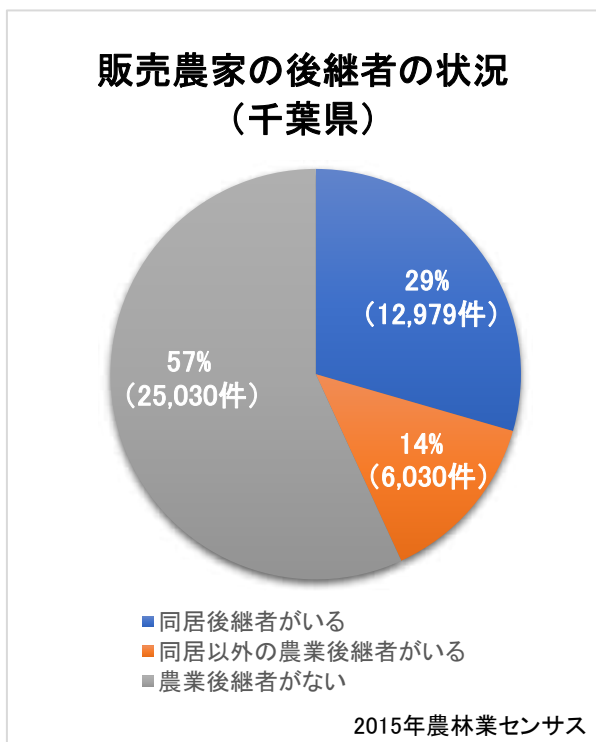
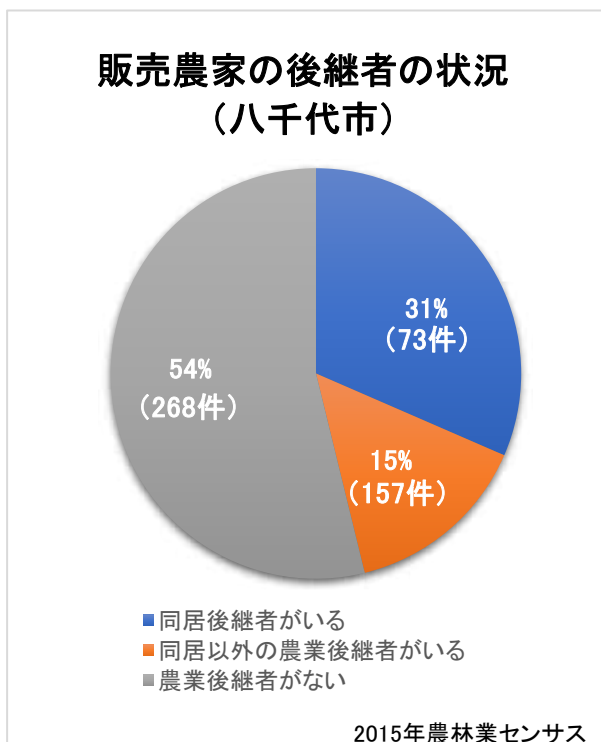
② 専業兼業別農家数

経営形態は、専業農家が3割となっている。



③ 販売農家の後継者の状況

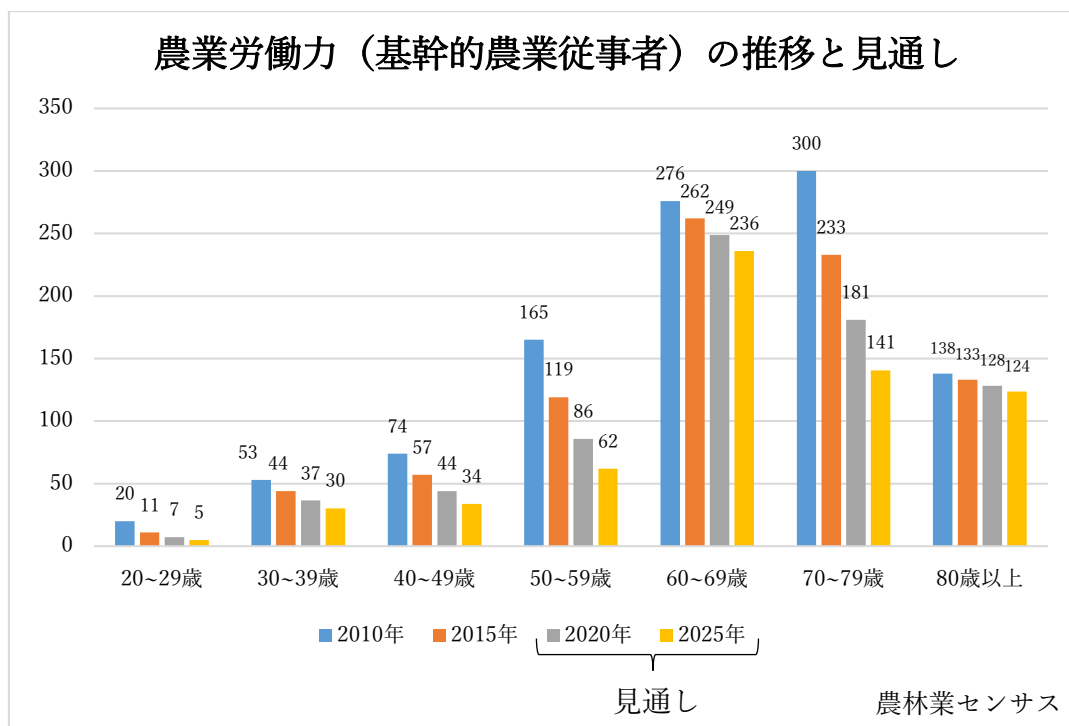
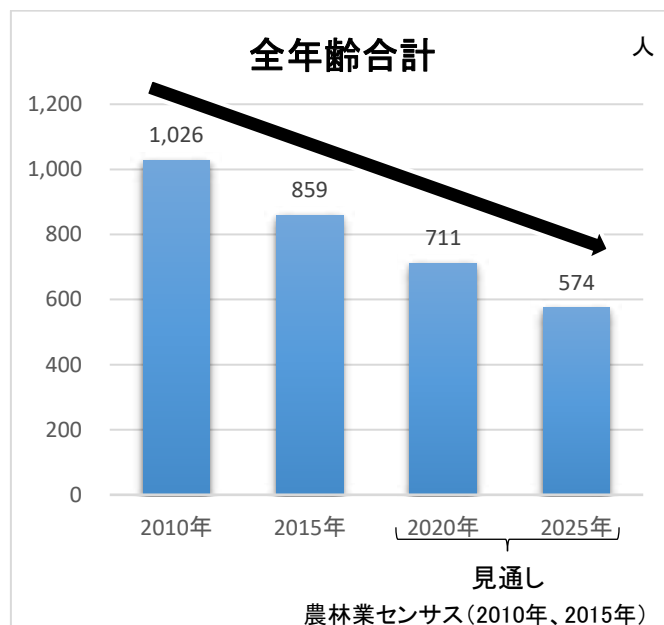
販売農家のうち、農業後継者がいない農家が、半数以上を占める。県全体と比べて、若干、農業後継者を確保していない割合が低い。



④ 農業労働力（基幹的農業従事者）の推移と見通し

農業労働力は、2010年以降の5年間で167人減少した。過去の減少ペースから、2025年には、574人に減少すると推計される。

年齢別では、2010年以降の5年間で、特に50歳代、70歳代が減少した。今後の見通しは、60歳代と80歳代では減少幅が小さく、40歳代、50歳代、70歳代で減少が進むと見込まれる。



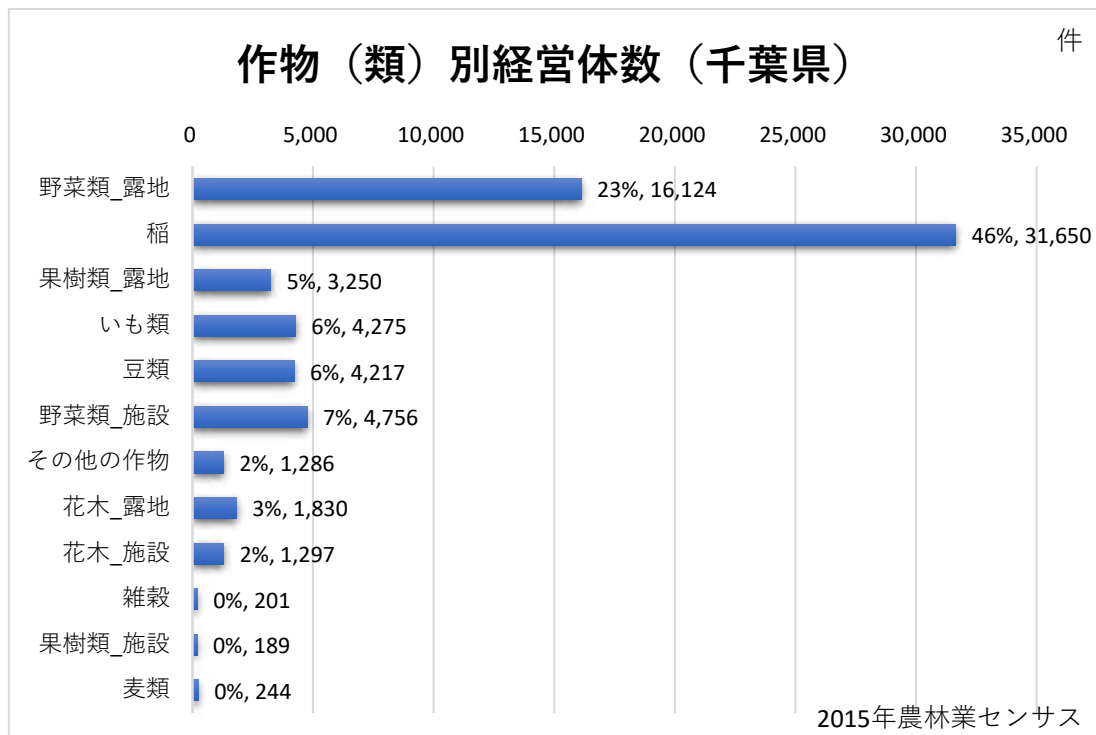
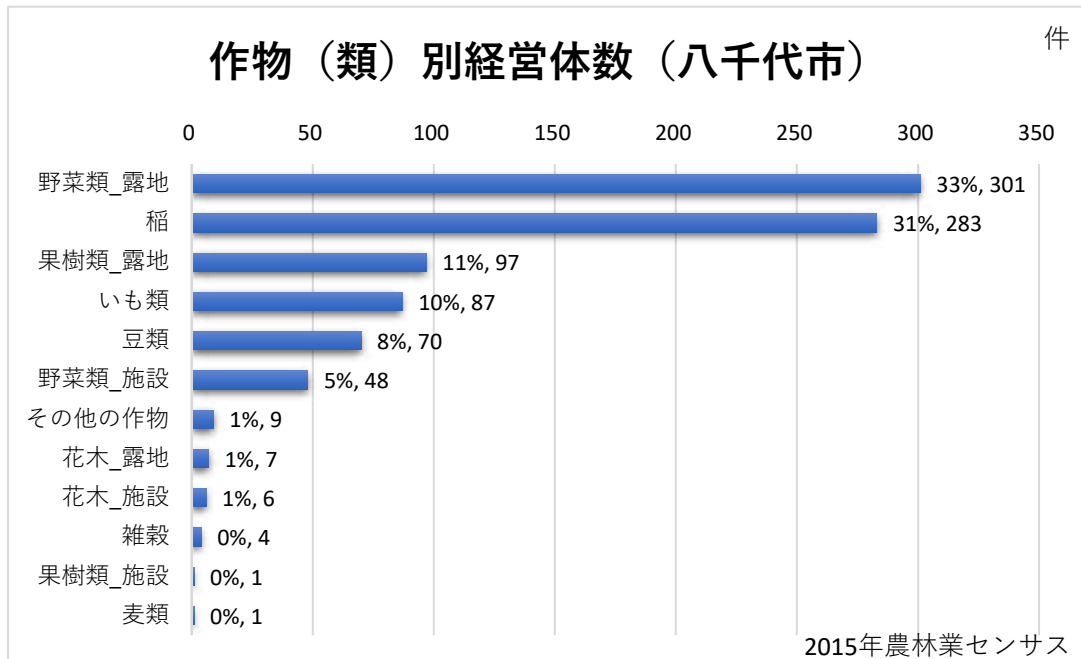
※ 基幹的農業従事者とは、ふだん主に仕事を行っており、仕事の内容が自営農業だけか、自営農業が主な方

※ 推計は、各年代の2010年から2015年の増減率から算出した。最若年層は、2010年時点と同人数（1人）が就農するものとした。

3 生産

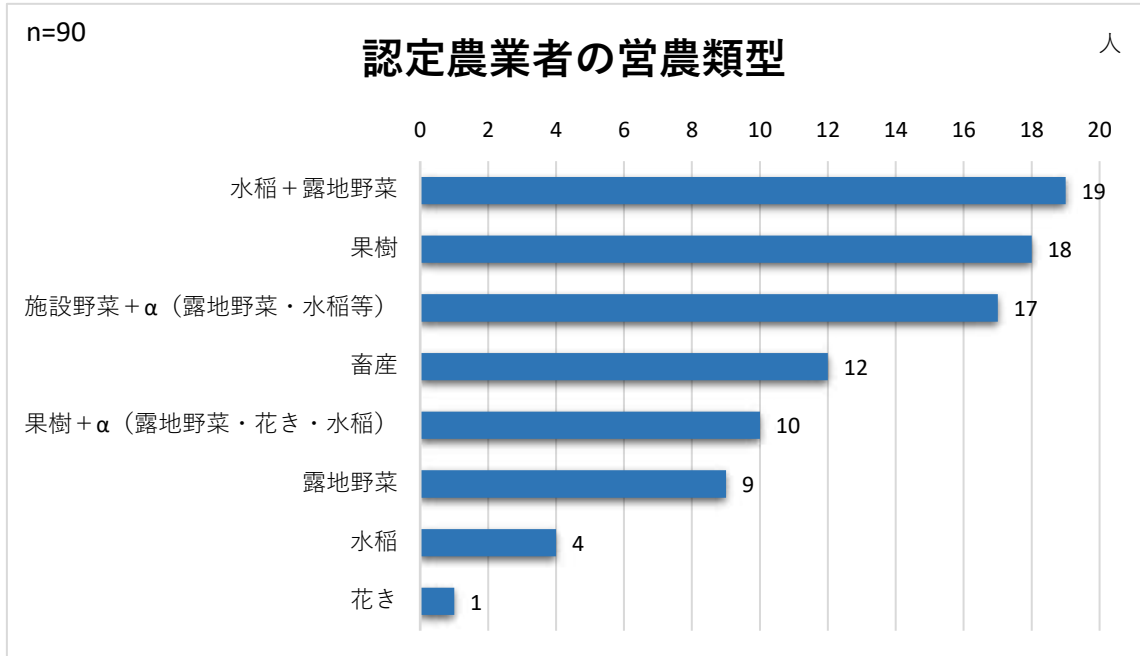
① 作物の類別経営体数

作物の類別経営体数は、露地野菜が 301 件、稲が 283 件、果樹が 97 件となっている。県全体と比べ、露地野菜、果樹類の割合が多い。野菜では、施設栽培の生産者の割合が少ない。



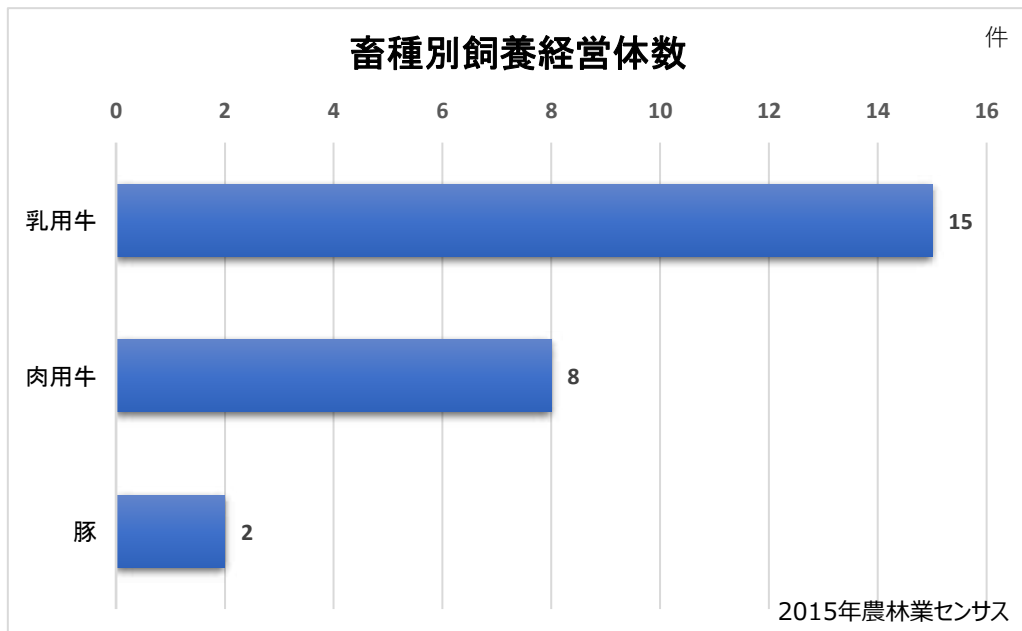
② 認定農業者の営農類型

認定農業者の営農類型は、水稲＋露地野菜が19人、果樹のみが18人、施設野菜＋α（露地野菜、水稲等）が17人、畜産のみが12人となっている。



③ 畜種別飼養経営体数

畜種別の飼養経営体数は、乳用牛15件、肉用牛8件、豚2件となっている。



4 他市との比較参考資料

項目	千葉県 八千代市	千葉県 柏市	千葉県 芝山町	埼玉県 三郷市	埼玉県 上里町	出典
地域農業の特徴	水稲・露地 野菜・なし	水稲・露地 野菜・施設 園芸・なし・いちご 狩り・直売	水稲・露地 野菜・施設 園芸	葉物・露地 野菜・施設 園芸	露地野菜	
① 世帯数	78,358	175,691	2,453	55,288	11,255	H27国勢調査
② 人口	193,152	413,954	7,431	136,521	30,565	H27国勢調査
③ 総農家数	734	1,410	581	720	767	2015農林業センサス
④ 経営耕地面積 (ha)	726	1,773	943	408	743	2015農林業センサス
⑤ 水田率	51%	59%	48%	58%	48%	2015農林業センサス
⑥ 農業産出額 (千万円)	450	1,030	541	222	529	平成29年度市町村別農業算出額 (推計)
⑦ うち、耕種 (千万円)	350	994	530	218	431	
⑧ うち、畜産 (千万円)	101	36	11	4	98	
⑨ 1ha当り産出額 (万円)	620	581	574	544	712	
⑩ うち、耕種 (万円)	482	561	562	534	580	
⑪ うち、畜産 (万円) ※1経営体あたり産出額	4,040	9,000	1,375	2,000	3,500	

(田整備状況)

⑫ 田耕地面積 (ha)	449	1,220	688	146	708	2018年耕地及び作付面積統計
⑬ 区画面積1.0ha以上の田 (ha)	202	0	0	0	8	2015年農業経営基盤情報基礎調査
⑭ 1.0ha以上整備率	45%	0%	0%	0%	1%	
⑮ 区画面積0.5ha以上の田 (ha)	253	0	0	0	27	2015年農業経営基盤情報基礎調査
⑯ 0.5ha以上整備率	56%	0%	0%	0%	4%	
⑰ 区画面積0.3ha以上の田 (ha)	311	1,213	225	0	437	2015年農業経営基盤情報基礎調査
⑱ 0.3ha以上整備率	69%	99%	33%	0%	62%	

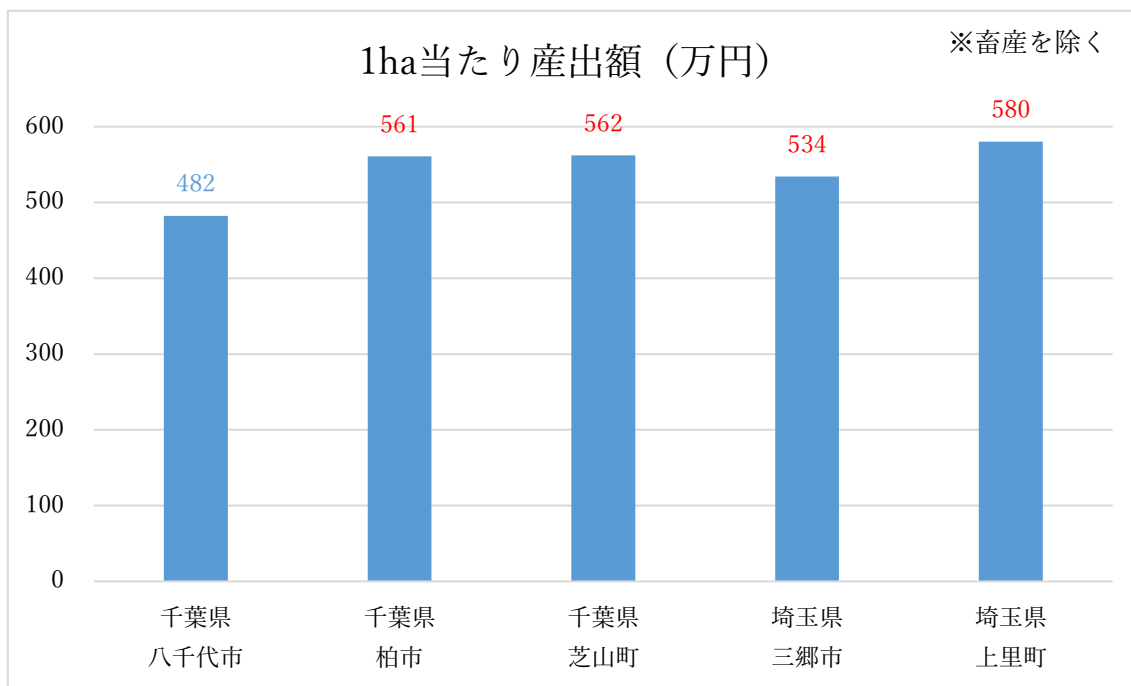
(畑整備状況)

⑲ 畑耕地面積 (ha)	394	1,350	864	174	367	2018年耕地及び作付面積統計
⑳ 畑_整形面積 (ha)	6	356	21	198	425	2015年農業経営基盤情報基礎調査
㉑ 畑整備率	2%	26%	2%	114%	116%	
㉒ 用水_畑かん有り (ha)	48	135	608	0	375	2015年農業経営基盤情報基礎調査
㉓ 畑かん整備率	12%	10%	70%	0%	102%	

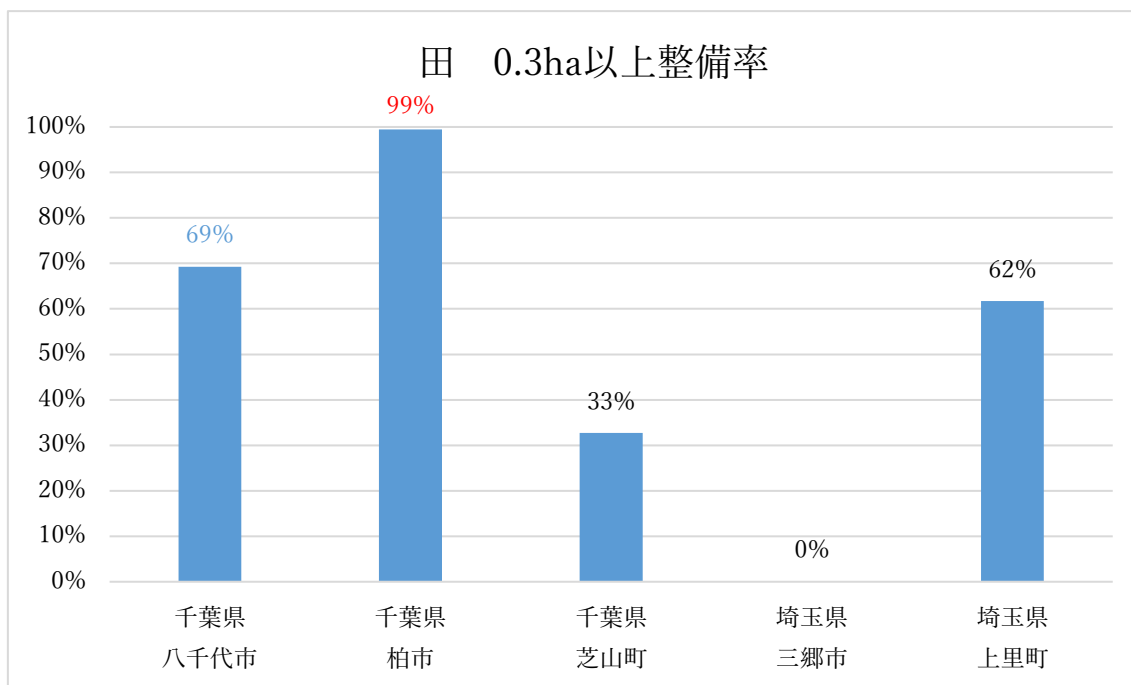
※「市町村別農業産出額 (推計)」は、都道府県別の品目別産出額を、2015年農林業センサス又は当該年産作物統計調査の結果 (作付面積、飼養頭羽数等) により、市町村別に按分して算出。農業産出額とは、農家庭先販売価格の意味。

※畑の整形面積、畑かん有りは事業により末端施設まで用水を整備済みの面積。100%を超えるのは、農地転用、農地荒廃によるもの。

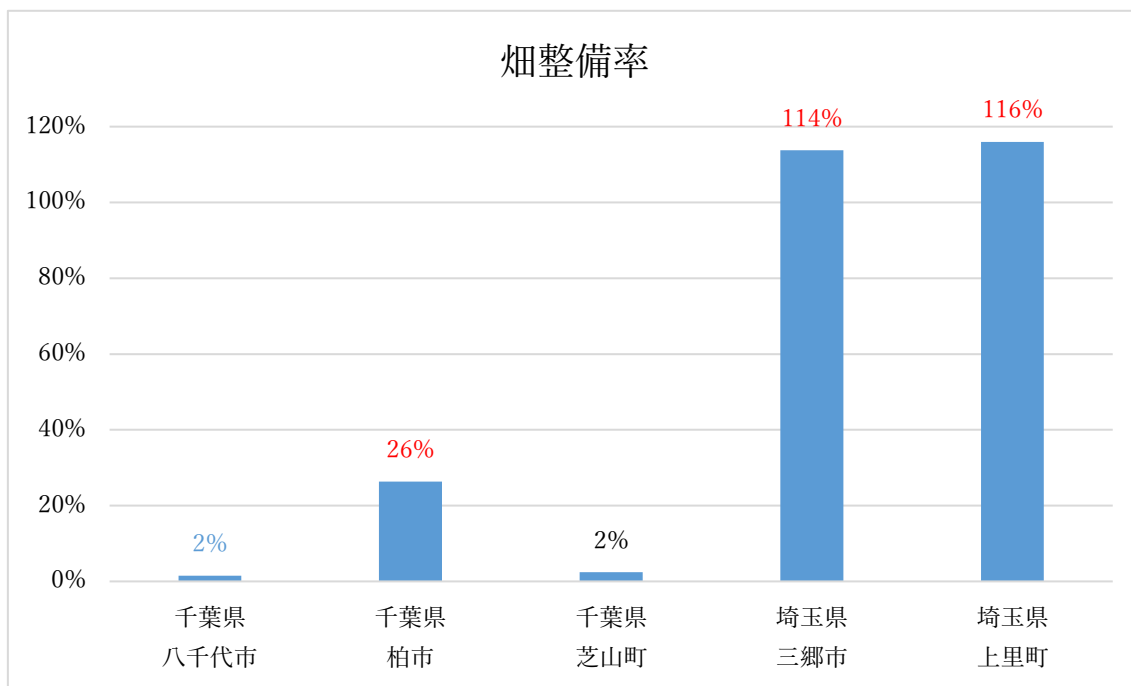
(1ha 当り産出額の比較)



(田の整備率の比較)



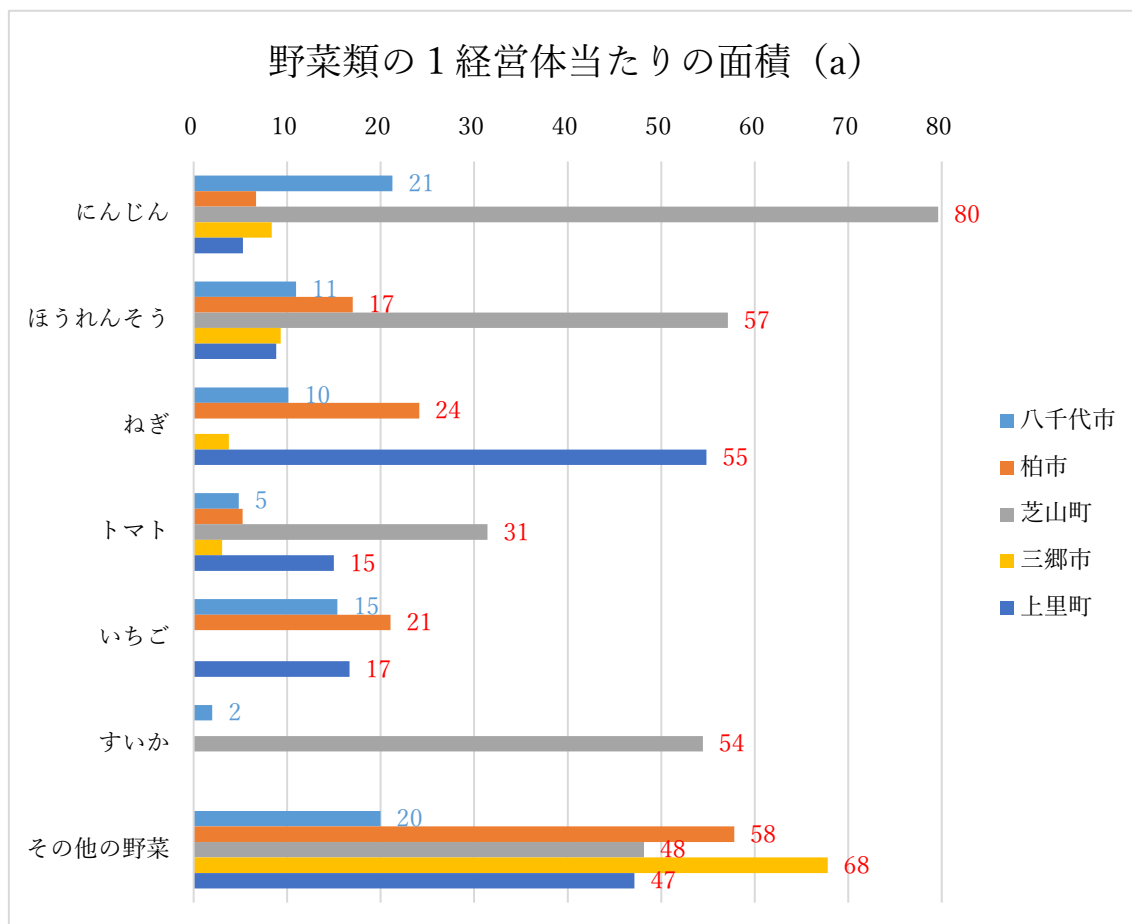
(畑の整備率の比較)



(作物別面積)

	八千代市			柏市			芝山町			三郷市			上里町		
	経営体数	面積	一経営体当たり面積	経営体数	面積	一経営体当たり面積	経営体数	面積	一経営体当たり面積	経営体数	面積	一経営体当たり面積	経営体数	面積	一経営体当たり面積
野菜等/単位	経営体	ha	a	経営体	ha	a	経営体	ha	a	経営体	ha	a	経営体	ha	a
水稲	283	296	105	485	859	177	347	399	115	357	198	55	297	255	86
だいこん	170	17	10	302	45	15	48	10	21	75	3	4	42	X	
にんじん	127	27	21	120	8	7	211	168	80	24	2	8	19	1	5
さといも	166	X		261	X		143	X		28	1	4	18	1	
やまのいも	4	0	0	16	0	0	4	3	75	3	0	0	-	-	
はくさい	154	X		227	12	5	45	X		68	2	3	106	52	49
キャベツ	110	X		177	10	6	26	5	19	59	2	3	83	29	35
ほうれんそう	210	23	11	441	75	17	28	16	57	86	8	9	34	3	9
レタス	30	1	3	63	4	6	18	4	22	24	1	4	18	X	
ねぎ	217	22	10	427	103	24	29	X		80	3	4	124	68	55
たまねぎ	69	X		92	3	3	8	0	0	36	1	3	24	1	4
ブロッコリー	103	X		196	13	7	25	X		51	2	4	118	38	32
きゅうり	137	5	4	232	7	3	18	2	11	75	2	3	62	11	18
なす	144	4	3	236	7	3	25	2	8	66	1	2	36	X	
トマト	124	6	5	191	10	5	70	22	31	66	2	3	40	6	15
ピーマン	68	1	1	96	2	2	10	1	10	21	0	0	9	0	0
いちご	13	2	15	19	4	21	5	X		3	0	0	18	3	17
メロン	6	0	0	12	X		9	2	22	2	X		1	X	
すいか	50	1	2	53	X		101	55	54	9	X		6	0	0
その他の野菜	125	25	20	346	200	58	81	39	48	177	120	68	70	33	47
果実/単位	経営体	ha	a	経営体	ha	a	経営体	ha	a	経営体	ha	a	経営体	ha	a
温州みかん	1	X		6	X		1	X		3	0		-	-	
その他のかんきつ	1	X		4	0	0	1	X		3	0	0	-	-	
りんご	-	-		1	X		-	-		-	-		-	-	
ぶどう	4	X		9	0	0	1	X		2	X		1	X	
日本なし	64	56	88	32	39	122	1	X		-	-		38	X	
西洋なし	2	X		-	-		-	-		1	X		-	-	
もも	1	X		1	X		-	-		-	-		1	X	
すもも	3	0	0	2	X		-	-		1	X		1	X	
おうとう	1	X		1	X		-	-		-	-		-	X	
うめ	10	1	10	20	3	15	-	-		-	-		1	X	
びわ	1	X		4	0	0	-	-		-	-		-	-	
かき	4	0	0	9	1	11	8	2	25	4	0	0	3	0	0
くり	29	7	24	42	8	19	10	2	20	-	-		1	X	
キウイフルーツ	6	1	17	8	1	13	1	X		-	-		2	X	
パインアップル	-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
その他の果樹	4	1	25	15	3	20	3	1	33	2	X		-	-	

(野菜類の1経営体当たりの面積)



千葉県、埼玉県の市町村のうち、経営耕地面積に占める水田の割合が、八千代市と同程度で、面積当たりの農業産出額（耕種）が、八千代市より高い市町村と比較を行った。

その結果、八千代市は、水田の整備率が比較的高いのに対し、畑の整備率は低い。また、野菜類の1経営体当たりの面積は、他市と比較して小さい。

関連計画等の整理

1 関連計画等の一覧

➤ 世界

- (1) 国際連合 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS (SDGs)
- (2) 国際連合決議 家族農業の10年(2019-2028)

➤ 国

- (3) 農林水産業・地域の活力創造プラン
- (4) 食料・農業・農村基本計画
- (5) 都市農業振興基本計画

➤ 千葉県

- (6) 千葉県農林水産業振興計画
- (7) 農業振興地域整備基本方針
- (8) 千葉県農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針
- (9) 千葉農業事務所改良普及課 普及計画活動の概要(平成29年度八千代グループ)

➤ 八千代市

- (10) 八千代市第4次総合計画
- (11) 八千代市都市計画マスタープラン
- (12) 八千代市第3次産業振興ビジョン
- (13) 八千代市第2次環境保全計画
- (14) 八千代市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- (15) 印旛沼流域かわまちづくり計画
- (16) 八千代市立八千代台東第二小学校跡地整備基本計画
- (17) やちよ男女共同参画プラン
- (18) 八千代市公共施設等総合管理計画
- (19) 八千代市谷津・里山保全計画
- (20) 八千代市緑の基本計画

➤ 八千代市農業協同組合

- (21) JA 八千代市第3次農業振興計画

2 各関連計画等の概要

➤ 世界

(1) 国際連合 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS(SDGs)

概要
<p>SDGs（持続可能な開発目標）とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のこと。17のゴール・169のターゲットから構成され、「地球上の誰一人取り残さない」ことを誓っている。</p> <p>農林水産省ではSDGsと食品産業のつながりについて目標別に整理しており、その中では八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 貧困をなくそう この目標は、2030年までに、世界中で極度の貧困にある人をなくすこと、様々な次元で貧困ラインを下回っている人の割合を半減させることなどを目指している。貧困とは、単に収入や資産がないことだけではなく、飢餓・栄養不良、教育や基本的サービスへのアクセス不足、社会的な差別や排除、意思決定からの除外なども含むものである。また、弱い立場にある人たちが、気象変動や災害などの影響をより強くうけることも防ぐ必要がある。2. 飢餓をゼロに この目標は2030年までに、飢餓とあらゆる栄養不良に終止符を打ち、持続可能な食料生産を達成することを目指している。また、誰もが栄養のある食料を十分得られるようにするためには、環境と調和した持続可能な農業を推進し、生産者の所得を確保し、農業生産性を高めるための研究・投資を行う必要がある。3. すべての人に健康と福祉を この目標は、母子保健を増進し、主要な感染症の流行に終止符を打ち、非感染性疾患と環境要因による疾患を減らすことを含めて、あらゆる年齢のすべての人々の健康と福祉を確保することを目指している。4. 質の高い教育をみんなに この目標は、2030年までにすべての子供が平等に質の高い教育を受けられるようにすること、高等教育にアクセスできることを目指している。また、働きがいのある人間らしい仕事や企業に必要な技能を備えた若者・成人の割合を大幅に増加させることもねらっている。

5. ジェンダー平等を実現しよう

この目標は、女性が潜在能力を十分に発揮して活躍できるようにするため、教育や訓練の充実はもとより、有害な慣行を含め、女性と女兒に対するあらゆる形態の差別と暴力をなくすことを目指している。経済分野においても、あらゆるレベルの意思決定において女性の平等な参画とリーダーシップの機会の確保が求められている。

7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに

この目標は、国際協力の強化や、クリーンエネルギーに関するインフラと技術の拡大などを通じ、エネルギーへのアクセス拡大と、再生可能エネルギーの使用増大を推進しようとするものである。

8. 働きがいも経済成長も

継続的、包摂的かつ持続可能な経済成長は、グローバルな繁栄の前提条件である。この目標は、すべての人々に生産的な完全雇用とディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）の機会を提供しつつ、強制労働や人身取引、児童労働を根絶することをねらいとしている。

9. 産業と技術革新の基盤をつくろう

この目標は、国際的、国内的な金融、技術支援、研究とイノベーション、情報通信技術へのアクセス拡大を通じて安定した産業化を図ることを目指している。

11. 住み続けられる街づくりを

この目標は、コミュニティの絆と個人の安全を強化しつつ、イノベーションや雇用を刺激する形で、都市その他の人間居住地の再生と計画を図ることを目指したものである。

12. つくる責任 つかう責任

この目標は、環境に害を及ぼす物質の管理に関する具体的な政策や国際協定などの措置を通じ、持続可能な消費と生産のパターンを推進することを目指している。

13. 気候変動に具体的な対策を

気候変動は開発にとって最大の脅威であり、その広範な未曾有の影響は、最貧層と最も脆弱な立場にある人々に不当に重くのしかかっている。気候変動とその影響に対処するだけでなく、気候関連の危険や自然災害に対応できるレジリエンスを構築するためにも、緊急の対策が必要である。

15. 陸の豊かさを守ろう

この目標は、持続可能な形で森林を管理し、劣化した土地を回復し、砂漠化対策を成功させ、自然の生息地の劣化を食い止め、生物多様性の損失

に終止符を打つことに注力するものである。これらの取組をすべて組み合わせれば、森林その他の生態系に直接依存する人々の生計を守り、生物多様性を豊かにし、これら天然資源の恩恵を将来の世代に与えることに役立つと考えられる。

17. パートナーシップで目標を達成しよう

持続可能な開発アジェンダを成功へと導くためには、政府、民間セクター、市民社会の間のパートナーシップが必要である。人間と地球を中心に据えた原則や価値観、共有されているビジョンと目標に根差すこのような包摂的パートナーシップは、グローバル、地域、国内、地方の各レベルで必要とされている。

(2) 国際連合決議 家族農業の10年 (2019-2028)

概要
<p>国際連合において、家族農業に関する具体的な役割等についての共通認識等を決議したもの。家族農業とは、国際連合では「農村の発展に不可欠である家族労働力により営まれている農業、林業、漁業、畜産業及び水産養殖業を含み、先進国・発展途上国双方において社会経済・環境・文化的に重要な役割を有している農業」とされている。(外務省仮訳より抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 牧畜従事者や家族農業者、特に農村地域における女性や若者を含む小規模土地所有者のサポートにおける、科学、技術、イノベーションと起業家精神が果たす重要な役割を認識し、それに関連し、イノベーション主導による開発や、大衆による起業やイノベーションへの支援の重要性を強調し、小規模土地所有者が自給農業から、自身の食料安全保障や栄養を向上させ、市場性のある余剰を生み出し、生産に価値を付加する助けとなる革新的、商業的な生産へ移行できる新たな持続可能な農業技術を歓迎。・ 家族農業が、歴史的、文化的、自然遺産の普及と保全、伝統的な習慣や文化、農村地域における生物多様性の喪失を止めることや、生活条件の改善に深い関係があることを認識。・ 極端な貧困層の8割近くが農村地域で暮らし、農業に従事していること、農村地域の開発と持続可能な農業に対する資源の投入や、小規模農家、特に女性農業者への支援が、とりわけ農民の生活を改善することによってすべての形態の貧困を終わらせる鍵となることも想起。・ 世界で8億1千5百万人が依然として飢餓に苦しみ、世界のいくつかの地

域では依然として他の形態の栄養不良が深刻であることを認識するとともに、世界の食料生産額の8割以上を占める家族農業が果たす役割の重要性を強調。

- ・ ジェンダー平等の実現及び女性、少女のエンパワーメントが、SDGsの目標及びターゲット全体の進展に重大な貢献をすることを再確認し、農業と農村開発の推進、食料安全保障の改善、及び農村の貧困撲滅において、小規模土地所有者、女性農民、先住民女性、地域コミュニティの女性を含む農村女性と彼らの伝統的な知識の重要な役割と貢献を再確認し、またこの関連で、途上国における食料安全保障、栄養失調、起こりうる過剰な価格変動及び食料危機への短期的、長期的な対応の不可分の一体として、食料安全保障と栄養における女性の重要な役割が認識され、議論されることを確保するための農業政策及び戦略の見直しの重要性を強調。
- ・ 若者や障害を持つ人々を含めたすべての男女のための完全で生産的な雇用かつ、しかるべき仕事達成されることの必要性を強調し、家族農業に関するイノベーションを促進する政策及びプログラムが、農村地域において追加的または代替的な雇用と収入を生み出す機会を提供するよう、農村開発全体を促進する政策と密接に関わらなければならないことを認識。
- ・ 持続可能な開発目標の達成に向け、適切で費用対効果が高く、伝統的かつ革新的な解決策をスケールアップするために、経験と知識の交流支援につながる環境創出にとって不可欠である農家同士の協力を通じた家族農業間の協業のプラスの影響を認識。
- ・ 気候変動は、人間社会及び地球にとって緊急かつ潜在的に不可逆な脅威となり、世界中の農業に深刻な影響を及ぼしており、家族農業を支えることは気候変動に対処するだけでなく、食料生産を脅かすことのない方法でその有害な状況に適応し、気候変動への耐性や温室効果ガスの排出低減を促進する能力を高めることにつながることを意識。
- ・ 食料安全保障や栄養を向上させ、小規模土地所有者や女性農業者だけでなく、農業協同組合や農業者ネットワークに焦点を当てるための努力を強化する必要性や、グローバルパートナーシップを再活性化するよう各国を奨励する必要性を想起。

➤ 国

(3) 農林水産業・地域の活力創造プラン

概要
<p>農林水産業を産業として強くしていく政策（産業政策）と、多面的機能を発揮するための政策（地域政策）を両軸として、「強い農林水産業」と「美しく活力ある農山漁村」の実現に向け、総合的に施策を取りまとめた計画。</p> <p>八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 国内外の需要の拡大への対応<ul style="list-style-type: none">・ 地産地消・食育の推進・ 加工業務用野菜の出荷量の増加に取り組む◆ 6次産業化等の推進<ul style="list-style-type: none">・ 農商工連携、医福食農連携等の6次産業化の推進・ スマート農業の推進、新たな品種や技術の開発・普及◆ 農地中間管理機構の活用等による農業構造の改革と生産コストの削減<ul style="list-style-type: none">・ 担い手の農地利用が全農地の8割を占める農業構造の確立・ 新規就農者の確保法人雇用による就農の拡大、就農しようとする青年の研修及び経営の確立のための支援を実施・ 法人経営体の増加経営の法人化、集落営農の組織化・法人化に対する支援を実施

(4) 食料・農業・農村基本計画

概要
<p>「農林水産業・地域の活力創造プラン」等で示された施策の方向やこれまでの施策の評価を踏まえつつ、農業や食品産業の成長産業化を促進するための産業政策と、多面的機能の維持・発揮を促進するための地域政策を車の両輪として進めるとの観点に立ち、食料・農業・農村施策の改革を進め、若者たちが希望を持てる「強い農業」と「美しく活力ある農村」の創出に向け、食料・農業・農村に関する総合的な施策を定めた計画。</p> <p>八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 食料の安定供給の確保に関する施策<ul style="list-style-type: none">・ 食育の推進と国産農産物の消費拡大学校教育を始めとする様々な機会を活用した、幅広い世代に対する農林漁業体験の機会の提供を一体的に推進し、食や農林水産業への国民の理解を増進する。地域の農産物の学校給食への安定供給体制を構築

するなど、関係府省が連携しつつ、地産地消を更に推進する。

◆ 農業の持続的な発展に関する施策

- ・ 力強く持続可能な農業構造の実現に向けた担い手の育成・確保
農業経営の法人化を促進するため、大規模な家族農業経営や集落営農等を中心に、法人化のメリットや手続、法人経営に必要となる財務・労務管理に関する情報やノウハウ等の普及啓発を行う。
農業の内外からの青年層の新規就農を促進する。
- ・ 農地中間管理機構のフル稼働による担い手への農地集積・集約化と農地の確保
- ・ 需要構造等の変化に対応した生産・供給体制の改革
地域の特性に応じた農業生産基盤の整備を推進する。
- ・ コスト削減や高付加価値化を実現する生産・流通現場の技術革新等
担い手の一層の規模拡大、省力化や低コスト化を図るため、スマート農業（ロボット技術や ICT を活用した超省力生産、高品質生産を実現する新たな農業）の実現に向けた取組、作業受託組織の受託作業の拡大、高性能機械や先端技術を駆使した作業受託組織のビジネスモデルの構築、ハローワークやシルバー人材センター等と連携した一時的な労働力（援農隊）の確保、育成等により、農作業の外部委託が円滑にできる環境を整備する。

気候変動に左右されにくい持続的な農業生産への転換を進めるため、高温等の影響の予測、回避、軽減策等をまとめた技術導入計画の策定を各産地に促すとともに、高温等の影響を回避又は軽減できる適応技術や品種の開発と普及を推進する。

◆ 農村の振興に関する施策

- ・ 深刻化、広域化する鳥獣被害への対応
都市部の人材の活用も含めた捕獲従事者の育成・確保を図るとともに、ICT 等を用いた効果的かつ効率的な新技術の開発・普及や獣種の特성에応じた捕獲対策を推進するほか、捕獲した鳥獣の食肉利用など地域資源としての有効活用を推進する。
- ・ 多様な役割を果たす都市農業の振興
新鮮で安全な農産物の都市住民への供給、身近な農作業体験や交流の場の提供、災害時の防災空間の確保、心安らぐ緑地空間の提供といった都市農業が有する多様な機能が将来にわたり十分に発揮されるよう、都市農業の持続的な振興を図るための取組を推進する。

(5) 都市農業振興基本計画

概要
<p>都市農業が果たしてきた農産物の供給機能に加えて、防災、景観形成、環境保全、農業体験・学習の場、農業や農業政策に対する理解の醸成等の多様な機能への評価が高まる一方で、農業従事者の高齢化や後継者不足が深刻化していることを鑑み、これまで土地所有者の意向に委ねられてきた都市農地の存続について、都市農業の担い手の確保、都市農業の用に供する土地の確保、農業振興施策の本格的展開、といった3つの方針から施策を取りまとめた計画。</p> <p>八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 都市農業の担い手の確保<ul style="list-style-type: none">・ 営農実績を有する地域の農業者の中から農地の借り手を探し出し、その者により農業を継続することが検討されるべき。・ 地域の中で営農の意欲を有する青壮年を新規就農者として育成・確保し、この者を担い手とするとも考えられる。・ 食品の製造、販売を行い、あるいは外食サービスを提供する地元の食品関連事業者と都市農業者との連携を促進し、こうした事業者が所有者から農地を借り受けて営農を行うことも視野に入れるべきである。・ 農作業等に関心を持つ高齢者などの都市住民が農業技術を習得して営農ボランティアとして活動する取組や、地域コミュニティの維持・再生に取り組む団体等が管理者不在の農地を一定期間活用する取組も見られ、これらの者と農地とのマッチング等を通じて、補完的に農地として管理するといった取組も検討・活用されるべき。◆ 都市農業の用に供する土地の確保<ul style="list-style-type: none">・ 人口減少等に対応したコンパクトシティの実現に取り組む中で、都市機能や居住の誘導を図るとともに、良好な生活環境の形成や、散発的かつ無秩序な宅地等の開発や低未利用地化を抑制する観点から、農地保全や都市農業振興に向けた施策の検討が必要・ 都市農業の用に供される土地を新たに創出する観点も重要であり、低未利用地や老朽化した建物敷地等として利用されている土地を農地として復旧・活用することも検討が必要

➤ 千葉県

(6) 千葉県農林水産業振興計画

概要
<p>「産地の戦略的な競争力強化と高収益型農林水産業への転換の促進による『農林水産王国・千葉の復活』と、緑豊かで活力ある農山漁村づくりの推進による『農山漁村の活性化』の実現」という目標を掲げ、その実現に向けた施策を総合的にまとめた計画。</p> <p>八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 販売力の強化<ul style="list-style-type: none">・ 販売促進 県産農林水産物の効果的な魅力発信 農林水産業の経営の多角化を進める6次産業化の推進 生産から食卓まで食のつながりを意識した食育の推進◆ 農林水産業の成長力の強化<ul style="list-style-type: none">・ 担い手育成 担い手の確保・育成に対する取組の充実・強化 企業的経営体・法人等の育成・ 生産基盤の強化・充実 競争力を高める基盤整備の推進 耕作放棄地を活用した農作物の生産拡大等の支援と優良農地の確保・ 農林水産業のスマート化 機械化や施設化による効率化の推進 ICT等を活用した技術の普及促進◆ 地域の特徴を生かした農山漁村の振興・活性化<ul style="list-style-type: none">・ 耕作放棄地・有害鳥獣対策 耕作放棄地を活用した農作物の生産拡大等の支援と優良農地の確保 捕獲したイノシシなど獣肉の活用普及・ 都市農業の振興 産業としての都市農業の持続的な発展 多様な機能の発揮による「都市農業」への理解の醸成及び都市農地の保全

(7) 農業振興地域整備基本方針

概要
<p>千葉県における農用地等の確保についての取組方向を定めた計画。 八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 都市農業地域：千葉・東葛飾農業事務所管内の方向性 消費者との距離の近さを生かした農産物の直売活動の促進や観光・体験型農業の展開等により、その保全を図る。◆ 農業を担うべき者の育成及び確保 認定農業者育成、経営指導、担い手組織の育成、農業経営の法人化の推進、新規就農者への支援

(8) 千葉県農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針

概要
<p>生産力強化と担い手づくりの推進、千葉の魅力为全国・海外に発信、緑豊かで活力ある農村づくりの推進という3つの方向性をもって魅力ある力強い千葉県農業を展開するべく各地域における将来像、施策を取りまとめたもの。 八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 都市農業地域：主として千葉・東葛飾農業事務所管内<ul style="list-style-type: none">・ 生産者の顔が見える「地産地消」の取組がより一層進展。・ 産地ブランドの維持・強化を目指して、新しい品種や栽培技術の開発とともに、土づくりを基本とする高品質の野菜や果樹の生産が進められる。・ 減農薬栽培や農薬飛散防止対策など、環境に配慮した取組も進展。・ 「体験農園」、子供たちが農作業を体験する「学童農園」など、県民に農業と触れ合う機会を提供することにより、都市住民と生産者との交流の活性化や農業への理解促進がさらに進展。

(9) 千葉農業事務所改良普及課 普及計画活動の概要 (平成 29 年度八千代グループ)

概要
<p>地域ごとに普及計画活動の課題と取組対象を取りまとめたもの。 八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <p>(八千代グループ)</p> <p>◆ 持続性のある園芸産地づくり</p> <ul style="list-style-type: none">・ 経営規模拡大による春夏にんじん産地の維持→JA 八千代市人参部会 28 戸・ 主要な担い手を核としたなし産地の維持→八千代市梨業組合 66 戸 (主要な担い手：研究部 23 戸)・ いちごを基幹品目とした経営の安定→JA 八千代市施設野菜連合会いちご生産者 9 戸 <p>◆ 農業基盤を守る地域営農の仕組みと経営体の育成</p> <ul style="list-style-type: none">・ 水稲経営体の規模拡大と営農組織による農地維持 →八千代市水稲主業経営体 2 組織 ((農)島田 12 戸・(農)米本 9 戸) →桑納川沿岸土地改良区 1 組織 <p>◆ 地域農業を支える高い経営者資質を持った畜産経営体の体質強化</p> <ul style="list-style-type: none">・ 水田生産飼料等の利用拡大による飼料費低減→市内畜産農家 18 戸 (酪農 15 戸・肉牛 1 戸・養豚 2 戸) <p>(千葉・習志野グループ、市原グループ、八千代グループ)</p> <p>◆ 経営者意識を持った多様な担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none">・ 新規就農者の営農技術向上と就農定着 →農業経営体育成セミナー 29 名 (基本 14 名・専門 8 名・総合 7 名)・ 共同経営者としての能力向上 →女性農業者団体 6 団体 (85 名)・ 農産加工による起業経営体の育成 →起業経営体 48 経営体 (うち農産加工によるもの 47 経営体)・ 酪農後継者等の飼養管理技術・経営管理能力の向上 →若手酪農研究組織 3 組織 (30 戸)

➤ 八千代市

(10) 八千代市第4次総合計画

概要
<p>長期的な視点から八千代市のまちづくりを進める上での、基本理念と将来像を示すとともに、まちづくりの枠組みとなる将来人口、土地利用の方針を明らかにし、将来像の実現に向けた施策の大綱を示す基本構想と、そこに掲げる将来像の実現に向けて取り組むべき施策を体系的に示した基本計画、基本計画において定められた基本的な施策を効果的に実施するための具体的な事業を明らかにした実施計画とで構成された計画。</p> <p>八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <p>◆ 目標値</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 農業生産基盤の整備と利活用 水田再基盤整備面積 349ha(2) 農業経営体の育成と支援 認定農業者数 96人 家族経営協定の締結件数 37件(3) 高付加価値型農業の実現 地場農産物を使って加工品を生産した生産者数 87件(4) 人と環境にやさしい農業の推進 エコファーマー戸数 114件(5) 市民とふれあう農業の推進 体験農園利用者数 24,000人 <p>◆ 具体的な施策等</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 農業生産基盤の整備と利活用 優良農地の保全と効率的な利用、ほ場の整備、農業施設の整備・維持に対する支援(2) 農業経営体の育成と支援 農業経営体の育成と農業経営の合理化、多様な担い手の育成(3) 高付加価値型農業の実現 特産物の開発と地場農産物加工の推進、園芸振興と果樹振興、農産物の流通の多様化(4) 人と環境にやさしい農業の推進 土づくりと減化学肥料・減農薬の推進 環境保全型農業の普及・推進、畜産環境の整備(5) 市民とふれあう農業の推進 市民と農家との交流促進、体験型農業の推進

(11) 八千代市都市マスタープラン

概要
<p>八千代市第4次総合計画の基本構想に定める将来都市像の実現を目標に掲げた計画。基本理念の一つとして「近代的農業と住宅が調和した田園都市」を設定している。</p> <p>八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 市街化調整区域 農産物の生産の場として農業を中心とした土地利用を図り、優良農地の確保などに努めるとともに、南部市街地と対をなす自然を満喫できる場として、維持保全していく◆ 生産緑地の保全などの方針 市街化区域内の農地などのうち、良好な生活環境が確保でき、さらに、公害や災害の防止などに効用があるものを生産緑地として定めている。これらの緑地は都市生活に潤いをもたらすなど、都市の魅力の向上につながることから、将来的には公共用地などとして活用していくことも考えられる。このことから、今後も可能な限り保全するよう所有者などに働きかけていく。◆ 緑の拠点 やちよふれあいの農業の郷を含めた市民のふれあいネットワークゾーンの充実を図り、市街化調整区域内において、「ふるさと八千代」を体験し、家族や友人と楽しく過ごせる場づくりを目指す。◆ 自然・田園景観 水田と台地部の境界となる斜面緑地あるいは河川沿いや谷津田などには、水生植物や昆虫などが生息しており、「八千代市谷津・里山保全計画」で保全地域に設定するなど市民や行政、土地所有者などが連携・協働して保全に努める。◆ 下水道整備の方針 市街化調整区域について、高度処理型浄化槽による処理を促進し、雑排水の農業用水や河川への流入を抑制し、併せて公共用水域の水質の保全に努める。

(12) 八千代市第3次産業振興ビジョン

概要
<p>八千代市第4次総合計画で目標とする「快適な生活環境とやすらぎに満ちた都市八千代」を実現するための6つの柱の一つ「産業活力都市をめざして」の商工業・農業・観光にかかる振興ビジョンとして作成するもの。</p> <p>農業に関しては、農業従事者・農地の減少、農産品として八千代ブランドがない、農業・工業・商業・観光の連携で特産品の商品化、安全・安心の農産物の生産、市街地住民と農村住民との交流の場といった問題や課題を踏まえ、「Safety and Fresh（安全で新鮮）農業」、「食べる人を第一に安全で新鮮な農作物を提供」という方向性が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 活気ある農家を目指して<ul style="list-style-type: none">・ 収益性の高い作物の開拓◆ 農業従事者の育成<ul style="list-style-type: none">・ 後継者を求める農家と意欲的な人材のマッチング◆ 安全・安心の農産物<ul style="list-style-type: none">・ ちばエコ農産物の認証・ エコファーマー認定へ取組推進◆ 八千代発のブランド品を全国へ<ul style="list-style-type: none">・ ブランド化のための体制づくりを検討◆ 農・商・工・観の連携<ul style="list-style-type: none">・ 特産品等の開発、商品化のための組織づくり◆ 農業振興と市民の交流の場づくり<ul style="list-style-type: none">・ 耕作放棄地の活用・ 酪農への理解の促進

(13) 八千代市第2次環境保全計画

概要
<p>国や県の環境基本計画をはじめ環境保全に係る各種計画との連携を図り、環境行政を総合的に推進する計画</p> <p>八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 水循環の確保：水源かん養<ul style="list-style-type: none">谷津・里山、農地が有する水源かん養機能の増進◆ 大気汚染状況の的確な監視：悪臭対策の推進<ul style="list-style-type: none">農業に起因する悪臭については、防止対策を指導していく◆ 水質汚濁対策の推進：自然系からの汚濁負荷の軽減策の推進

<p>農地で使用する化学肥料・農薬の適正利用を推進する</p> <p>◆ 土壌・地下水汚染対策の推進、地盤沈下の防止：環境保全型農業の推進 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素による地下水汚染に関しては、過剰な施肥が原因とされており、適正な肥料を指導するとともに、農薬の低減を一体的に行う環境保全型農業を推進する</p> <p>◆ 緑化の推進と農地の保全：農地の保全</p> <p>(1) 農地の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅地や工場用地などの整備に際しては、農地転用許可制度の適正な運用により、計画的な土地利用の確保を図る ・ 市街化区域内における一定規模以上の農地については、その緑地機能を評価し、生産緑地地区として指定することにより良好な都市環境を形成する <p>(2) 環境保全型農業の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土づくりと化学肥料・農薬の低減を一体的に行う農業を推進することで、持続性の高い農業生産活動に向けた取組を促進する。また、環境保全に配慮した農業生産者をエコファーマーとして認定するなどの支援を行う ・ 家畜ふん尿の有効利用などによる堆肥などを活用した土づくりを進め、環境への負荷の少ない農業を推進する

(14) 八千代市まち・ひと・しごと創生総合戦略

<p>概要</p> <p>まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）に基づき、八千代市における人口動向・将来人口推計の分析や中長期の将来展望を示す「八千代市人口ビジョン」を踏まえ、今後人口減少対策として重点的に取り組むべき政策目標・施策を取りまとめたもの。</p> <p>八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <p>◆ 農業の活性化 農業後継者等の育成・支援 やちよふれあいの農業の郷を拠点とした地場産業の活性化と農業体験等</p>

(15) 印旛沼流域かわまちづくり計画

<p>概要</p> <p>新川を中心に船着き場や一里塚(トイレなど)等の整備を進め、アクティビティを組み合わせた、新川の総合的な利活用を推進するべく、施設整備や利活用</p>

の方向性を定めた計画。

八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。

<新川水辺拠点(道の駅やちよ周辺)> (構想案)

➤ 有効活用および維持管理

防災時

緊急船着場、水防活動上の拠点

日常時

国道 16 号沿いの道の駅やちよと連携し、新川の水辺の賑わいを創出する水辺の拠点。印旛沼とサイクリングや舟運等の連携を図り、印旛沼周辺の活性化となる水辺のアクティビティの拠点

➤ 広域展開イメージ

八千代市において水辺拠点を構想する「道の駅やちよ 八千代ふるさとステーション」は、市を縦断する国道 16 号に隣接しており、また新川の対岸には、ペDESTリアンデッキで往来が可能な、「やちよ農業交流センター」が配置されている。ここに水辺拠点を整備することにより、国道 16 号と連携する広域な道路ネットワークと河川の結節点が誕生する。

(16) 八千代市立八千代台東第二小学校跡地整備基本計画

概要
八千代市立八千代台東第二小学校の跡地について、整備の方向性等を取りまとめた計画。跡地に導入すべき機能の一つとして農園が選定された。
◆ 農園
平時：貸し農園
災害時：食材の確保
災害時には食材の確保ができるよう、あらかじめ取り決めた上での貸し農園として、選定した。

(17) やちよ男女共同参画プラン

概要
八千代市の男女共同参画社会づくりの現状を勘案し、男女共同参画施策を総合的かつ計画的に取り組むべき目標や施策の指針として策定するもの
八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。
◆ 農業に従事する女性の地位向上のための意識づくり
・ 家族経営協定の締結促進

<ul style="list-style-type: none"> ・ 講座の開催 ・ 女性リーダーの育成 ・ 農業部門における政策や方針決定の場への女性の登用促進 <p>◆ 個別のニーズに配慮した母子保健の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食育の取組
--

(18) 八千代市公共施設等総合管理計画

概要
<p>公共サービス・施設等の規模の適正化、公共施設等の効率的な施設管理及び有効活用による公共施設等の全体最適化を図ることで真に必要とされる公共サービスの提供を維持・確保していくための計画。</p> <p>八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <p>◆ 八千代ふるさとステーション・やちよ農業交流センター</p> <p>(1) 現況・課題</p> <p>設備の老朽化、研修室等の稼働率が低いものもある</p> <p>(2) 方針</p> <p>集客力を活かした施設のさらなる有効活用の可能性や、より多くの市民が利用しやすいサービス提供、施設運営のあり方を検討し、必要に応じて、提供するサービス内容等の変更について指定管理者と協議する。</p>

(19) 八千代市谷津・里山保全計画

概要
<p>谷津・里山が保持する多面的な機能を持続的に保全・再生し、次世代に引き継ぐことにより、都市と農村が共生し交流する八千代市らしいまちづくりを目指すことを目的に、谷津・里山の保全に係る施策を取りまとめた計画。</p> <p>八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <p>(1) 谷津・里山の活用</p> <p>グリーンツーリズム等の推進</p>

(20) 八千代市緑の基本計画

概要
<p>緑豊かなまちづくりの推進を図ることを目的とし、将来の緑地の保全や都市緑化の推進、公園緑地の適切な配置や維持管理、生物多様性の保全など、緑に関する様々な施策を体系的に取りまとめた計画。</p>

八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。

◆ 基本方針1 緑の保全

(1) 谷津・里山など八千代市の特徴となる豊かな緑を守る

① 農地の保全

- ・ 郊外の農地の保全
- ・ 農業体験の推進

(2) 水辺を守る

① 水循環の確保

- ・ 重要な水源かん養地である谷津・里山及び水田の保全を図る

◆ 重点施策3 市街地内農地を守り・活かす（生産緑地地区内の緑地の保全の方針）

(1) 重点施策

- ・ 本計画期間中に多くの生産緑地地区が指定後30年を迎えることから、所有者の意向に配慮しつつ、営農を継続すべき生産緑地地区については、特定生産緑地への指定を進める。また、生産緑地地区の面積要件引下げについても検討する。
- ・ 所有者の意向に配慮しつつ、市街地内という立地を活かした農産物等加工施設、農産物等直売所、農家レストランなどの設置など、都市農業に親しむ空間づくりに取り組むものとする。
- ・ 都市住民が農業を体験・実践できる場として活用するなど、都市農業の新たな展開を図る場として、法や制度改正の動向を踏まえつつ生産緑地地区の流動化や活用の仕組みづくりに取り組むものとする。

➤ 八千代市農業協同組合

(21) JA 八千代市第3次農業振興計画

概要
<p>八千代市農業の持続的発展を目指し、農業生産の維持拡大、農業所得増大と豊かな農業の創生、農業と地域住民の相互理解の増進、農業からの地域活性化をスローガンに農業協同組合としての実施事項を取りまとめた計画。</p> <p>主に以下の内容に取り組むとしている。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 担い手の支援<ol style="list-style-type: none">① 各組合員に合った基幹品目の提案や、市場出荷と直売出荷の出荷比率の見直しなどの提案（ベストバランスの提案）② 担い手に対する個別経営相談や営農業務の充実③ やる気のある担い手に対する耕作面積の拡大支援④ 新規就農者支援⑤ 労働力確保に向けた取組と労働環境改善⑥ トレーサビリティーの指導⑦ 肥料・農薬・生産資材の銘柄集約を行い生産コストの低減⑧ 購買品の円滑供給を行うため、在庫管理と流通方法の見直し2. 農産物販売強化<ol style="list-style-type: none">① 出荷時の運搬代行業務を検討② 優良産地としてのさらなる付加価値を求めた多用途予冷庫建設の検討③ 近隣スーパーや小売店に向けて地元農産物の売り込み④ グリーンハウス販売強化と買取販売実施検討3. 地域交流と地域貢献活動<ol style="list-style-type: none">① 地域住民（消費者）と農業の共生② 農業の難易性や重要性をアピール4. 営農・指導・販売・購買担当職員のスキルアップ<ol style="list-style-type: none">① 営農指導員資格者・営農相談員資格者の増強② 営農指導員の活動強化③ 有利販売を目指す販売知識を持った販売担当職員の育成④ 購買担当職員が肥料・農薬・生産資材の知識を高めて、購買事業の円滑化を図る

ヒアリング調査

八千代市農業振興計画に係るヒアリング調査概要

(1) 調査目的

八千代市農業振興計画の策定にあたり、関係団体等の農業振興に係る要望や課題を把握するため、八千代市内の農業に係る団体を対象にヒアリング調査を実施した。

(2) 調査期間

2019年10月23日～2019年10月29日

(3) 対象者

<出荷団体・生産者組織>

- 八千代市農業協同組合
- 八千代酪農農業協同組合
- 千葉北部酪農農業協同組合
- 八千代市梨業組合
- 八千代市施設野菜連合会
- 八千代市園芸協会
- 八千代市畜産協会
- J A八千代市ネギ部会
- J A八千代市人参部会
- J A八千代市女性部
- J A八千代市青年部

<直売・小売事業者>

- 農事組合法人クラフト
- 株式会社イトーヨーカ堂 八千代店
- イオンリテール株式会社 イオン八千代緑が丘店

八千代市ヒアリング結果による意見の整理

1 土地利用

(1)畑の確保が困難

にんじん、ねぎの生産者は、機械化に適したまとまった畑を求めるが、市内の農地は小規模に点在しており、まとまった農地を確保しにくいため、機械化及び規模拡大の足かせとなっているという意見がある。

農外からの新規参入者は、信用を得にくいため、畑を借りられない状況があるという意見がある。

既存生産者、新規就農希望者に共通する問題として、借りられる畑の情報をどのように得ればよいかわからないという意見がある。

(2)樹園地の確保が困難

梨は、後継者を確保している農業者が多く、規模拡大を志向する農業者もいる。梨農家が農地を借り際には、投資回収のため、長期的な利用権設定が必要と想定されるが、市内の農地貸借の現状は、土地所有者と借り手双方の都合により利用権設定の期間が短期のケースが多く、長期的な貸し出しに結びつきにくいことから、梨農家が経営規模を拡大することが困難となっているという意見がある。

(3)耕作放棄の増加

水田・畑ともに耕作放棄が拡大しているとされるが、特に、萱田、麦丸、桑納の未整備水田において、高齢者が離農した後の受け手がない状況から、耕作放棄が拡大しているとされる。

2 担い手

(1)野菜生産者の労働力の不足による所得低下の懸念

市内の園芸生産者は、家族労働による経営が主となっている。農繁期の援農ボランティアやパートは、梨生産者では比較的活用が進むが、野菜生産では活用が限られており、労働力不足が深刻な状況とされる。特に、多品目の生産者は、機械化が困難なため、親世代の高齢化・離農とともに、経営規模と所得を維持できなくなることが懸念されている。

にんじん、ねぎでは、単価の低下を背景に、規模拡大と機械化を進めているが、洗淨・選別・荷造りの労働が、経営規模の維持・拡大に向けた問題となっており、共選場を求める意見がある。

(2)施設園芸の担い手の増加

八千代市では、消費地に農地が隣接する特徴を生かし、いちごの観光農園による就農が拡大している。また、近年の台風被害を受け、今後、露地野菜から施設園芸への転換が進むとの意見がある。

(3) 農外からの就農が困難

八千代市では、J Aが、農外から就農者を確保し、部会等の生産者として確保する取組が模索されている他、就農希望者を研修生として受け入れる農家がある等の新規就農に向けた取組が行われている。しかしながら、農地の情報に関する周知が不足していること、就農希望者が農地を借りる信用を得にくいこと、就農時の設備投資資金の確保が困難なことから、就農が進みにくいとされる。

3 生産

(1) 露地野菜生産の機械化の進展

にんじん、ねぎは、高齢化が進む一方、後継者世代の農業者は、機械化による規模拡大を進めている。全国的に機械化が進み、産地間競争が激しさを増す中、農地確保・規模拡大と合わせ、さらなる大型機械の導入も検討されている。

(2) 栽培技術の情報の不足

ねぎでは、作柄に適した品種の情報、耐風性のある品種の情報等が不足しているとの意見があり、現状では、農業者個人の情報収集により、品種の選定が行われているとされる。

梨は、近年の台風被害を受け、台風対策が必要とされており、情報の収集、対策の実証、普及活動を組織的に行うことが必要とされる。

(3) 環境保全型農業への期待

八千代市は、都市農業としては珍しく、耕種・畜産の両農業がおこなわれているが、水田うら作を利用した自給飼料の生産・有効利用や、耕種農家が堆肥を利用するといった循環型農業の取組が限られている。

環境保全型農業は、今後、地産地消を拡大するうえで、市民に対して差別化を図るキーワードとなる可能性が期待されている。

(4) 都市化による生産環境の悪化

市街化区域とその周辺の農業は、防除、機械作業の音、土ぼこり等に対する住民のクレームにより、従来のやり方で農作業をしにくい状況となっている。こうした中、食育等により、多くの市民の農業理解が必要とされている。

4 流通・販売

(1) 地元農産物の差別化を求める小売ニーズの高まり

地元農産物については、多くの小売店が地場野菜コーナーを設置し、取り扱い拡大の意向を示すが、他産地と差別化されていない八千代産の農産物が、通常の売場の同一品目より割高となると売れ

行きが鈍る状況がある。一方、鮮度で優位性のある葉物、ブランド化している梨は、差別化されているため割高でも売れる状況がある。こうした中、適正価格に留意しつつも、地元農産物のブランド化・優位性の周知・消費拡大に向けた取組について、行政や出荷団体と連携して推進し、地産地消を拡大する意向を示している。

(2)従来の直売所の出荷量の減少と売上の低下

八千代市の地産地消は、多品目を生産し、直売所で販売することにより拡大してきたが、生産者の高齢化、小売店の地場野菜コーナー等の身近な販路の増加を背景に、出荷量が減少し、品不足が生じているとされる。

利用者確保の面では、従来の顧客が高齢化・減少する一方、新住民を顧客として確保できていない状況や、消費者の生活様式の変化を背景に、売上が低迷しているとされる。

(3)地産地消に対する生産者の期待

地産地消の拡大については、これまでの多品目野菜に加え、にんじん、ねぎといった市場出荷の農業者から期待する意見があがっている。

梨生産者からは、市民に対するブランド力を維持する取組や、消費者を直売所に誘導する取組が求められている。いちごの生産者からは交流センターで集客し市内の各イチゴハウスに人を誘導する仕組みづくりが求められている。

農業者アンケート調査

八千代市農業振興計画に係る農業者アンケート調査概要

(1) 調査目的

八千代市農業振興計画の策定にあたり、現状の把握や施策の立案等の参考とするため、八千代市の農業者の意見を収集するアンケート調査を実施した。

(2) 調査期間

2019年12月6日～2020年1月10日が回答期間となるように郵送により配布・回収

(3) 対象者

〈八千代市農業者〉

農地・農家台帳から抽出した、八千代市の住民かつ経営主で年間の農業従事日数が60日以上である1,061名

(4) 回収率

配布数	返送数	有効回答数
1,061 通	7 通	320 通 (30.4%)

(5) 回答の見方

- ・ 回答率(%)は、単純集計は小数点第2位を四捨五入し少数点第1位まで、クロス集計は小数点第1位を四捨五入して表示している。このため合計値は100%とはならない場合がある。
- ・ 回答には、単数回答と複数回答がある。複数回答の場合、その回答率(%)の合計が100%を超える場合がある。
- ・ 傾向を掴みやすくするため、地区を「農村ゾーン」「混在ゾーン」「市街地ゾーン」に分けて分析している箇所がある。ゾーンごとの集落の振り分けは以下のとおり

農村ゾーン			混在ゾーン	市街地ゾーン	
小池	保品南	尾崎	高本	大和田新田上	大和田
神久保	保品須賀	麦丸	寺台	大和田新田下	辺田前
真木野	島田台	下宿	花輪	高津(西)	下市場
佐山	島田	内宿	萱田下	高津(南)	下町
平戸	逆水	上宿	宮内	高津新田	台町
神野	桑橋	下高野	中郷	萱田上	上高野原
保品郷	桑納	上高野		萱田町	勝田

※ 農業者アンケートの耕作地域別クロス分析で用いている農村ゾーン、混在ゾーン、市街地ゾーンの

区分は、市民アンケートで用いている居住地の区分と異なる箇所がある。

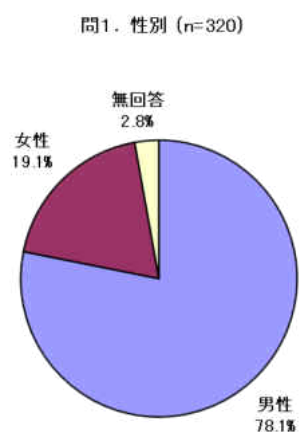
農業者アンケート調査結果

I 回答者の属性について

問1. 性別

回答者の性別は、「男性」が78.1%、「女性」が19.1%となった。

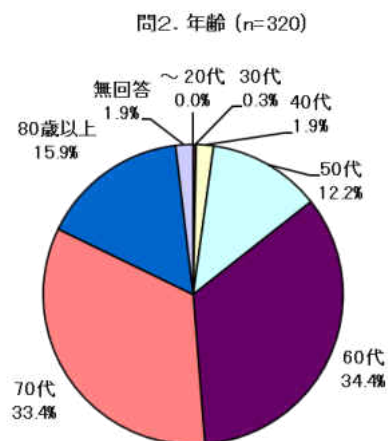
	回答数	比率
男性	250	78.1%
女性	61	19.1%
無回答	9	2.8%
合計	320	100.0%



問2. 年齢

回答者の年齢は、「60代」が34.4%と最も多く、次いで「70代」が33.4%、「80歳以上」が15.9%と多くみられた。

	回答数	比率
～20代	0	0.0%
30代	1	0.3%
40代	6	1.9%
50代	39	12.2%
60代	110	34.4%
70代	107	33.4%
80歳以上	51	15.9%
無回答	6	1.9%
合計	320	100.0%

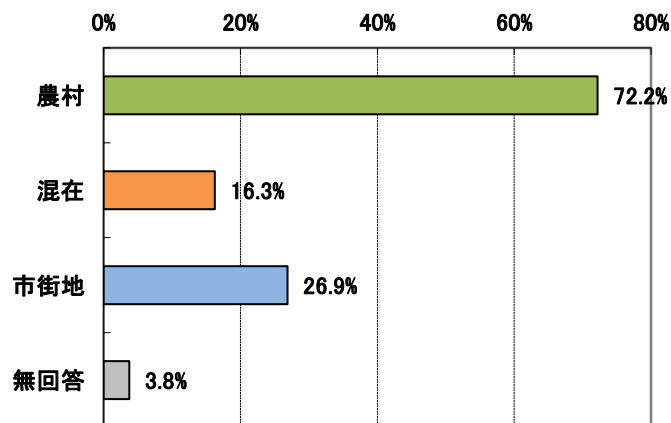


問3. 耕作地域※（複数回答）

「農村ゾーン」が 72.2%と最も多く、「市街地ゾーン」は 26.9%、「混在ゾーン」は 16.3%となった。詳細地区では、「麦丸」が 8.4%と最も多く、次いで「桑納」が 5.6%、「島田台」が 5.3%と多くみられた。

	回答数	比率
農村	231	72.2%
混在	52	16.3%
市街地	86	26.9%
無回答	12	3.8%
合計	381	-
n	320	

問3. 耕作している場所（ゾーン）（n= 320）

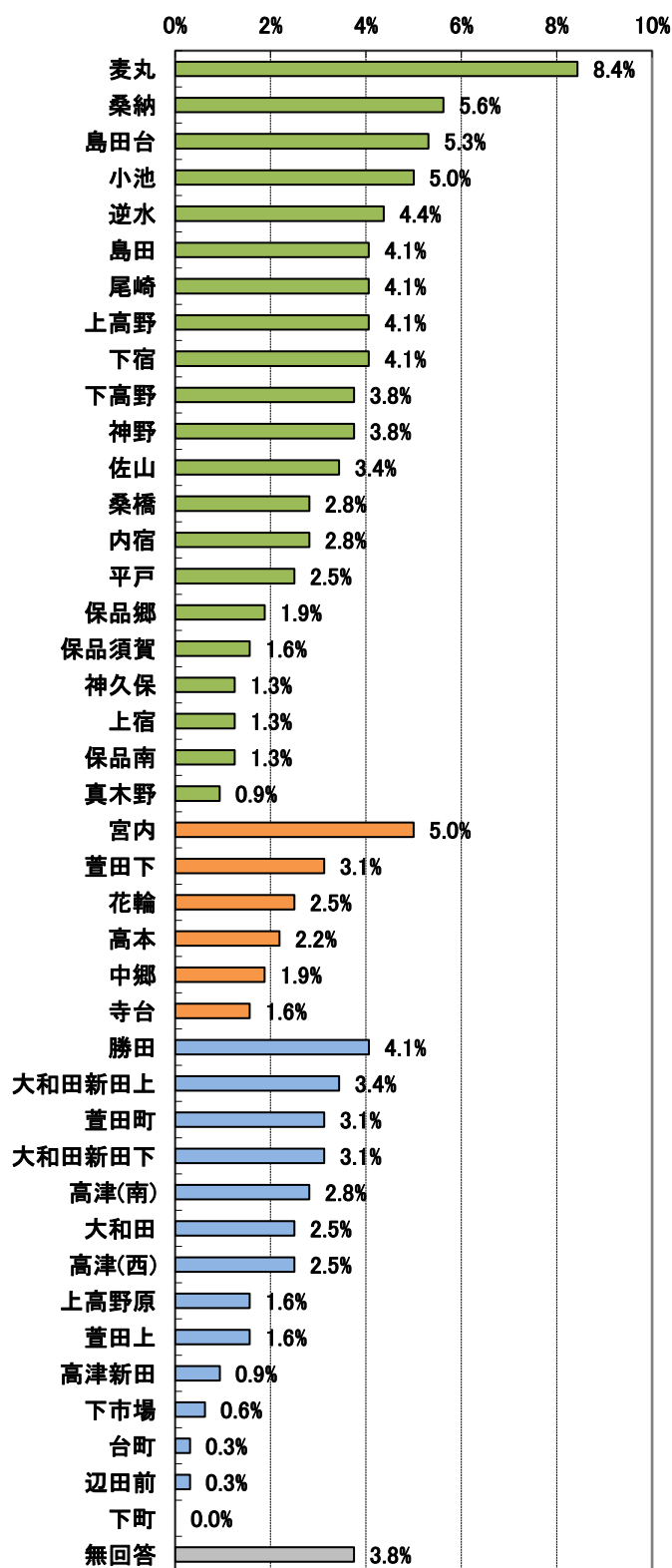


詳細地区 緑色：農村ゾーン、オレンジ色：混在ゾーン、青色：市街地ゾーン

	回答数	比率
麦丸	27	8.4%
桑納	18	5.6%
島田台	17	5.3%
小池	16	5.0%
逆水	14	4.4%
島田	13	4.1%
尾崎	13	4.1%
上高野	13	4.1%
下宿	13	4.1%
下高野	12	3.8%
神野	12	3.8%
佐山	11	3.4%
桑橋	9	2.8%
内宿	9	2.8%
平戸	8	2.5%
保品郷	6	1.9%
保品須賀	5	1.6%
神久保	4	1.3%
上宿	4	1.3%
保品南	4	1.3%
真木野	3	0.9%
宮内	16	5.0%
萱田下	10	3.1%
花輪	8	2.5%
高本	7	2.2%
中郷	6	1.9%
寺台	5	1.6%
勝田	13	4.1%
大和田新田上	11	3.4%
萱田町	10	3.1%
大和田新田下	10	3.1%
高津(南)	9	2.8%
大和田	8	2.5%
高津(西)	8	2.5%
上高野原	5	1.6%
萱田上	5	1.6%
高津新田	3	0.9%
下市場	2	0.6%
台町	1	0.3%
辺田前	1	0.3%
下町	0	0.0%
無回答	12	3.8%
合計	381	-
n	320	

詳細地区グラフ 緑色：農村ゾーン、オレンジ色：混在ゾーン、青色：市街地ゾーン

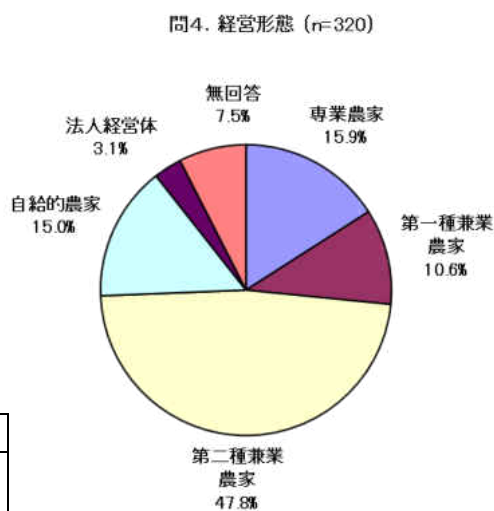
問3. 耕作している場所 (n= 320)



問4. 経営形態

「第二種兼業農家」が 47.8%と最も多く、次いで「専業農家」が 15.9%、「自給的農家」が 15.0%と多くみられた。

	回答数	比率
第二種兼業農家	153	47.8%
専業農家	51	15.9%
自給的農家	48	15.0%
第一種兼業農家	34	10.6%
法人経営体	10	3.1%
無回答	24	7.5%
合計	320	100.0%



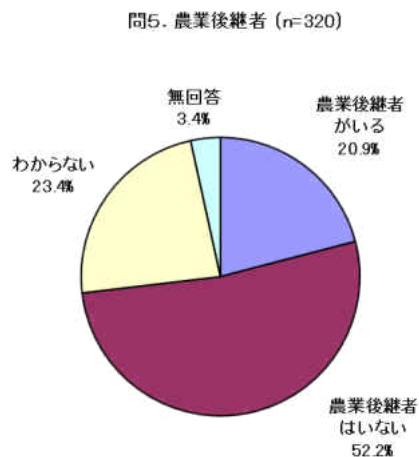
◆定義

専業農家	農業所得のみの農家
第一種兼業農家	農業以外に所得があり、農業所得が主である農家
第二種兼業農家	農業以外に所得があり、農業以外の所得が主である農家
自給的農家	耕地が 30a 未満で販売額が年間 50 万円未満の農家
法人経営体	株式会社等農業経営を法人化している事業者

問5. 後継者の有無

「農業後継者はいない」が 52.2%と最も多く、「わからない」が 23.4%、「農業後継者がいる」が 20.9%となった。

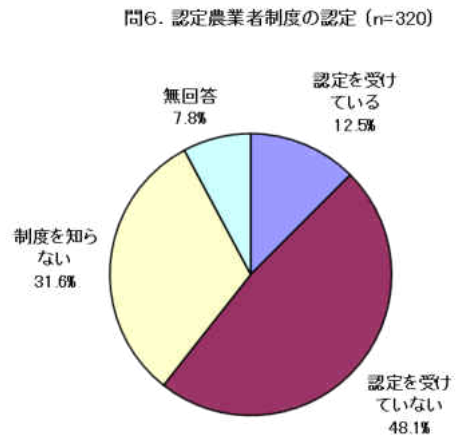
	回答数	比率
農業後継者はいない	167	52.2%
わからない	75	23.4%
農業後継者がいる	67	20.9%
無回答	11	3.4%
合計	320	100.0%



問6. 認定の有無

「認定を受けていない」が 48.1%と最も多く、「制度を知らない」が 31.6%、「認定を受けている」が 12.5%となった。

	回答数	比率
認定を受けていない	154	48.1%
制度を知らない	101	31.6%
認定を受けている	40	12.5%
無回答	25	7.8%
合計	320	100.0%



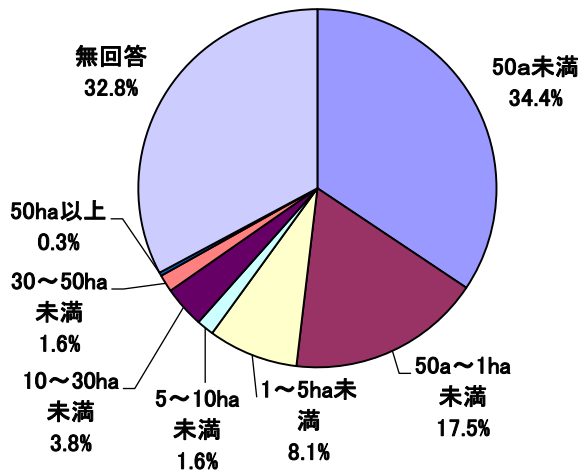
II 現在の経営状況について

問7. 水田の面積

「50a未満」が34.4%と最も多く、次いで「50a～1ha未満」が17.5%、「1～5ha未満」が8.1%と多くみられた。

	回答数	比率
50a未満	110	34.4%
50a～1ha未満	56	17.5%
1～5ha未満	26	8.1%
5～10ha未満	5	1.6%
10～30ha未満	12	3.8%
30～50ha未満	5	1.6%
50ha以上	1	0.3%
無回答	105	32.8%
合計	320	100.0%
n	320	

問7. 耕作している水田の面積 (n= 320)

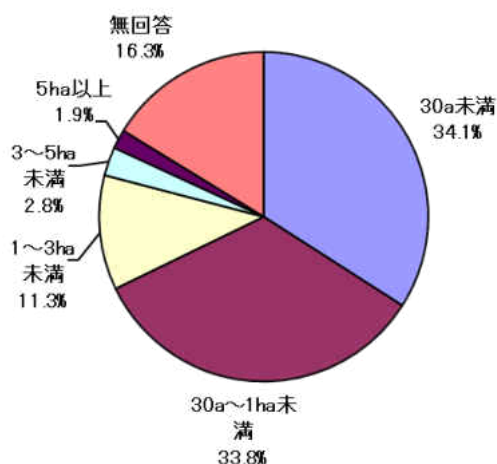


問8. 畑・樹園地の面積

「30a未満」が34.1%と最も多く、「30a～1ha未満」が33.8%、「1～3ha未満」が11.3%と多くみられた。

	回答数	比率
30a未満	109	34.1%
30a～1ha未満	108	33.8%
1～3ha未満	36	11.3%
3～5ha未満	9	2.8%
5ha以上	6	1.9%
無回答	52	16.3%
合計	320	100.0%

問8. 耕作している畑・樹園地の面積 (n=320)



問9. 栽培品目（複数回答）

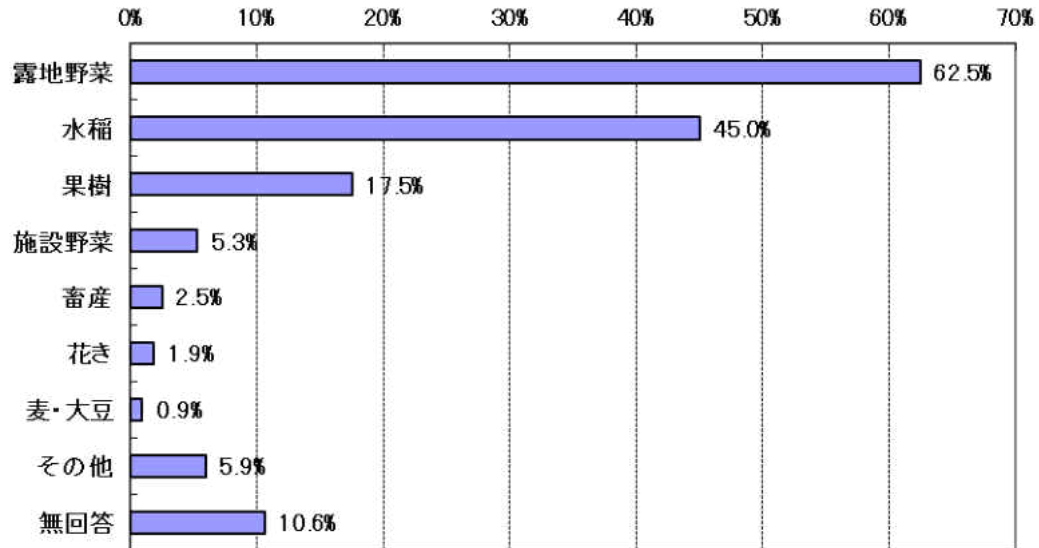
「露地野菜」が62.5%と最も多く、次いで「水稻」が45.0%、「果樹」が17.5%と多くみられた。

	回答数	比率
露地野菜	200	62.5%
水稻	144	45.0%
果樹	56	17.5%
施設野菜	17	5.3%
畜産	8	2.5%
花き	6	1.9%
麦・大豆	3	0.9%
その他	19	5.9%
無回答	34	10.6%
合計	487	-
n	320	

その他

梨 …4件
落花生 …2件
黒豆
自家消費野菜
自給露地野菜
自分で食べるだけの野菜
そば
田は貸しています。年をとって仕事は出来ません
栗
不耕作
保安全管理のみ
いろいろ
駐車場
無回答 …2件

問9. 栽培している品目について (n= 320)



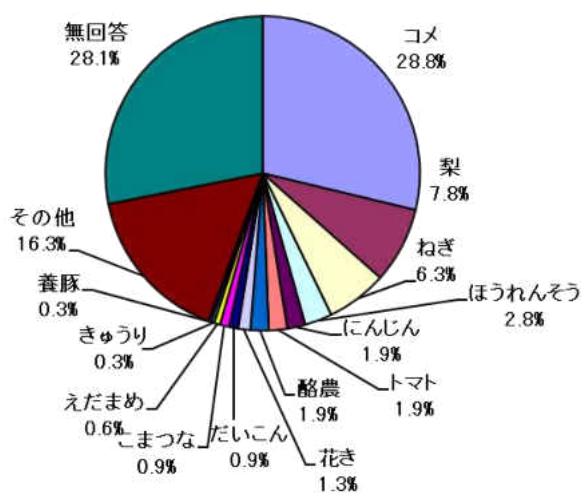
問10. 最も販売額の大きい品目

「コメ」が28.8%と最も多く、次いで「梨」が7.8%、「ねぎ」が6.3%と多くみられた。

	回答数	比率
コメ	92	28.8%
梨	25	7.8%
ねぎ	20	6.3%
ほうれんそう	9	2.8%
にんじん	6	1.9%
トマト	6	1.9%
酪農	6	1.9%
花き	4	1.3%
だいこん	3	0.9%
こまつな	3	0.9%
えだまめ	2	0.6%
きゅうり	1	0.3%
養豚	1	0.3%
その他	52	16.3%
無回答	90	28.1%
合計	320	100.0%

その他
販売無し …18件
栗 …7件
自給 …6件
落花生 …3件
いも類 …2件
キウイフルーツ …2件
さつまいも …2件
じゃがいも …2件
オクラ
さといも
そば
とうもろこし
みかん
ミニトマト
レモン
露地野菜
梅干など
いろいろ

問10. あなたの世帯で、最も販売額の大きい具体的な品目について
(n=320)



問 1 1. 主な販売先（複数回答）

「販売していない（自家消費）」が 24.4%と最も多く、次いで「農協（共同出荷）」と「直売所・道の駅で消費者に販売」が 19.7%と多くみられた。

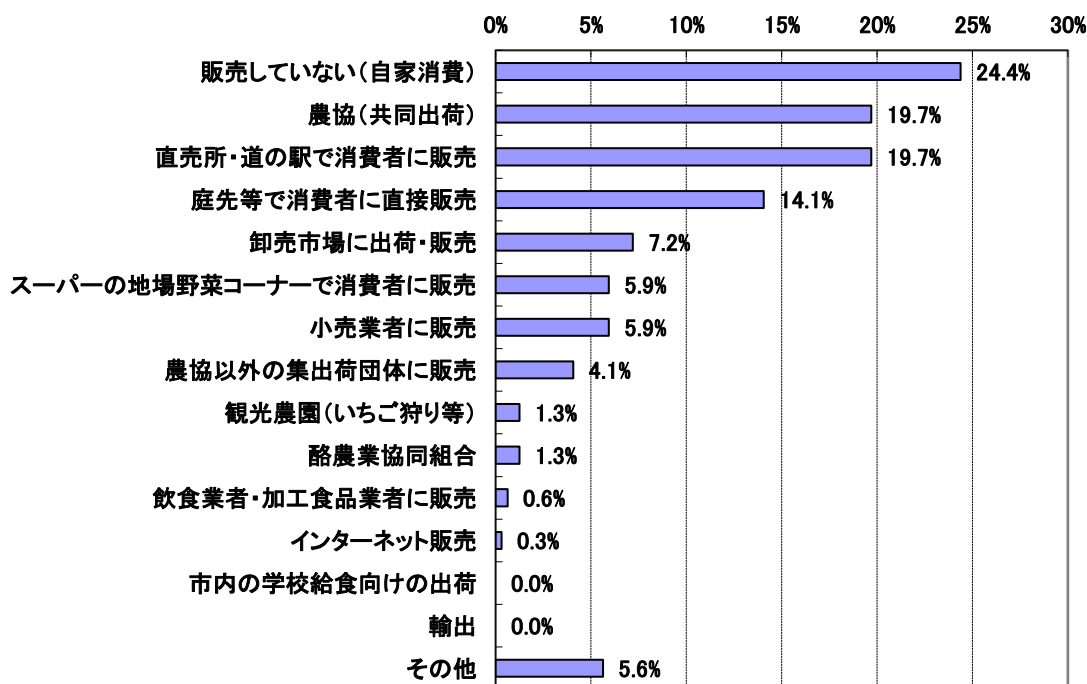
最も販売額の大きい品目別クロス集計では、「コメ」や「にんじん」など一部の野菜で「農協（共同出荷）」の割合が高く、「梨」と「えだまめ」で「直売所・道の駅で消費者に販売」の割合が高い。また、「スーパーの地場野菜コーナーで消費者に販売」は「トマト」で高い割合がみられた。

	回答数	比率
販売していない(自家消費)	78	24.4%
農協(共同出荷)	63	19.7%
直売所・道の駅で消費者に販売	63	19.7%
庭先等で消費者に直接販売	45	14.1%
卸売市場に出荷・販売	23	7.2%
スーパーの地場野菜コーナーで消費者に販売	19	5.9%
小売業者に販売	19	5.9%
農協以外の集出荷団体に販売	13	4.1%
観光農園(いちご狩り等)	4	1.3%
酪農業協同組合	4	1.3%
飲食業者・加工食品業者に販売	2	0.6%
インターネット販売	1	0.3%
市内の学校給食向けの出荷	0	0.0%
輸出	0	0.0%
その他	18	5.6%
無回答	49	15.3%
合計	401	-
n	320	

その他

なし …4件
知人等 …4件
グリーンハウス …3件
直売所・道の駅に少量
生協
自給分のみ
官公庁、ホームセンター、学校、幼稚園他
営農(地代)
無回答 …2件

問11. 主な販売先について (n= 320)



<最も販売額の多い品目別・クロス集計>

	n	合計	農協(共同出荷)	庭先等で消費者に直接販売	観光農園(いちご狩り等)	直売所・道の駅で消費者に販売	スーパーの地場野菜コーナーで消費者に販売	小売業者に販売	飲食業者・加工食品業者に販売	農協以外の集出荷団体に販売	卸売市場に出荷・販売	酪農業協同組合	市内の学校給食向けの出荷	インターネット販売	輸出	販売していない(自家消費)	その他	無回答
全体	320	401	63	45	4	63	19	19	2	13	23	4	0	1	0	78	18	49
コメ	92	125	20%	14%	1%	20%	6%	6%	1%	4%	7%	1%	0%	0%	0%	24%	6%	15%
にんじん	6	138	36%	16%	2%	18%	5%	20%	2%	9%	5%	0%	0%	1%	0%	17%	5%	0%
ねぎ	20	23	7%	6%	0%	4%	2%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	1%	0%
だいこん	3	115	3%	30%	0%	20%	10%	0%	0%	5%	0%	0%	0%	0%	0%	10%	5%	0%
ほうれんそう	9	100	0%	0%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	33%
こまつな	3	11	3%	2%	0%	3%	0%	0%	0%	1%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
梨	25	122	33%	22%	0%	33%	0%	0%	0%	11%	22%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
えだまめ	2	5	0%	1%	0%	1%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%
トマト	6	167	0%	33%	0%	33%	0%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	67%	0%
きゅうり	1	42	2%	8%	1%	16%	3%	1%	0%	0%	8%	0%	0%	0%	0%	1%	1%	1%
酪農	6	168	8%	32%	4%	64%	12%	4%	0%	32%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	4%	4%
養豚	1	2	3%	1%	0%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
花き	4	150	50%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
その他	52	9	2%	2%	0%	2%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
無回答	90	150	33%	33%	0%	33%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
		1	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
		100%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
		9	0%	17%	17%	17%	0%	0%	0%	17%	17%	67%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
		1	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
		5	1%	1%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	1%	0%
		125	25%	25%	0%	25%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	25%	25%	0%
		59	3%	7%	0%	9%	2%	0%	0%	1%	2%	0%	0%	0%	0%	23%	8%	4%
		113	6%	13%	0%	17%	4%	0%	0%	2%	4%	0%	0%	0%	0%	44%	15%	8%
		95	6%	2%	0%	5%	3%	0%	0%	0%	2%	0%	0%	0%	0%	35%	0%	42%
		106	7%	2%	0%	6%	3%	0%	0%	0%	2%	0%	0%	0%	0%	39%	0%	47%

問 1 2. 農業経営における問題（複数回答）

「後継者がいない」が 35.6%と最も多く、次いで「労働力の不足」が 30.9%、「温暖化、台風増加等自然環境の変化」が 26.9%と多くみられた。

年齢別クロス集計では、「50 代」以上の層で「後継者がいない」、「40 代」と「50 代」で「労働力の不足」が多くみられた。

経営形態別クロス集計では、「専業農家」、「法人経営体」で「労働力の不足」と「温暖化、台風増加等自然環境の変化」が多くみられた。

認定の有無別クロス集計では、「認定を受けている」は全体的に各回答の割合が高く、特に「労働力の不足」は高い割合となった。一方で、「後継者がいない」の割合は他の区分と比較して低かった。

水田面積別クロス集計では、「5ha～10ha 未満」から「30～50ha 未満」の層でも「後継者がいない」や「労働力の不足」といった問題の割合が高くなった。また、比較的面積規模の小さい層で「農地の分散・点在」の割合が高くなった。

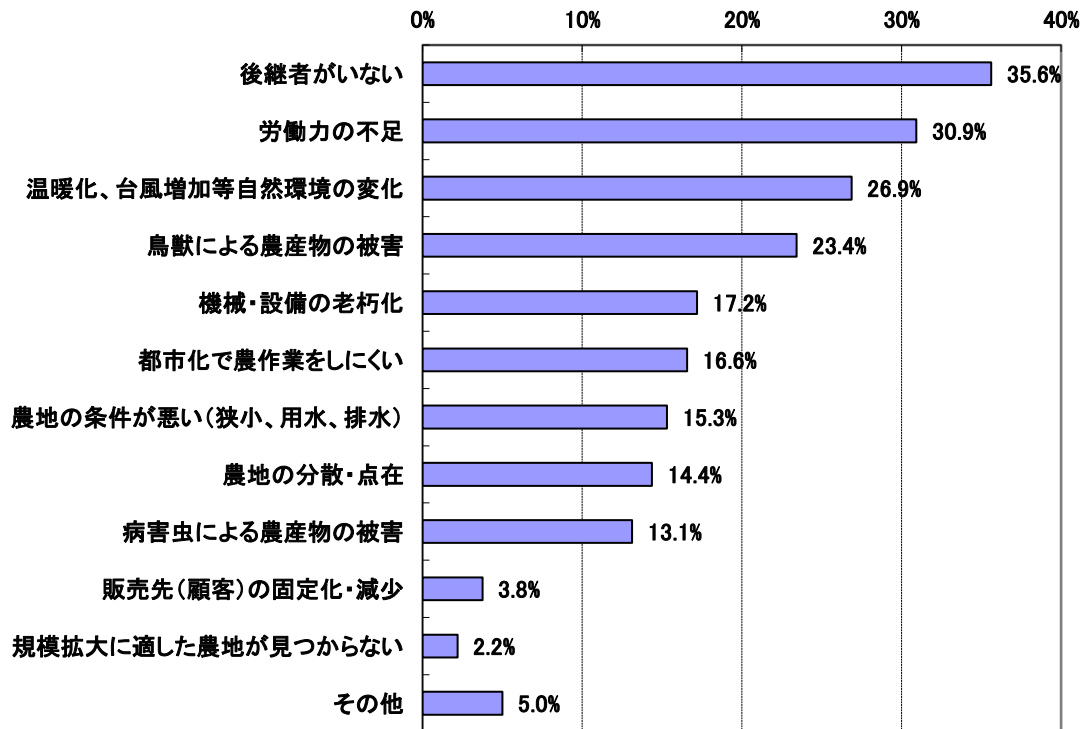
畑・樹園地面積別クロス集計では、全ての層で「労働力の不足」が高い割合でみられ、「3～5ha 未満」では「後継者がいない」が突出して高い割合となった。また、比較的面積規模の大きい層でも「規模拡大に適した農地が見つからない」の回答がみられた。

栽培品目別クロス集計では、「水稻」と「花き」で「後継者がいない」の割合が特に高く、「施設野菜」では比較的低い割合となった。「果樹」で「労働力の不足」が特に高い割合となった。

	回答数	比率
後継者がいない	114	35.6%
労働力の不足	99	30.9%
温暖化、台風増加等自然環境の変化	86	26.9%
鳥獣による農産物の被害	75	23.4%
機械・設備の老朽化	55	17.2%
都市化で農作業をしにくい	53	16.6%
農地の条件が悪い(狭小、用水、排水)	49	15.3%
農地の分散・点在	46	14.4%
病害虫による農産物の被害	42	13.1%
販売先(顧客)の固定化・減少	12	3.8%
規模拡大に適した農地が見つからない	7	2.2%
その他	16	5.0%
無回答	41	12.8%
合計	695	-
n	320	

その他
法人営農に任せる
低い収入
農業のみの収入では税金が払えない。
低価格化
体力がなくなった
剪定枝の処理
自給的な農家につき農業経営していない
高齢化による労働力不足
工場からトタン、ベニア板とんで来る
後継者はどうなるかわからない
後継が出来るかわからない
現状維持でいいと考えている
原価にみあう販売単価設定が難しい
特になし
無回答 …2件

問12. 現状の農業経営における問題について (n= 320)



<年齢別・クロス集計>

	n	合計	労働力の不足	農地の分散・点在	水（狭小、用水、排水）	農地の条件が悪い	規模拡大に適した農地が見つからない	温暖化、台風増加等自然環境の変化	機械・設備の老朽化	病虫害による農産物の被害	鳥獣による農産物の被害	都市化で農作業をしにくい	販売先（顧客）の固定・減少	後継者がいない	その他	無回答
全体	320	695	99	46	49	7	86	55	42	75	53	12	114	16	41	
		217%	31%	14%	15%	2%	27%	17%	13%	23%	17%	4%	36%	5%	13%	
～20代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
30代	1	3	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
		300%	0%	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
40代	6	17	4	1	1	0	2	1	2	2	2	0	1	1	0	
		283%	67%	17%	17%	0%	33%	17%	33%	33%	33%	0%	17%	17%	0%	
50代	39	105	20	5	7	1	16	13	7	10	12	2	12	0	0	
		269%	51%	13%	18%	3%	41%	33%	18%	26%	31%	5%	31%	0%	0%	
60代	110	265	35	21	22	4	35	29	19	24	16	5	36	9	10	
		241%	32%	19%	20%	4%	32%	26%	17%	22%	15%	5%	33%	8%	9%	
70代	107	203	25	14	12	1	19	9	10	30	11	4	44	1	23	
		190%	23%	13%	11%	1%	18%	8%	9%	28%	10%	4%	41%	1%	21%	
80歳以上	51	94	13	4	7	0	11	3	3	9	12	1	20	5	6	
		184%	25%	8%	14%	0%	22%	6%	6%	18%	24%	2%	39%	10%	12%	
無回答	6	8	2	0	0	0	2	0	1	0	0	0	1	0	2	
		133%	33%	0%	0%	0%	33%	0%	17%	0%	0%	0%	17%	0%	33%	

<経営形態別・クロス集計>

	n	合計	労働力の不足	農地の分散・点在	小農地、用水、排水（狭小）	農地の条件が悪い	規模拡大に適した農地が見つからない	温暖化、台風増加等自然環境の変化	機械・設備の老朽化	病虫害による農産物の被害	鳥獣による農産物の被害	都市化で農作業をしにくい	販売先（顧客）の固定・減少	後継者がいない	その他	無回答
全体	320	695	99	46	49	7	86	55	42	75	53	12	114	16	41	
		217%	31%	14%	15%	2%	27%	17%	13%	23%	17%	4%	36%	5%	13%	
専業農家	51	154	27	9	13	2	23	13	12	22	7	4	18	1	3	
		302%	53%	18%	25%	4%	45%	25%	24%	43%	14%	8%	35%	2%	6%	
第一種兼業農家	34	89	11	3	5	1	17	9	7	15	9	4	7	0	1	
		262%	32%	9%	15%	3%	50%	26%	21%	44%	26%	12%	21%	0%	3%	
第二種兼業農家	153	314	47	24	27	1	32	25	17	26	28	4	58	9	16	
		205%	31%	16%	18%	1%	21%	16%	11%	17%	18%	3%	38%	6%	10%	
自給的農家	48	71	7	5	1	0	6	2	4	8	4	0	20	4	10	
		148%	15%	10%	2%	0%	13%	4%	8%	17%	8%	0%	42%	8%	21%	
法人経営体	10	29	4	3	2	3	4	5	2	1	2	0	3	0	0	
		290%	40%	30%	20%	30%	40%	50%	20%	10%	20%	0%	30%	0%	0%	
無回答	24	38	3	2	1	0	4	1	0	3	3	0	8	2	11	
		158%	13%	8%	4%	0%	17%	4%	0%	13%	13%	0%	33%	8%	46%	

<認定の有無別・クロス集計>

	n	合計	労働力の不足	農地の分散・点在	水（狭小、用水、排水）	農地の条件が悪い	規模拡大に適した農地が見つからない	自然環境の変化	温暖化、台風増加等	機械・設備の老朽化	病害虫による農産物の被害	鳥獣による農産物の被害	に都市化で農作業をしにくい	販売先（顧客）の固定化・減少	後継者がいない	その他	無回答
全体	320	695	99	46	49	7	86	55	42	75	53	12	114	16	41		
		217%	31%	14%	15%	2%	27%	17%	13%	23%	17%	4%	36%	5%	13%		
認定を受けている	40	131	27	12	12	6	18	16	7	10	8	2	10	3	0		
		328%	68%	30%	30%	15%	45%	40%	18%	25%	20%	5%	25%	8%	0%		
認定を受けていない	154	347	49	22	23	1	46	30	23	44	26	8	57	6	12		
		225%	32%	14%	15%	1%	30%	19%	15%	29%	17%	5%	37%	4%	8%		
制度を知らない	101	179	21	12	11	0	14	8	11	16	16	2	44	7	17		
		177%	21%	12%	11%	0%	14%	8%	11%	16%	16%	2%	44%	7%	17%		
無回答	25	38	2	0	3	0	8	1	1	5	3	0	3	0	12		
		152%	8%	0%	12%	0%	32%	4%	4%	20%	12%	0%	12%	0%	48%		

<水田面積別・クロス集計>

	n	合計	労働力の不足	農地の分散・点在	水（狭小、用水、排水）	農地の条件が悪い	規模拡大に適した農地が見つからない	自然環境の変化	温暖化、台風増加等	機械・設備の老朽化	病害虫による農産物の被害	鳥獣による農産物の被害	に都市化で農作業をしにくい	販売先（顧客）の固定化・減少	後継者がいない	その他	無回答
全体	320	695	99	46	49	7	86	55	42	75	53	12	114	16	41		
		217%	31%	14%	15%	2%	27%	17%	13%	23%	17%	4%	36%	5%	13%		
50a未満	110	242	30	22	16	4	28	18	13	28	19	4	45	8	7		
		220%	27%	20%	15%	4%	25%	16%	12%	25%	17%	4%	41%	7%	6%		
50a～1ha未満	56	145	22	13	18	2	20	14	8	12	7	4	22	2	1		
		259%	39%	23%	32%	4%	36%	25%	14%	21%	13%	7%	39%	4%	2%		
1ha～5ha未満	26	60	10	8	5	0	8	8	1	7	2	2	7	0	2		
		231%	38%	31%	19%	0%	31%	31%	4%	27%	8%	8%	27%	0%	8%		
5～10ha未満	5	11	2	0	0	0	3	3	0	0	1	0	2	0	0		
		220%	40%	0%	0%	0%	60%	60%	0%	0%	20%	0%	40%	0%	0%		
10～30ha未満	12	30	4	0	4	1	4	1	2	4	1	0	6	1	2		
		250%	33%	0%	33%	8%	33%	8%	17%	33%	8%	0%	50%	8%	17%		
30～50ha未満	5	15	5	1	0	0	1	2	2	0	0	0	4	0	0		
		300%	100%	20%	0%	0%	20%	40%	40%	0%	0%	0%	80%	0%	0%		
50ha以上	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%		
無回答	105	191	26	2	6	0	22	9	16	24	23	2	28	5	28		
		182%	25%	2%	6%	0%	21%	9%	15%	23%	22%	2%	27%	5%	27%		

<畑・樹園地面積別・クロス集計>

	n	合計	労働力の不足	農地の分散・点在	小、農地の条件が悪い(狭小、用水、排水)	規模拡大に適した農地が見つかからない	温暖化、台風増加等自然環境の変化	機械・設備の老朽化	被害 病虫害による農産物の被害	害 鳥獣による農産物の被害	く都市化で農作業をしにくい	販売先(顧客)の固定化・減少	後継者がいない	その他	無回答
全体	320	695	99 217%	46 31%	49 14%	7 15%	86 2%	55 27%	42 17%	75 23%	53 17%	12 4%	114 36%	16 5%	41 13%
30a未満	109	211	23 194%	18 21%	18 17%	0 0%	18 17%	14 13%	13 12%	17 16%	15 14%	3 3%	49 45%	9 8%	14 13%
30a~1ha未満	108	258	43 239%	17 40%	18 16%	2 17%	41 2%	24 38%	18 22%	33 17%	20 31%	4 19%	30 28%	3 3%	5 5%
1~3ha未満	36	97	17 269%	6 47%	7 17%	2 6%	14 39%	10 28%	5 14%	11 31%	9 25%	3 8%	8 22%	3 8%	2 6%
3~5ha未満	9	28	4 311%	1 44%	1 11%	1 11%	3 33%	3 33%	1 11%	5 56%	2 22%	0 0%	7 78%	0 0%	0 0%
5ha以上	6	22	2 367%	2 33%	1 33%	1 17%	3 50%	3 50%	3 50%	4 67%	2 33%	0 0%	0 0%	0 0%	1 17%
無回答	52	79	10 152%	2 19%	4 4%	1 8%	7 2%	1 13%	2 2%	5 10%	5 10%	2 4%	20 38%	1 2%	19 37%

<栽培品目別・クロス集計>

	n	合計	労働力の不足	農地の分散・点在	小、農地の条件が悪い(狭小、用水、排水)	規模拡大に適した農地が見つかからない	温暖化、台風増加等自然環境の変化	機械・設備の老朽化	被害 病虫害による農産物の被害	害 鳥獣による農産物の被害	く都市化で農作業をしにくい	販売先(顧客)の固定化・減少	後継者がいない	その他	無回答
全体	487	1121	167 230%	85 34%	85 17%	10 17%	151 2%	98 31%	67 20%	118 14%	77 24%	23 16%	167 5%	22 34%	51 10%
水稲	144	356	56 247%	34 39%	35 24%	4 24%	46 3%	37 32%	21 26%	32 15%	12 22%	9 8%	57 40%	5 3%	8 6%
麦・大豆	3	6	0 200%	1 33%	0 0%	0 0%	2 67%	0 0%	0 0%	1 33%	1 33%	0 0%	1 33%	0 0%	0 0%
露地野菜	200	461	68 231%	34 34%	32 17%	3 16%	58 2%	33 17%	30 15%	61 31%	34 17%	8 4%	67 34%	12 6%	21 11%
施設野菜	17	44	7 259%	3 41%	2 18%	0 0%	11 65%	4 24%	6 35%	5 29%	1 6%	0 0%	3 18%	1 6%	1 6%
果樹	56	144	26 257%	7 46%	9 13%	1 16%	25 2%	16 45%	8 29%	15 14%	17 30%	5 9%	11 20%	2 4%	2 4%
畜産	8	18	2 225%	2 25%	1 13%	2 25%	3 38%	6 75%	0 0%	0 0%	1 13%	0 0%	1 13%	0 0%	0 0%
花き	6	15	2 250%	0 33%	1 17%	0 0%	2 33%	0 0%	0 0%	2 33%	3 50%	1 17%	4 67%	0 0%	0 0%
その他	19	36	4 189%	3 21%	4 16%	0 21%	2 0%	2 11%	1 11%	2 11%	5 26%	0 0%	10 53%	2 11%	1 5%
無回答	34	41	2 121%	1 6%	1 3%	0 3%	2 6%	0 0%	1 3%	0 0%	3 9%	0 0%	13 38%	0 0%	18 53%

問 1 2 - 1. 負担と感じる作業内容（問 1 2「労働力不足」回答者、3 品目まで記入）

稲では「田植（補植、苗の運搬等）」、野菜類では「箱詰」などの出荷調整作業や収穫、果樹では「収穫」や「剪定」が多くみられた。

品目	作業内容	回答件数
稲	田植(補植、苗の運搬等)	11
	高齢の為全ての作業	2
	草刈	4
	稲刈	2
	米袋の運搬(稲刈時)	2
	農機の老朽化による作業性悪化	2
	粃の運搬(稲刈時)	1
	袋詰め	1
	稲作り	1
	苗作り	1
	剪定	1
	管理作業全般	1
	春、秋の作業補助	1
	全体の作業	1
	後継者がいない	1
ねぎ	仕分け、箱詰	3
	収穫作業	2
	堀取り	1
	農薬散布	1
	全般的に不足感を感じる	1
にんじん	箱詰	6
	ほ場からの運搬	4
	洗浄	3
	全般的に不足感を感じる	2
	収穫	1
	出荷作業	1
トマト	畑管理	2
	収穫	2
	荷造り	1
	病害虫対応	1
	農薬管理	1
その他野菜	除草	4
	収穫	4
	荷造り	3
	洗浄	3
	管理作業全般	2
	剪定・芽かき	2
	病害虫対応	1
	鳥獣対応	1
	高齢化	1
	後継者がいない	1

品目	作業内容	回答件数
果樹	収穫	8
	剪定	8
	剪定後の枝処理	3
	除草	3
	畑からの運搬	1
	交配	1
	販売	1
	管理作業全般	1
	後継者がいない	1
	兼業のため労働力不足	1
いちご	莓刈り、莓の手入れでのパート人員不足	1
直売向け	袋詰め等商品化	4
	出荷先への搬送・売残りの搬出	3
	免許返納を考えている	1
無回答	草刈り	2
	仕事量多い、長時間労働	2
	酪農作業全般	1
	出荷作業	1
	体力がない	1
	自家消費であるが全ての作業	1
	収入にならないので、農作業に就農しない	1

Ⅲ 今後の農業経営の展望について

問13. 今後の農業経営の方針

◇ 5年後

「現状を維持」が39.4%と最も多く、次いで「分からない」が24.1%、「離農・引退」が15.9%と多くみられた。「法人・他の人に任せたい」は18件、「経営規模を拡大」は11件みられた。

年齢別クロス集計では、「40代」と「50代」で「現状を維持」が多くみられ、「60代」以上の層で「離農・引退」、「法人・他の人に任せたい」、「分からない」が多くみられた。

耕作地域別クロス集計では、「市街地ゾーン」で「離農・引退」が多くみられた。詳細地区では、「尾崎」、「麦丸」で「経営規模を拡大」が3件ずつみられた中、「麦丸」では「離農・引退」が5件みられた。

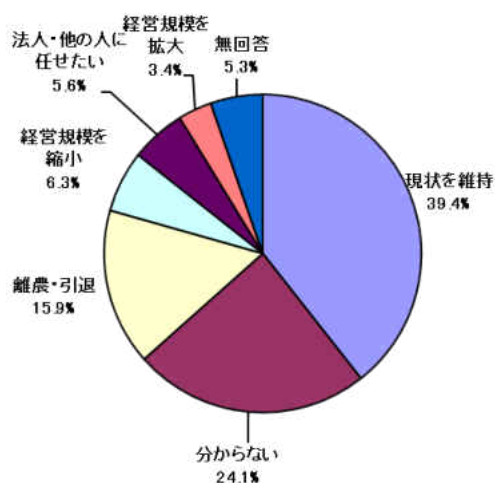
経営形態別クロス集計では、「専業農家」と「第一種兼業農家」では「現状を維持」が多くみられ、「第二種兼業農家」と「自給的農家」で「離農・引退」が多くみられた。

認定の有無別クロス集計では、「認定を受けている」層で「経営規模を拡大」が多くみられた。

栽培品目別クロス集計では、「水稻」と「露地野菜」で「離農・引退」が多くみられた。

	回答数	比率
現状を維持	126	39.4%
分からない	77	24.1%
離農・引退	51	15.9%
経営規模を縮小	20	6.3%
法人・他の人に任せたい	18	5.6%
経営規模を拡大	11	3.4%
無回答	17	5.3%
合計	320	100.0%

問13-①. 今後の農業経営について【5年後の経営】(n=320)



◇ 10年後

「分からない」が 37.5%と最も多く、次いで「離農・引退」が 20.3%、「現状を維持」が 16.9%と多くみられた。

年齢別クロス集計では、「30代」から「60代」で「経営規模を拡大」の回答が見られる一方で、「40代」以上の層では「分からない」が多くみられた。

耕作地域別クロス集計では、「農村ゾーン」で「経営規模を拡大」と「法人・他の人に任せたい」が多く、「市街地ゾーン」で「離農・引退」が多くみられた。詳細地区では、「尾崎」で「経営規模を拡大」が3件、「萱田町」で「離農・引退」が6件、「神野」で「法人・他の人に任せたい」が5件みられた。

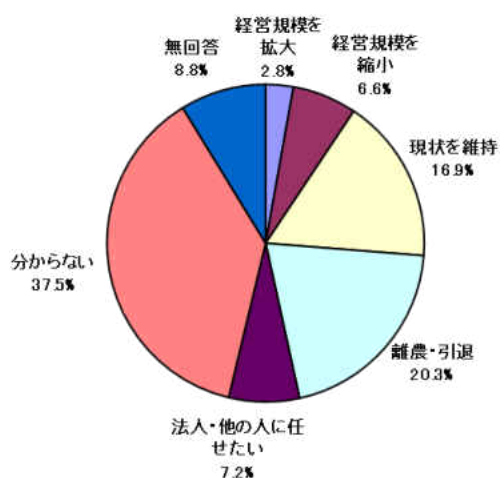
経営形態別クロス集計では、「専業農家」と「法人経営体」でも「分からない」の割合が高かった。

認定の有無別クロス集計では、「認定を受けている」層で「経営規模を拡大」及び「経営規模を縮小」が多く見られる一方で、「離農・引退」は比較的低い割合となった。

栽培品目別クロス集計では、「水稲」と「露地野菜」で「離農・引退」が多く、「法人・他の人に任せたい」、「分からない」も一定数みられた。

	回答数	比率
分からない	120	37.5%
離農・引退	65	20.3%
現状を維持	54	16.9%
法人・他の人に任せたい	23	7.2%
経営規模を縮小	21	6.6%
経営規模を拡大	9	2.8%
無回答	28	8.8%
合計	320	100.0%

問13-②. 今後の農業経営について【10年後の経営】(n=320)



<年齢別・クロス集計>

◇ 5年後

	n	合計	経営規模を拡大	経営規模を縮小	現状を維持	離農・引退	法人・他の人に任せたい	分からない	無回答
全体	320	320	11	20	126	51	18	77	17
		100%	3%	6%	39%	16%	6%	24%	5%
～20代	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
30代	1	1	1	0	0	0	0	0	0
		100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
40代	6	6	1	0	4	0	0	1	0
		100%	17%	0%	67%	0%	0%	17%	0%
50代	39	39	4	3	25	0	2	5	0
		100%	10%	8%	64%	0%	5%	13%	0%
60代	110	110	4	12	52	12	4	24	2
		100%	4%	11%	47%	11%	4%	22%	2%
70代	107	107	1	4	30	22	9	32	9
		100%	1%	4%	28%	21%	8%	30%	8%
80歳以上	51	51	0	1	13	17	2	15	3
		100%	0%	2%	25%	33%	4%	29%	6%
無回答	6	6	0	0	2	0	1	0	3
		100%	0%	0%	33%	0%	17%	0%	50%

◇ 10年後

	n	合計	経営規模を拡大	経営規模を縮小	現状を維持	離農・引退	法人・他の人に任せたい	分からない	無回答
全体	320	320	9	21	54	65	23	120	28
		100%	3%	7%	17%	20%	7%	38%	9%
～20代	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
30代	1	1	1	0	0	0	0	0	0
		100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
40代	6	6	1	0	2	0	0	3	0
		100%	17%	0%	33%	0%	0%	50%	0%
50代	39	39	4	4	14	3	2	12	0
		100%	10%	10%	36%	8%	5%	31%	0%
60代	110	110	3	12	22	16	11	40	6
		100%	3%	11%	20%	15%	10%	36%	5%
70代	107	107	0	4	12	28	8	41	14
		100%	0%	4%	11%	26%	7%	38%	13%
80歳以上	51	51	0	1	3	17	2	24	4
		100%	0%	2%	6%	33%	4%	47%	8%
無回答	6	6	0	0	1	1	0	0	4
		100%	0%	0%	17%	17%	0%	0%	67%

<耕作地域別・クロス集計※>

◇ 5年後

	n	合計	経営規模を拡大	経営規模を縮小	現状を維持	離農・引退	法人・他の人に任せたい	分からない	無回答
全体	381	381	16	23	156	59	24	84	19
		100%	4%	6%	41%	15%	6%	22%	5%
農村	231	231	13	15	100	30	20	47	6
		100%	6%	6%	43%	13%	9%	20%	3%
混在	52	52	1	4	25	5	0	15	2
		100%	2%	8%	48%	10%	0%	29%	4%
市街地	86	86	2	4	28	23	2	20	7
		100%	2%	5%	33%	27%	2%	23%	8%
無回答	12	12	0	0	3	1	2	2	4
		100%	0%	0%	25%	8%	17%	17%	33%

詳細地区 緑色：農村ゾーン、オレンジ色：混在ゾーン、青色：市街地ゾーン

	n	合計	経営規模を拡大	経営規模を縮小	現状を維持	離農・引退	法人・他の人に任せたい	分からない	無回答
全体	381	381	16	23	156	59	24	84	19
			4%	6%	41%	15%	6%	22%	5%
小池	16	16	1	2	10	1	0	1	1
			6%	13%	63%	6%	0%	6%	6%
神久保	4	4	0	0	3	0	0	1	0
			0%	0%	75%	0%	0%	25%	0%
真木野	3	3	0	0	1	1	0	1	0
			0%	0%	33%	33%	0%	33%	0%
佐山	11	11	0	1	6	1	0	3	0
			0%	9%	55%	9%	0%	27%	0%
平戸	8	8	0	0	5	1	1	1	0
			0%	0%	63%	13%	13%	13%	0%
島田台	17	17	0	1	7	2	0	6	1
			0%	6%	41%	12%	0%	35%	6%
島田	13	13	0	1	7	1	2	1	1
			0%	8%	54%	8%	15%	8%	8%
桑橋	9	9	1	0	3	3	0	1	1
			11%	0%	33%	33%	0%	11%	11%
桑納	18	18	1	3	4	3	2	5	0
			6%	17%	22%	17%	11%	28%	0%
尾崎	13	13	3	1	5	1	0	3	0
			23%	8%	38%	8%	0%	23%	0%
麦丸	27	27	3	2	11	5	1	5	0
			11%	7%	41%	19%	4%	19%	0%
上高野	13	13	0	0	6	3	1	3	0
			0%	0%	46%	23%	8%	23%	0%
下高野	12	12	0	0	5	2	2	2	1
			0%	0%	42%	17%	17%	17%	8%
逆水	14	14	1	0	6	1	1	4	1
			7%	0%	43%	7%	7%	29%	7%
下宿	13	13	1	2	7	1	2	0	0
			8%	15%	54%	8%	15%	0%	0%
上宿	4	4	0	0	1	1	1	1	0
			0%	0%	25%	25%	25%	25%	0%
内宿	9	9	1	0	4	0	2	2	0
			11%	0%	44%	0%	22%	22%	0%
神野	12	12	0	1	6	1	2	2	0
			0%	8%	50%	8%	17%	17%	0%
保品郷	6	6	1	0	0	1	2	2	0
			17%	0%	0%	17%	33%	33%	0%
保品南	4	4	0	0	1	1	1	1	0
			0%	0%	25%	25%	25%	25%	0%
保品須賀	5	5	0	1	2	0	0	2	0
			0%	20%	40%	0%	0%	40%	0%
萱田下	10	10	0	1	2	2	0	4	1
			0%	10%	20%	20%	0%	40%	10%
花輪	8	8	0	0	5	1	0	1	1
			0%	0%	63%	13%	0%	13%	13%
寺台	5	5	0	1	3	0	0	1	0
			0%	20%	60%	0%	0%	20%	0%
高本	7	7	0	2	3	0	0	2	0
			0%	29%	43%	0%	0%	29%	0%
中郷	6	6	0	0	2	1	0	3	0
			0%	0%	33%	17%	0%	50%	0%
宮内	16	16	1	0	10	1	0	4	0
			6%	0%	63%	6%	0%	25%	0%
高津新田	3	3	1	1	0	1	0	0	0
			33%	33%	0%	33%	0%	0%	0%
萱田町	10	10	0	0	1	6	1	2	0
			0%	0%	10%	60%	10%	20%	0%
大和田	8	8	0	0	4	1	1	1	1
			0%	0%	50%	13%	13%	13%	13%
大和田新田上	11	11	0	0	4	3	0	4	0
			0%	0%	36%	27%	0%	36%	0%
大和田新田下	10	10	0	0	4	4	0	1	1
			0%	0%	40%	40%	0%	10%	10%
高津(西)	8	8	1	1	1	2	0	1	2
			13%	13%	13%	25%	0%	13%	25%
高津(南)	9	9	0	1	3	0	0	4	1
			0%	11%	33%	0%	0%	44%	11%
勝田	13	13	0	0	3	2	0	6	2
			0%	0%	23%	15%	0%	46%	15%
下市場	2	2	0	0	1	0	0	1	0
			0%	0%	50%	0%	0%	50%	0%
下町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
台町	1	1	0	0	0	1	0	0	0
			0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%
辺田前	1	1	0	0	1	0	0	0	0
			0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%
上高野原	5	5	0	1	2	2	0	0	0
			0%	20%	40%	40%	0%	0%	0%
萱田上	5	5	0	0	4	1	0	0	0
			0%	0%	80%	20%	0%	0%	0%
無回答	12	12	0	0	3	1	2	2	4
			0%	0%	25%	8%	17%	17%	33%

◇ 10年後

	n	合計	経営規模を拡大	経営規模を縮小	現状を維持	離農・引退	法人・他の人に任せたい	分からない	無回答
全体	381	381	22	25	64	75	29	131	35
		100%	6%	7%	17%	20%	8%	34%	9%
農村	231	231	20	17	32	39	24	82	17
		100%	9%	7%	14%	17%	10%	35%	7%
混在	52	52	2	4	12	8	0	24	2
		100%	4%	8%	23%	15%	0%	46%	4%
市街地	86	86	0	4	18	25	3	24	12
		100%	0%	5%	21%	29%	3%	28%	14%
無回答	12	12	0	0	2	3	2	1	4
		100%	0%	0%	17%	25%	17%	8%	33%

詳細地区 緑色：農村ゾーン、オレンジ色：混在ゾーン、青色：市街地ゾーン

	n	合計	経営規模を拡大	経営規模を縮小	現状を維持	離農・引退	法人・他の人に任せたい	分からない	無回答
全体	381	381	22	25	64	75	29	131	35
		100%	6%	7%	17%	20%	8%	34%	9%
小池	16	16	2	2	1	3	0	7	1
		100%	13%	13%	6%	19%	0%	44%	6%
神久保	4	4	2	0	1	0	0	1	0
		100%	50%	0%	25%	0%	0%	25%	0%
真木野	3	3	0	0	0	1	0	1	1
		100%	0%	0%	0%	33%	0%	33%	33%
佐山	11	11	2	1	0	1	2	5	0
		100%	18%	9%	0%	9%	18%	45%	0%
平戸	8	8	0	0	1	1	2	4	0
		100%	0%	0%	13%	13%	25%	50%	0%
島田台	17	17	2	4	1	3	0	5	2
		100%	12%	24%	6%	18%	0%	29%	12%
島田	13	13	1	2	3	3	2	2	0
		100%	8%	15%	23%	23%	15%	15%	0%
桑橋	9	9	1	0	1	2	1	3	1
		100%	11%	0%	11%	22%	11%	33%	11%
桑納	18	18	1	1	3	3	3	5	2
		100%	6%	6%	17%	17%	17%	28%	11%
尾崎	13	13	3	1	1	0	0	7	1
		100%	23%	8%	8%	0%	0%	54%	8%
妻丸	27	27	2	1	5	4	2	11	2
		100%	7%	4%	19%	15%	7%	41%	7%
上高野	13	13	0	1	3	4	1	4	0
		100%	0%	8%	23%	31%	8%	31%	0%
下高野	12	12	0	1	0	3	2	5	1
		100%	0%	8%	0%	25%	17%	42%	8%
逆水	14	14	2	1	2	3	1	3	2
		100%	14%	7%	14%	21%	7%	21%	14%
下宿	13	13	1	1	4	2	1	3	1
		100%	8%	8%	31%	15%	8%	23%	8%
上宿	4	4	0	0	0	1	0	2	1
		100%	0%	0%	0%	25%	0%	50%	25%
内宿	9	9	1	0	4	0	1	1	2
		100%	11%	0%	44%	0%	11%	11%	22%
神野	12	12	0	1	1	1	5	4	0
		100%	0%	8%	8%	8%	42%	33%	0%
保品郷	6	6	0	0	0	1	1	4	0
		100%	0%	0%	0%	17%	17%	67%	0%
保品南	4	4	0	0	1	2	0	1	0
		100%	0%	0%	25%	50%	0%	25%	0%
保品須賀	5	5	0	0	0	1	0	4	0
		100%	0%	0%	0%	20%	0%	80%	0%
萱田下	10	10	0	1	0	3	0	6	0
		100%	0%	10%	0%	30%	0%	60%	0%
花輪	8	8	1	0	0	1	0	5	1
		100%	13%	0%	0%	13%	0%	63%	13%
寺台	5	5	0	2	1	1	0	1	0
		100%	0%	40%	20%	20%	0%	20%	0%
高本	7	7	1	1	1	0	0	4	0
		100%	14%	14%	14%	0%	0%	57%	0%
中郷	6	6	0	0	0	2	0	4	0
		100%	0%	0%	0%	33%	0%	67%	0%
宮内	16	16	0	0	10	1	0	4	1
		100%	0%	0%	63%	6%	0%	25%	6%
高津新田	3	3	0	0	0	2	0	1	0
		100%	0%	0%	0%	67%	0%	33%	0%
萱田町	10	10	0	0	1	6	1	1	1
		100%	0%	0%	10%	60%	10%	10%	10%
大和田	8	8	0	0	3	1	1	2	1
		100%	0%	0%	38%	13%	13%	25%	13%
大和田新田上	11	11	0	1	3	3	0	3	1
		100%	0%	9%	27%	27%	0%	27%	9%
大和田新田下	10	10	0	0	4	4	0	0	2
		100%	0%	0%	40%	40%	0%	0%	20%
高津(西)	8	8	0	1	1	2	0	2	2
		100%	0%	13%	13%	25%	0%	25%	25%
高津(南)	9	9	0	0	3	0	0	4	2
		100%	0%	0%	33%	0%	0%	44%	22%
勝田	13	13	0	1	0	2	1	6	3
		100%	0%	8%	0%	15%	8%	46%	23%
下市場	2	2	0	0	1	0	0	1	0
		100%	0%	0%	50%	0%	0%	50%	0%
下町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
台町	1	1	0	0	0	1	0	0	0
		100%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%
辺田前	1	1	0	0	1	0	0	0	0
		100%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%
上高野原	5	5	0	1	0	3	0	1	0
		100%	0%	20%	0%	60%	0%	20%	0%
萱田上	5	5	0	0	1	1	0	3	0
		100%	0%	0%	20%	20%	0%	60%	0%
無回答	12	12	0	0	2	3	2	1	4
		100%	0%	0%	17%	25%	17%	8%	33%

<経営形態別・クロス集計>

◇ 5年後

	n	合計	経営規模を拡大	経営規模を縮小	現状を維持	離農・引退	法人・他の人に任せたい	分からない	無回答
全体	320	320	11	20	126	51	18	77	17
		100%	3%	6%	39%	16%	6%	24%	5%
専業農家	51	51	3	4	33	2	1	8	0
		100%	6%	8%	65%	4%	2%	16%	0%
第一種兼業農家	34	34	2	4	22	2	1	2	1
		100%	6%	12%	65%	6%	3%	6%	3%
第二種兼業農家	153	153	3	11	53	26	12	41	7
		100%	2%	7%	35%	17%	8%	27%	5%
自給的農家	48	48	0	1	11	17	2	16	1
		100%	0%	2%	23%	35%	4%	33%	2%
法人経営体	10	10	3	0	2	2	1	2	0
		100%	30%	0%	20%	20%	10%	20%	0%
無回答	24	24	0	0	5	2	1	8	8
		100%	0%	0%	21%	8%	4%	33%	33%

◇ 10年後

	n	合計	経営規模を拡大	経営規模を縮小	現状を維持	離農・引退	法人・他の人に任せたい	分からない	無回答
全体	320	320	9	21	54	65	23	120	28
		100%	3%	7%	17%	20%	7%	38%	9%
専業農家	51	51	2	4	16	5	2	21	1
		100%	4%	8%	31%	10%	4%	41%	2%
第一種兼業農家	34	34	1	4	11	5	2	10	1
		100%	3%	12%	32%	15%	6%	29%	3%
第二種兼業農家	153	153	3	10	24	36	14	52	14
		100%	2%	7%	16%	24%	9%	34%	9%
自給的農家	48	48	0	2	1	15	4	24	2
		100%	0%	4%	2%	31%	8%	50%	4%
法人経営体	10	10	3	0	1	1	0	4	1
		100%	30%	0%	10%	10%	0%	40%	10%
無回答	24	24	0	1	1	3	1	9	9
		100%	0%	4%	4%	13%	4%	38%	38%

<認定の有無別・クロス集計>

◇ 5年後

	n	合計	経営規模を拡大	経営規模を縮小	現状を維持	離農・引退	法人・他の人に任せたい	分からない	無回答
全体	320	320	11	20	126	51	18	77	17
		100%	3%	6%	39%	16%	6%	24%	5%
認定を受けている	40	40	7	2	22	4	1	4	0
		100%	18%	5%	55%	10%	3%	10%	0%
認定を受けていない	154	154	3	14	69	24	10	32	2
		100%	2%	9%	45%	16%	6%	21%	1%
制度を知らない	101	101	0	4	30	18	7	35	7
		100%	0%	4%	30%	18%	7%	35%	7%
無回答	25	25	1	0	5	5	0	6	8
		100%	4%	0%	20%	20%	0%	24%	32%

◇ 10年後

	n	合計	経営規模を拡大	経営規模を縮小	現状を維持	離農・引退	法人・他の人に任せたい	分からない	無回答
全体	320	320	9	21	54	65	23	120	28
		100%	3%	7%	17%	20%	7%	38%	9%
認定を受けている	40	40	4	6	11	4	2	12	1
		100%	10%	15%	28%	10%	5%	30%	3%
認定を受けていない	154	154	4	12	28	31	12	58	9
		100%	3%	8%	18%	20%	8%	38%	6%
制度を知らない	101	101	0	3	13	24	9	41	11
		100%	0%	3%	13%	24%	9%	41%	11%
無回答	25	25	1	0	2	6	0	9	7
		100%	4%	0%	8%	24%	0%	36%	28%

<栽培品目別・クロス集計>

◇ 5年後

	n	合計	経営規模を拡大	経営規模を縮小	現状を維持	離農・引退	法人・他の人に任せたい	分からない	無回答
全体	487	487	20	40	208	72	24	103	20
		100%	4%	8%	43%	15%	5%	21%	4%
水稻	144	144	6	15	66	21	10	24	2
		100%	4%	10%	46%	15%	7%	17%	1%
麦・大豆	3	3	0	0	2	0	0	1	0
		100%	0%	0%	67%	0%	0%	33%	0%
露地野菜	200	200	5	17	85	37	5	50	1
		100%	3%	9%	43%	19%	3%	25%	1%
施設野菜	17	17	3	4	8	0	1	1	0
		100%	18%	24%	47%	0%	6%	6%	0%
果樹	56	56	3	3	35	2	1	10	2
		100%	5%	5%	63%	4%	2%	18%	4%
畜産	8	8	2	1	2	0	0	3	0
		100%	25%	13%	25%	0%	0%	38%	0%
花き	6	6	0	0	3	2	0	1	0
		100%	0%	0%	50%	33%	0%	17%	0%
その他	19	19	1	0	3	3	3	6	3
		100%	5%	0%	16%	16%	16%	32%	16%
無回答	34	34	0	0	4	7	4	7	12
		100%	0%	0%	12%	21%	12%	21%	35%

◇ 10年後

	n	合計	経営規模を拡大	経営規模を縮小	現状を維持	離農・引退	法人・他の人に任せたい	分からない	無回答
全体	487	487	18	39	82	94	39	176	39
		100%	4%	8%	17%	19%	8%	36%	8%
水稻	144	144	6	13	16	30	16	56	7
		100%	4%	9%	11%	21%	11%	39%	5%
麦・大豆	3	3	0	1	0	0	0	2	0
		100%	0%	33%	0%	0%	0%	67%	0%
露地野菜	200	200	5	17	30	45	13	81	9
		100%	3%	9%	15%	23%	7%	41%	5%
施設野菜	17	17	1	3	5	1	1	4	2
		100%	6%	18%	29%	6%	6%	24%	12%
果樹	56	56	4	4	24	5	4	11	4
		100%	7%	7%	43%	9%	7%	20%	7%
畜産	8	8	2	1	1	0	0	4	0
		100%	25%	13%	13%	0%	0%	50%	0%
花き	6	6	0	0	2	1	0	3	0
		100%	0%	0%	33%	17%	0%	50%	0%
その他	19	19	0	0	3	3	2	8	3
		100%	0%	0%	16%	16%	11%	42%	16%
無回答	34	34	0	0	1	9	3	7	14
		100%	0%	0%	3%	26%	9%	21%	41%

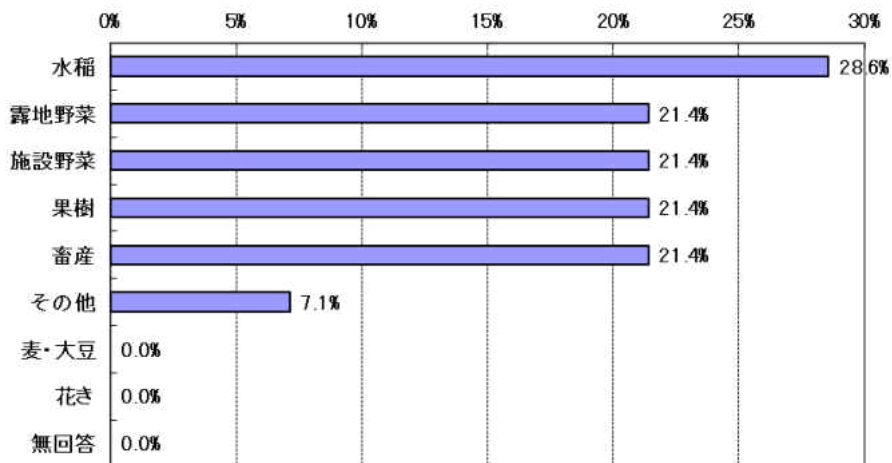
問13-1. 拡大したい部門（問13「経営規模を拡大」回答者、複数回答）

「水稲」が4件、「露地野菜」、「施設野菜」、「果樹」、「畜産」がそれぞれ3件みられた。

	回答数	比率
水稲	4	28.6%
露地野菜	3	21.4%
施設野菜	3	21.4%
果樹	3	21.4%
畜産	3	21.4%
その他	1	7.1%
麦・大豆	0	0.0%
花き	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	17	-
n	14	

その他：そば

問13-1. 拡大したい農業の部門について (n=14)



問 1 4. 農地中間管理機構の利用意向（問 1 3「経営規模を縮小」、「離農・引退」回答者）

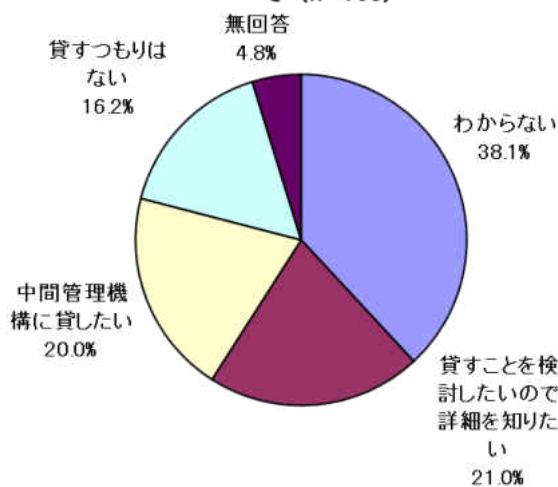
「わからない」が 38.1%で最も多く、「貸すことを検討したいので詳細を知りたい」が 21.0%、「中間管理機構に貸したい」が 20.0%みられた。

耕作地域別クロス集計では、「中間管理機構に貸したい」が「島田」で 4 件、「麦丸」と「上高野」でそれぞれ 3 件みられた。

後継者の有無別クロス集計では、「後継者がいない」層で「中間管理機構に貸したい」と「貸すことを検討したいので詳細を知りたい」が合わせて 28 件みられた。

	回答数	比率
わからない	40	38.1%
貸すことを検討したいので詳細を知りたい	22	21.0%
中間管理機構に貸したい	21	20.0%
貸すつもりはない	17	16.2%
無回答	5	4.8%
合計	105	100.0%

問 14. 農地中間管理機構に農地を貸すことについて (n=105)



<耕作地域別・クロス集計> 緑色：農村ゾーン、オレンジ色：混在ゾーン、青色：市街地ゾーン

	n	合計	中間管理機構に貸したい	貸すことを検討したいの で詳細を知りたい	わからない	貸すつもりはない	無回答
全体	122	122	26	24	47	20	5
		100%	21%	20%	39%	16%	4%
小池	6	6	1	0	3	1	1
		100%	17%	0%	50%	17%	17%
神久保	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%
真木野	1	1	1	0	0	0	0
		100%	100%	0%	0%	0%	0%
佐山	3	3	0	0	3	0	0
		100%	0%	0%	100%	0%	0%
平戸	1	1	0	0	1	0	0
		100%	0%	0%	100%	0%	0%
島田台	7	7	1	2	1	3	0
		100%	14%	29%	14%	43%	0%
島田	6	6	4	1	1	0	0
		100%	67%	17%	17%	0%	0%
桑橋	4	4	1	1	2	0	0
		100%	25%	25%	50%	0%	0%
桑納	6	6	2	1	2	0	1
		100%	33%	17%	33%	0%	17%
尾崎	2	2	0	0	2	0	0
		100%	0%	0%	100%	0%	0%
麦丸	8	8	3	1	3	1	0
		100%	38%	13%	38%	13%	0%
上高野	5	5	3	0	2	0	0
		100%	60%	0%	40%	0%	0%
下高野	4	4	2	2	0	1	0
		100%	25%	50%	0%	25%	0%
逆水	4	4	0	2	1	1	0
		100%	0%	50%	25%	25%	0%
下宿	4	4	2	0	1	1	0
		100%	50%	0%	25%	25%	0%
上宿	1	1	0	1	0	0	0
		100%	0%	100%	0%	0%	0%
内宿	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%
神野	3	3	2	0	1	0	0
		100%	67%	0%	33%	0%	0%
保品郷	1	1	0	0	1	0	0
		100%	0%	0%	100%	0%	0%
保品南	2	2	1	0	1	0	0
		100%	50%	0%	50%	0%	0%
保品須賀	2	2	0	1	0	0	1
		100%	0%	50%	0%	0%	50%
萱田下	4	4	0	3	1	0	0
		100%	0%	75%	25%	0%	0%
花輪	1	1	0	0	1	0	0
		100%	0%	0%	100%	0%	0%
寺台	3	3	1	2	0	0	0
		100%	33%	67%	0%	0%	0%
高本	2	2	0	0	2	0	0
		100%	0%	0%	100%	0%	0%
中郷	2	2	0	0	2	0	0
		100%	0%	0%	100%	0%	0%
宮内	2	2	0	1	1	0	0
		100%	0%	50%	50%	0%	0%
高津新田	2	2	0	0	1	1	0
		100%	0%	0%	50%	50%	0%
萱田町	7	7	2	2	1	2	0
		100%	29%	29%	14%	29%	0%
大和田	1	1	0	0	0	1	0
		100%	0%	0%	0%	100%	0%
大和田新田上	5	5	0	0	3	2	0
		100%	0%	0%	60%	40%	0%
大和田新田下	5	5	0	1	2	2	0
		100%	0%	20%	40%	40%	0%
高津(西)	3	3	0	0	2	1	0
		100%	0%	0%	67%	33%	0%
高津(南)	1	1	0	0	1	0	0
		100%	0%	0%	100%	0%	0%
勝田	5	5	1	1	3	0	0
		100%	20%	20%	60%	0%	0%
下市場	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%
下町	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%
台町	1	1	0	0	0	0	1
		100%	0%	0%	0%	0%	100%
辺田前	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%
上高野原	4	4	0	1	0	2	1
		100%	0%	25%	0%	50%	25%
萱田上	1	1	0	0	0	1	0
		100%	0%	0%	0%	100%	0%
無回答	3	3	0	1	2	0	0
		100%	0%	33%	67%	0%	0%

<後継者の有無別・クロス集計>

	n	合計	中間管理機構に貸したい	貸すことを検討したいの で詳細を知りたい	わからない	貸すつもりはない	無回答
全体	105	105	21	22	40	17	5
		100%	20%	21%	38%	16%	5%
農業後継者がいる	17	17	4	5	6	2	0
		100%	24%	29%	35%	12%	0%
農業後継者はいない	69	69	14	14	27	11	3
		100%	20%	20%	39%	16%	4%
わからない	17	17	3	2	7	3	2
		100%	18%	12%	41%	18%	12%
無回答	2	2	0	1	0	1	0
		100%	0%	50%	0%	50%	0%

問 15. 農業経営の安定に向け、今後取り組みたいこと（複数回答）

①販売面では、「直売所・道の駅で消費者に販売」が 19.7%と最も多く、次いで「庭先等で消費者に直接販売」が 12.8%、「農協（共同出荷）」が 11.3%と多くみられた。②生産面では、「品質・収量の向上」が 32.2%と最も多く、次いで「病害虫への対応」が 23.1%、「鳥獣被害への対応」が 22.5%と多くみられた。③経営面・その他では、「販路の拡大や確保」が 15.9%と最も多く、次いで「青色申告を行う」が 15.6%と多くみられた。

年齢別クロス集計では、①販売面については、「50代」で特に「庭先等で消費者に直接販売」が多くみられた。②生産面については「40代」と「50代」の層で特に「品質・収量の向上」が高い割合でみられた。③経営面・その他では「40代」で特に「販路の拡大や確保」が高い割合でみられた。

経営形態別クロス集計では、①販売面については、「専業農家」、「第一種兼業農家」、「法人経営体」で特に「直売所・道の駅で消費者に販売」の割合が高い。②生産面については、「専業農家」、「第一種兼業農家」、「法人経営体」で特に「品質・収量の向上」と「病害虫への対応」の割合が高い。③経営面・その他については、「専業農家」では「販路の拡大や確保」が高く、「第一種兼業農家」では「販路の拡大や確保」と「青色申告を行う」が高い。「法人経営体」では「労働環境の見直し」、「農地集積、規模拡大をはかる」、「6次産業化」の割合が高い。

認定の有無別クロス集計では、①販売面については、「認定を受けている」で特に「農協（共同出荷）」と「直売所・道の駅で消費者に販売」が多くみられた。②生産面については、「認定を受けている」で特に「品質・収量の向上」、「農繁期の労働力の確保」、「新たな品目・品種の導入」、「作業の効率化に向けた先進技術の情報収集、研究」が多くみられた。③経営面・その他については、「認定を受けている」で特に「販路の拡大や確保」が多くみられたほか、「自らの経営の法人化」が 5 件、「地域等、農業者共同による協業化、法人化」が 7 件みられた。

水田面積別クロス集計では、①販売面については、「30～50ha 未満」で「直売所・道の駅で消費者に販売」が多くみられた。②生産面については、「5～10ha 未満」から「30～50ha 未満」の層で「品質・収量の向上」の割合が高い傾向にあり、「30～50ha 未満」では「農繁期の労働力の確保」の割合が高かった。③経営面・その他については、「1ha～5ha 未満」以下の層で、「農地集積・規模拡大をはかる」が計 15 件、「地域等農業者共同による協業化、法人化」が計 12 件みられた。

畑・樹園地面積別クロス集計では、①販売面については、「30a～1ha 未満」以上の層で「農協（共同出荷）」の割合が高かった。②生産面については、「5ha 以上」で特に「品質・収量の向上」、「病害虫への対応」、「鳥獣被害への対応」の割合が高かった。③経営面・その他については「1～3ha 未満」で「自らの経営の法人化」と「地域等農業者共同による協業化、法人化」が計 8 件みられた。

栽培品目別クロス集計では、①販売面については、「施設野菜」と「果樹」で「直売所・道の駅で消費者に販売」が多くみられた。②生産面については、「施設野菜」と「果樹」で「品質・収量の向上」と「新たな品目・品種の導入」が多くみられた。また、「果樹」では「作業の効率化に向けた先進技術の情報収集・研究」も多くみられ、「畜産」では「品質・収量の向上」が多くみられた。⇒次ページ

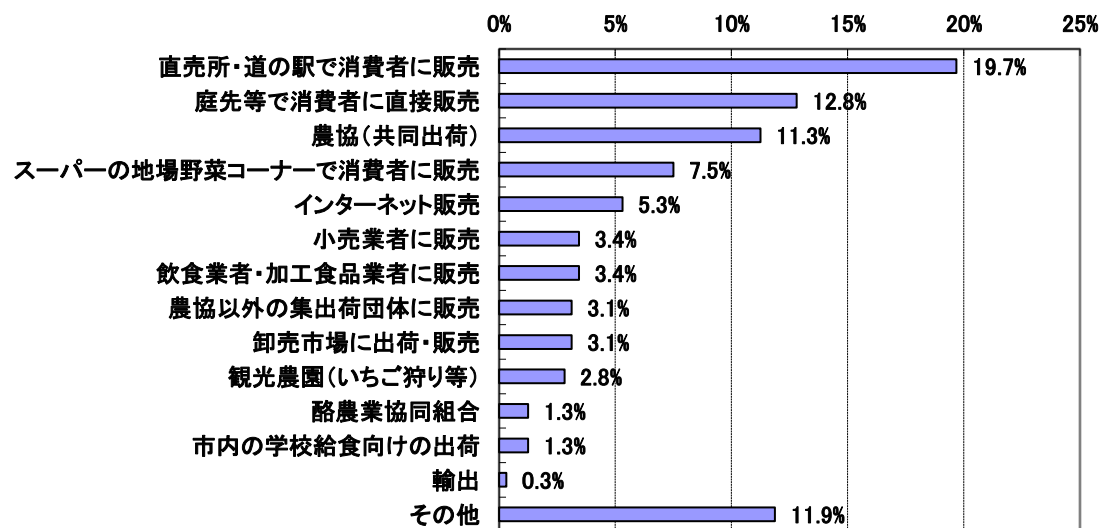
⇒③経営面・その他については、「施設野菜」と「果樹」で「販路の拡大や確保」の割合が高く、「果樹」では「観光農業」も高い割合となった。また、「水稻」と「露地野菜」で「地域等農業者共同による協業化、法人化」が一定数みられた。

最も販売額の大きい品目別クロス集計では、①販売面については、「コメ」と「梨」で「直売所・道の駅」で消費者に販売が多くみられた。②生産面については、「梨」と「酪農」で「品質・収量の向上」の割合が特に高く、「梨」では「農繁期の労働力の確保」、「新たな品目・品種の導入」、「減農薬への取り組み」も高い割合となった。③経営面・その他については、「梨」で「販路の拡大や確保」、「酪農」で「6次産業化」の割合が高かった。

①販売面

	回答数	比率	
直売所・道の駅で消費者に販売	63	19.7%	
庭先等で消費者に直接販売	41	12.8%	
農協(共同出荷)	36	11.3%	
スーパーの地場野菜コーナーで消費者に販売	24	7.5%	
インターネット販売	17	5.3%	
小売業者に販売	11	3.4%	その他
飲食業者・加工食品業者に販売	11	3.4%	六次化
農協以外の集出荷団体に販売	10	3.1%	労働効率が低いから専業出来ない
卸売市場に出荷・販売	10	3.1%	ホームセンター、役所
観光農園(いちご狩り等)	9	2.8%	農業者に農地を任せて活用してもらいたい
酪農業協同組合	4	1.3%	自家消費
市内の学校給食向けの出荷	4	1.3%	個性的(品種、栽培他)な生産と販売
輸出	1	0.3%	高齢で考えていない
その他	38	11.9%	現状維持
無回答	137	42.8%	行商
合計	416	-	貸したい
n	320		加工販売
			朝市
			特になし

問15-①. 農業経営の安定に向け、「これから強化したいこと」や「新たに進めてみたいこと」について (n=320)



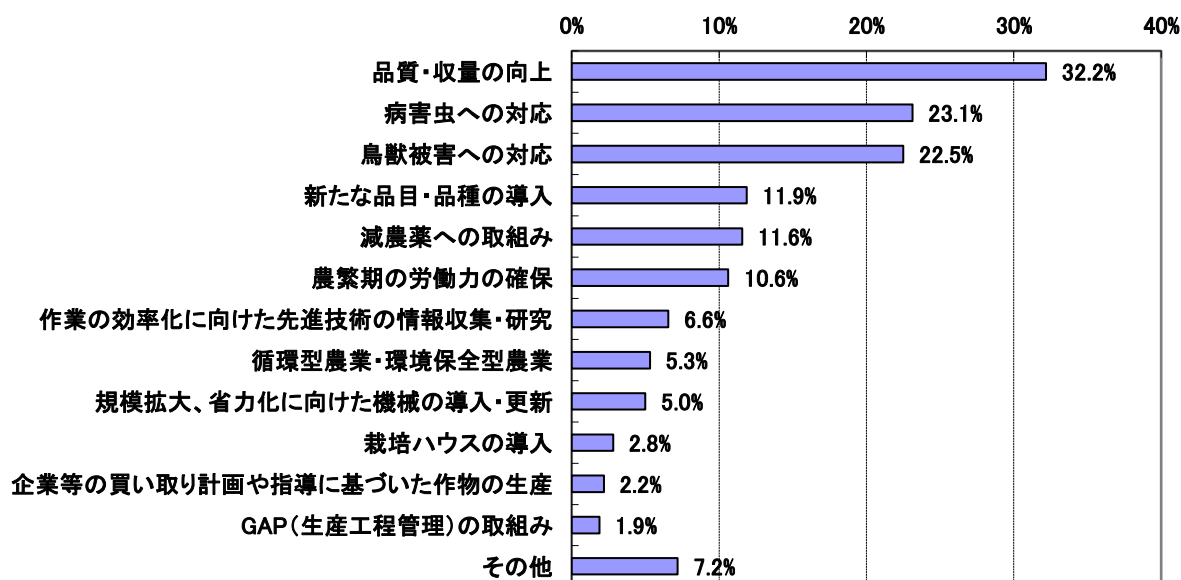
②生産面

	回答数	比率
品質・収量の向上	103	32.2%
病虫害への対応	74	23.1%
鳥獣被害への対応	72	22.5%
新たな品目・品種の導入	38	11.9%
減農薬への取組み	37	11.6%
農繁期の労働力の確保	34	10.6%
作業の効率化に向けた先進技術の情報収集・研究	21	6.6%
循環型農業・環境保全型農業	17	5.3%
規模拡大、省力化に向けた機械の導入・更新	16	5.0%
栽培ハウスの導入	9	2.8%
企業等の買い取り計画や指導に基づいた作物の生産	7	2.2%
GAP(生産工程管理)の取組み	6	1.9%
その他	23	7.2%
無回答	130	40.6%
合計	587	-
n	320	

その他

農業者に農地を任せて活用してもらいたい
個性的(品種、栽培他)な生産と販売
葉・剪定の処理
自給、趣味
現状維持でいいと考えている
環境変化に影響されない野菜生産(工場)
取組なし

問15-②. 生産面について (n= 320)



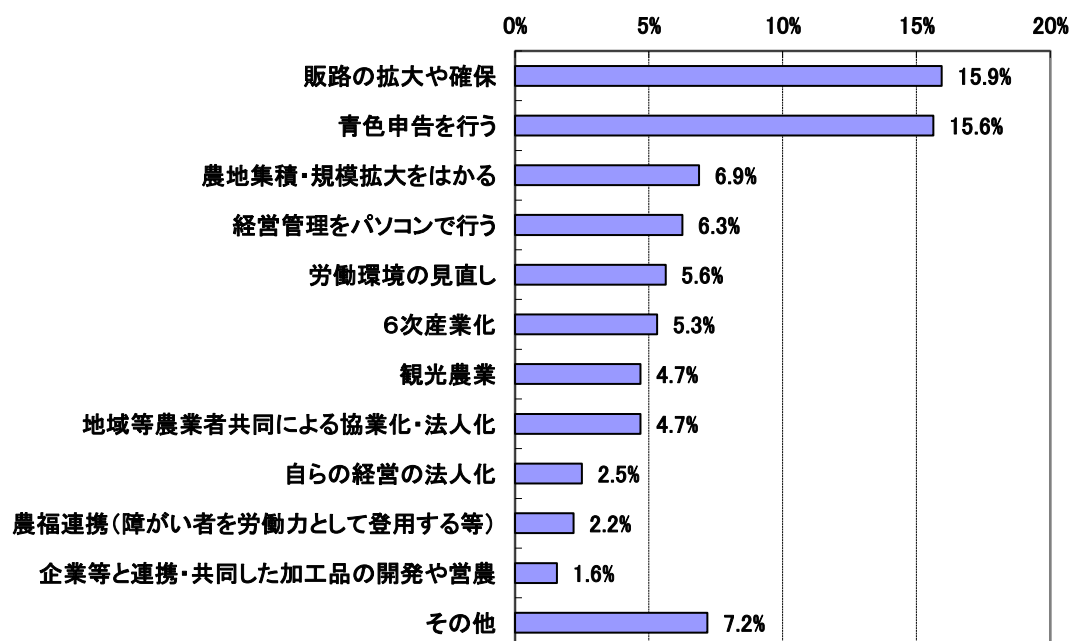
③経営面・その他

	回答数	比率
販路の拡大や確保	51	15.9%
青色申告を行う	50	15.6%
農地集積・規模拡大をはかる	22	6.9%
経営管理をパソコンで行う	20	6.3%
労働環境の見直し	18	5.6%
6次産業化	17	5.3%
観光農業	15	4.7%
地域等農業者共同による協業化・法人化	15	4.7%
自らの経営の法人化	8	2.5%
農福連携(障がい者を労働力として登用する等)	7	2.2%
企業等と連携・共同した加工品の開発や営農	5	1.6%
その他	23	7.2%
無回答	169	52.8%
合計	420	-
n	320	

その他

個性的(品種、栽培他)な生産と販売
農地があるだけで負担
自給、趣味
今年は夫婦で入院、手術、くりかえし病院へ 二人で好きな農業が出来なかったです

問15-③. 経営面・その他について (n= 320)



<年齢別・クロス集計>

①販売面

	n	合計	農協 (共同出荷)	売 店 先 等 で 消 費 者 に 直 接 販	等 親 光 農 園 (いちご狩り)	に 直 売 所 ・ 道 の 駅 で 消 費 者 に 販 売	ナ ー ス ー バ ー の 地 場 野 菜 コ ー ナ ー で 消 費 者 に 販 売	小 売 業 者 に 販 売	飲 食 業 者 ・ 加 工 食 品 業 者 に 販 売	販 売 農 協 以 外 の 集 出 荷 団 体 に	卸 売 市 場 に 出 荷 ・ 販 売	酪 農 業 協 同 組 合	荷 市 内 の 学 校 給 食 向 け の 出	イ ン タ ー ネ ッ ト 販 売	輸 出	そ の 他	無 回 答
全体	320	416	36	41	9	63	24	11	11	10	10	4	4	17	1	38	137
		130%	11%	13%	3%	20%	8%	3%	3%	3%	3%	1%	1%	5%	0%	12%	43%
～ 20代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
30代	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%
40代	6	8	4	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		133%	67%	0%	0%	33%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
50代	39	65	5	12	1	7	4	2	5	3	1	1	2	5	1	4	12
		167%	13%	31%	3%	18%	10%	5%	13%	8%	3%	3%	5%	13%	3%	10%	31%
60代	110	148	11	13	5	28	12	5	5	2	4	2	2	8	0	16	35
		135%	10%	12%	5%	25%	11%	5%	5%	2%	4%	2%	2%	7%	0%	15%	32%
70代	107	129	11	10	2	20	3	3	1	4	2	1	0	3	0	10	59
		121%	10%	9%	2%	19%	3%	3%	1%	4%	2%	1%	0%	3%	0%	9%	55%
80歳以上	51	58	4	6	0	5	3	1	0	1	3	0	0	1	0	7	27
		114%	8%	12%	0%	10%	6%	2%	0%	2%	6%	0%	0%	2%	0%	14%	53%
無回答	6	7	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
		117%	17%	0%	17%	17%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	67%

②生産面

	n	合計	品 質 ・ 収 量 の 向 上	病 害 虫 へ の 対 応	鳥 獣 被 害 へ の 対 応	規 模 拡 大 ・ 省 力 化 に 向 け た 機 械 の 導 入 ・ 更 新	農 繁 期 の 労 働 力 の 確 保	栽 培 ハ ウ ス の 導 入	新 た な 品 目 ・ 品 種 の 導 入	減 農 薬 へ の 取 組 み	農 業 循 環 型 農 業 ・ 環 境 保 全 型	進 技 術 の 効 率 化 に 向 け た 先 進 情 報 集 計 ・ 研 究	の 取 組 み G A P (生 産 工 程 管 理)	産 指 導 に 基 づ い た 作 物 の 生	企 業 等 の 買 い 取 り 計 画 や	そ の 他	無 回 答
全体	320	587	103	74	72	16	34	9	38	37	17	21	6	7	23	130	
		183%	32%	23%	23%	5%	11%	3%	12%	12%	5%	7%	2%	2%	7%	41%	
～ 20代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
30代	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	
		300%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%	
40代	6	18	6	3	2	1	1	1	1	2	0	1	0	0	0	0	
		300%	100%	50%	33%	17%	17%	17%	17%	33%	0%	17%	0%	0%	0%	0%	
50代	39	93	19	10	9	4	8	2	12	5	3	5	1	1	3	11	
		238%	49%	26%	23%	10%	21%	5%	31%	13%	8%	13%	3%	3%	8%	28%	
60代	110	218	39	25	25	8	15	4	13	16	11	12	3	2	11	34	
		198%	35%	23%	23%	7%	14%	4%	12%	15%	10%	11%	3%	2%	10%	31%	
70代	107	169	28	24	26	2	5	1	9	8	1	3	0	2	6	54	
		158%	26%	22%	24%	2%	5%	1%	8%	7%	1%	3%	0%	2%	6%	50%	
80歳以上	51	78	8	11	10	1	4	1	3	6	1	0	1	2	3	27	
		153%	16%	22%	20%	2%	8%	2%	6%	12%	2%	0%	2%	4%	6%	53%	
無回答	6	8	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
		133%	33%	17%	0%	0%	17%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	67%	

③経営面・その他

	n	合計	青色申告を行う	経営管理をパソコンで行う	労働環境の見直し	農地集積・規模拡大をはかる	販路の拡大や確保	6次産業化	企業等と連携・共同した加工品の開発や営農	観光農業	農福連携（障がい者を労働力として登用する等）	自らの経営の法人化	地域等農業者共同による協業化・法人化	その他	無回答
全体	320	420	50	20	18	22	51	17	5	15	7	8	15	23	169
		131%	16%	6%	6%	7%	16%	5%	2%	5%	2%	3%	5%	7%	53%
～20代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
30代	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
40代	6	8	2	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1
		133%	33%	0%	17%	0%	67%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	17%
50代	39	68	6	3	5	8	8	5	2	4	4	2	4	2	17
		174%	15%	15%	8%	13%	21%	13%	5%	10%	10%	5%	10%	5%	44%
60代	110	156	20	6	9	10	23	8	2	7	3	4	8	11	45
		142%	18%	5%	8%	9%	21%	7%	2%	6%	3%	4%	7%	10%	41%
70代	107	127	18	7	5	5	11	2	1	3	0	1	3	6	65
		119%	17%	7%	5%	5%	10%	2%	1%	3%	0%	1%	3%	6%	61%
80歳以上	51	53	4	0	0	2	5	1	0	0	0	1	0	4	36
		104%	8%	0%	0%	4%	10%	2%	0%	0%	0%	2%	0%	8%	71%
無回答	6	7	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5
		117%	0%	17%	0%	0%	0%	0%	0%	17%	0%	0%	0%	0%	83%

<経営形態別・クロス集計>

①販売面

	n	合計	農協（共同出荷）	産直先等で消費者に直接販売	観光農園（いちご狩り等）	直売所・道の駅で消費者に販売	スーパー・道の駅で消費者に販売	小売業者に販売	飲食業者・加工食品業者に販売	販売協会の集出荷団体に販売	卸売市場に出荷・販売	酪農業協同組合	市内の学校給食向けの出荷	インターネット販売	輸出	その他	無回答
全体	320	416	36	41	9	63	24	11	11	10	10	4	4	17	1	38	137
		130%	11%	13%	3%	20%	8%	3%	3%	3%	3%	1%	1%	5%	0%	12%	43%
専業農家	51	82	14	6	0	23	7	2	2	5	4	1	1	3	0	4	10
		161%	27%	12%	0%	45%	14%	4%	4%	10%	8%	2%	2%	6%	0%	8%	20%
第一種兼業農家	34	48	3	6	1	14	4	2	2	0	2	0	0	1	1	4	8
		141%	9%	18%	3%	41%	12%	6%	6%	0%	0%	6%	0%	3%	3%	12%	24%
第二種兼業農家	153	193	15	24	6	17	12	7	6	1	5	0	3	10	0	20	67
		126%	10%	16%	4%	11%	8%	5%	4%	1%	3%	0%	2%	7%	0%	13%	44%
自給的農家	48	52	0	3	0	4	1	0	1	1	1	0	0	3	0	7	31
		108%	0%	6%	0%	8%	2%	0%	2%	2%	0%	0%	0%	6%	0%	15%	65%
法人経営体	10	17	2	1	2	4	0	0	0	3	0	1	0	0	0	1	3
		170%	20%	10%	20%	40%	0%	0%	0%	30%	0%	10%	0%	0%	0%	10%	30%
無回答	24	24	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	18
		100%	8%	4%	0%	4%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	8%	75%

②生産面

	n	合計	品質・収量の向上	病害虫への対応	鳥獣被害への対応	規模拡大、省力化に向けた機械の導入・更新	農繁期の労働力の確保	栽培ハウスの導入	新たな品目・品種の導入	減農薬への取組み	循環型農業・環境保全型農業	作業の効率化に向けた先進技術の情報収集・研究	GAP（生産工程管理）の取組み	企業等の買いた取り計画や指導に基づいた作物の生産	その他	無回答
全体	320	587	103	74	72	16	34	9	38	37	17	21	6	7	23	130
		183%	32%	23%	23%	5%	11%	3%	12%	12%	5%	7%	2%	2%	7%	41%
専業農家	51	129	26	22	19	3	10	3	12	9	2	10	1	3	1	8
		253%	51%	43%	37%	6%	20%	6%	24%	18%	4%	20%	2%	6%	2%	16%
第一種兼業農家	34	84	21	14	14	4	8	2	4	8	0	1	1	1	0	6
		247%	62%	41%	41%	12%	24%	6%	12%	24%	0%	3%	3%	3%	0%	18%
第二種兼業農家	153	258	43	31	27	7	11	4	19	16	12	6	1	2	14	65
		169%	28%	20%	18%	5%	7%	3%	12%	10%	8%	4%	1%	1%	9%	42%
自給的農家	48	55	4	2	8	0	1	0	1	2	0	0	0	0	7	30
		115%	8%	4%	17%	0%	2%	0%	2%	4%	0%	0%	0%	0%	15%	63%
法人経営体	10	34	7	4	2	2	4	0	1	1	3	4	3	1	0	2
		340%	70%	40%	20%	20%	40%	0%	10%	10%	30%	40%	30%	10%	0%	20%
無回答	24	27	2	1	2	0	0	0	1	1	0	0	0	1	19	
		113%	8%	4%	8%	0%	0%	0%	4%	4%	0%	0%	0%	4%	79%	

③経営面・その他

	n	合計	青色申告を行う	経営管理をパソコンで行う	労働環境の見直し	農地集積・規模拡大をはかる	販路の拡大や確保	6次産業化	企業等と連携・共同した加工品の開発や営農	観光農業	農福連携（障がい者を労働力として登用する等）	自らの経営の法人化	地域等農業者共同による協業化・法人化	その他	無回答
全体	320	420	50	20	18	22	51	17	5	15	7	8	15	23	169
		131%	16%	6%	6%	7%	16%	5%	2%	5%	2%	3%	5%	7%	53%
専業農家	51	78	9	4	8	8	18	3	3	0	0	4	5	1	15
		153%	18%	8%	16%	16%	35%	6%	6%	0%	0%	8%	10%	2%	29%
第一種兼業農家	34	49	10	4	1	3	9	4	1	1	0	1	3	0	12
		144%	29%	12%	3%	9%	26%	12%	3%	3%	0%	3%	9%	0%	35%
第二種兼業農家	153	196	29	10	4	6	22	7	1	10	4	3	4	14	82
		128%	19%	7%	3%	4%	14%	5%	1%	7%	3%	2%	3%	9%	54%
自給的農家	48	53	1	0	2	2	0	0	0	3	3	0	1	6	35
		110%	2%	0%	4%	4%	0%	0%	0%	6%	6%	0%	2%	13%	73%
法人経営体	10	20	1	2	3	3	3	0	1	0	0	0	2	1	2
		200%	10%	20%	30%	30%	20%	30%	0%	10%	0%	0%	20%	10%	20%
無回答	24	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	23
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	96%

<認定の有無別・クロス集計>

①販売面

	n	合計	農協（共同出荷）	売先等で消費者に直接販売	等観光農園（いちご狩り）	に直売所・道の駅で消費者に販売	ナースーバーの地場野菜コーナーで消費者に販売	小売業者に販売	飲食業者・加工食品業者に販売	販売協会の集出荷団体に販売	卸売市場に出荷・販売	酪農業協同組合	市内の学校給食向けの出荷	インターネット販売	輸出	その他	無回答
全体	320	416	36	41	9	63	24	11	11	10	10	4	4	17	1	38	137
		130%	11%	13%	3%	20%	8%	3%	3%	3%	3%	1%	1%	5%	0%	12%	43%
認定を受けている	40	66	10	6	2	14	3	3	4	3	2	4	0	5	1	3	6
		165%	25%	15%	5%	35%	8%	8%	10%	8%	5%	10%	0%	13%	3%	8%	15%
認定を受けていない	154	210	17	22	4	37	16	7	6	5	7	0	3	8	0	18	60
		136%	11%	14%	3%	24%	10%	5%	4%	3%	5%	0%	2%	5%	0%	12%	39%
制度を知らない	101	113	6	12	3	9	4	1	1	2	1	0	1	4	0	16	53
		112%	6%	12%	3%	9%	4%	1%	1%	2%	1%	0%	1%	4%	0%	16%	52%
無回答	25	27	3	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	18
		108%	12%	4%	0%	12%	4%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	72%

②生産面

	n	合計	品質・収量の向上	病害虫への対応	鳥獣被害への対応	規模拡大、省力化に向けた機械の導入・更新	農繁期の労働力の確保	栽培ハウスの導入	新たな品目・品種の導入	減農薬への取組み	循環型農業・環境保全型農業	技術の情報収集・研究	GAP（生産工程管理）の取組み	企業等の買い取り計画や指導致に基づいた作物の生産	その他	無回答
全体	320	587	103	74	72	16	34	9	38	37	17	21	6	7	23	130
		183%	32%	23%	23%	5%	11%	3%	12%	12%	5%	7%	2%	2%	7%	41%
認定を受けている	40	120	30	11	12	7	15	2	10	7	4	12	3	3	0	4
		300%	75%	28%	30%	18%	38%	5%	25%	18%	10%	30%	8%	8%	0%	10%
認定を受けていない	154	302	55	44	37	7	14	4	25	23	12	9	3	3	11	55
		196%	36%	29%	24%	5%	9%	3%	16%	15%	8%	6%	2%	2%	7%	36%
制度を知らない	101	133	14	16	17	2	5	1	3	6	1	0	0	1	11	56
		132%	14%	16%	17%	2%	5%	1%	3%	6%	1%	0%	0%	1%	11%	55%
無回答	25	32	4	3	6	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	15
		128%	16%	12%	24%	0%	0%	8%	0%	4%	0%	0%	0%	0%	4%	60%

③経営面・その他

	n	合計	青色申告を行う	経営管理をパソコンで行う	労働環境の見直し	農地集積・規模拡大をはかる	販路の拡大や確保	6次産業化	企業等と連携・共同した加工品の開発や営農	観光農業	農福連携（障がい者を労働力として登用する等）	自らの経営の法人化	地域等農業者共同による協業化・法人化	その他	無回答
全体	320	420	50	20	18	22	51	17	5	15	7	8	15	23	169
		131%	16%	6%	6%	7%	16%	5%	2%	5%	2%	3%	5%	7%	53%
認定を受けている	40	79	9	7	10	10	15	6	1	1	0	5	7	1	7
		198%	23%	18%	25%	25%	38%	15%	3%	3%	0%	13%	18%	3%	18%
認定を受けていない	154	206	21	12	6	10	27	11	4	9	5	3	7	10	81
		134%	14%	8%	4%	6%	18%	7%	3%	6%	3%	2%	5%	6%	53%
制度を知らない	101	109	16	1	1	2	8	0	0	5	2	0	1	9	64
		108%	16%	1%	1%	2%	8%	0%	0%	5%	2%	0%	1%	9%	63%
無回答	25	26	4	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3	17
		104%	16%	0%	4%	0%	4%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	12%	68%

<水田面積別・クロス集計>

①販売面

	n	合計	農協 (共同出荷)	売 先 等 で 消 費 者 に 直 接 販	等 親 光 農 園 (いちご狩り)	に 直 売 所 ・ 道 の 駅 で 消 費 者 に 販 売	ス ー パ ー の 地 場 野 菜 コ ー ナ ー で 消 費 者 に 販 売	小 売 業 者 に 販 売	飲 食 業 者 ・ 加 工 食 品 業 者 に 販 売	農 協 以 外 の 集 出 荷 団 体 に 販 売	卸 売 市 場 に 出 荷 ・ 販 売	酪 農 業 協 同 組 合	荷 内 の 学 校 給 食 向 け の 出	イ ン タ ー ネ ッ ト 販 売	輸 出	そ の 他	無 回 答
全体	320	416	36	41	9	63	24	11	11	10	10	4	4	17	1	38	137
		130%	11%	13%	3%	20%	8%	3%	3%	3%	3%	1%	1%	5%	0%	12%	43%
50a未満	110	139	7	18	4	20	8	4	5	1	2	3	0	10	0	19	38
		126%	6%	16%	4%	18%	7%	4%	5%	1%	2%	3%	0%	9%	0%	17%	35%
50a～1ha未満	56	82	12	7	2	13	5	5	3	2	3	0	1	3	1	7	18
		146%	21%	13%	4%	23%	9%	9%	5%	4%	5%	0%	2%	5%	2%	13%	32%
1ha～5ha未満	26	38	6	3	0	7	4	1	1	3	1	1	1	0	0	3	7
		146%	23%	12%	0%	27%	15%	4%	4%	12%	4%	4%	4%	0%	0%	12%	27%
5～10ha未満	5	5	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
		100%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	20%	40%
10～30ha未満	12	20	3	4	0	2	2	1	1	1	0	0	0	0	0	1	5
		167%	25%	33%	0%	17%	17%	8%	8%	8%	0%	0%	0%	0%	0%	8%	42%
30～50ha未満	5	10	1	0	2	4	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1
		200%	20%	0%	40%	80%	0%	0%	0%	40%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	20%
50ha以上	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
無回答	105	121	6	9	1	17	5	0	0	1	4	0	2	4	0	7	65
		115%	6%	9%	1%	16%	5%	0%	0%	1%	4%	0%	2%	4%	0%	7%	62%

②生産面

	n	合計	品質・ 収量の 向上	病 害 虫 へ の 対 応	鳥 獣 被 害 へ の 対 応	規 模 機 械 の 導 入 ・ 省 力 化 に 向 け	農 繁 期 の 労 働 力 の 確 保	栽 培 ハ ウ ス の 導 入	新 た な 品 目 ・ 品 種 の 導 入	減 農 薬 へ の 取 組 み	農 業 循 環 型 農 業 ・ 環 境 保 全 型	進 技 術 の 情 報 取 集 ・ 研 究	の 取 組 み (生 産 工 程 管 理)	産 指 導 に 基 づ いた 作 物 の 生	企 業 等 の 買 い 取 り 計 画 や	そ の 他	無 回 答
全体	320	587	103	74	72	16	34	9	38	37	17	21	6	7	23	130	
		183%	32%	23%	23%	5%	11%	3%	12%	12%	5%	7%	2%	2%	7%	41%	
50a未満	110	182	31	24	23	3	8	3	10	12	6	7	2	1	14	38	
		165%	28%	22%	21%	3%	7%	3%	9%	11%	5%	6%	2%	1%	13%	35%	
50a～1ha未満	56	126	27	17	12	8	10	2	10	5	5	6	2	2	3	17	
		225%	48%	30%	21%	14%	18%	4%	18%	9%	9%	11%	4%	4%	5%	30%	
1ha～5ha未満	26	48	7	3	7	1	4	2	4	4	3	1	0	2	1	9	
		185%	27%	12%	27%	4%	15%	8%	15%	15%	12%	4%	0%	8%	4%	35%	
5～10ha未満	5	12	3	2	1	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	1	
		240%	60%	40%	20%	20%	20%	40%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	20%	
10～30ha未満	12	29	5	4	5	2	1	0	1	3	1	0	1	0	1	5	
		242%	42%	33%	42%	17%	8%	0%	8%	25%	8%	0%	8%	0%	8%	42%	
30～50ha未満	5	17	4	3	0	0	4	0	1	0	0	3	0	1	0	1	
		340%	80%	60%	0%	0%	80%	0%	20%	0%	0%	60%	0%	20%	0%	20%	
50ha以上	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	
無回答	105	172	26	21	24	1	6	0	11	13	2	4	1	1	4	58	
		164%	25%	20%	23%	1%	6%	0%	10%	12%	2%	4%	1%	1%	4%	55%	

③経営面・その他

	n	合計	青色申告を行う	経営管理をパソコンで行う	労働環境の見直し	農地集積・規模拡大をはかる	販路の拡大や確保	6次産業化	企業等と連携・共同した加工品の開発や営農	観光農業	農福連携（障がい者を労働力として登用する等）	自らの経営の法人化	地域等農業者共同による協業化・法人化	その他	無回答
全体	320	420	50	20	18	22	51	17	5	15	7	8	15	23	169
		131%	16%	6%	6%	7%	16%	5%	2%	5%	2%	3%	5%	7%	53%
50a未満	110	143	15	5	7	5	17	8	1	8	4	2	3	12	56
		130%	14%	5%	6%	5%	15%	7%	1%	7%	4%	2%	3%	11%	51%
50a～1ha未満	56	85	12	3	4	7	13	7	2	3	2	3	5	2	22
		152%	21%	5%	7%	13%	23%	13%	4%	5%	4%	5%	9%	4%	39%
1ha～5ha未満	26	44	7	5	2	3	7	1	1	0	1	2	4	1	10
		169%	27%	19%	8%	12%	27%	4%	4%	0%	4%	8%	15%	4%	38%
5～10ha未満	5	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
		120%	40%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	20%	0%	60%
10～30ha未満	12	19	1	1	2	3	4	1	0	0	0	0	1	1	5
		158%	8%	8%	17%	25%	33%	8%	0%	0%	0%	0%	8%	8%	42%
30～50ha未満	5	9	1	2	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	2
		180%	20%	40%	20%	20%	20%	0%	0%	20%	0%	0%	0%	0%	40%
50ha以上	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
無回答	105	113	12	4	2	3	9	0	1	3	0	1	1	7	70
		108%	11%	4%	2%	3%	9%	0%	1%	3%	0%	1%	1%	7%	67%

<畑・樹園地面積別・クロス集計>

①販売面

	n	合計	農協（共同出荷）	売先等で消費者に直接販売	観光農園（いちご狩り等）	直売所・道の駅で消費者に販売	スーパーの地場野菜コーナーで消費者に販売	小売業者に販売	飲食業者・加工食品業者に販売	農協以外の集出荷団体に販売	卸売市場に出荷・販売	酪農業協同組合	市内の学校給食向けの出荷	インターネット販売	輸出	その他	無回答
全体	320	416	36	41	9	63	24	11	11	10	10	4	4	17	1	38	137
		130%	11%	13%	3%	20%	8%	3%	3%	3%	3%	1%	1%	5%	0%	12%	43%
30a未満	109	129	5	9	4	13	6	3	4	2	3	0	1	4	0	18	57
		118%	5%	8%	4%	12%	6%	3%	4%	2%	3%	0%	1%	4%	0%	17%	52%
30a～1ha未満	108	155	16	20	5	35	10	6	6	4	3	1	3	8	0	13	25
		144%	15%	19%	5%	32%	9%	6%	6%	4%	3%	1%	3%	7%	0%	12%	23%
1～3ha未満	36	55	8	6	0	10	4	1	1	1	4	2	0	4	1	2	11
		153%	22%	17%	0%	28%	11%	3%	3%	3%	11%	6%	0%	11%	3%	6%	31%
3～5ha未満	9	11	2	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
		122%	22%	22%	0%	0%	22%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	11%	44%
5ha以上	6	8	1	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
		133%	17%	17%	0%	17%	17%	0%	0%	0%	17%	0%	0%	0%	0%	17%	33%
無回答	52	58	4	3	0	4	1	1	0	3	0	0	0	1	0	3	38
		112%	8%	6%	0%	8%	2%	2%	0%	6%	0%	0%	0%	2%	0%	6%	73%

②生産面

	n	合計	品質・収量の向上	病害虫への対応	鳥獣被害への対応	規模拡大、省力化に向けた機械の導入・更新	農繁期の労働力の確保	栽培ハウスの導入	新たな品目・品種の導入	減農薬への取組み	循環型農業・環境保全型農業	作業の効率化に向けた先進技術の情報収集・研究	GAP（生産工程管理）の取組み	企業等の買い取り計画や指導致に基づいた作物の生産	その他	無回答
全体	320	587	103	74	72	16	34	9	38	37	17	21	6	7	23	130
		183%	32%	23%	23%	5%	11%	3%	12%	12%	5%	7%	2%	2%	7%	41%
30a未満	109	174	24	17	17	4	9	3	10	11	4	4	0	0	15	56
		160%	22%	16%	16%	4%	8%	3%	9%	10%	4%	4%	0%	0%	14%	51%
30a～1ha未満	108	223	49	36	31	5	13	3	20	15	10	8	3	3	5	22
		206%	45%	33%	29%	5%	12%	3%	19%	14%	9%	7%	3%	3%	5%	20%
1～3ha未満	36	88	18	9	11	4	8	1	7	8	1	6	1	3	1	10
		244%	50%	25%	31%	11%	22%	3%	19%	22%	3%	17%	3%	8%	3%	28%
3～5ha未満	9	14	1	3	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
		156%	11%	33%	44%	11%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	56%
5ha以上	6	20	3	3	4	1	1	1	1	2	1	1	1	0	0	1
		333%	50%	50%	67%	17%	17%	17%	17%	33%	17%	17%	17%	0%	0%	17%
無回答	52	68	8	6	5	1	3	1	0	1	1	2	1	1	2	36
		131%	15%	12%	10%	2%	6%	2%	0%	2%	2%	4%	2%	2%	4%	69%

③経営面・その他

	n	合計	青色申告を行う	経営管理をパソコンで行う	労働環境の見直し	農地集積・規模拡大をはかる	販路の拡大や確保	6次産業化	企業等と連携・共同した加工品の開発や営農	観光農業	農福連携（障がい者を労働力として登用する等）	自らの経営の法人化	地域等農業者共同による協業化・法人化	その他	無回答
全体	320	420	50	20	18	22	51	17	5	15	7	8	15	23	169
		131%	16%	6%	6%	7%	16%	5%	2%	5%	2%	3%	5%	7%	53%
30a未満	109	129	16	2	2	6	8	2	1	5	3	1	6	12	65
		118%	15%	2%	2%	6%	7%	2%	1%	5%	3%	1%	6%	11%	60%
30a～1ha未満	108	155	22	10	7	8	26	11	2	10	4	3	3	6	43
		144%	20%	9%	6%	7%	24%	10%	2%	9%	4%	3%	3%	6%	40%
1～3ha未満	36	59	7	6	6	3	13	3	2	0	0	4	4	1	10
		164%	19%	17%	17%	8%	36%	8%	6%	0%	0%	11%	11%	3%	28%
3～5ha未満	9	10	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	7
		111%	0%	11%	0%	0%	22%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	78%
5ha以上	6	8	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3
		133%	33%	0%	17%	17%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	17%	0%	50%
無回答	52	59	3	1	2	4	2	1	0	0	0	0	1	4	41
		113%	6%	2%	4%	8%	4%	2%	0%	0%	0%	0%	2%	8%	79%

<栽培品目別・クロス集計>

①販売面

	n	合計	農協 (共同出荷)	産 先 等 で 消 費 者 に 直 接 販	等 視 光 農 園 (いちご狩り)	直 売 所 ・ 道 の 駅 で 消 費 者 に 販 売	ス ー パ ー の 地 場 野 菜 コ ー ナ ー で 消 費 者 に 販 売	小 売 業 者 に 販 売	飲 食 業 者 ・ 加 工 食 品 業 者 に 販 売	販 協 以 外 の 集 出 荷 団 体 に 販 売	卸 売 市 場 に 出 荷 ・ 販 売	酪 農 業 協 同 組 合	荷 内 の 学 校 給 食 向 け の 出 荷	イ ン タ ー ネ ッ ト 販 売	輸 出	そ の 他	無 回 答
全体	487	671	58	64	16	114	47	20	22	17	19	8	7	31	1	61	186
		138%	12%	13%	3%	23%	10%	4%	5%	3%	4%	2%	1%	6%	0%	13%	38%
水稲	144	206	22	20	5	36	15	10	8	9	7	2	2	7	0	15	48
		143%	15%	14%	3%	25%	10%	7%	6%	6%	5%	1%	1%	5%	0%	10%	33%
麦・大豆	3	4	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		133%	0%	0%	0%	33%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	67%
露地野菜	200	265	24	27	2	42	18	7	9	7	6	1	4	11	0	29	78
		133%	12%	14%	1%	21%	9%	4%	5%	4%	3%	1%	2%	6%	0%	15%	39%
施設野菜	17	28	4	2	1	11	4	0	0	0	1	1	0	2	0	1	6
		165%	24%	12%	6%	65%	24%	0%	0%	0%	6%	6%	0%	12%	0%	6%	61%
果樹	56	93	7	11	5	20	8	2	4	1	4	0	1	10	1	7	12
		166%	13%	20%	9%	36%	14%	4%	7%	2%	7%	0%	2%	18%	2%	13%	21%
畜産	8	10	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
		125%	0%	13%	0%	13%	0%	0%	0%	0%	0%	50%	0%	0%	0%	25%	25%
花き	6	6	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
		100%	0%	0%	0%	17%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	17%	67%
その他	19	25	0	2	3	2	1	1	1	0	1	0	0	1	0	4	9
		132%	0%	11%	16%	11%	5%	5%	5%	0%	5%	0%	0%	5%	0%	21%	47%
無回答	34	34	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	30
		100%	3%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	6%	88%

②生産面

	n	合計	品 質 ・ 収 量 の 向 上	病 害 虫 へ の 対 応	鳥 獣 被 害 へ の 対 応	規 模 拡 大 ・ 省 力 化 に 向 け た 機 械 の 導 入 ・ 更 新	農 繁 期 の 労 働 力 の 確 保	栽 培 ハ ウ ス の 導 入	新 た な 品 目 ・ 品 種 の 導 入	減 農 薬 へ の 取 組 み	農 業 循 環 型 農 業 ・ 環 境 保 全 型	進 技 術 の 効 率 化 に 向 け た 先 進 技 術 の 情 報 収 集 ・ 研 究	G A P (生 産 工 程 管 理) の 取 組 み	産 指 導 に 基 づ い た 作 物 の 生 産	企 業 等 の 買 い 取 り 計 画 や	そ の 他	無 回 答
全体	487	967	173	126	118	30	60	19	71	59	36	37	10	15	37	176	
		199%	36%	26%	24%	6%	12%	4%	15%	12%	7%	8%	2%	3%	8%	36%	
水稲	144	299	56	41	35	11	23	6	22	18	11	12	3	5	10	46	
		208%	39%	28%	24%	8%	16%	4%	15%	13%	8%	8%	2%	3%	7%	32%	
麦・大豆	3	7	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
		233%	67%	67%	67%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	33%	
露地野菜	200	376	65	55	56	10	15	7	25	23	13	11	3	4	17	72	
		188%	33%	28%	28%	5%	8%	4%	13%	12%	7%	6%	2%	2%	9%	36%	
施設野菜	17	44	12	6	4	1	3	4	4	2	2	1	1	1	0	3	
		259%	71%	35%	24%	6%	18%	24%	24%	12%	12%	6%	6%	6%	0%	18%	
果樹	56	147	26	16	15	6	15	2	18	11	6	11	1	4	5	11	
		263%	46%	29%	27%	11%	27%	4%	32%	20%	11%	20%	2%	7%	9%	20%	
畜産	8	16	5	0	0	2	1	0	0	0	2	1	2	0	1	2	
		200%	63%	0%	0%	25%	13%	0%	0%	0%	25%	13%	25%	0%	13%	25%	
花き	6	13	2	3	2	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	2	
		217%	33%	50%	33%	0%	0%	0%	17%	17%	17%	0%	0%	17%	0%	33%	
その他	19	29	3	2	3	0	3	0	1	3	1	1	0	0	2	10	
		153%	16%	11%	16%	0%	16%	0%	5%	16%	5%	5%	0%	0%	11%	53%	
無回答	34	36	2	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	29	
		106%	6%	3%	3%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	0%	0%	0%	6%	85%	

③経営面・その他

	n	合計	青色申告を行う	経営管理をパソコンで行う	労働環境の見直し	農地集積・規模拡大をはかる	販路の拡大や確保	6次産業化	企業等と連携・共同した加工品の開発や営農	観光農業	農福連携（障がい者を労働力として登用する等）	自らの経営の法人化	地域等農業者共同による協業化・法人化	その他	無回答
全体	487	687	88	44	29	34	95	36	12	25	14	15	30	33	232
		141%	18%	9%	6%	7%	20%	7%	2%	5%	3%	3%	6%	7%	48%
水稲	144	216	30	16	9	18	30	10	3	7	5	5	12	8	63
		150%	21%	11%	6%	13%	21%	7%	2%	5%	3%	3%	8%	6%	44%
麦・大豆	3	5	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
		167%	67%	0%	0%	0%	33%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	33%
露地野菜	200	265	34	14	8	11	34	12	3	8	5	4	11	18	103
		133%	17%	7%	4%	6%	17%	6%	2%	4%	3%	2%	6%	9%	52%
施設野菜	17	32	5	4	3	0	6	4	1	1	0	1	3	0	4
		188%	29%	24%	18%	0%	35%	24%	6%	6%	0%	6%	18%	0%	24%
果樹	56	94	15	8	6	3	21	5	4	7	3	3	2	1	16
		168%	27%	14%	11%	5%	38%	9%	7%	13%	5%	5%	4%	2%	29%
畜産	8	12	0	1	2	1	1	3	0	0	0	1	1	1	1
		150%	0%	13%	25%	13%	13%	38%	0%	0%	0%	13%	13%	13%	13%
花き	6	6	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	4
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	17%	0%	0%	0%	0%	17%	67%
その他	19	23	0	1	1	0	2	1	0	2	1	1	0	2	12
		121%	0%	5%	5%	0%	11%	5%	0%	11%	5%	5%	0%	11%	63%
無回答	34	34	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	28
		100%	6%	0%	0%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	6%	82%

<最も販売額の大きい品目別・クロス集計>

①販売面

	n	合計	農協（共同出荷）	産先等で消費者に直接販売	観光農園（いちご狩り等）	直売所・道の駅で消費者に販売	スーパーの地場野菜コーナーで消費者に販売	小売業者に販売	飲食業者・加工食品業者に販売	農協以外の集出荷団体に販売	卸売市場に出荷・販売	酪農業協同組合	市内の学校給食向けの出荷	インターネット販売	輸出	その他	無回答
全体	320	416	36	41	9	63	24	11	11	10	10	4	4	17	1	38	137
		130%	11%	13%	3%	20%	8%	3%	3%	3%	3%	1%	1%	5%	0%	12%	43%
コメ	92	131	13	9	4	19	10	10	6	6	4	0	2	6	0	12	30
		142%	14%	10%	4%	21%	11%	11%	7%	7%	4%	0%	2%	7%	0%	13%	33%
にんじん	6	10	5	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	1
		167%	83%	0%	0%	0%	0%	0%	17%	17%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	17%
ねぎ	20	25	6	5	0	4	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	7
		125%	30%	25%	0%	20%	5%	0%	0%	0%	0%	0%	5%	0%	5%	35%	
だいこん	3	4	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
		133%	0%	33%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	33%
ほうれんそう	9	14	1	3	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	3
		156%	11%	33%	0%	22%	0%	0%	0%	11%	0%	0%	0%	0%	0%	44%	33%
こまつな	3	5	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		167%	0%	33%	33%	67%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	0%
梨	25	41	3	7	2	13	3	0	1	0	2	0	0	5	1	1	3
		164%	12%	28%	8%	52%	12%	0%	4%	0%	8%	0%	0%	20%	4%	4%	12%
えだまめ	2	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		150%	50%	0%	0%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	50%
トマト	6	8	1	1	0	3	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		133%	17%	17%	0%	50%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	17%	0%	0%	0%
きゅうり	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		100%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
酪農	6	8	0	1	0	1	0	0	0	0	0	4	0	0	0	1	1
		133%	0%	17%	0%	17%	0%	0%	0%	0%	0%	67%	0%	0%	0%	17%	17%
養豚	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
花き	4	4	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		100%	0%	0%	0%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	25%	25%
その他	52	65	0	7	2	10	4	1	3	1	1	0	1	3	0	15	17
		125%	0%	13%	4%	19%	8%	2%	6%	2%	2%	0%	2%	6%	0%	29%	33%
無回答	90	96	6	6	0	5	3	0	1	0	0	0	1	0	3	7	71
		107%	7%	7%	0%	6%	3%	0%	0%	1%	0%	0%	1%	0%	3%	79%	

②生産面

	n	合計	品質・収量の向上	病害虫への対応	鳥獣被害への対応	規模拡大、省力化に向けた機械の導入・更新	農繁期の労働力の確保	栽培ハウスの導入	新たな品目・品種の導入	減農薬への取組み	循環型農業・環境保全型農業	技術の情報収集・研究	GAP（生産工程管理）の取組み	企業等の買い取り計画や指導致に基づいた作物の生産	その他	無回答
全体	320	587	103	74	72	16	34	9	38	37	17	21	6	7	23	130
		183%	32%	23%	23%	5%	11%	3%	12%	12%	5%	7%	2%	2%	7%	41%
コメ	92	188	36	23	21	7	13	4	14	11	9	7	2	4	9	28
		204%	39%	25%	23%	8%	14%	4%	15%	12%	10%	8%	2%	4%	10%	30%
にんじん	6	18	4	4	1	0	2	0	2	1	0	2	0	1	0	1
		300%	67%	67%	17%	0%	33%	0%	33%	17%	0%	33%	0%	17%	0%	17%
ねぎ	20	34	8	8	5	2	0	0	2	1	1	1	0	0	0	6
		170%	40%	40%	25%	10%	0%	0%	10%	5%	5%	5%	0%	0%	0%	30%
だいこん	3	8	1	3	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
		267%	33%	100%	67%	0%	0%	0%	0%	67%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
ほうれんそう	9	14	1	2	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0	4	2
		156%	11%	22%	33%	0%	0%	0%	11%	0%	0%	0%	11%	0%	44%	22%
こまつな	3	7	1	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1
		233%	33%	33%	33%	0%	0%	33%	33%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	33%
梨	25	78	17	9	9	4	10	0	8	9	1	8	0	1	0	2
		312%	68%	36%	36%	16%	40%	0%	32%	36%	4%	32%	0%	4%	0%	8%
えだまめ	2	4	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		200%	50%	50%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
トマト	6	20	4	4	2	0	2	1	2	2	1	1	1	0	0	0
		333%	67%	67%	33%	0%	33%	17%	33%	33%	17%	17%	17%	0%	0%	0%
きゅうり	1	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		300%	100%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
酪農	6	14	5	0	0	2	1	0	0	0	2	1	2	0	0	1
		233%	83%	0%	0%	33%	17%	0%	0%	0%	33%	17%	33%	0%	0%	17%
養豚	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
花き	4	7	2	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1
		175%	50%	25%	25%	0%	0%	0%	25%	0%	0%	0%	0%	25%	0%	25%
その他	52	76	13	8	9	0	3	2	3	4	2	1	0	0	9	22
		146%	25%	15%	17%	0%	6%	4%	6%	8%	4%	2%	0%	0%	17%	42%
無回答	90	115	9	9	15	1	3	1	4	6	1	0	0	0	1	65
		128%	10%	10%	17%	1%	3%	1%	4%	7%	1%	0%	0%	0%	1%	72%

③経営面・その他

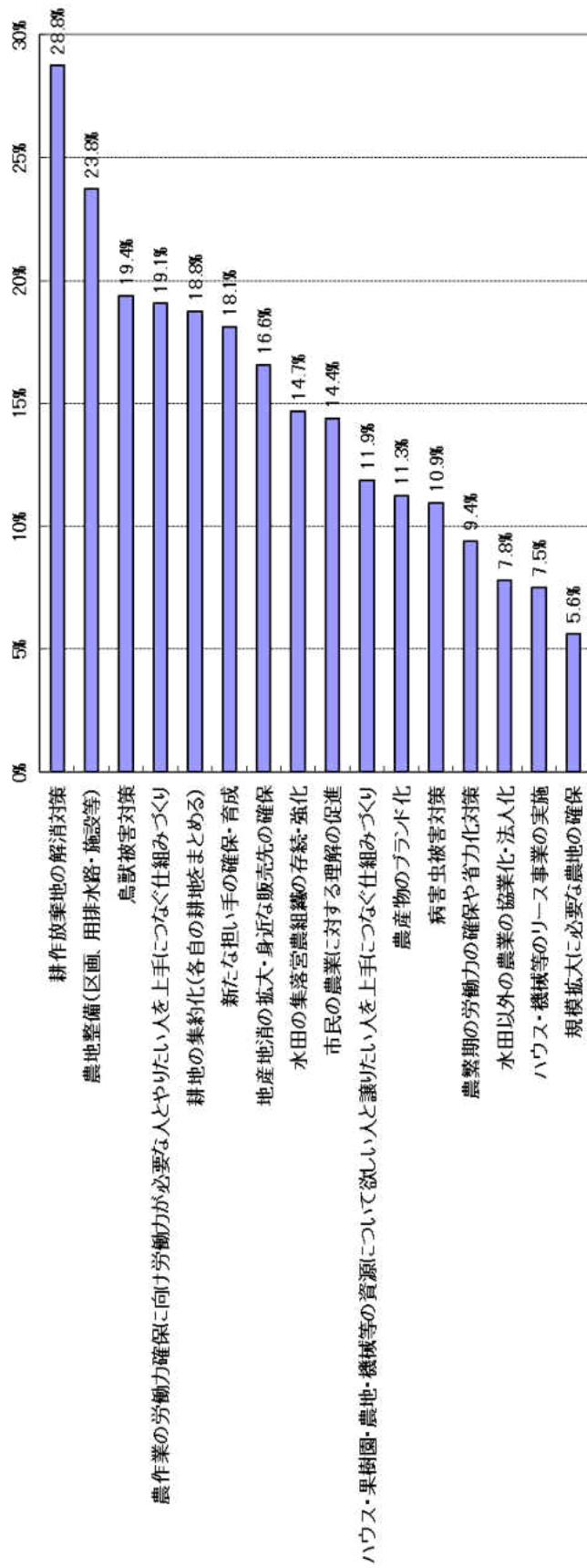
	n	合計	青色申告を行う	経営管理をパソコンで行う	労働環境の見直し	農地集積・規模拡大をはかる	販路の拡大や確保	6次産業化	企業等と連携・共同した加工品の開発や営農	観光農業	農福連携（障がい者を労働力として登用する等）	自らの経営の法人化	地域等農業者共同による協業化・法人化	その他	無回答
全体	320	420	50	20	18	22	51	17	5	15	7	8	15	23	169
		131%	16%	6%	6%	7%	16%	5%	2%	5%	2%	3%	5%	7%	53%
コメ	92	137	22	9	5	11	17	5	2	6	4	2	8	6	40
		149%	24%	10%	5%	12%	18%	5%	2%	7%	4%	2%	9%	7%	43%
にんじん	6	11	1	1	1	2	0	0	0	0	0	1	2	0	3
		183%	17%	17%	17%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	17%	33%	0%	50%
ねぎ	20	27	4	1	1	2	6	1	0	0	0	0	0	2	10
		135%	20%	5%	5%	10%	30%	5%	0%	0%	0%	0%	0%	10%	50%
だいこん	3	4	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
		133%	33%	33%	0%	0%	67%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
ほうれんそう	9	10	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	4	3
		111%	0%	0%	0%	0%	0%	22%	0%	0%	0%	0%	11%	44%	33%
こまつな	3	4	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1
		133%	33%	0%	0%	0%	33%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	0%	33%
梨	25	45	8	5	5	2	13	2	2	1	0	3	1	0	3
		180%	32%	20%	20%	8%	52%	8%	8%	4%	0%	12%	4%	0%	12%
えだまめ	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		100%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	50%
トマト	6	13	2	2	2	0	3	3	0	0	0	0	1	0	0
		217%	33%	33%	33%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	0%	17%	0%	0%
きゅうり	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
酪農	6	10	0	1	2	1	1	3	0	0	0	1	1	0	0
		167%	0%	17%	33%	17%	17%	50%	0%	0%	0%	17%	17%	0%	0%
養豚	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
花き	4	4	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
		100%	25%	0%	0%	0%	0%	0%	25%	0%	0%	0%	0%	0%	50%
その他	52	59	3	0	2	1	4	1	0	5	3	1	0	8	31
		113%	6%	0%	4%	2%	8%	2%	0%	10%	6%	2%	0%	15%	60%
無回答	90	92	6	0	0	3	4	0	0	2	0	0	1	3	73
		102%	7%	0%	0%	3%	4%	0%	0%	2%	0%	0%	1%	3%	81%

問 1 6. 今後の八千代市の農業振興に向け重要なこと（複数回答）

「耕作放棄地の解消対策」が 28.8%と最も多く、次いで「農地整備（区画、用排水路・施設等）」が 23.8%、「鳥獣被害対策」が 19.4%と多くみられた。

	回答数	比率
耕作放棄地の解消対策	92	28.8%
農地整備(区画、用排水路・施設等)	76	23.8%
鳥獣被害対策	62	19.4%
農作業の労働力確保に向け労働力が必要な人とやりたい人を上手につなぐ仕組みづくり	61	19.1%
耕地の集約化(各自の耕地をまとめる)	60	18.8%
新たな担い手の確保・育成	58	18.1%
地産地消の拡大・身近な販売先の確保	53	16.6%
水田の集落営農組織の存続・強化	47	14.7%
市民の農業に対する理解の促進	46	14.4%
ハウス・果樹園・農地・機械等の資源について欲しい人と譲りたい人を上手につなぐ仕組みづくり	38	11.9%
農産物のブランド化	36	11.3%
病害虫被害対策	35	10.9%
農繁期の労働力の確保や省力化対策	30	9.4%
水田以外の農業の協業化・法人化	25	7.8%
ハウス・機械等のリース事業の実施	24	7.5%
規模拡大に必要な農地の確保	18	5.6%
無回答	110	34.4%
合計	871	-
n	320	

問16. 今後の八千代市の農業振興に向け、どのようなことが重要と考えますか。(n=320)



問 17. 今後の八千代市の農業振興に向けたご意見（記述）

今後の八千代市の農業振興について頂いた意見を種類別に大まかにまとめたところ、下記のとおりとなった。意見一覧はまとめの後に記載。

- ◇ **農地・耕作放棄地、集約化に関するご意見では、耕作放棄地の解消や集約化への支援に関する声がみられた。**
 - ・ 水田、畑地の休耕地対策をもっと急速に推進して欲しい。
 - ・ 小規模水田の維持管理に困っている。行政で買手又は借手の斡旋等を促進してもらいたい。

- ◇ **担い手に関するご意見では、農業従事者が減少するなかで担い手の確保を求める声がみられた。**
 - ・ 営農の次世代を担う人材の確保が、今後の八千代市の水稻経営の問題と考える。畑については現在まで実施されてきた、老人の方々が減少する中で、畑作の減は個々の家族の減収となっている。

- ◇ **営農環境に関するご意見では、周辺環境との調整を求める声がみられた。**
 - ・ 団地周辺での農業は農薬・枯草の焼却の問題が発生している。
 - ・ 農業だけに集中せずに、農地とその周りの環境を整備すること自体も大切な要素だと考える。

- ◇ **販売に関するご意見では、ブランド化や販売先の確保を求める声がみられた。**
 - ・ 規模拡大を追い求めても競争力は確保できない。それよりも都市近郊という立地を活かしたブランド化などの付加価値の高い農業を目指していくべき。
 - ・ 農業者の生産意欲を減退させないために生産物の販売環境を整えてあげることが大切なのではないか。

【意見一覧】

➤ 農地・耕作放棄地、集約化に関するご意見

果樹の場合長期的な利用権設定を確立する事、また誰にでも理解できる栽培方法を取り入れる事が規模拡大には必要と考える

現状のままただ担い手と言っても無理があるのでは。直売は別として世界の農業の土俵で（ちよつとオーバー？）競争するにはまず圃場整備することによって穀物市場のカナダ・アメリカ・オーストラリアなどには無理でも生産コストを下げることによって外国農産物にそれなりに対抗できるし自

<p>ずと農業と工業とした担い手は現れるのではないのでしょうか。又、都市近郊など直売所の設置等は農業収入にすぐに対応できる方、とにかく農業収入の安定が農業振興には必要不可欠だと思います。</p>
<p>耕作放棄地を集落で草刈機を導入して解消したいので何か補助事業がないでしょうか</p>
<p>これまで守って来た農地を市も援助して下さい。大災害の時も公園以外の場所があったらいいと思いますよ。今の状態を続けられる様助けて下さい。剪定の枝の始末とか色々やりやすい様にしてください。葉についても若葉が出る時は深呼吸に来る人々が多いせに葉が落ちる時は目のかたきにしています。できれば子ども達に栗拾いの楽しさを味わわせてあげたいです。売り先はネットでブランド品の様にしたいです。大和田の市街地の農地守って行きたいです。子供達にはまだ相談していませんが生きていくかぎり農地を守りたいです。</p>
<p>小規模水田の維持管理に困っている。行政で買手又は借手の斡旋等を促進してもらいたい</p>
<p>水田、畑地の休耕地対策をもっと急速に推進して欲しい</p>
<p>では実際にどうしたらいいのか身近で耕作放棄地がある。放棄される前にベストをつくしたか？離農する人に充分話を聞いたか、農家の後継者がいないのは初めからわかっている、それでも…早めの対策が必要で役所や農協のほう助が必要だと思います。</p>

➤ 担い手に関するご意見

<p>営農組合化</p>
<p>水稻を実施するにあたり、営農の次世代を担う人材の確保が、今後の八千代市の水稻経営の問題と考える。畑については現在まで実施されてきた、老人の方々が減少する中で、畑作の減は個々の家族の減収となっている。農家で生計営むのは厳しい現実がある(グリーン、ふるさとステーションは農家にとっては大切な販売場所です)。</p>
<p>どこの営農組合も後継者ができず、10年後にはせっかくの水田が草だらけになってしまう</p>

➤ 営農環境に関するご意見

<p>団地周辺での農業は農薬・枯草の焼却の問題が発生しています。消防署に始末書を書きながらの作業も考えものです。</p>
<p>農業振興計画には農業の現状を取り巻く環境等と地域住民との共有が必要であり畜産経営管理計画に期待する</p>
<p>農業だけに集中せずに、農地とその周りの環境を整備すること自体も大切な要素だと考えます。</p>

➤ 販売に関するご意見

<p>規模拡大を追い求めても競争力は確保できません。それよりも都市近郊という立地を活かしたブランド化などの付加価値の高い農業を目指していくべきです。</p>
<p>耕作しても出荷するところがない</p>

<p>市役所駐車場で朝市をして八千代市内の特産品開発等と農業生産品を毎月見てもらふ福祉施設の人とか商業者とか一緒にどうあるべきか考える場を表だつた人ではなく集めるには地域各々に足を運ばないと見つからないのです。</p>
<p>これ以上耕作放棄地を増やさないためにも零細的な農業者について（生産意欲のある人）も助成措置を考えてほしい。専業農家・法人組織だけでは全ての耕地を利用することは難しいと考えられます。農業者の生産意欲を減退させないために生産物の販売環境を整えてあげることが大切なのではないのでしょうか。</p>

➤ その他のご意見

<p>現在の状況を把握し、進んではいけない方向に先んじて手を打つのは農家個々のまとまりではなかなか困難であるので行政に施策として取り組んでほしい。またそれは急がなければならない時期にとっくなっていると思います。</p>
<p>さきのことわからない</p>
<p>水利費、防除費用の値下げ。営農者（米）収入に対する価格が高過ぎる。変な補助金よりもこれらの補助に当てるべき</p>
<p>田畑があっても自分では何もできません。助けてください。</p>
<p>田畑だけでなく山林（竹材）から得られる農を考えるとどうでしょうか。また現在一部しか商品とされていない規格外農産物に光をあてる仕組みができたと思います。</p>
<p>農家の若い人達にガンバッテお金の取れる農業をやってもらいたい</p>
<p>農業には定年が無く、出来る範囲で協働でも行えば収入を得られるという例があれば広めて欲しい</p>
<p>農協のやる気が無いのが問題</p>
<p>普及所と担い手とよく理解しあえたら</p>
<p>箕面市農業公社のように市の職員が中心になって地域の農業・農地を守り活かす方法を農政課として取り組んでほしい。他にも農業公社はあります。積極的な提案をしてほしい。都市農業振興基本法を活かす計画も提案してほしい。</p>
<p>ビヤクシン類への対応を強化してほしい。八千代市のまわりの市に対しても連携できるとありがたいです。</p>
<p>特にありません … 5件</p>

問18. その他ご意見（記述）

自由意見欄に記述された意見について、意見の種類別に大まかにまとめたところ、下記のとおりとなった。意見一覧はまとめの後に記載。

- ◇ **農地・耕作放棄地、集約化に関するご意見では、ほ場整備や耕作放棄地への対応、農地中間管理機構の有効活用等を求める声のみられた。**
 - ・ 専業農家(法人) で生計を立てる方々へは、圃場整備を図り、農地の拡大化(賃貸借含む) をし、農業の生産性を高め、農業者の気力向上と後継者の農業への取組み意欲が出るような施策が必要と思う。
 - ・ 耕作放棄の田んぼ多いのでなんとかしてほしい。
 - ・ 中間管理機構利用促進など各種施策が有るが末端農家への周知、案内等が少ないと感じられる。

- ◇ **担い手に関するご意見では、援農ボランティアの活用促進や農業従事者の高齢化への対応等を求める声のみられた。**
 - ・ 農業の後継者育成をどうするかが問題です。現在のボランティア制度で何とか農家も助かっていますがボランティアも高齢化、ボランティアもどうでしょうか、魅力がないのか集まらないことを聞きます。やはり魅力ある農業の在り方をどうするか知恵を出し合って考えていくことが大切だと思います。
 - ・ 高齢化や後継者がいないため離農を余技なくされている現状（私も含めて）を近隣でも見かける。

- ◇ **農産物の生産に関するご意見では、高齢化により農作業の負担感が増している現状や農機保持への支援、情報交換の場の確保等を求める声のみられた。**
 - ・ 高齢化により年々農業継続は出来なくなる。
 - ・ 小規模農家への農業機器リース（農協等の運営による）事業
 - ・ 年4回程度勉強会を兼ね情報交換会を開催し相互のコミュニケーションを取っていただきたい。

- ◇ **営農環境に関するご意見では、宅地化による営農環境の悪化や気候変動、災害等に関する声のみられた。**
 - ・ 農地の近くに団地がありトラクターで畑をうなう時でも風向など注意しなくてはいけないなど農業がやりにくくなっていると思う。
 - ・ ここ数年温暖化による自然災害により想像のつかない事が何度も（災害）農家を苦しめています。

◇ **販売・PR に関するご意見では、八千代市産農産物の PR を求める声や農産物の価格安等に関する声がみられた。**

- ・ 八千代の地場野菜（各種季節ごと）をもっと八千代市民にアピールをしていき八千代の野菜をもっと知ってもらいたい。
- ・ 生産物の価格が安価すぎる。

【意見一覧】

➤ 農地・耕作放棄地、集約化に関するご意見

八千代市は都心に近く、都市化が進んだ近隣農地は農業の生産性より他利用価値が高くなりつつある。※開発が進んだ近隣農地では農業機械使用、農薬散布、雑草等焼却で農業継続が難しく農業への気力が減退する状況がある。専業農家(法人) で生計を立てる方々へは、圃場整備を図り、農地の拡大化(賃貸借含む) をし、農業の生産性を高め、農業者の気力向上と後継者の農業への取組み意欲が出るような施策が必要と思う。※利用度の高い用地として整備する。
農地の売買の緩和
農地中間管理機構がきちんと機能していない田を貸したかったが”借りられない”とのことで耕作放棄地になっている。
生産保持の土地を売りたいけど、話し合いの場を作ってもらいたい。
この機に一筆申し上げます。そもそも麦丸地区の水田が荒れ放題になったのは高齢化もさること乍ら約 40 年位前に一部の方の反対で基盤整備が出来なかった事で、出来ておれば麦丸の田も尾崎地区の様に大型機械が入れる様な良い水田になっていたと思います。ところで近年では荒れた水田の野焼きを年に 1 度（3 月頃）行っていますが焼くだけで焼け跡の大量の（ありとあらゆる）ゴミはそのままで燃やすだけでこの作業に 100 万円もかけて何の解決に成ると思いません。税金の無駄使いだと思います。もう一度水田にも畑にも使用出来る様、もう一度基盤整備を半強制的にも（やり方を色々研究）して若者が働ける様にする事と思います。農政課の指導に期待いたします。乱文乱筆をお許しを。
高齢者が休耕圃場を除草しているのを見るとどうあることが期待されているか。それに向けた支援等の資源を示していくことが求められます。
耕作放棄の田んぼ多いのでなんとかしてほしい。
桑納区の水田、畑共に放置された農地はますますふえて行くと思われます。後 5～10 年でどうにもならないとなる気がします
現在平戸では盛土事業を行っており、今年の 7 月末日中に事業が終了となりますが最後に大きな問題があり、それは工事の中間に 9 号線の吊上に伴う大多喜ガスの中圧管が埋設されておりこの管を移設するには 6000 万という高額な費用負担がかかるため移設費用はだせないことから

中圧管はそのまま盛土して対応を図っているが、農政課、土木管理課の調整がつかずこまっております。土木管理課で大多喜ガス管関係は行っているとのことですが平戸区としては中圧管は迷惑施設でなんのメリット也没有せん。土木管理課では専有料を取っています。もう少し土木管理職員も大多喜ガスさんに協力出来る範囲で協力してくれないか一言してもらいたい現在は一斉盛土組合でやってくれといわれています。尚 9 号線は凹凸がひどく台風やゲリラ豪雨で冠水する市道ですので土木管理課に提出してある計画案に決定してもらい工事を終了したいと考えていますので工事は令和 2 年 7 月末日でありますので 9 号線は吊上げは平戸区の要望として 5~6 年前から要望している事項でありますのでご配慮をよろしくお願いします。

1. 農業関係機関（国、県、市町村、JA、共済、改良区他）は多く存在しているが有機的な連携があまり感じられない。又、組織、職員、役員のための団体ではなく農家と農業の振興、食料供給などの本来の目的に沿った組織運営を常に心掛けて欲しい。2. 中間管理機構利用促進など各種施策が有るが末端農家への周知、案内等が少ないと感じられる。積極的な農政活動を期待します。関係者のご努力に感謝します。又期待しています。

➤ 担い手に関するご意見

私は 40 余年前不動産（赤尾）から 200 坪を 4 人で買いその一画を家庭菜園程度のつもりで現在野菜作りをしています。（50 坪）当時は仕事で働くこともままならず放置しておりました。そうしたらゴミ捨て場となってしまうトラックを頼んで整理しました。以来できるだけ畑に通うようになりました。今では退職の身で畑仕事を楽みの一つにしています。ただ困ったことがあります。それは周りが住宅化してきたことと 2 区画は荒地と化していることです。いずれにしても私自身はまだ 73 歳で働くことができます。荒地の一区画を何とかして欲しいです。八千代市では援農制度でボランティアの方々が農家へ手伝いにいっています。私もその一人です。実態はどうなのでしょう（八千代市全体）何にでも高齢化時代と言われています。殊、農業においては後継者もなく田舎の方のみならず日本の農業には不安がいっぱいです。やはり今言われていますがその土地ならではの作りブランドというのかな、他県、市には負けないものを作ることが大事です。農業の後継者育成をどうするかが問題です。現在のボランティア制度で何とか農家も助かっていますがボランティアも高齢化、ボランティアもどうでしょうか、魅力がないのか集まらないことを聞きます。やはり魅力ある農業の在り方をどうするか知恵を出し合って考えていくことが大切だと思います。私自身も少しでも農家の手伝いをし、勉強もしたいと考えて実行しています。九期生として退職後続けています。若い人たちに家庭菜園の魅力というか休耕地を貸して実践させることを当局で考えることも必要かと思えます。広報紙等を使用し宣伝、アプローチを考えて欲しい。一、援農ボランティアの募集アピール 一、荒地（休耕地）解消対策どうするか 一、八千代市のブランド（ニンジン）の拡大をどうするか 一、若手農業者の育成をどうするか など課題がいっぱいあります。少しでも解決できるように願います。

多種多様な経営体が合っていると良いと思います。

高齢化や後継者がいないため離農を余技なくされている現状（私も含めて）を近隣でも見かける。後継者不足は少子化とも関連が有ると考えられる。農業振興を考える時、少子化も合わせて複合的に考えて行くのはどうだろうか。

➤ 農産物の生産に関するご意見

私は来年古希を向かえるものですが生来持病の腰痛があり長時間作業が大変キツイです。いつも農業関係業務して頂いている農政課の皆様や農協の方々にお世話になり大変感謝致しております。今後共宜しくお願い申し上げます。

農協で田畑をうなってくれる人がいたらたすかる。農協で出荷物をとりにきてくれる人がいたらいいと思います。

農機に助成（特にトラクター）個人に（人参の掘取機？）2名位に

土地（畑）利用型の農業への応援もお願い致します。（大根、人参、ネギ、その他）

小規模農家への農業機器リース（農協等の運営による）事業。

高齢化により年々農業継続は出来なくなる

去年から国連では小規模・家族農業 10年として位置づけています。「持続可能な開発のための」[だれひとり取り残されない]を基本理念として始まっているSDGSの取り組みのためには20年30年後を考えたら食料自給率37%の日本を70%以上にするためにも農業政策を根本から見つめ直して八千代市から変わってほしい。

年4回程度勉強会を兼ね情報交換会を開催し相互のコミュニケーションを取っていただきたい。

➤ 営農環境に関するご意見

農地の周りが住宅地で日陰のため作物がよく育たない。病虫害等は住宅にかこまれて、いっさい農薬は使わない。

農地の近くに団地がありトラクターで畑をうなう時でも風向など注意しなくてはいけないなど農業がやりにくくなっていると思う。野菜の木などをもやしていると警察や消防に通報されることもありたいへんです。

農地が車入れない所にある 竹が野ばなしで作りにくい 野うさぎの被害が大きい

農振地域でありながら農業がやりづらくなっているのはおかしい。消毒の苦情、枝も燃やせなくなってきた。対策をするにはお金がかかってしまい経費がかかりすぎ、生活していけなくなる。

雑草の後始末が課題です。住宅が多くなって自由に畑に入れるので作物を摘む人が多くなっています

ここ数年温暖化による自然災害により想像のつかない事が何度も（災害）農家を苦しめています。それに消費税により資材のコストはあがるが野菜の値上がりはなく農家の未来はあるのでしょうか？とても不安です。農業の後継者が居なくなるのは当然だと思います。野菜の収入でトラクターを購入する事も出来ません。今のトラクターが使えなくなったらもう農業は出来ません。麦丸の水

田があります。佐倉のチューリップ畑の様な施設を作ってみるのも良いのでは？例えばひまわり畑とか…観光農園など若者が働ける場所
高齢化が進む現状だと思いますが都市化も進んでいくと感じますので現状を継続する事ができればと思いますが？
農地を取り巻く環境を整備すること自体を一体として資源ととらえ、地域の活性化、収益にもつながるような取り組みが必要だと思います。行政も実行にあたり、協力してもらうのがよいと考えます。また地域でなくなってしまった、祭りなどを復活させるのも意義があるのではないかと考えます。
アンケート集計結果で何が解るのか自分には理解できない。結局資金力のある人々や大規模経営をしてる人々には個人でやっている人間はとて太刀打ちできず、ましてや 60 代になってから上を向いて借金してまでやろうとは思わない。欲はふくらみ続ければいつかは破れるか、しぼむ。今はそこそこの収入安定さえ出来ればいい。最近の異常気象で気持ちがなえる。結局中央の市場価格に左右される現状では労多くして益少して肥え太るのは農協さん位か？全国規模で価格の安定化を図ってほしい

➤ 販売・PR に関するご意見

八千代の地場野菜（各種季節ごと）をもっと八千代市民にアピールをしていき八千代の野菜をもっと知ってほしい
道の駅とか JA の販売に参加条件に合わない人でも、やれる、売ってみてと言える場所の提供をしてあげる。車を使えない人もいる。大規模でなくてよいといえる様にしてほしい
農業をやらせたくない、つがせたくないと思える産業になっている以上、後継者がいなくなるのは自然な事だと思う。最低年金しかもらえず自然災害も毎年のおきてせつかつくった農産物が被害にあいやすくとえ被害がなくてもデフレ構造（30 年近い）の中、米・野菜の価格が安価安定してしまっている。汗をかいてがんばっている人達がうかばれる産業にしてほしい
生産物の価格が安価すぎる。だから生活格差が生まれ、次第に農業から離れていく。サラリーマンの方が安定して生涯おくれる。こう考える農家の人が多いのでは？一家 5 人で働いても、サラリーマン 1 人の給料に追いついていない。
これからも農政課の方と JA さんと農家の方と八千代市の農業の未来を考えていけたらよいと思います。農業は難しいです。野菜作りを向上できる情報がありましたら、知りたいです。八千代市内でブログ等やっている方がありましたら、うれしいです。（野菜作りを教えていただきたい）八千代市の野菜の PR（八千代の野菜の特色をいかしブランド化）
今の農業は機械とくすりで作る野菜、たべたくないなと思います。スーパー A の地場野菜はおいしく「夕方」になると野菜がなくなっています。スーパー B の地場野菜はのこっています。私も食べましたがさつまいもの味がおいしくなかった。作れば良いと言う時代ではありません

➤ その他のご意見

私は他の仕事に従事しており、わずかに所有する田畑を他人にお願いして耕作してもらっているのが現状です。したがってこのアンケートに該当する資格はないように認識しておりますが、悪しからずお許し願いたいと存じます。
我が家も数年前までは両親任せで農業という仕事はほぼせず、会社勤務できています。また後世の子供達も同じ道をたどっております。これから先、農地はあるものの現状維持は難しい。
農地が小規模なのでアンケートに答えることがありません。
農業には興味もないし耕作もしていない 定期的に草刈りして体力的に負担、生産性もないのに管理と資産税ばかりで生活に大変負担。
ダメ農協、予算無し 市役所 農業をマジに考える人と話したい
水田で黒豆のオーナー制度のもぎとりをやっています。以前（10年前位）は種子代の補助がありました。今はありません。以前の様にはなりません。年々農業に対しての（財政の不足はわかりますが）予算が減ってきています。いくら農業振興といってもお金をかけなければ先へは進まないと思います。
将来的には個人の農業経営は成り立たず消滅の危機を迎えかねません。農協などの法人が農地を管理したり農業生産を行うことで地域の農業をささえてほしいと思います。
時代の変化、環境の変化（気候、生産、需給等）に適切に対応した計画となるよう期待します
子供には農業以外の職業をさせる
高齢化、資金や技術、労力不足、離農者、…ない。とか困難とか放棄とか暗い話が多い。もっとよい例があると思うので明るい話を聞いて参考に出来たら良い。実際にこの様にして地域が良くなっている所がここにありますと役所なり農協がリーダーシップを取ってやってもらいたい
耕作地は自宅わきのみ。自給のための(家族で食べる分のみ)栽培で、販売は一切していないので、アンケートに充分お答えすることが難しい状況です。とりあえず、わかる範囲でお送りします。
既存のルールや習慣に捉われない農業政策が必要です。都市住民を巻き込んだ取組みが重要です。
老いる事も考えず一生懸命生きて来た団塊世代です。明るい前向きな情報をお願いします。
偉業のため
アンケートを取るだけでなく市がこれなら手助け出来ると思った事は検討するではなく実行してください。何か1つ取り入れてくれればやる気が出ると思うが？
特になし …4件

◇ 今後農業の担い手が消失し、耕作放棄地の増加が深刻化すると予想される地区

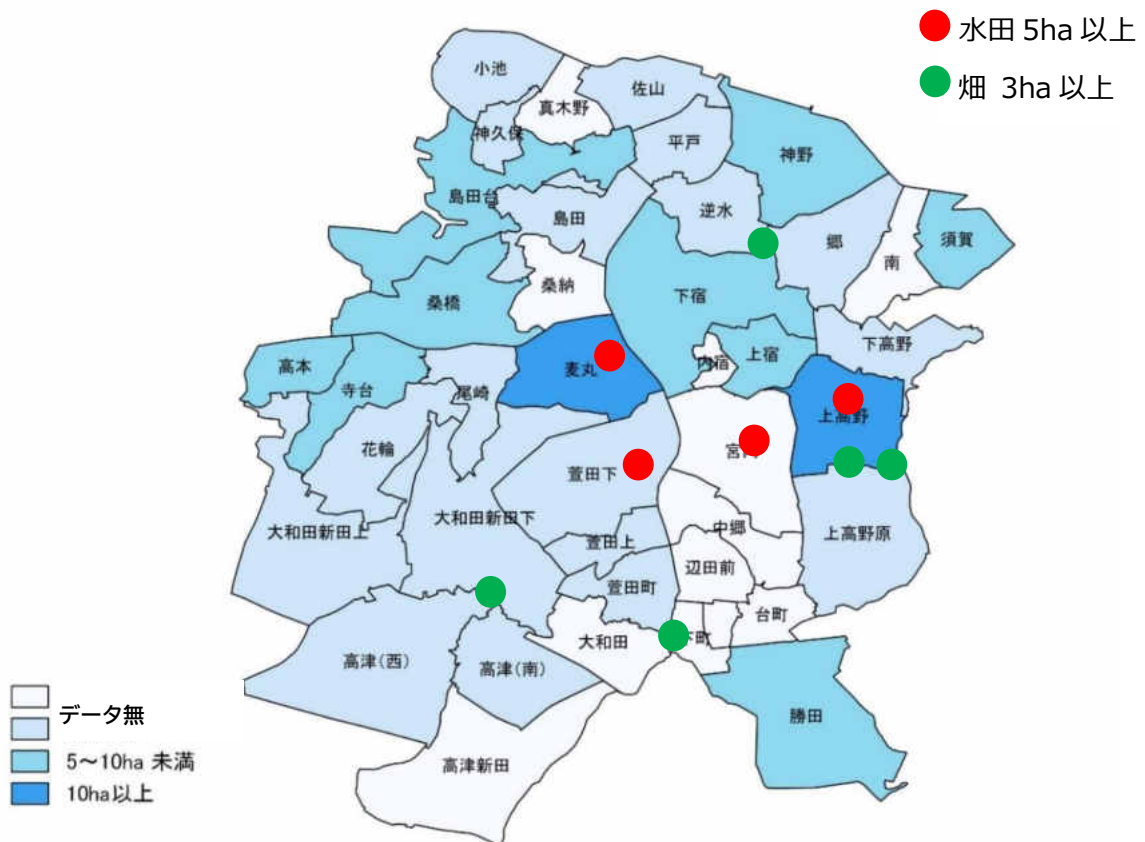
5年後・10年後の将来に大規模な担い手が消失し、耕作放棄地の増加が予想される地区を、現状の耕作面積や年齢、後継者の有無、今後の意向から整理した。

- 一定規模の耕作面積を有しながらも、70代以上で後継者がおらず、今後の意向（5年後・10年後）でも「離農・引退」もしくは「わからない」と回答した農業者リスト

	耕作面積	年齢	耕作地区		今後の意向	
					5年後	10年後
1	水田 5ha 以上かつ畑 3ha 以上	80 歳以上	上高野		離農・引退	離農・引退
2	水田 5ha 以上	70 歳代	麦丸		分からない	分からない
3		70 歳代	萱田下		分からない	分からない
4		70 歳代	宮内		分からない	分からない
6	畑 3ha 以上	80 歳以上	逆水	大和田新田下	離農・引退	離農・引退
7		80 歳以上	上高野		分からない	分からない
8		70 歳代	萱田町		離農・引退	不明

※耕作地区は複数回答のため、耕作面積は複数地区の合計となっている場合がある。

- 耕作面積が一定規模以上であり後継者のいない回答者の耕作地区



◇ 規模拡大を希望する回答者の概要

規模拡大の意向を持つ回答者について、現状の問題や今後の取組み意向を整理した。

➤ 規模拡大希望者リスト（問 1 3 における規模拡大希望者）

	今後の意向		最も販売額のある品目	耕作地区				年齢	認定の有無	
	5年後	10年後		緑色：農村ゾーン、 オレンジ色：混在ゾーン、 青色：市街地ゾーン						
1	拡大	拡大	酪農	尾崎	麦丸			30代	○	
2	拡大	拡大	オクラ	逆水	内宿			40代	無回答	
3	拡大	拡大	コメ	小池				50代	×	
4	拡大	拡大	にんじん	桑橋				50代	○	
5	拡大	拡大	梨	下宿				60代	○	
6	拡大	拡大	コメ	尾崎				60代	×	
7	拡大	維持	ミニトマト	麦丸				50代	×	
8	拡大	維持	そば	桑納	高津(西)			60代	○	
9	拡大	維持	梨	宮内				60代	○	
10	拡大	不明	コメ	保品郷				70代	○	
11	拡大	不明	酪農	尾崎	麦丸	高津新田		50代	○	
12	維持	拡大	コメ	佐山				50代	×	
13	維持	拡大	酪農	小池	神久保	佐山	島田台	花輪	60代	○
14				尾崎	高本	麦丸	逆水			
15	不明	拡大	コメ	神久保	島田台	島田	桑納	50代	×	

➤ 問 1 2 現状の農業経営における問題

自然環境への変化が最も多く、次いで農地の分散・点在、農地の条件が悪い、が多い。

	回答数	nに対する比率
温暖化、台風増加等自然環境の変化	10	67%
農地の分散・点在	6	40%
農地の条件が悪い(狭小、用水、排水)	6	40%
労働力の不足	5	33%
規模拡大に適した農地が見つからない	5	33%
機械・設備の老朽化	5	33%
鳥獣による農産物の被害	3	20%
病害虫による農産物の被害	2	13%
都市化で農作業をしにくい	2	13%
後継者がいない	2	13%
販売先(顧客)の固定化・減少	1	7%
その他	0	0%
合計	47	313%
n	15	100%

➤ 問15 今後の取組み意向

①販売面

直売所・道の駅販売が最も多く、次いでインターネット販売、農協出荷が多い。

	回答数	nに対する比率
直売所・道の駅で消費者に販売	6	40%
インターネット販売	5	33%
農協(共同出荷)	4	27%
庭先等で消費者に直接販売	4	27%
スーパーの地場野菜コーナーで消費者に販売	4	27%
農協以外の集出荷団体に販売	4	27%
飲食業者・加工食品業者に販売	3	20%
小売業者に販売	2	13%
酪農業協同組合	2	13%
観光農園(いちご狩り等)	1	7%
卸売市場に出荷・販売	1	7%
市内の学校給食向けの出荷	1	7%
その他	1	7%
輸出	0	0%
合計	38	253%
n	15	100%

②生産面

ほぼ全員が品質・収量の向上と回答した。

	回答数	nに対する比率
品質・収量の向上	13	87%
作業の効率化に向けた先進技術の情報収集・研究	7	47%
規模拡大、省力化に向けた機械の導入・更新	6	40%
循環型農業・環境保全型農業	6	40%
新たな品目・品種の導入	5	33%
GAP(生産工程管理)の取組み	4	27%
病害虫への対応	3	20%
鳥獣被害への対応	3	20%
農繁期の労働力の確保	3	20%
栽培ハウスの導入	3	20%
減農薬への取組み	2	13%
企業等の買い取り計画や指導に基づいた作物の生産	1	7%
その他	1	7%
合計	57	380%
n	15	100%

③経営面・その他

農地集積・規模拡大や6次産業化が多くみられる。

	回答数	nに対する比率
農地集積・規模拡大をはかる	6	40%
6次産業化	6	40%
経営管理をパソコンで行う	4	27%
労働環境の見直し	4	27%
販路の拡大や確保	4	27%
地域等農業者共同による協業化・法人化	4	27%
青色申告を行う	3	20%
自らの経営の法人化	3	20%
観光農業	2	13%
農福連携(障がい者を労働力として登用する等)	2	13%
企業等と連携・共同した加工品の開発や営農	1	7%
その他	0	0%
合計	39	260%
n	15	100%

調査結果の総括

1. 産直に加えて J A 共同販売が重要な販路である

都市近郊地域では、多くの農業者にとって産直が最大の販路となっている地域が多いが、八千代市では、産直と合わせ農協共販が主な販路となっている。今後の販路としては、産直を志向する農業者は最も多い。品目では、施設野菜、果樹、コメで産直を志向する意見が強い。コメは大規模経営体も産直を志向している。

J A 共同販売は 2 番目に出荷を希望する農業者が多く、特に、認定農業者、専業農家にとって、品目ではにんじん、ねぎにおいて重要な販路となっている。

法人経営体においては、J A 以外の集出荷団体への販路開拓を目指す状況もある。

2. 特に労働力が不足する作業工程への対応策を進める必要がある

果樹では、収穫、剪定作業が不足している。にんじんでは、箱詰め、ほ場からの運搬、洗浄の工程が不足している。ねぎでは選別・箱詰めが不足している。稲では田植え時の補助が不足している。その他の野菜では、袋詰め等の商品化作業、収穫、荷造りが不足している。

これらの作業工程について、共選化、機械化、労働力の育成等、いずれかの対応を選択し、進めることが有効と考えられる。

3. 中間管理事業の導入に向けた検討の必要がある

中間管理事業については、検討するとの回答が 22 件、中間管理機構に貸したいとの回答が 21 件、合計して 43 名の農業者から、中間管理機構に貸す可能性が示された。地区別では、島田 5 名、麦丸 4 名、萱田町 4 名、桑納 3 名、寺台 3 名、上高野 3 名、下高野 3 名等から上がっている。このうち、麦丸、桑納、島田には規模拡大希望者があるが、ほかの地区には規模拡大希望者がいない。これらの地区を中心に、固定資産税の軽減等の中間管理事業のメリットを普及するとともに、農地の借り手の確保に取り組み、農地中間管理事業の導入を進める必要がある。併せて、基盤未整備の農地は、中間管理機構による基盤整備の検討を進める必要がある。

4. 法人化を検討する農業者が存在

認定農業者を中心に 8 名の農業者が法人化を検討している。また、地域共同の法人化を検討すべきとの意見は佐山、神野等の地区で計 15 件あった。後継者不在による農業経営の消失を防ぐため、法人化の検討が必要と考えられる。

5. 収益の安定・向上に向けた栽培上の課題への対応を進める必要がある

品質・収量の向上対策の必要性が専業農家や法人経営体、認定農業者、面積規模の大きい経営体といった中手的な担い手で課題としてあがっている。自然環境の変化、病害虫、鳥獣被害への対応も課題となっている。今後、品目や地域等により、収益の安定・向上に向けた検討・研究課題を設定し、研究・検討を支援することで、収益の安定・向上に結び付ける必要がある。

特に酪農では、10年後においても離農を明言する経営体はなく、3件の経営体が6次産業化を志向している。今後経営体間のコミュニケーションを密にし、共同して6次産業化に取り組み経営を拡大する等、都市近郊の立地を踏まえ酪農業が継続発展する方策を検討する必要がある。

6. 将来的に担い手が消失し農地の荒廃が予想される地域がある

一定規模の耕作面積を有しながら後継者のいない回答者が8名存在している。こうした回答者が耕作する地区を整理した結果、水田・畑の両方で上高野がみられ、その他水田では宮内、萱田下、麦丸、畑では逆水、萱田町、大和田新田下となった。こうした地域で将来的に担い手が消失し耕作放棄地が増加する可能性がある。

7. 規模拡大を希望する農家への支援は急務である

今後の農業経営の展望について、10年後は「離農・引退」を考えている農業者が20.3%、「分からない」と考えている農業者が37.5%いる現状を鑑みると、担い手の不足は避けられない課題の一つである。このような中で規模拡大を希望する農家の存在は貴重で、地域の営農を支える力になると思われることから、早急に支援を行うことにより、早期に成果が得られると考えられる。

8. 農業に関し意見や要望を持つ農業者が多い

本アンケート調査において、記載式で意見を記載する問を設けたところ、農地や担い手、営農環境、販売等様々な意見が寄せられた。これらの意見は現在の農業に何が必要なのか、示唆に富んでいると考えられることから、頂いた意見について施策を考慮する際に活かしていく必要がある。

市民アンケート調査

八千代市農業振興計画に係る市民アンケート調査概要

(1) 調査目的

八千代市農業振興計画の策定にあたり、現状の把握や施策の立案等の参考とするため、市民の意見を収集するアンケート調査を実施した。

(2) 調査期間

2019年12月6日～2020年1月10日が回答期間となるように郵送により配布・回収

(3) 対象者

<市民>

市内在住の方を対象として、無作為抽出した1,500名

(4) 回収率

配布数	返送数	有効回答数
1,500通	8通	485通 (32.5%)

(5) 回答の見方

- ・ 回答率(%)は、単純集計は小数点第2位を四捨五入し少数点第1位まで、クロス集計は小数点第1位を四捨五入して表示している。このため合計値は100%とはならない場合がある。
- ・ 回答には、単数回答と複数回答がある。複数回答の場合、その回答率(%)の合計が100%を超える場合がある。
- ・ 傾向を掴みやすくするため、地区を「農村ゾーン」「混在ゾーン」「市街地ゾーン」に分けて分析している箇所がある。ゾーンごとの大字の振り分けは以下のとおり。

農村ゾーン			混在ゾーン	市街地ゾーン		
小池	神野	下高野	吉橋	緑が丘	高津東	勝田台南
神久保	保品	尾崎	緑が丘西	大和田新田	八千代台北	勝田
真木野	桑橋	麦丸	萱田	萱田町	八千代台西	
大学町	島田台		ゆりのき台	大和田	八千代台東	
佐山	島田		村上	村上南	八千代台南	
平戸	桑納		上高野	下市場	勝田台北	
堀の内	米本			高津	勝田台	

※ 市民アンケートの居住地別クロス分析で用いている農村ゾーン、混在ゾーン、市街地ゾーンの区分は、農業者アンケートで用いている耕作地域の区分と異なる箇所がある。

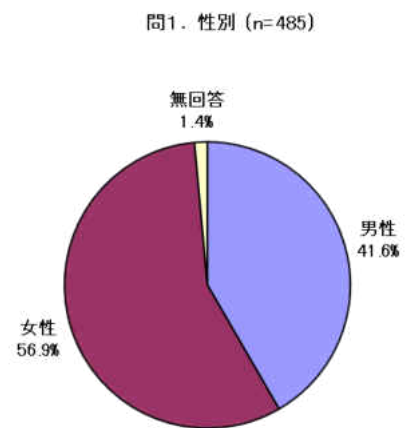
市民アンケート調査結果

I 回答者の属性について

問1. 性別

回答者の性別は、「男性」が41.6%、「女性」が56.9%と女性の方が多くみられた。

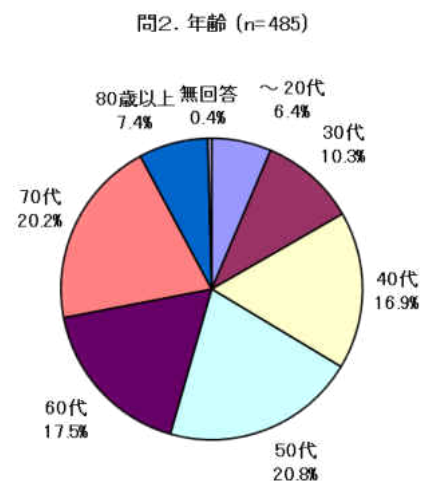
	回答数	比率
男性	202	41.6%
女性	276	56.9%
無回答	7	1.4%
合計	485	100.0%



問2. 年齢

回答者の年齢は「50代」が20.8%で最も多く、次いで「70代」が20.2%、「60代」が17.5%と多くみられた。

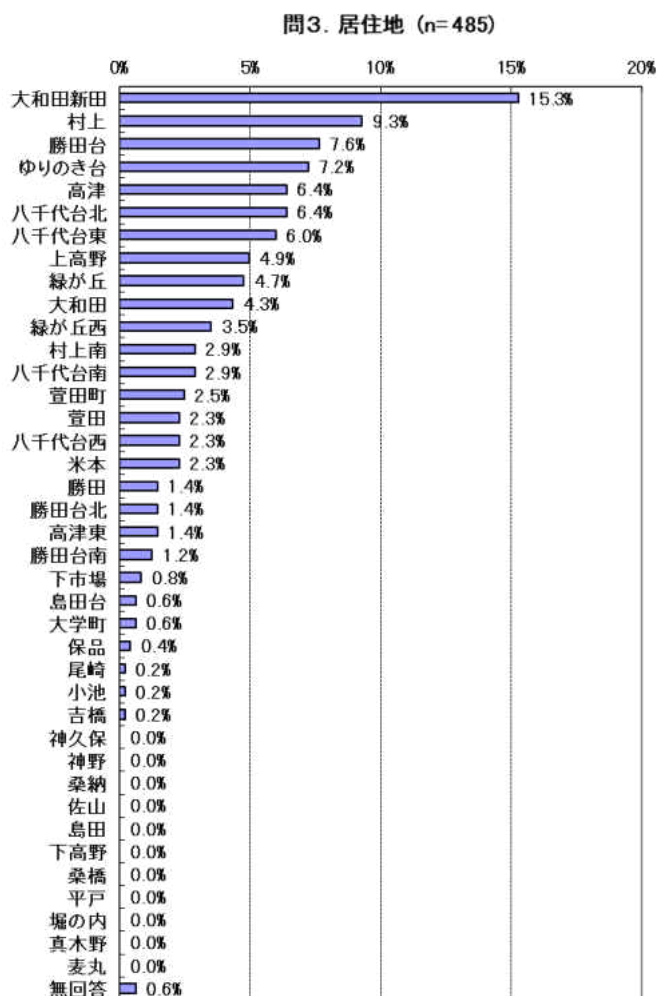
	回答数	比率
～20代	31	6.4%
30代	50	10.3%
40代	82	16.9%
50代	101	20.8%
60代	85	17.5%
70代	98	20.2%
80歳以上	36	7.4%
無回答	2	0.4%
合計	485	100.0%



問3. 居住地

回答者の居住地は「大和田新田」が 15.3%と最も多く、次いで「村上」が 9.3%、「勝田台」が 7.6%と多くみられた。

	回答数	比率
大和田新田	74	15.3%
村上	45	9.3%
勝田台	37	7.6%
ゆりのき台	35	7.2%
高津	31	6.4%
八千代台北	31	6.4%
八千代台東	29	6.0%
上高野	24	4.9%
緑が丘	23	4.7%
大和田	21	4.3%
緑が丘西	17	3.5%
村上南	14	2.9%
八千代台南	14	2.9%
萱田町	12	2.5%
萱田	11	2.3%
八千代台西	11	2.3%
米本	11	2.3%
勝田	7	1.4%
勝田台北	7	1.4%
高津東	7	1.4%
勝田台南	6	1.2%
下市場	4	0.8%
島田台	3	0.6%
大学町	3	0.6%
保品	2	0.4%
尾崎	1	0.2%
小池	1	0.2%
吉橋	1	0.2%
神久保	0	0.0%
神野	0	0.0%
桑納	0	0.0%
佐山	0	0.0%
島田	0	0.0%
下高野	0	0.0%
桑橋	0	0.0%
平戸	0	0.0%
堀の内	0	0.0%
真木野	0	0.0%
麦丸	0	0.0%
無回答	3	0.6%
合計	485	100.0%

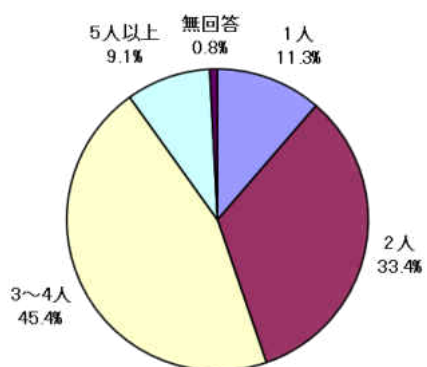


問4. 世帯員数

世帯員数は「3～4人」が45.4%と最も多く、次いで「2人」が33.4%、「1人」が11.3%と多くみられた。

	回答数	比率
1人	55	11.3%
2人	162	33.4%
3～4人	220	45.4%
5人以上	44	9.1%
無回答	4	0.8%
合計	485	100.0%

問4. 世帯員数 (n=485)



II 農産物の購入状況について

問5. 外食・中食の頻度

「週に1～5回程度は、外食や購入する惣菜・弁当である」が54.4%と最も多く、次いで「ない（基本的に自宅で調理した食事を食べる）」が35.1%と多くみられた。

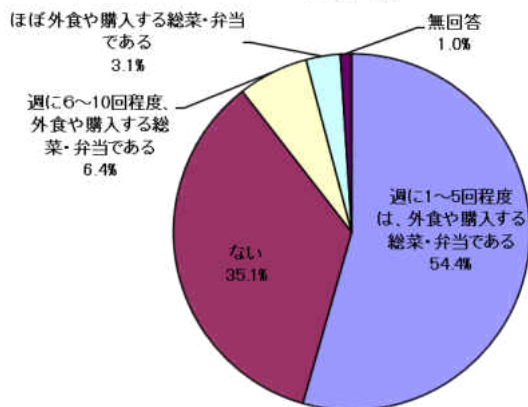
年齢別クロス集計では、「～20代」では外食・中食を高頻度で利用する回答者の割合が高い一方で、「30代」、「40代」、「50代」では「週に1～5回程度は、外食や購入する惣菜・弁当である」の割合が高くなり、さらに「60代」以上の層では「ない（基本的に自宅で調理した食事を食べる）」の割合が高くなった。

居住地別クロス集計では、「混在ゾーン」と「市街地ゾーン」で「週に1～5回程度は、外食や購入する惣菜・弁当である」の割合が高くみられた。

世帯員数別クロス集計では、「1人」の層で外食・中食を高頻度で利用する回答者の割合が高く、「3～4人」以上の層では「ない（基本的に自宅で調理した食事を食べる）」の割合が低くなった。

	回答数	比率
週に1～5回程度は、外食や購入する惣菜・弁当である	264	54.4%
ない(基本的に自宅で調理した食事を食べる)	170	35.1%
週に6～10回程度、外食や購入する惣菜・弁当である	31	6.4%
ほぼ外食や購入する惣菜・弁当である	15	3.1%
無回答	5	1.0%
合計	485	100.0%
n	485	

問5. 普段あなたが、外食や購入する惣菜・弁当で食事をとる機会の頻度について (n=485)



<年齢別・クロス集計>

	n	合計	た ない 食 事 を 食 べ る （ 基 本 的 に 自 宅 で 調 理 し ）	購 週 入 に 1 〜 5 回 程 度 は 、 外 食 や	購 週 入 に 6 〜 1 0 回 程 度 、 外 食 や	当 ほ ぼ 外 食 や 購 入 す る 総 菜 ・ 弁 当 で ある	無 回 答
全体	485	485	170	264	31	15	5
		100%	35%	54%	6%	3%	1%
～ 20代	31	31	7	16	5	3	0
		100%	23%	52%	16%	10%	0%
30代	50	50	11	34	4	1	0
		100%	22%	68%	8%	2%	0%
40代	82	82	18	54	7	3	0
		100%	22%	66%	9%	4%	0%
50代	101	101	25	65	7	3	1
		100%	25%	64%	7%	3%	1%
60代	85	85	37	41	4	2	1
		100%	44%	48%	5%	2%	1%
70代	98	98	54	39	3	1	1
		100%	55%	40%	3%	1%	1%
80歳以上	36	36	18	15	1	2	0
		100%	50%	42%	3%	6%	0%
無回答	2	2	0	0	0	0	2
		100%	0%	0%	0%	0%	100%

<居住地別・クロス集計※>

	n	合計	た ない 食 事 を 食 べ る （ 基 本 的 に 自 宅 で 調 理 し ）	購 週 入 に 1 〜 5 回 程 度 は 、 外 食 や	購 週 入 に 6 〜 1 0 回 程 度 、 外 食 や	当 ほ ぼ 外 食 や 購 入 す る 総 菜 ・ 弁 当 で ある	無 回 答
全体	485	485	170	264	31	15	5
		100%	35%	54%	6%	3%	1%
農村ゾーン	21	21	9	9	2	0	1
		100%	43%	43%	10%	0%	5%
混在ゾーン	133	133	44	71	12	6	0
		100%	33%	53%	9%	5%	0%
市街地ゾーン	328	328	117	184	16	9	2
		100%	36%	56%	5%	3%	1%
無回答	3	3	0	0	1	0	2
		100%	0%	0%	33%	0%	67%

<世帯員数別・クロス集計>

	n	合計	た ない 食 事 を 食 べ る (基 本 的 に 自 宅 で 調 理 し)	購 週 入 に 1 〜 5 回 程 度 は 、 外 食 や	購 週 入 に 6 〜 1 0 回 程 度 、 外 食 や	当 ほ ぼ 外 食 や 購 入 す る 総 菜 ・ 弁 当 で あ る	無 回 答
全体	485	485	170	264	31	15	5
		100%	35%	54%	6%	3%	1%
1人	55	55	23	22	3	7	0
		100%	42%	40%	5%	13%	0%
2人	162	162	67	86	6	3	0
		100%	41%	53%	4%	2%	0%
3〜4人	220	220	65	126	21	5	3
		100%	30%	57%	10%	2%	1%
5人以上	44	44	14	29	1	0	0
		100%	32%	66%	2%	0%	0%
無回答	4	4	1	1	0	0	2
		100%	25%	25%	0%	0%	50%

問6. 農産物を購入する店舗形態・最も利用する店舗（購入する店舗は複数回答）

農産物を購入する店舗では「スーパー（通常の売り場）」が91.8%と最も多く、次いで「スーパー（地場野菜コーナー）」が56.3%、「直売所・道の駅」が42.7%が多くみられた。

最も利用する店舗では「スーパー（通常の売り場）」が73.8%と最も多く、他の選択肢は全て10%以下となった。

年齢別クロス集計では、農産物を購入する店舗では、どの年齢層でも「スーパー（通常の売り場）」が高くみられる中で、「スーパー（地場野菜コーナー）」と「直売所・道の駅」で「～20代」の割合が低く「50代」の割合が高い傾向がみられた。最も利用する店舗では、どの年齢層でも「スーパー（通常の売り場）」が多数を占める中、「60代」以上の層で「スーパー（地場野菜コーナー）」の割合が高い傾向がみられた。

居住地別クロス集計では、農産物を購入する店舗では、「農村ゾーン」で「スーパー（地場野菜コーナー）」の割合が低く「農家の庭先」の割合が高い、「市街地ゾーン」で「八百屋・青果店」の割合が高いといった傾向がみられた。最も利用する店舗では、どの居住地でも「スーパー（通常の売り場）」が多数を占めた。

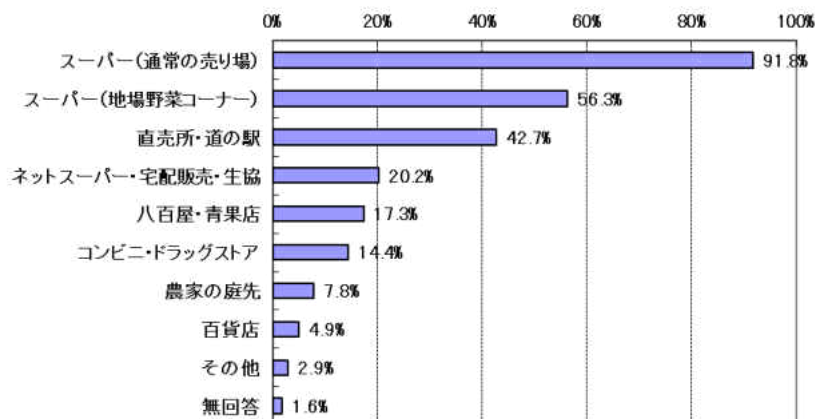
農産物を購入する店舗（複数回答）

	回答数	比率
スーパー（通常の売り場）	445	91.8%
スーパー（地場野菜コーナー）	273	56.3%
直売所・道の駅	207	42.7%
ネットスーパー・宅配販売・生協	98	20.2%
八百屋・青果店	84	17.3%
コンビニ・ドラッグストア	70	14.4%
農家の庭先	38	7.8%
百貨店	24	4.9%
その他	14	2.9%
無回答	8	1.6%
合計	1261	-
n	485	

その他

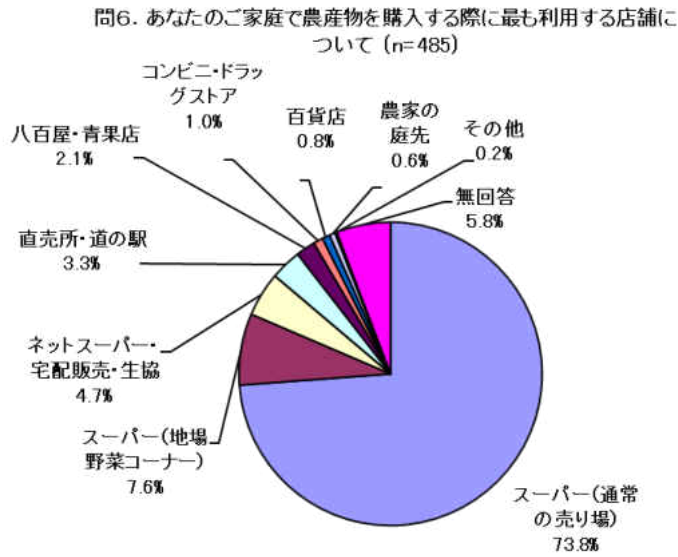
まちの駅
農協 …2件
農家の移動店舗
農家さんが特定の場所で販売
朝市
通信販売
自家消費
畑で取れた物を頂いている
家庭菜園でのいただきもの
家庭菜園
無回答 …3件

問6. あなたのご家庭で農産物を購入する際に利用する店舗について (n=485)



最も利用する店舗

	回答数	比率
スーパー(通常の売り場)	358	73.8%
スーパー(地場野菜コーナー)	37	7.6%
ネットスーパー・宅配販売・生協	23	4.7%
直売所・道の駅	16	3.3%
八百屋・青果店	10	2.1%
コンビニ・ドラッグストア	5	1.0%
百貨店	4	0.8%
農家の庭先	3	0.6%
その他	1	0.2%
無回答	28	5.8%
合計	485	100.0%



<年齢別・クロス集計>

農産物を購入する店舗（複数回答）

	n	合計	スーパー（通常の売り場）	スーパー（地場野菜コーナー）	百貨店	八百屋・青果店	直売所・道の駅	コンビニ・ドラッグストア	生協	ネットスーパー・宅配販売・	農家の庭先	その他	無回答
全体	485	1261	445	273	24	84	207	70	98	38	14	8	
		260%	92%	56%	5%	17%	43%	14%	20%	8%	3%	2%	
～20代	31	71	31	13	1	3	9	8	6	0	0	0	
		229%	100%	42%	3%	10%	29%	26%	19%	0%	0%	0%	
30代	50	129	49	26	4	11	17	12	7	2	0	1	
		258%	98%	52%	8%	22%	34%	24%	14%	4%	0%	2%	
40代	82	222	77	54	2	10	33	15	21	8	1	1	
		271%	94%	66%	2%	12%	40%	18%	26%	10%	1%	1%	
50代	101	296	96	71	6	17	52	14	25	10	4	1	
		293%	95%	70%	6%	17%	51%	14%	25%	10%	4%	1%	
60代	85	228	76	51	4	17	42	8	16	11	3	0	
		268%	89%	60%	5%	20%	49%	9%	19%	13%	4%	0%	
70代	98	233	83	45	6	19	42	11	16	4	3	4	
		238%	85%	46%	6%	19%	43%	11%	16%	4%	3%	4%	
80歳以上	36	76	31	12	1	7	11	2	6	3	2	1	
		211%	86%	33%	3%	19%	31%	6%	17%	8%	6%	3%	
無回答	2	6	2	1	0	0	1	0	1	0	1	0	
		300%	100%	50%	0%	0%	50%	0%	50%	0%	50%	0%	

最も利用する店舗

	n	合計	スーパー（通常の売り場）	スーパー（地場野菜コーナー）	百貨店	八百屋・青果店	直売所・道の駅	コンビニ・ドラッグストア	生協	ネットスーパー・宅配販売・	農家の庭先	その他	無回答
全体	485	485	358	37	4	10	16	5	23	3	1	28	
		100%	74%	8%	1%	2%	3%	1%	5%	1%	0%	6%	
～20代	31	31	22	0	0	1	3	0	2	0	0	3	
		100%	71%	0%	0%	3%	10%	0%	6%	0%	0%	10%	
30代	50	50	40	1	0	2	2	1	2	0	0	2	
		100%	80%	2%	0%	4%	4%	2%	4%	0%	0%	4%	
40代	82	82	68	4	1	1	2	2	2	0	0	2	
		100%	83%	5%	1%	1%	2%	2%	2%	0%	0%	2%	
50代	101	101	77	7	1	1	2	1	6	2	1	3	
		100%	76%	7%	1%	1%	2%	1%	6%	2%	1%	3%	
60代	85	85	62	11	1	1	1	0	3	1	0	5	
		100%	73%	13%	1%	1%	1%	0%	4%	1%	0%	6%	
70代	98	98	66	10	1	2	4	0	6	0	0	9	
		100%	67%	10%	1%	2%	4%	0%	6%	0%	0%	9%	
80歳以上	36	36	21	4	0	2	2	1	2	0	0	4	
		100%	58%	11%	0%	6%	6%	3%	6%	0%	0%	11%	
無回答	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	

<居住地別・クロス集計※>

農産物を購入する店舗（複数回答）

	n	合計	スーパー（通常の売り場）	スーパー（地場野菜コーナー）	百貨店	八百屋・青果店	直売所・道の駅	コンビニ・ドラッグストア	生協	ネットスーパー・宅配販売・	農家の庭先	その他	無回答
全体	485	1261	445	273	24	84	207	70	98	38	14	8	
		260%	92%	56%	5%	17%	43%	14%	20%	8%	3%	2%	
農村ゾーン	21	48	19	8	0	0	10	2	3	3	3	0	
		229%	90%	38%	0%	0%	48%	10%	14%	14%	14%	0%	
混在ゾーン	133	345	124	79	10	7	55	22	30	11	3	4	
		259%	93%	59%	8%	5%	41%	17%	23%	8%	2%	3%	
市街地ゾーン	328	860	299	185	14	77	140	46	64	24	7	4	
		262%	91%	56%	4%	23%	43%	14%	20%	7%	2%	1%	
無回答	3	8	3	1	0	0	2	0	1	0	1	0	
		267%	100%	33%	0%	0%	67%	0%	33%	0%	33%	0%	

最も利用する店舗

	n	合計	スーパー（通常の売り場）	スーパー（地場野菜コーナー）	百貨店	八百屋・青果店	直売所・道の駅	コンビニ・ドラッグストア	生協	ネットスーパー・宅配販売・	農家の庭先	その他	無回答
全体	485	485	358	37	4	10	16	5	23	3	1	28	
		100%	74%	8%	1%	2%	3%	1%	5%	1%	0%	6%	
農村ゾーン	21	21	15	1	0	0	2	1	0	0	0	2	
		100%	71%	5%	0%	0%	10%	5%	0%	0%	0%	10%	
混在ゾーン	133	133	98	11	0	0	3	1	8	0	0	12	
		100%	74%	8%	0%	0%	2%	1%	6%	0%	0%	9%	
市街地ゾーン	328	328	243	25	4	10	10	3	15	3	1	14	
		100%	74%	8%	1%	3%	3%	1%	5%	1%	0%	4%	
無回答	3	3	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
		100%	67%	0%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	

問6 - 1. 最も利用する店舗で購入する農産物の金額の割合

最も利用する店舗で購入する農産物の金額の割合は、「スーパー（通常の売り場）」では「3割」が最も多く、「スーパー（地場野菜コーナー）」では「3割」が、「直売所・道の駅」では「7割」と「8割」が最も多い。

	n	合計	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	無回答
全体	485	485	11	31	85	58	72	36	66	54	24	9	39
		100%	2%	6%	18%	12%	15%	7%	14%	11%	5%	2%	8%
スーパー(通常の売り場)	358	358	6	22	63	44	54	22	48	43	20	8	28
		100%	2%	6%	18%	12%	15%	6%	13%	12%	6%	2%	8%
スーパー(地場野菜コーナー)	37	37	1	5	10	5	7	3	2	2	0	0	2
		100%	3%	14%	27%	14%	19%	8%	5%	5%	0%	0%	5%
百貨店	4	4	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1
		100%	0%	0%	25%	0%	0%	25%	25%	0%	0%	0%	25%
八百屋・青果店	10	10	1	0	1	1	1	3	1	0	1	0	1
		100%	10%	0%	10%	10%	10%	30%	10%	0%	10%	0%	10%
直売所・道の駅	16	16	1	1	1	2	0	2	4	4	0	0	1
		100%	6%	6%	6%	13%	0%	13%	25%	25%	0%	0%	6%
コンビニ・ドラッグストア	5	5	0	0	1	0	2	0	2	0	0	0	0
		100%	0%	0%	20%	0%	40%	0%	40%	0%	0%	0%	0%
ネットスーパー・宅配販売・生協	23	23	0	2	2	1	5	3	5	1	3	0	1
		100%	0%	9%	9%	4%	22%	13%	22%	4%	13%	0%	4%
農家の庭先	3	3	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	67%	0%	33%	0%	0%	0%
その他	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%
無回答	28	28	2	1	6	5	3	0	2	3	0	1	5
		100%	7%	4%	21%	18%	11%	0%	7%	11%	0%	4%	18%

◇ **八千代市における市内外産別農産物の消費額の推計**

以下の数値から、八千代市における市内外産別農産物の消費額を推計した。

- ① 総世帯数（R1 12月末時点 八千代市 HP）

89,887 世帯

- ② 1世帯における米、生鮮野菜、生鮮果実の年間消費額（2018年 家計調査）

113,579 円

- ③ 最も利用する購入先の割合（本アンケート結果 問6）※無回答を除く割合を使用

	回答数	比率
スーパー(通常の売り場)	358	78.3%
スーパー(地場野菜コーナー)	37	8.1%
ネットスーパー・宅配販売・生協	23	5.0%
直売所・道の駅	16	3.5%
八百屋・青果店	10	2.2%
コンビニ・ドラッグストア	5	1.1%
百貨店	4	0.9%
農家の庭先	3	0.7%
その他	1	0.2%
無回答	28	
無回答を除く合計	457	100.0%
n	485	

- ④ 最も利用する購入先における消費額の割合（本アンケート結果 問6-1）

※無回答を除く割合を使用

	n	合計	無回答を除く合計	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	無回答
全体	485	485	446	11	31	85	58	72	36	66	54	24	9	39
		100.0%		2.5%	7.0%	19.1%	13.0%	16.1%	8.1%	14.8%	12.1%	5.4%	2.0%	
スーパー(通常の売り場)	358	358	330	6	22	63	44	54	22	48	43	20	8	28
		100.0%		1.8%	6.7%	19.1%	13.3%	16.4%	6.7%	14.5%	13.0%	6.1%	2.4%	
スーパー(地場野菜コーナー)	37	37	35	1	5	10	5	7	3	2	2	0	0	2
		100.0%		2.9%	14.3%	28.6%	14.3%	20.0%	8.6%	5.7%	5.7%	0.0%	0.0%	
百貨店	4	4	3	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1
		100.0%		0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
八百屋・青果店	10	10	9	1	0	1	1	1	3	1	0	1	0	1
		100.0%		11.1%	0.0%	11.1%	11.1%	11.1%	33.3%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%	
直売所・道の駅	16	16	15	1	1	1	2	0	2	4	4	0	0	1
		100.0%		6.7%	6.7%	6.7%	13.3%	0.0%	13.3%	26.7%	26.7%	0.0%	0.0%	
コンビニ・ドラッグストア	5	5	5	0	0	1	0	2	0	2	0	0	0	0
		100.0%		0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	40.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
ネットスーパー・宅配販売・生協	23	23	22	0	2	2	1	5	3	5	1	3	0	1
		100.0%		0.0%	9.1%	9.1%	4.5%	22.7%	13.6%	22.7%	4.5%	13.6%	0.0%	
農家の庭先	3	3	3	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0
		100.0%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	
その他	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		100.0%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
無回答	28	28	23	2	1	6	5	3	0	2	3	0	1	5
		100.0%												

※ 各購入先における市内外産農産物の消費割合は以下の通り仮定した。

	八千代市産	市外産
スーパー(通常の売り場)	0%	100%
スーパー(地場野菜コーナー)	20%	80%
ネットスーパー・宅配販売・生協	0%	100%
直売所・道の駅	70%	30%
八百屋・青果店	10%	90%
コンビニ・ドラッグストア	0%	100%
百貨店	0%	100%
農家の庭先	100%	0%
その他	0%	100%

※ 最も利用する購入先以外の消費額の推計には、問6 農産物を購入する店舗の割合と上記の各購入先別市内外産割合をかけあわせた数値を用いた。

問6 農産物を購入する店舗 ※無回答を除く割合を使用

	回答数	比率
スーパー(通常の売り場)	445	35.5%
スーパー(地場野菜コーナー)	273	21.8%
直売所・道の駅	207	16.5%
ネットスーパー・宅配販売・生協	98	7.8%
八百屋・青果店	84	6.7%
コンビニ・ドラッグストア	70	5.6%
農家の庭先	38	3.0%
百貨店	24	1.9%
その他	14	1.1%
無回答	8	
無回答を除く合計	1253	100.0%
合計	1261	
n	485	

➤ 計算結果

<八千代市産>

スーパー(地場野菜コーナー) 20%×21.8%

直売所・道の駅 70%×16.5%

八百屋・青果店 10%×6.7%

農家の庭先 100%×3.0%

合計 19.6%

<市外産>

1-19.6%=80.4%

◇ 推計結果

消費額の推計では、全体として八千代市産が12%、市外産が88%という結果になった。

スーパー（地場野菜コーナー）や直売所・道の駅、農家の庭先では比較的八千代市産の消費額の割合は高いが、それらの購入先を主としている世帯の割合はそれぞれ8%、4%、1%と低く、今後こういった購入先への消費者の誘導の強化により八千代市産農産物の消費拡大が図られる可能性が示される。

消費額(万円)

主な購入先	世帯数		合計消費額	市内外産の内訳		
全体	89,887	100%	1,020,928	八千代市産	121,463	12%
				市外産	899,465	88%
スーパー(通常の売り場)	70,415	78%	799,764	八千代市産	73,387	9%
				市外産	726,376	91%
スーパー(地場野菜コーナー)	7,278	8%	82,657	八千代市産	16,349	20%
				市外産	66,308	80%
百貨店	787	1%	8,936	八千代市産	818	9%
				市外産	8,118	91%
八百屋・青果店	1,967	2%	22,340	八千代市産	3,261	15%
				市外産	19,078	85%
直売所・道の駅	3,147	4%	35,744	八千代市産	17,338	49%
				市外産	18,406	51%
コンビニ・ドラッグストア	983	1%	11,170	八千代市産	1,008	9%
				市外産	10,162	91%
ネットスーパー・宅配販売・生協	4,524	5%	51,381	八千代市産	4,263	8%
				市外産	47,119	92%
農家の庭先	590	1%	6,702	八千代市産	4,906	73%
				市外産	1,796	27%
その他	197	0%	2,234	八千代市産	132	6%
				市外産	2,102	94%

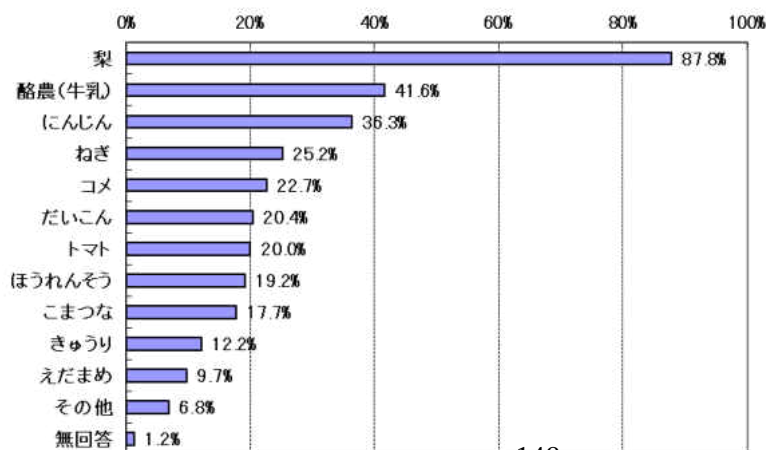
問7. 八千代市の農産物で思い浮かぶもの（複数回答）

「梨」が87.8%と最も多く、次いで「酪農（牛乳）」が41.6%と多くみられた。
 年齢別クロス集計では、「～20代」と「30代」の層では全ての品目で全体の割合を下回っているのに対して、「70代」と「80歳以上」ではほとんど全ての品目で全体の割合以上の割合となった。
 居住地別クロス集計では、「農村ゾーン」では全ての品目で全体の割合を上回っている。「混在ゾーン」と「市街地ゾーン」では大きな差異はみられないが、「市街地ゾーン」では「にんじん」と「酪農（牛乳）」の割合が高い。

	回答数	比率
梨	426	87.8%
酪農(牛乳)	202	41.6%
にんじん	176	36.3%
ねぎ	122	25.2%
コメ	110	22.7%
だいこん	99	20.4%
トマト	97	20.0%
ほうれんそう	93	19.2%
こまつな	86	17.7%
きゅうり	59	12.2%
えだまめ	47	9.7%
その他	33	6.8%
無回答	6	1.2%
合計	1556	-
n	485	

その他	
ピーナッツ(落花生)	8
キャベツ	3
さつまいも	3
里芋	3
なす	3
レタス	3
いちご	3
キウイ	2
玉葱	2
ブロッコリー	2
ブルーベリー	2
ウコン	1
カブ	1
カボチャ	1
キクラゲ	1
牛肉	1
シイタケ	1
ジャガイモ	1
白ウリ	1
そば	1
菜の花	1
白菜	1
ブドウ	1
みそ	1
もち	1
モロヘイヤ	1
千葉県ならあるが八千代市ではなし	1
記憶なし	1
すみません。わかりません	1
思い浮かばない	2
無回答	4
	58

問7. 八千代市といえばどのような農産物を思い浮かべますか。(n=485)



<年齢別・クロス集計>

	n	合計	コメ	にんじん	ねぎ	だいこん	ほうれんそう	こまつな	梨	えだまめ	トマト	きゅうり	酪農(牛乳)	その他	無回答
全体	485	1556	110	176	122	99	93	86	426	47	97	59	202	33	6
		321%	23%	36%	25%	20%	19%	18%	88%	10%	20%	12%	42%	7%	1%
～20代	31	63	6	10	2	1	2	2	25	1	1	0	10	3	0
		203%	19%	32%	6%	3%	6%	6%	81%	3%	3%	0%	32%	10%	0%
30代	50	95	8	6	5	2	3	5	40	2	3	2	15	2	2
		190%	16%	12%	10%	4%	6%	10%	80%	4%	6%	4%	30%	4%	4%
40代	82	207	19	25	13	8	6	8	70	3	7	4	37	6	1
		252%	23%	30%	16%	10%	7%	10%	85%	4%	9%	5%	45%	7%	1%
50代	101	281	17	29	25	15	11	14	89	7	13	5	48	7	1
		278%	17%	29%	25%	15%	11%	14%	88%	7%	13%	5%	48%	7%	1%
60代	85	280	15	31	19	21	20	18	73	8	20	10	38	5	2
		329%	18%	36%	22%	25%	24%	21%	86%	9%	24%	12%	45%	6%	2%
70代	98	448	33	56	40	34	35	29	94	15	36	25	43	8	0
		457%	34%	57%	41%	35%	36%	30%	96%	15%	37%	26%	44%	8%	0%
80歳以上	36	176	12	18	17	17	15	10	33	11	17	13	11	2	0
		489%	33%	50%	47%	47%	42%	28%	92%	31%	47%	36%	31%	6%	0%
無回答	2	6	0	1	1	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0
		300%	0%	50%	50%	50%	50%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

<居住地別・クロス集計※>

	n	合計	コメ	にんじん	ねぎ	だいこん	ほうれんそう	こまつな	梨	えだまめ	トマト	きゅうり	酪農(牛乳)	その他	無回答
全体	485	1556	110	176	122	99	93	86	426	47	97	59	202	33	6
		321%	23%	36%	25%	20%	19%	18%	88%	10%	20%	12%	42%	7%	1%
農村ゾーン	21	96	8	8	7	8	7	6	19	4	9	8	9	3	0
		457%	38%	38%	33%	38%	33%	29%	90%	19%	43%	38%	43%	14%	0%
混在ゾーン	133	416	35	39	32	22	26	24	120	17	26	17	47	11	0
		313%	26%	29%	24%	17%	20%	18%	90%	13%	20%	13%	35%	8%	0%
市街地ゾーン	328	1033	66	127	81	68	59	56	284	26	62	34	145	19	6
		315%	20%	39%	25%	21%	18%	17%	87%	8%	19%	10%	44%	6%	2%
無回答	3	11	1	2	2	1	1	0	3	0	0	0	1	0	0
		367%	33%	67%	67%	33%	33%	0%	100%	0%	0%	0%	33%	0%	0%

問8. 農産物を購入する際に重視すること（複数回答）

「鮮度」が82.7%と最も多く、次いで「価格」が67.0%、「千葉県産・国産」が62.5%と多くみられた。

年齢別クロス集計では、「40代」以下の層は「価格」、「色・形などの見た目」を、「50代」以上の層は「八千代市産」、「無農薬・減農薬」を重視する傾向がみられた。

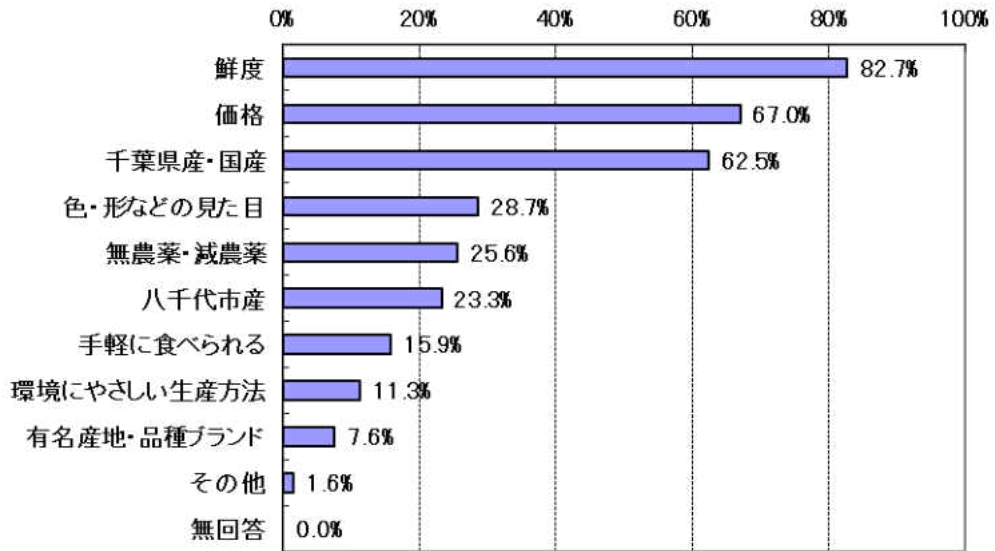
居住地別クロス集計では、「農村ゾーン」で「鮮度」、「色・形などの見た目」、「価格」を重視する割合が低い。

	回答数	比率
鮮度	401	82.7%
価格	325	67.0%
千葉県産・国産	303	62.5%
色・形などの見た目	139	28.7%
無農薬・減農薬	124	25.6%
八千代市産	113	23.3%
手軽に食べられる	77	15.9%
環境にやさしい生産方法	55	11.3%
有名産地・品種ブランド	37	7.6%
その他	8	1.6%
無回答	0	0.0%
合計	1582	-
n	485	

その他

国産
味
なるべく関東・東北以外の産地であること(放射能汚染されていない野菜が望ましい)。
中国産はなるべく買わない
生産者
形は栄養や味に変わらない。無農薬、減農薬は気になるが、見分けられない。
無回答 …2件

問8. 農産物を購入する際に、どのような点を重視しますか。(n=485)



<年齢別・クロス集計>

	n	合計	八千代市産	千葉県産・国産	環境にやさしい生産方法	鮮度	有名産地・品種ブランド	無農薬・減農薬	色・形などの見た目	価格	手軽に食べられる	その他	無回答
全体	485	1582	113	303	55	401	37	124	139	325	77	8	0
		326%	23%	62%	11%	83%	8%	26%	29%	67%	16%	2%	0%
～20代	31	93	3	15	2	23	2	4	14	25	5	0	0
		300%	10%	48%	6%	74%	6%	13%	45%	81%	16%	0%	0%
30代	50	164	4	31	6	36	7	8	21	38	11	2	0
		328%	8%	62%	12%	72%	14%	16%	42%	76%	22%	4%	0%
40代	82	256	13	42	3	67	9	13	32	63	13	1	0
		312%	16%	51%	4%	82%	11%	16%	39%	77%	16%	1%	0%
50代	101	341	27	69	13	85	4	28	30	70	14	1	0
		338%	27%	68%	13%	84%	4%	28%	30%	69%	14%	1%	0%
60代	85	275	20	56	11	71	10	27	17	51	11	1	0
		324%	24%	66%	13%	84%	12%	32%	20%	60%	13%	1%	0%
70代	98	325	33	64	12	90	2	33	19	58	12	2	0
		332%	34%	65%	12%	92%	2%	34%	19%	59%	12%	2%	0%
80歳以上	36	121	12	24	8	28	3	10	6	18	11	1	0
		336%	33%	67%	22%	78%	8%	28%	17%	50%	31%	3%	0%
無回答	2	7	1	2	0	1	0	1	0	2	0	0	0
		350%	50%	100%	0%	50%	0%	50%	0%	100%	0%	0%	0%

<居住地別・クロス集計※>

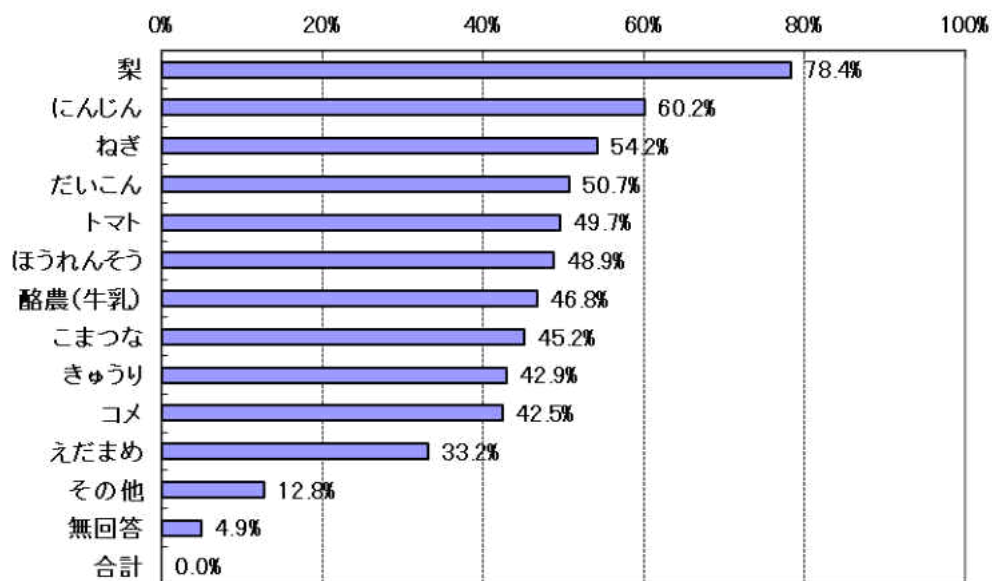
	n	合計	八千代市産	千葉県産・国産	環境にやさしい生産方法	鮮度	有名産地・品種ブランド	無農薬・減農薬	色・形などの見た目	価格	手軽に食べられる	その他	無回答
全体	485	1582	113	303	55	401	37	124	139	325	77	8	0
		326%	23%	62%	11%	83%	8%	26%	29%	67%	16%	2%	0%
農村ゾーン	21	61	6	11	3	14	3	7	1	11	4	1	0
		290%	29%	52%	14%	67%	14%	33%	5%	52%	19%	5%	0%
混在ゾーン	133	443	32	84	17	111	9	31	41	93	23	2	0
		333%	24%	63%	13%	83%	7%	23%	31%	70%	17%	2%	0%
市街地ゾーン	328	1068	74	205	35	274	25	85	97	218	50	5	0
		326%	23%	63%	11%	84%	8%	26%	30%	66%	15%	2%	0%
無回答	3	10	1	3	0	2	0	1	0	3	0	0	0
		333%	33%	100%	0%	67%	0%	33%	0%	100%	0%	0%	0%

問9. 農産物を購入する場所で見たとことのある八千代市産農産物について（複数回答）

「梨」が78.4%と最も多く、次いで「にんじん」が60.2%、「ねぎ」が54.2%と多くみられた。
 年齢別クロス集計では、「～20代」と「30代」では全ての品目で全体の割合を下回っており、「40代」以上から全体的に割合が高くなっていく傾向がみられた。
 居住地別クロス集計では、地域による大きな差異は認められないが、「農村ゾーン」では多くで比較的高い割合がみられた。

	回答数	比率
梨	380	78.4%
にんじん	292	60.2%
ねぎ	263	54.2%
だいこん	246	50.7%
トマト	241	49.7%
ほうれんそう	237	48.9%
酪農(牛乳)	227	46.8%
こまつな	219	45.2%
きゅうり	208	42.9%
コメ	206	42.5%
えだまめ	161	33.2%
その他	62	12.8%
無回答	24	4.9%
合計	2766	-
n	485	

問9. 買い物を行う方が農産物を購入する場所で見たとことのある八千代市産農産物について (n=485)



その他	
いちご	8
さつまいも	7
なし(無し)	7
ナス	7
キウイ	6
ブロッコリー	6
白菜	5
キャベツ	4
とうもろこし	4
かぶ	3
さといも	3
しいたけ	3
落花生、ピーナッツ	3
くり	2
じゃがいも	2
ピーマン	2
レタス	2
玉葱、たまねぎ	2
フキ、ふき	2
いちじく	1
イモ類	1
ウコン	1
オクラ	1
おもち	1
カキ	1
カボチャ	1
からし菜	1
キクラゲ	1
牛肉	1
クウシン菜	1
ごぼう	1
サラダ菜	1
ししとう	1
しょうが	1
新ショウガ	1
ターサイ	1
高菜	1
たけのこ	1
チンゲン菜	1
とうがらし	1
とうがん	1
パクチー	1
ブドウ	1
ブルーベリー	1
他薬物	1
みそ	1
モロヘイヤ	1
ヤーコン	1
ユズ	1
リーフレタス	1
白ウリ	1
菜の花	1
わからない	1
千葉県ならあるが八千代市ではなし	1
八千代市産を意識しない千葉だと買う	1
スーパーではあまり八千代市産はないと思います	1
スーパーには八千代市産を扱っていない	1
市内産か分からない	1
記憶なし	1
気にしたことがない	1
無回答	6
	125

<年齢別・クロス集計>

	n	合計	コメ	にんじん	ねぎ	だいこん	ほうれんそう	こまつな	梨	えだまめ	トマト	きゅうり	酪農（牛乳）	その他	無回答
全体	485	2766	206	292	263	246	237	219	380	161	241	208	227	62	24
		570%	42%	60%	54%	51%	49%	45%	78%	33%	50%	43%	47%	13%	5%
～ 20代	31	118	10	16	10	7	7	6	20	6	9	8	11	6	2
		381%	32%	52%	32%	23%	23%	19%	65%	19%	29%	26%	35%	19%	6%
30代	50	220	20	24	19	16	17	19	31	14	15	15	17	7	6
		440%	40%	48%	38%	32%	34%	38%	62%	28%	30%	30%	34%	14%	12%
40代	82	481	35	52	44	39	40	37	63	31	44	34	49	8	5
		587%	43%	63%	54%	48%	49%	45%	77%	38%	54%	41%	60%	10%	6%
50代	101	610	41	61	63	53	58	50	84	40	53	46	48	11	2
		604%	41%	60%	62%	52%	57%	50%	83%	40%	52%	46%	48%	11%	2%
60代	85	503	35	53	48	50	45	43	65	24	44	39	39	13	5
		592%	41%	62%	56%	59%	53%	51%	76%	28%	52%	46%	46%	15%	6%
70代	98	599	49	60	56	55	51	46	84	33	54	46	47	14	4
		611%	50%	61%	57%	56%	52%	47%	86%	34%	55%	47%	48%	14%	4%
80歳以上	36	219	15	24	21	24	17	17	32	12	20	19	15	3	0
		608%	42%	67%	58%	67%	47%	47%	89%	33%	56%	53%	42%	8%	0%
無回答	2	16	1	2	2	2	2	1	1	1	2	1	1	0	0
		800%	50%	100%	100%	100%	100%	50%	50%	50%	100%	50%	50%	0%	0%

<居住地別・クロス集計※>

	n	合計	コメ	にんじん	ねぎ	だいこん	ほうれんそう	こまつな	梨	えだまめ	トマト	きゅうり	酪農（牛乳）	その他	無回答
全体	485	2766	206	292	263	246	237	219	380	161	241	208	227	62	24
		570%	42%	60%	54%	51%	49%	45%	78%	33%	50%	43%	47%	13%	5%
農村ゾーン	21	140	14	13	13	12	10	10	18	9	14	12	9	5	1
		667%	67%	62%	62%	57%	48%	48%	86%	43%	67%	57%	43%	24%	5%
混在ゾーン	133	765	54	75	74	66	65	62	110	50	69	55	61	17	7
		575%	41%	56%	56%	50%	49%	47%	83%	38%	52%	41%	46%	13%	5%
市街地ゾーン	328	1833	136	201	173	165	159	145	250	100	155	139	155	39	16
		559%	41%	61%	53%	50%	48%	44%	76%	30%	47%	42%	47%	12%	5%
無回答	3	28	2	3	3	3	3	2	2	2	3	2	2	1	0
		933%	67%	100%	100%	100%	100%	67%	67%	67%	100%	67%	67%	33%	0%

問10. 八千代市産農産物の購入状況について（複数回答）

「あれば購入している」が47.0%で最も多く、次いで「特に気にしていない」が36.1%と多くみられた。購入したいが購入に至っていない層は計29.7%みられた。

年齢別クロス集計では、「～20代」と「30代」で「特に気にしていない」が多く、「50代」以上で「あれば購入している」の割合が高くなる傾向がみられた。購入したいが購入に至っていない層は「40代」以上で多数みられた。

居住地別クロス集計では、「農村ゾーン」で「積極的に購入している」の割合が高い。また、「混在ゾーン」、「市街地ゾーン」で「購入したいが、八千代市産かわからない」、「購入したいが、近くに売っていない」という層が一定数存在している。詳細地区では、「勝田台」や「八千代台東」で「積極的に購入している」割合が高い一方で、「大和田新田」、「村上」、「八千代台北」では購入したいが購入に至っていない層の割合が高かった。

最も利用する店舗別クロス集計では、「スーパー（地場野菜コーナー）」と「直売所・道の駅」で「積極的に購入している」と「あれば購入している」の割合が高く、「八百屋・青果店」では購入したいが購入に至っていない層が多くみられた。

購入時に重視すること別クロス集計では、「八千代市産」、「環境に優しい生産方法」を重視する層は「積極的に購入している」、「あれば購入している」の割合が高く、「色・形などの見た目」を重視する層は「特に気にしていない」の割合が高い。また、「鮮度」を重視する層に、購入したいが購入に至っていない回答や「特に気にしていない」「積極的に購入する考えはない」の回答が多くみられた。

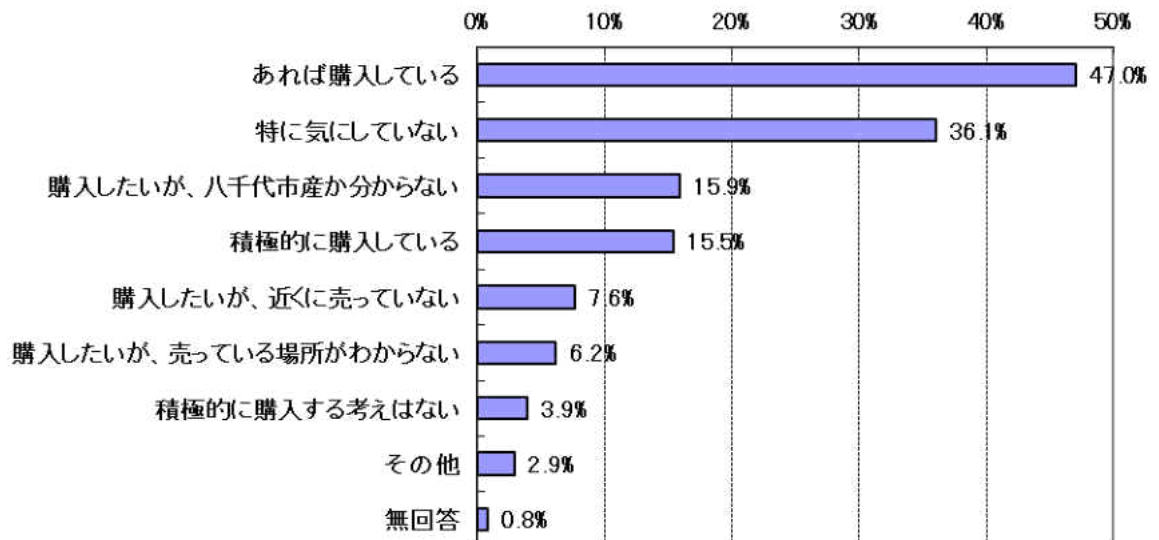
購入したいが購入に至っていない層は「八百屋・青果店」を主に利用しており、八千代市産農産物の主な購入場所となっている「スーパー（地場野菜コーナー）」や「直売所・道の駅」が認知されていないため、利用が少ないことが考えられる。

	回答数	比率
あれば購入している	228	47.0%
特に気にしていない	175	36.1%
購入したいが、八千代市産かわからない	77	15.9%
積極的に購入している	75	15.5%
購入したいが、近くに売っていない	37	7.6%
購入したいが、売っている場所がわからない	30	6.2%
積極的に購入する考えはない	19	3.9%
その他	14	2.9%
無回答	4	0.8%
合計	659	-
n	485	

その他

安い時
ピーナッツ
場所が小さい
農薬や化学肥料を使っていないものがあれば買いたいです
千葉県のものとして購入している
他の農産物より少しでも安ければ買う。
スーパーで八千代産をあまり見かけない
購入場所が遠い
家庭菜園をやっているのでほとんど野菜は買わない
価格とのバランス良ければ
以前は道の駅や農協によく行っていたが、年齢と共に近くで。
無回答 …3件

問10. ご家庭での八千代市産農産物の購入状況について (n= 485)



<年齢別・クロス集計>

	n	合計	積極的に購入している	あれば購入している	購入したいが、近くに売っていない	購入したいが、売っている場所がわからない	購入したいが、八千代市産か分からない	積極的に購入する考えはない	特に気にしていない	その他	無回答
全体	485	659	75	228	37	30	77	19	175	14	4
		136%	15%	47%	8%	6%	16%	4%	36%	3%	1%
～ 20代	31	33	3	9	0	1	2	1	17	0	0
		106%	10%	29%	0%	3%	6%	3%	55%	0%	0%
30代	50	57	2	15	0	1	7	3	27	1	1
		114%	4%	30%	0%	2%	14%	6%	54%	2%	2%
40代	82	96	8	29	8	6	13	0	30	2	0
		117%	10%	35%	10%	7%	16%	0%	37%	2%	0%
50代	101	130	12	56	6	3	12	6	32	3	0
		129%	12%	55%	6%	3%	12%	6%	32%	3%	0%
60代	85	115	14	43	5	6	13	3	28	1	2
		135%	16%	51%	6%	7%	15%	4%	33%	1%	2%
70代	98	160	25	56	12	8	18	5	30	5	1
		163%	26%	57%	12%	8%	18%	5%	31%	5%	1%
80歳以上	36	66	11	19	6	5	11	1	11	2	0
		183%	31%	53%	17%	14%	31%	3%	31%	6%	0%
無回答	2	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0
		100%	0%	50%	0%	0%	50%	0%	0%	0%	0%

<居住地別・クロス集計※>

	n	合計	積極的に購入している	あれば購入している	購入したいが、近くに売っていない	購入したいが、売っている場所がわからない	購入したいが、八千代市産か分からない	積極的に購入する考えはない	特に気にしていない	その他	無回答
全体	485	659	75	228	37	30	77	19	175	14	4
		136%	15%	47%	8%	6%	16%	4%	36%	3%	1%
農村ゾーン	21	31	5	10	1	1	3	1	9	1	0
		148%	24%	48%	5%	5%	14%	5%	43%	5%	0%
混在ゾーン	133	173	21	64	13	3	24	3	41	4	0
		130%	16%	48%	10%	2%	18%	2%	31%	3%	0%
市街地ゾーン	328	452	49	153	23	26	49	15	124	9	4
		138%	15%	47%	7%	8%	15%	5%	38%	3%	1%
無回答	3	3	0	1	0	0	1	0	1	0	0
		100%	0%	33%	0%	0%	33%	0%	33%	0%	0%

詳細地区

	n	合計	積極的に購入している	あれば購入している	購入したいが、近くに売っていない	購入したいが、売っている場所がわからない	購入したいが、八千代市産からではない	積極的に購入する考えはない	特に気にしていない	その他	無回答
全体	485	659	75	228	37	30	77	19	175	14	4
		136%	15%	47%	8%	6%	16%	4%	36%	3%	1%
神久保	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大和田	21	28	0	7	1	3	6	2	8	0	1
		133%	0%	33%	5%	14%	29%	10%	38%	0%	5%
大和田新田	74	105	13	37	8	9	11	1	26	0	0
		142%	18%	50%	11%	12%	15%	1%	35%	0%	0%
尾崎	1	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0
		200%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%
勝田	7	9	1	2	0	0	3	0	3	0	0
		129%	14%	29%	0%	0%	43%	0%	43%	0%	0%
勝田台	37	45	8	17	0	3	2	1	13	0	1
		122%	22%	46%	0%	8%	5%	3%	35%	0%	3%
勝田台北	7	8	2	3	0	0	2	0	1	0	0
		114%	29%	43%	0%	0%	29%	0%	14%	0%	0%
勝田台南	6	9	0	4	0	1	1	0	3	0	0
		150%	0%	67%	0%	17%	17%	0%	50%	0%	0%
神野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
上高野	24	31	5	11	4	0	4	1	5	1	0
		129%	21%	46%	17%	0%	17%	4%	21%	4%	0%
萱田	11	13	1	6	1	0	2	1	2	0	0
		118%	9%	55%	9%	0%	18%	9%	18%	0%	0%
萱田町	12	15	1	6	0	0	0	1	7	0	0
		125%	8%	50%	0%	0%	0%	8%	58%	0%	0%
桑納	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
小池	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%
佐山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
島田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
島田台	3	5	1	2	0	0	0	0	2	0	0
		167%	33%	67%	0%	0%	0%	0%	67%	0%	0%
下市場	4	5	1	3	0	0	0	0	1	0	0
		125%	25%	75%	0%	0%	0%	0%	25%	0%	0%
下高野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
桑橋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
高津	31	43	4	22	2	1	4	1	7	1	1
		139%	13%	71%	6%	3%	13%	3%	23%	3%	3%
高津東	7	9	1	2	0	1	2	0	2	1	0
		129%	14%	29%	0%	14%	29%	0%	29%	14%	0%
大学町	3	4	0	2	0	0	0	1	1	0	0
		133%	0%	67%	0%	0%	0%	33%	33%	0%	0%
平戸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
保品	2	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0
		100%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	50%	0%	0%
堀の内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
真木野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
緑が丘	23	32	4	9	1	1	2	2	12	1	0
		139%	17%	39%	4%	4%	9%	9%	52%	4%	0%
緑が丘西	17	17	2	4	0	0	3	0	8	0	0
		100%	12%	24%	0%	0%	18%	0%	47%	0%	0%
麦丸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
村上	45	66	8	24	5	3	11	0	13	2	0
		147%	18%	53%	11%	7%	24%	0%	29%	4%	0%
村上南	14	19	0	8	1	0	0	3	6	1	0
		136%	0%	57%	7%	0%	0%	21%	43%	7%	0%
八千代台北	31	42	4	11	4	3	8	0	11	1	0
		135%	13%	35%	13%	10%	26%	0%	35%	3%	0%
八千代台西	11	18	1	5	1	0	2	1	6	1	1
		164%	9%	45%	9%	0%	18%	9%	55%	9%	9%
八千代台東	29	45	6	12	2	2	4	2	16	1	0
		155%	21%	41%	7%	7%	14%	7%	55%	3%	0%
八千代台南	14	20	3	5	3	2	2	1	2	2	0
		143%	21%	36%	21%	14%	14%	7%	14%	14%	0%
ゆりのき台	35	44	4	18	3	0	4	1	13	1	0
		126%	11%	51%	9%	0%	11%	3%	37%	3%	0%
吉橋	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0
		200%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
米本	11	17	3	5	1	1	3	0	4	0	0
		155%	27%	45%	9%	9%	27%	0%	36%	0%	0%
無回答	3	3	0	1	0	0	1	0	1	0	0
		100%	0%	33%	0%	0%	33%	0%	33%	0%	0%

<最も利用する店舗別・クロス集計>

	n	合計	積極的に購入している	あれば購入している	購入したいが、近くに売っていない	購入したいが、売っている場所がわからない	購入したいが、八千代市産か分からない	積極的に購入する考えはない	特に気にしていない	その他	無回答
全体	1261	1720	219	657	98	69	173	39	424	32	9
		136%	17%	52%	8%	5%	14%	3%	34%	3%	1%
スーパー(通常の売り場)	445	605	59	211	34	27	69	18	174	10	3
		136%	13%	47%	8%	6%	16%	4%	39%	2%	1%
スーパー(地場野菜コーナー)	273	370	51	155	20	12	32	6	86	6	2
		136%	19%	57%	7%	4%	12%	2%	32%	2%	1%
百貨店	24	31	7	11	1	1	2	1	7	1	0
		129%	29%	46%	4%	4%	8%	4%	29%	4%	0%
八百屋・青果店	84	123	12	43	8	6	16	3	31	3	1
		146%	14%	51%	10%	7%	19%	4%	37%	4%	1%
直売所・道の駅	207	285	51	125	17	8	19	4	57	3	1
		138%	25%	60%	8%	4%	9%	2%	28%	1%	0%
コンビニ・ドラッグストア	70	93	8	31	4	5	8	3	32	2	0
		133%	11%	44%	6%	7%	11%	4%	46%	3%	0%
ネットスーパー・宅配販売・生協	98	123	14	49	6	6	13	3	26	5	1
		126%	14%	50%	6%	6%	13%	3%	27%	5%	1%
農家の庭先	38	57	12	23	4	2	6	0	9	0	1
		150%	32%	61%	11%	5%	16%	0%	24%	0%	3%
その他	14	23	3	7	3	1	5	1	2	1	0
		164%	21%	50%	21%	7%	36%	7%	14%	7%	0%
無回答	8	10	2	2	1	1	3	0	0	1	0
		125%	25%	25%	13%	13%	38%	0%	0%	13%	0%

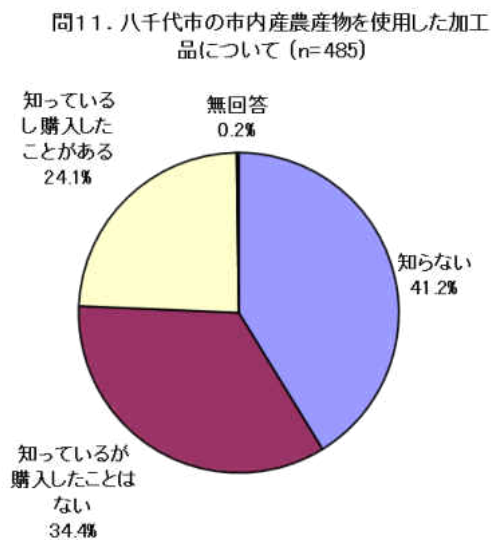
<農産物の購入時重視する点別・クロス集計>

	n	合計	積極的に購入している	あれば購入している	購入したいが、近くに売っていない	購入したいが、売っている場所がわからない	購入したいが、八千代市産か分からない	積極的に購入する考えはない	特に気にしていない	その他	無回答
全体	1582	2269	292	832	151	96	262	59	522	43	12
		143%	18%	53%	10%	6%	17%	4%	33%	3%	1%
八千代市産	113	182	52	79	15	8	14	2	8	3	1
		161%	46%	70%	13%	7%	12%	2%	7%	3%	1%
千葉県産・国産	303	437	50	174	31	19	54	10	88	8	3
		144%	17%	57%	10%	6%	18%	3%	29%	3%	1%
環境にやさしい生産方法	55	90	15	40	7	4	10	2	9	3	0
		164%	27%	73%	13%	7%	18%	4%	16%	5%	0%
鮮度	401	558	65	201	34	26	65	15	140	10	2
		139%	16%	50%	8%	6%	16%	4%	35%	2%	0%
有名産地・品種ブランド	37	57	8	21	4	2	9	2	11	0	0
		154%	22%	57%	11%	5%	24%	5%	30%	0%	0%
無農薬・減農薬	124	188	30	82	15	6	20	2	27	5	1
		152%	24%	66%	12%	5%	16%	2%	22%	4%	1%
色・形などの見た目	139	189	21	53	10	7	20	6	68	3	1
		136%	15%	38%	7%	5%	14%	4%	49%	2%	1%
価格	325	438	36	142	25	19	50	16	139	8	3
		135%	11%	44%	8%	6%	15%	5%	43%	2%	1%
手軽に食べられる	77	119	13	37	9	5	19	3	32	0	1
		155%	17%	48%	12%	6%	25%	4%	42%	0%	1%
その他	8	11	2	3	1	0	1	1	0	3	0
		138%	25%	38%	13%	0%	13%	13%	0%	38%	0%
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

問 1 1. 八千代市産農産物を使用した加工品の浸透度について（複数回答）

「知らない」が 41.2%と最も多く、次いで「知っているが購入したことはない」が 34.4%と多かった。
 年齢別クロス集計では、「～20 代」と「30 代」で「知らない」の割合が特に高い。
 居住地別クロス集計では、「農村ゾーン」で「知っているが購入したことはない」が、「市街地ゾーン」
 で「知らない」が高い割合となった。

	回答数	比率
知らない	200	41.2%
知っているが購入したことはない	167	34.4%
知っているし購入したことがある	117	24.1%
無回答	1	0.2%
合計	485	100.0%



<年齢別・クロス集計>

	n	合計	ある 知っている し購入 したことが	ない 知っている が購入 したことは	知らない	無 回答
全体	485	485	117	167	200	1
		100%	24%	34%	41%	0%
～ 20代	31	31	6	6	19	0
		100%	19%	19%	61%	0%
30代	50	50	7	11	32	0
		100%	14%	22%	64%	0%
40代	82	82	15	30	37	0
		100%	18%	37%	45%	0%
50代	101	101	28	37	35	1
		100%	28%	37%	35%	1%
60代	85	85	20	38	27	0
		100%	24%	45%	32%	0%
70代	98	98	31	31	36	0
		100%	32%	32%	37%	0%
80歳以上	36	36	9	13	14	0
		100%	25%	36%	39%	0%
無回答	2	2	1	1	0	0
		100%	50%	50%	0%	0%

<居住地別・クロス集計※>

	n	合計	ある 知っている し購入 したことが	ない 知っている が購入 したことは	知らない	無 回答
全体	485	485	117	167	200	1
		100%	24%	34%	41%	0%
農村ゾーン	21	21	6	9	6	0
		100%	29%	43%	29%	0%
混在ゾーン	133	133	37	44	51	1
		100%	28%	33%	38%	1%
市街地ゾーン	328	328	72	113	143	0
		100%	22%	34%	44%	0%
無回答	3	3	2	1	0	0
		100%	67%	33%	0%	0%

Ⅲ 農家・農業との関わりについて

問 1 2. 現状の八千代市の農業との関わりについて（複数回答）

「直売所等で市内産農産物を購入する」が 46.0%で最も多く、次いで「特になし」が 40.2%と多かった。

年齢別クロス集計では、「50 代」以上の層で「直売場等で市内産農産物を購入する」の割合が高く、「40 代」以下では「特になし」の割合が高い。

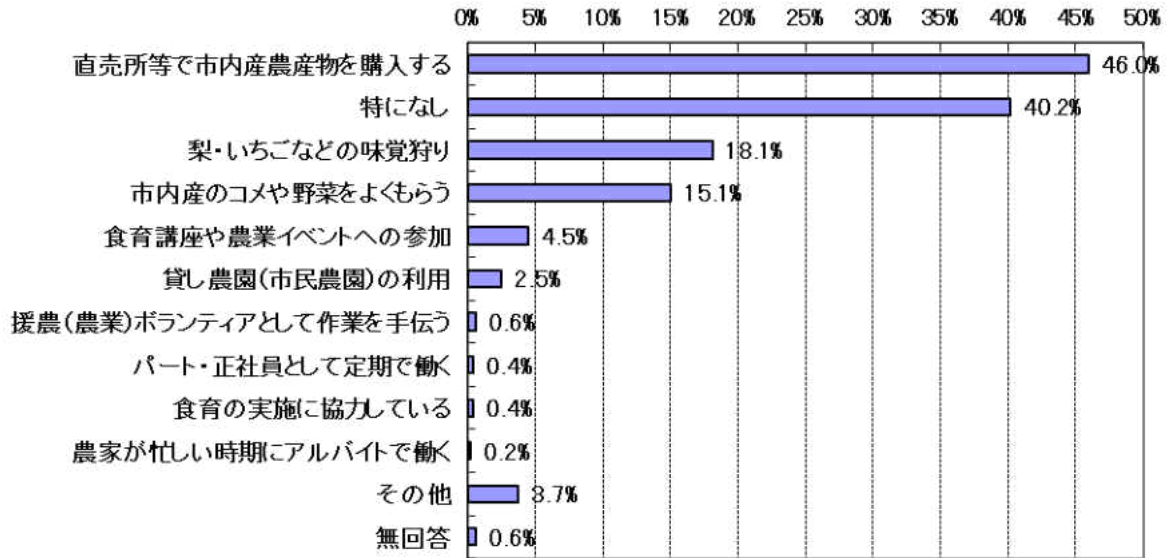
居住地別クロス集計では、「混在ゾーン」で「梨・いちごなどの味覚狩り」の割合が高い。詳細地区では、「八千代台北」で「直売所等で市内産農産物を購入する」の割合が低く、「大和田」で「特になし」の割合が高い。

	回答数	比率
直売所等で市内産農産物を購入する	223	46.0%
特になし	195	40.2%
梨・いちごなどの味覚狩り	88	18.1%
市内産のコメや野菜をよくもらう	73	15.1%
食育講座や農業イベントへの参加	22	4.5%
貸し農園(市民農園)の利用	12	2.5%
援農(農業)ボランティアとして作業を手伝う	3	0.6%
パート・正社員として定期で働く	2	0.4%
食育の実施に協力している	2	0.4%
農家が忙しい時期にアルバイトで働く	1	0.2%
その他	18	3.7%
無回答	3	0.6%
合計	642	-
n	485	

その他

施設でボランティアとして農作業を手伝う、家庭菜園をしている
道の駅
夫が借りた農地
農家です 2.3お待ちしています 9よくあげています
市内福祉施設(知障)に勤めていて農園芸班があり所属していたこともあるし、採れた作物を食品班で加工して販売したりしていた(現在は他部署)。
中元に梨農園より出荷してもらっている。
お中元で梨を送る。
イオン緑が丘、なし、イベントに参加など。
幼稚園で大根堀りやさつま芋堀りがあり、その時にもらってくるくらい。
農園を貸している。
畑を知人から借り、じゃがいもを作り食べている。
少しの家庭菜園をしている。
道の駅へ行きたいが、交通の便が悪くて行けない。
近所の農家からたまに買う
友人に農家が多い
市内で教職員として、食育(社会科、家庭科、学活)に取り組んでいる。
毎年同じ梨農園さんから親戚へ梨を送っている
無回答

問12. あなたは、現在、どのようなことで八千代市の農業とかかわりがありますか。(n=485)



<年齢別・クロス集計>

	n	合計	直売所等で市内産農産物を購入する	援農(農業)ボランティアとして作業を手伝う	農家が忙しい時期にアルバイトで働く	パート・正社員として定期で働く	貸し農園(市民農園)の利用	梨・いちごなどの味覚狩り	参加食育講座や農業イベントへの	食育の実施に協力している	市内産のコメや野菜をよくもらう	特になし	その他	無回答
全体	485	642	223	3	1	2	12	88	22	2	73	195	18	3
		132%	46%	1%	0%	0%	2%	18%	5%	0%	15%	40%	4%	1%
～20代	31	34	4	0	0	0	0	5	0	1	1	23	0	0
		110%	13%	0%	0%	0%	0%	16%	0%	3%	3%	74%	0%	0%
30代	50	66	17	0	0	0	0	11	1	0	12	24	1	0
		132%	34%	0%	0%	0%	0%	22%	2%	0%	24%	48%	2%	0%
40代	82	109	32	0	0	1	1	17	6	0	13	36	3	0
		133%	39%	0%	0%	1%	1%	21%	7%	0%	16%	44%	4%	0%
50代	101	123	50	0	0	0	1	19	3	0	8	38	2	2
		122%	50%	0%	0%	0%	1%	19%	3%	0%	8%	38%	2%	2%
60代	85	118	50	0	1	1	1	12	6	0	14	29	4	0
		139%	59%	0%	1%	1%	1%	14%	7%	0%	16%	34%	5%	0%
70代	98	131	50	2	0	0	4	17	2	0	17	32	6	1
		134%	51%	2%	0%	0%	4%	17%	2%	0%	17%	33%	6%	1%
80歳以上	36	59	19	1	0	0	5	7	4	1	8	12	2	0
		164%	53%	3%	0%	0%	14%	19%	11%	3%	22%	33%	6%	0%
無回答	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		100%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	50%	0%	0%

<居住地別・クロス集計※>

	n	合計	直売所等 で市内産 農産物を購 入する	援農（農業） ボランティアと して作業を手 伝う	農家が忙しい 時期にアルバイ トで働く	パート・正社員 として定期で 働く	貸し農園（市民 農園）の利用	梨・いちごなど の味覚狩り	食育講座や農 業イベントへの 参加	食育の実施に 協力している	市内産のコメ や野菜をよくも らう	特になし	その他	無回答
全体	485	642	223	3	1	2	12	88	22	2	73	195	18	3
		132%	46%	1%	0%	0%	2%	18%	5%	0%	15%	40%	4%	1%
農村ゾーン	21	30	9	0	0	0	0	2	2	0	7	9	1	0
		143%	43%	0%	0%	0%	0%	10%	10%	0%	33%	43%	5%	0%
混在ゾーン	133	174	62	2	0	0	4	30	8	1	13	48	6	0
		131%	47%	2%	0%	0%	3%	23%	6%	1%	10%	36%	5%	0%
市街地ゾーン	328	434	150	1	1	2	8	55	12	1	53	137	11	3
		132%	46%	0%	0%	1%	2%	17%	4%	0%	16%	42%	3%	1%
無回答	3	4	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
		133%	67%	0%	0%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	33%	0%	0%

詳細地区

	n	合計	直売所等で市内産農産物を購入する	援農（農業）ボランティアとして作業を手伝う	農家が忙しい時期にアルバイトで働く	働くパート・正社員として定期で	貸し農園（市民農園）の利用	梨・いちごなどの味覚狩り	食育講座や農業イベントへの参加	食育の実施に協力している	市内産のコメや野菜をよくもらう	特になし	その他	無回答
全体	485	642	223	3	1	2	12	88	22	2	73	195	18	3
		132%	46%	1%	0%	0%	2%	18%	5%	0%	15%	40%	4%	1%
神久保	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大和田	21	27	7	0	0	0	0	3	0	0	4	13	0	0
		129%	33%	0%	0%	0%	0%	14%	0%	0%	19%	62%	0%	0%
大和田新田	74	104	35	1	0	1	5	13	6	0	12	30	1	0
		141%	47%	1%	0%	1%	7%	18%	8%	0%	16%	41%	1%	0%
尾崎	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%
勝田	7	8	1	0	0	0	1	1	0	0	2	3	0	0
		114%	14%	0%	0%	0%	14%	14%	0%	0%	29%	43%	0%	0%
勝田台	37	46	18	0	0	0	1	2	1	0	6	17	1	0
		124%	49%	0%	0%	0%	3%	5%	3%	0%	16%	46%	3%	0%
勝田台北	7	8	4	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0	0
		114%	57%	0%	0%	0%	0%	14%	0%	0%	14%	29%	0%	0%
勝田台南	6	12	2	0	0	0	1	1	1	0	2	3	2	0
		200%	33%	0%	0%	0%	17%	17%	17%	0%	33%	50%	33%	0%
神野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
上高野	24	34	16	0	0	0	0	7	2	0	2	6	1	0
		142%	67%	0%	0%	0%	0%	29%	8%	0%	8%	25%	4%	0%
萱田	11	13	4	0	0	0	1	3	0	0	1	4	0	0
		118%	36%	0%	0%	0%	9%	27%	0%	0%	9%	36%	0%	0%
萱田町	12	16	6	0	0	0	0	1	0	0	2	6	1	0
		133%	50%	0%	0%	0%	0%	8%	0%	0%	17%	50%	8%	0%
桑納	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
小池	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%
佐山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
島田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
島田台	3	6	2	0	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0
		200%	67%	0%	0%	0%	0%	0%	33%	0%	67%	33%	0%	0%
下市場	4	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
		100%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	25%	0%	25%
下高野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
桑橋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
高津	31	47	20	0	0	1	0	9	0	0	8	6	2	1
		152%	65%	0%	0%	3%	0%	29%	0%	0%	26%	19%	6%	3%
高津東	7	12	3	0	1	0	0	2	0	0	3	2	1	0
		171%	43%	0%	14%	0%	0%	29%	0%	0%	43%	29%	14%	0%
大学町	3	4	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0
		133%	33%	0%	0%	0%	0%	33%	0%	0%	33%	33%	0%	0%
平戸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
保品	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		100%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	50%	0%	0%	0%
堀の内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
真木野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
緑が丘	23	24	10	0	0	0	0	1	0	0	1	12	0	0
		104%	43%	0%	0%	0%	0%	4%	0%	0%	4%	52%	0%	0%
緑が丘西	17	20	6	0	0	0	1	3	1	1	0	7	1	0
		118%	35%	0%	0%	0%	6%	18%	6%	6%	0%	41%	6%	0%
麦丸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
村上	45	62	21	0	0	0	2	10	3	0	5	19	2	0
		138%	47%	0%	0%	0%	4%	22%	7%	0%	11%	42%	4%	0%
村上南	14	19	4	0	0	0	0	2	1	0	3	7	1	1
		136%	29%	0%	0%	0%	0%	14%	7%	0%	21%	50%	7%	7%
八千代台北	31	38	11	0	0	0	0	6	3	0	3	15	0	0
		123%	35%	0%	0%	0%	0%	19%	10%	0%	10%	48%	0%	0%
八千代台西	11	12	3	0	0	0	0	1	0	0	0	7	1	0
		109%	27%	0%	0%	0%	0%	9%	0%	0%	0%	64%	9%	0%
八千代台東	29	40	16	0	0	0	0	8	0	1	5	9	1	0
		138%	55%	0%	0%	0%	0%	28%	0%	3%	17%	31%	3%	0%
八千代台南	14	17	8	0	0	0	0	4	0	0	1	4	0	0
		121%	57%	0%	0%	0%	0%	29%	0%	0%	7%	29%	0%	0%
ゆりのき台	35	44	15	2	0	0	0	7	2	0	5	12	1	0
		126%	43%	6%	0%	0%	0%	20%	6%	0%	14%	34%	3%	0%
吉橋	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%
米本	11	16	5	0	0	0	0	1	1	0	3	5	1	0
		145%	45%	0%	0%	0%	0%	9%	9%	0%	27%	45%	9%	0%
無回答	3	4	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
		133%	67%	0%	0%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	33%	0%	0%

問 1 3. 多面的機能への期待について（複数回答）

「新鮮な農産物の提供」が 85.8%と最も多く、次いで「教育」41.4%、「大気の調整」40.0%が多くみられた。

年齢別クロス集計では、「40 代」以下の層で「教育」の割合が高くみられ、特に「～20 代」では他の項目では全体の割合を下回っている中で顕著に高い傾向がみられた。また、「60 代」以上で「国土の保全」が高い割合となった。

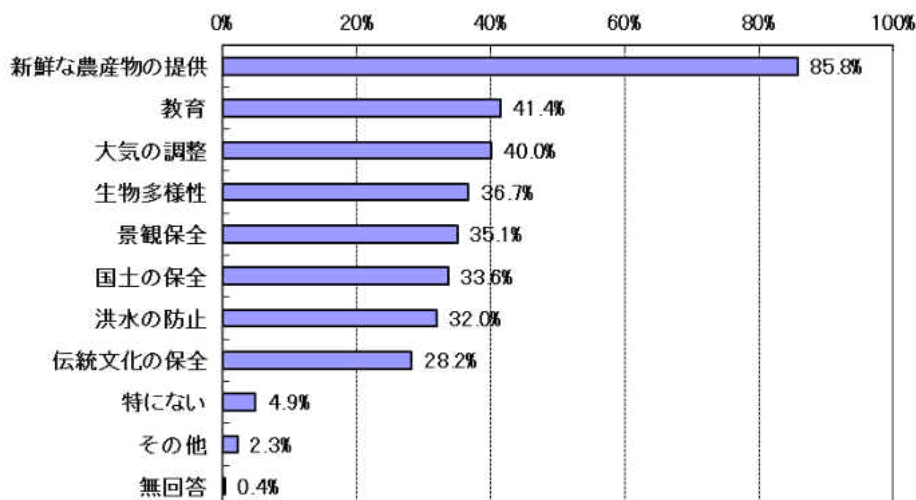
居住地別クロス集計では、「混在ゾーン」と「市街地ゾーン」で全体的に「農村ゾーン」より高い割合が示されたが、特に「新鮮な農産物の提供」、「洪水の防止」、「国土の保全」で割合が高い傾向がみられた。詳細地区では、「大和田」で「新鮮な農産物の提供」の割合が比較的low、「特にない」の割合が高かった。また、「教育」は「緑が丘西」と「八千代台南」で高く、「大気の調整」は「高津」と「八千代台北」で高かった。

	回答数	比率
新鮮な農産物の提供	416	85.8%
教育	201	41.4%
大気の調整	194	40.0%
生物多様性	178	36.7%
景観保全	170	35.1%
国土の保全	163	33.6%
洪水の防止	155	32.0%
伝統文化の保全	137	28.2%
特にない	24	4.9%
その他	11	2.3%
無回答	2	0.4%
合計	1651	-
n	485	

その他

子供の農業体験
道路に拡張
変形した野菜等の売場増 味変わらない
安全な農作物の提供
色々な施設の有効な使い道を考えてほしい
農地管理
八千代市の良さ。農家訪問
老人、高齢者の保全
中国人&中国法人に土地を渡さぬ様に！
安全な食の提供、体に良い農産物が欲しい
無回答

問 13. あなたは、市内の農地・農業に対し、どのような役割を期待しますか。(n=485)



<年齢別・クロス集計>

	n	合計	新鮮な農産物の提供	洪水の防止	国土の保全	景観保全	生物多様性	伝統文化の保全	大気の調整	教育	特にない	その他	無回答
全体	485	1651	416	155	163	170	178	137	194	201	24	11	2
		340%	86%	32%	34%	35%	37%	28%	40%	41%	5%	2%	0%
～20代	31	90	25	4	3	8	11	7	12	17	3	0	0
		290%	81%	13%	10%	26%	35%	23%	39%	55%	10%	0%	0%
30代	50	167	40	12	15	13	18	15	17	34	2	1	0
		334%	80%	24%	30%	26%	36%	30%	34%	68%	4%	2%	0%
40代	82	268	68	20	19	28	30	26	23	47	4	3	0
		327%	83%	24%	23%	34%	37%	32%	28%	57%	5%	4%	0%
50代	101	362	89	39	35	37	47	28	40	42	4	1	0
		358%	88%	39%	35%	37%	47%	28%	40%	42%	4%	1%	0%
60代	85	285	71	29	35	35	30	22	36	19	3	4	1
		335%	84%	34%	41%	41%	35%	26%	42%	22%	4%	5%	1%
70代	98	353	89	37	41	36	32	31	50	30	5	2	0
		360%	91%	38%	42%	37%	33%	32%	51%	31%	5%	2%	0%
80歳以上	36	124	32	14	15	13	10	8	16	12	3	0	1
		344%	89%	39%	42%	36%	28%	22%	44%	33%	8%	0%	3%
無回答	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

<居住地別・クロス集計※>

	n	合計	新鮮な農産物の提供	洪水の防止	国土の保全	景観保全	生物多様性	伝統文化の保全	大気の調整	教育	特にない	その他	無回答
全体	485	1651	416	155	163	170	178	137	194	201	24	11	2
		340%	86%	32%	34%	35%	37%	28%	40%	41%	5%	2%	0%
農村ゾーン	21	61	15	4	3	8	7	5	6	8	3	1	1
		290%	71%	19%	14%	38%	33%	24%	29%	38%	14%	5%	5%
混在ゾーン	133	457	111	42	51	47	50	38	50	60	5	3	0
		344%	83%	32%	38%	35%	38%	29%	38%	45%	4%	2%	0%
市街地ゾーン	328	1127	287	109	109	115	120	94	137	132	16	7	1
		344%	88%	33%	33%	35%	37%	29%	42%	40%	5%	2%	0%
無回答	3	6	3	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0
		200%	100%	0%	0%	0%	33%	0%	33%	33%	0%	0%	0%

詳細地区

	n	合計	新鮮な農産物の提供	洪水の防止	国土の保全	景観保全	生物多様性	伝統文化の保全	大気の調整	教育	特にない	その他	無回答
全体	485	1651	416	155	163	170	178	137	194	201	24	11	2
		340%	86%	32%	34%	35%	37%	28%	40%	41%	5%	2%	0%
神久保	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
大和田	21	66	15	5	4	8	12	5	7	5	4	1	0
		314%	71%	24%	19%	38%	57%	24%	33%	24%	19%	5%	0%
大和田新田	74	258	68	25	25	26	28	23	31	29	2	1	0
		349%	92%	34%	34%	35%	38%	31%	42%	39%	3%	1%	0%
尾崎	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%
勝田	7	22	5	3	1	3	3	2	1	4	0	0	0
		314%	71%	43%	14%	43%	43%	29%	14%	57%	0%	0%	0%
勝田台	37	128	34	12	14	12	15	8	17	12	3	1	0
		346%	92%	32%	38%	32%	41%	22%	46%	32%	8%	3%	0%
勝田台北	7	18	7	1	2	0	1	2	3	2	0	0	0
		257%	100%	14%	29%	0%	14%	29%	43%	29%	0%	0%	0%
勝田台南	6	23	5	2	2	2	2	3	2	4	1	0	0
		383%	83%	33%	33%	33%	33%	50%	33%	67%	17%	0%	0%
神野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
上高野	24	79	17	9	9	7	10	6	7	11	2	1	0
		329%	71%	38%	38%	29%	42%	25%	29%	46%	8%	4%	0%
萱田	11	42	10	3	6	5	4	4	6	3	1	0	0
		382%	91%	27%	55%	45%	36%	36%	55%	27%	9%	0%	0%
萱田町	12	34	9	3	4	3	2	3	5	4	1	0	0
		283%	75%	25%	33%	25%	17%	25%	42%	33%	8%	0%	0%
桑納	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
小池	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%
佐山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
島田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
島田台	3	12	2	1	0	1	2	1	2	2	1	0	0
		400%	67%	33%	0%	33%	67%	33%	67%	67%	33%	0%	0%
下市場	4	5	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		125%	100%	0%	0%	0%	25%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
下高野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
桑橋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
高津	31	121	28	14	15	10	11	8	19	15	0	1	0
		390%	90%	45%	48%	32%	35%	26%	61%	48%	0%	3%	0%
高津東	7	24	6	1	1	2	3	4	3	4	0	0	0
		343%	86%	14%	14%	29%	43%	57%	43%	57%	0%	0%	0%
大学町	3	6	3	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0
		200%	100%	0%	0%	0%	33%	33%	33%	0%	0%	0%	0%
平戸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
保品	2	6	2	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0
		300%	100%	0%	0%	100%	50%	0%	0%	50%	0%	0%	0%
堀の内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
真木野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
緑が丘	23	86	21	7	12	9	8	7	9	12	0	1	0
		374%	91%	30%	52%	39%	35%	30%	39%	52%	0%	0%	4%
緑が丘西	17	59	14	4	6	7	5	6	5	12	0	0	0
		347%	82%	24%	35%	41%	29%	35%	29%	71%	0%	0%	0%
麦丸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
村上	45	151	37	15	20	15	14	13	20	14	1	2	0
		336%	82%	33%	44%	33%	31%	29%	44%	31%	2%	4%	0%
村上南	14	32	10	4	1	4	4	1	2	4	2	0	0
		229%	71%	29%	7%	29%	29%	7%	14%	29%	14%	0%	0%
八千代台北	31	107	28	11	9	9	11	10	17	11	1	0	0
		345%	90%	35%	29%	29%	35%	32%	55%	35%	3%	0%	0%
八千代台西	11	41	9	3	4	4	4	4	5	5	1	2	0
		373%	82%	27%	36%	36%	36%	36%	45%	45%	9%	18%	0%
八千代台東	29	107	26	10	13	16	12	8	10	10	1	1	0
		369%	90%	34%	45%	55%	41%	28%	34%	34%	3%	3%	0%
八千代台南	14	55	12	8	2	7	3	6	6	11	0	0	0
		393%	86%	57%	14%	50%	21%	43%	43%	79%	0%	0%	0%
ゆりのき台	35	122	32	11	9	13	16	9	11	20	1	0	0
		349%	91%	31%	26%	37%	46%	26%	31%	57%	3%	0%	0%
吉橋	1	4	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0
		400%	100%	0%	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%	0%
米本	11	35	8	3	3	5	3	3	3	5	0	1	1
		318%	73%	27%	27%	45%	27%	27%	27%	45%	0%	9%	9%
無回答	3	6	3	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0
		200%	100%	0%	0%	0%	33%	0%	33%	33%	0%	0%	0%

問 1 4. 農地保全の重要性について

「重要と思う」が 73.8%で最も多く、次いで「わからない」が 21.0%と多くみられた。

年齢別クロス集計では、「30代」で「重要と思う」の割合が低く、「わからない」の割合が高い。

居住地別クロス集計では、「農村ゾーン」で「重要と思う」の割合が低く、「重要ではない」の割合が高い。詳細地区では、「村上南」と「八千代台北」で「重要と思う」の割合が低く「わからない」の割合が高い。

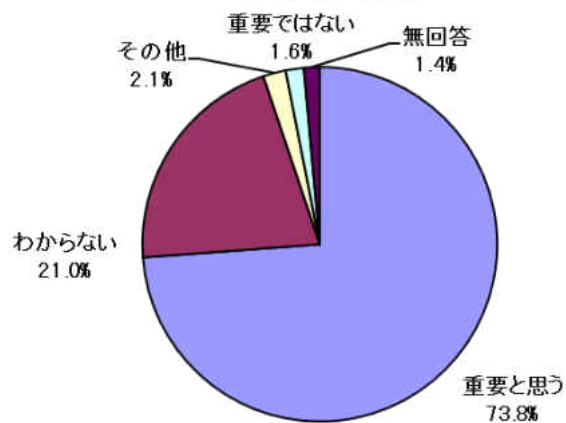
多面的機能への期待別クロス集計では、「特にない」と回答した層は「重要と思う」の割合が低く、「わからない」の割合が高い。

	回答数	比率
重要と思う	358	73.8%
わからない	102	21.0%
その他	10	2.1%
重要ではない	8	1.6%
無回答	7	1.4%
合計	485	100.0%

その他

耕作放棄地の増加をなんとかして欲しい
農地の減少は都市化とは関係ないと思う。農地保有者が後継ぎがいらないため土地を売却したためじゃないでしょうか？
畑を迷惑がられる
重要とは思いますがやりたいと思う若い人を探すことが大切
自然環境は大切だと思います
安全であれば重要
重要ではあるが、八千代市でなくても良いと考えている
最重要
農地はあっていいが、その保管が難しく、荒れていくのでは困る。
都市化も大切なので、うまく住みわけをしてほしい

問14. あなたは、市内の農地を保全することについて、どのようなお考えですか。(n=485)



<年齢別・クロス集計>

	n	合計	重要と思う	重要ではない	わからない	その他	無回答
全体	485	485	358	8	102	10	7
		100%	74%	2%	21%	2%	1%
～ 20代	31	31	19	1	9	2	0
		100%	61%	3%	29%	6%	0%
30代	50	50	29	0	19	2	0
		100%	58%	0%	38%	4%	0%
40代	82	82	57	1	22	2	0
		100%	70%	1%	27%	2%	0%
50代	101	101	78	0	20	2	1
		100%	77%	0%	20%	2%	1%
60代	85	85	65	1	17	1	1
		100%	76%	1%	20%	1%	1%
70代	98	98	81	3	12	1	1
		100%	83%	3%	12%	1%	1%
80歳以上	36	36	28	2	2	0	4
		100%	78%	6%	6%	0%	11%
無回答	2	2	1	0	1	0	0
		100%	50%	0%	50%	0%	0%

<居住地別・クロス集計※>

	n	合計	重要と思う	重要ではない	わからない	その他	無回答
全体	485	485	358	8	102	10	7
		100%	74%	2%	21%	2%	1%
農村ゾーン	21	21	13	2	4	0	2
		100%	62%	10%	19%	0%	10%
混在ゾーン	133	133	99	2	30	1	1
		100%	74%	2%	23%	1%	1%
市街地ゾーン	328	328	244	4	67	9	4
		100%	74%	1%	20%	3%	1%
無回答	3	3	2	0	1	0	0
		100%	67%	0%	33%	0%	0%

詳細地区

	n	合計	重要 と思う	重要 ではない	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全体	485	485	358	8	102	10	7
		100%	74%	2%	21%	2%	1%
神久保	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%
大和田	21	21	13	1	5	0	2
		100%	62%	5%	24%	0%	10%
大和田新田	74	74	60	1	10	3	0
		100%	81%	1%	14%	4%	0%
尾崎	1	1	0	0	1	0	0
		100%	0%	0%	100%	0%	0%
勝田	7	7	6	0	1	0	0
		100%	86%	0%	14%	0%	0%
勝田台	37	37	29	0	6	2	0
		100%	78%	0%	16%	5%	0%
勝田台北	7	7	4	0	3	0	0
		100%	57%	0%	43%	0%	0%
勝田台南	6	6	4	0	2	0	0
		100%	67%	0%	33%	0%	0%
神野	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%
上高野	24	24	18	0	6	0	0
		100%	75%	0%	25%	0%	0%
萱田	11	11	9	0	2	0	0
		100%	82%	0%	18%	0%	0%
萱田町	12	12	8	0	4	0	0
		100%	67%	0%	33%	0%	0%
桑納	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%
小池	1	1	0	0	1	0	0
		100%	0%	0%	100%	0%	0%
佐山	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%
島田	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%
島田台	3	3	3	0	0	0	0
		100%	100%	0%	0%	0%	0%
下市場	4	4	2	0	2	0	0
		100%	50%	0%	50%	0%	0%
下高野	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%
桑橋	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%
高津	31	31	27	0	4	0	0
		100%	87%	0%	13%	0%	0%
高津東	7	7	5	0	1	1	0
		100%	71%	0%	14%	14%	0%
大学町	3	3	2	1	0	0	0
		100%	67%	33%	0%	0%	0%
平戸	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%
保品	2	2	1	0	1	0	0
		100%	50%	0%	50%	0%	0%
堀の内	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%
真木野	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%
緑が丘	23	23	17	1	5	0	0
		100%	74%	4%	22%	0%	0%
緑が丘西	17	17	11	0	6	0	0
		100%	65%	0%	35%	0%	0%
麦丸	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%
村上	45	45	33	1	9	1	1
		100%	73%	2%	20%	2%	2%
村上南	14	14	8	0	4	1	1
		100%	57%	0%	29%	7%	7%
八千代台北	31	31	21	0	9	0	1
		100%	68%	0%	29%	0%	3%
八千代台西	11	11	9	0	2	0	0
		100%	82%	0%	18%	0%	0%
八千代台東	29	29	21	1	7	0	0
		100%	72%	3%	24%	0%	0%
八千代台南	14	14	10	0	2	2	0
		100%	71%	0%	14%	14%	0%
ゆりのき台	35	35	27	1	7	0	0
		100%	77%	3%	20%	0%	0%
吉橋	1	1	1	0	0	0	0
		100%	100%	0%	0%	0%	0%
米本	11	11	7	1	1	0	2
		100%	64%	9%	9%	0%	18%
無回答	3	3	2	0	1	0	0
		100%	67%	0%	33%	0%	0%

<多面的機能への期待別・クロス集計>

	n	合計	重要 と思う	重要 ではない	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全体	1651	1651	1350	18	225	35	23
		100%	82%	1%	14%	2%	1%
新鮮な農産物の提供	416	416	328	5	71	8	4
		100%	79%	1%	17%	2%	1%
洪水の防止	155	155	127	1	19	5	3
		100%	82%	1%	12%	3%	2%
国土の保全	163	163	142	2	14	4	1
		100%	87%	1%	9%	2%	1%
景観保全	170	170	148	2	14	2	4
		100%	87%	1%	8%	1%	2%
生物多様性	178	178	158	0	16	3	1
		100%	89%	0%	9%	2%	1%
伝統文化の保全	137	137	121	2	10	3	1
		100%	88%	1%	7%	2%	1%
大気の調整	194	194	162	2	24	3	3
		100%	84%	1%	12%	2%	2%
教育	201	201	153	3	36	6	3
		100%	76%	1%	18%	3%	1%
特になし	24	24	6	0	17	0	1
		100%	25%	0%	71%	0%	4%
その他	11	11	5	1	3	1	1
		100%	45%	9%	27%	9%	9%
無回答	2	2	0	0	1	0	1
		100%	0%	0%	50%	0%	50%

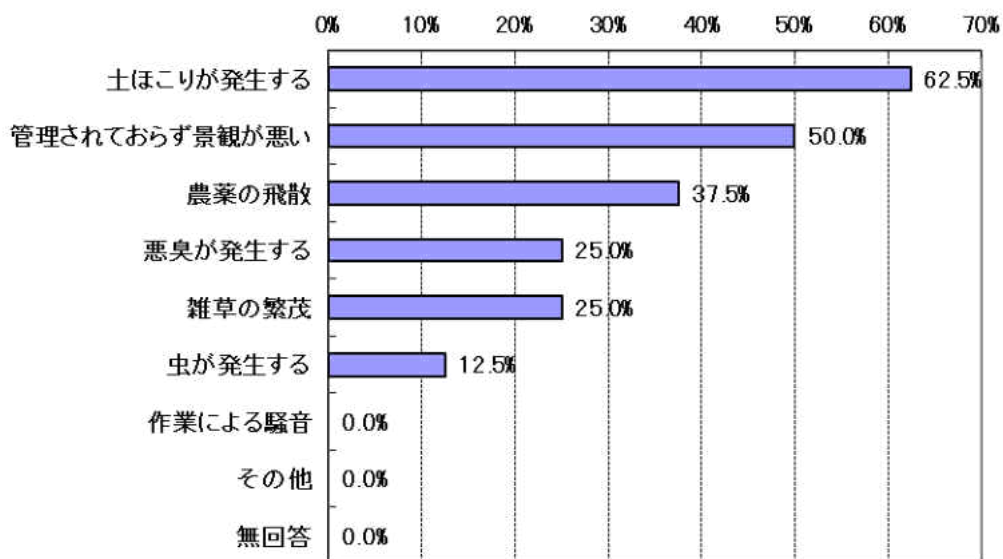
問14-1. 問14「重要ではない」の理由について（複数回答）

「土ほこりが発生する」が 62.5%と最も多く、次いで「管理されておらず景観が悪い」が 50.0%、「農薬の飛散」が 37.5%と多くみられた。

居住地別クロス集計では、「市街地ゾーン」で「土ほこりが発生する」の割合が高い。詳細地区では、「大和田」で最も多くの回答件数が認められた。

	回答数	比率
土ほこりが発生する	5	62.5%
管理されておらず景観が悪い	4	50.0%
農薬の飛散	3	37.5%
悪臭が発生する	2	25.0%
雑草の繁茂	2	25.0%
虫が発生する	1	12.5%
作業による騒音	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	17	-
n	8	

問14-1.その理由について (n=8)



<居住地別・クロス集計※>

	n	合計	作業による騒音	農薬の飛散	虫が発生する	土ほこりが発生する	管理されておらず景観が悪い	悪臭が発生する	雑草の繁茂	その他	無回答
全体	8	17	0	3	1	5	4	2	2	0	0
		213%	0%	38%	13%	63%	50%	25%	25%	0%	0%
農村ゾーン	2	3	0	1	0	1	1	0	0	0	0
		150%	0%	50%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	0%
混在ゾーン	2	4	0	0	1	1	1	1	0	0	0
		200%	0%	0%	50%	50%	50%	50%	0%	0%	0%
市街地ゾーン	4	10	0	2	0	3	2	1	2	0	0
		250%	0%	50%	0%	75%	50%	25%	50%	0%	0%
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

詳細地区

	n	合計	作業による騒音	農薬の飛散	虫が発生する	土ほこりが発生する	管理されておらず景観が悪い	悪臭が発生する	雑草の繁茂	その他	無回答
全体	8	17	0%	3%	1%	5%	4%	2%	2%	0%	0%
		213%	0%	38%	13%	63%	50%	25%	25%	0%	0%
神久保	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
大和田	1	4	0%	100%	0%	100%	0%	100%	100%	0%	0%
大和田新田	1	2	0%	0%	0%	1%	0%	0%	1%	0%	0%
		200%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%
尾崎	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
勝田	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
勝田台	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
勝田台北	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
勝田台南	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
神野	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
上高野	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
萱田	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
萱田町	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
桑納	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
小池	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
佐山	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
島田	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
島田台	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
下市場	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
下高野	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
桑橋	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
高津	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
高津東	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
大学町	1	1	0%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
		100%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
平戸	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
保品	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
堀の内	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
真木野	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
緑が丘	1	2	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%
		200%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%
緑が丘西	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
麦丸	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
村上	1	1	0%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	0%
		100%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%
村上南	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
八千代台北	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
八千代台西	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
八千代台東	1	2	0%	0%	0%	1%	1%	0%	0%	0%	0%
		200%	0%	0%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%
八千代台南	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
ゆりのき台	1	3	0%	0%	1%	1%	1%	0%	0%	0%	0%
		300%	0%	0%	100%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
吉橋	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
米本	1	2	0%	0%	0%	1%	1%	0%	0%	0%	0%
		200%	0%	0%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%
無回答	0	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

問 1 5. 今後八千代市の農業と関わる意向について（複数回答）

「直売所等で市内産農産物を購入する」が 73.4%と最も多く、次いで「梨・いちごなどの味覚狩りを行う」が 35.5%、「特にない」が 14.6%と多くみられた。「食育講座や農業イベントへの参加」や「農家が忙しい時期にアルバイトで働く」といった項目に一定の意向が認められた。また、「将来、農地を借りて農業者になりたい」という回答が 10 件認められた。

年齢別クロス集計では、「40 代」以下の層で「梨・いちごなどの味覚狩りを行う」の割合が高いなかで、「30 代」では「食育講座や農業イベントへの参加」で、「40 代」では「学校で行われる子供の農業体験に協力する」で高い割合がみられた。

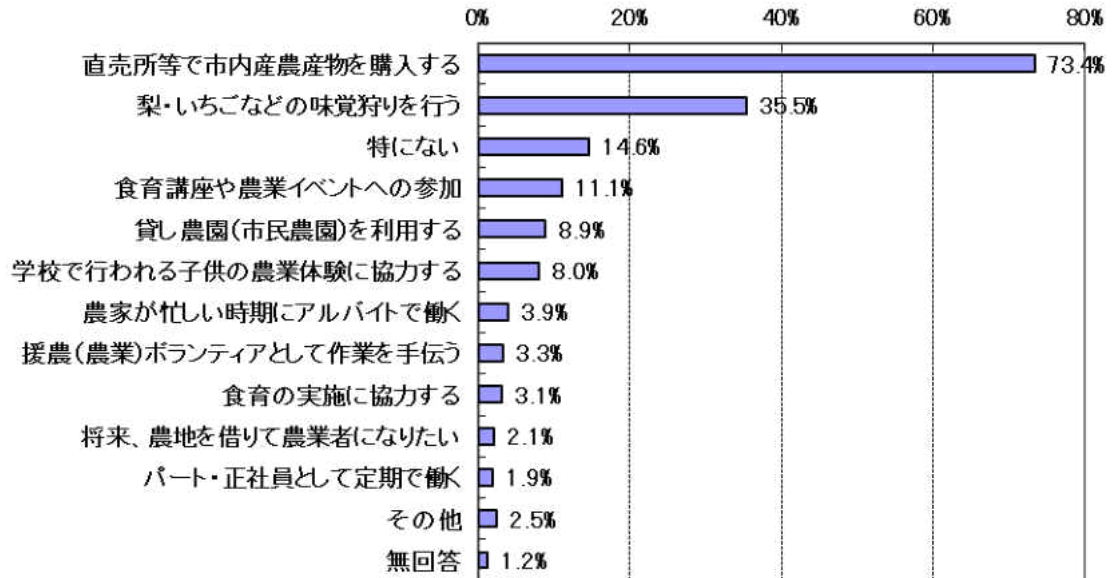
居住地別クロス集計では、全体的に「農村ゾーン」より「混在ゾーン」、「市街地ゾーン」で意向の割合が高いなかで、特に「直売所等で市内産農産物を購入する」について割合が高い。詳細地区では、「大和田新田」でアルバイトやボランティア、パート・正社員として働くといった農業への労働意向が認められる回答が多数認められた。

	回答数	比率
直売所等で市内産農産物を購入する	356	73.4%
梨・いちごなどの味覚狩りを行う	172	35.5%
特にない	71	14.6%
食育講座や農業イベントへの参加	54	11.1%
貸し農園(市民農園)を利用する	43	8.9%
学校で行われる子供の農業体験に協力する	39	8.0%
農家が忙しい時期にアルバイトで働く	19	3.9%
援農(農業)ボランティアとして作業を手伝う	16	3.3%
食育の実施に協力する	15	3.1%
将来、農地を借りて農業者になりたい	10	2.1%
パート・正社員として定期で働く	9	1.9%
その他	12	2.5%
無回答	6	1.2%
合計	822	-
n	485	

その他

高齢のためできない
農業、農作業とメンタルヘルスの関連について研究
家庭菜園を続ける
勤務先での農業
庭の畑で野菜を作る
なしなどのイベントに参加する。
他市の人に八千代産をすすめる。
年
畑を借りて野菜を作っていたこともあるが、急に売地になり。
スーパーで買う。
スーパーであれば買っていきたい
無回答

問15. 今後、どのようなことで八千代市の農業とかかわるお考えがありますか。(n=485)



<年齢別・クロス集計>

	n	合計	直売所等で市内産農産物を購入する	援農(農業)ボランティアとして作業を手伝う	農家が忙しい時期にアルバイトで働く	パート・正社員として定期で働く	貸し農園(市民農園)を利用する	梨・いちごなどの味覚狩りを行う	参加 食育講座や農業イベントへの	将来、農地を借りて農業者になりたい	食育の実施に協力する	学校で行われる子供の農業体験に協力する	特にない	その他	無回答
全体	485	822	356	16	19	9	43	172	54	10	15	39	71	12	6
~ 20代	31	53	19	1	2	1	1	15	1	2	2	3	6	0	0
30代	50	95	36	2	2	0	3	28	10	0	2	6	5	1	0
40代	82	169	63	1	2	2	9	38	14	2	3	21	9	3	2
50代	101	172	77	5	7	3	11	32	11	2	3	3	15	3	0
60代	85	127	64	2	3	2	6	24	7	0	2	2	14	0	1
70代	98	141	71	3	3	1	6	25	4	3	1	2	17	4	1
80歳以上	36	63	24	2	0	0	7	10	7	1	2	2	5	1	2
無回答	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

<居住地別・クロス集計※>

	n	合計	直売所等で市内産農産物を購入する	援農（農業）ボランティアとして作業を手伝う	農家が忙しい時期にアルバイトで働く	パート・正社員として定期で働く	貸し農園（市民農園）を利用する	梨・いちごなどの味覚狩りを行う	食育講座や農業イベントへの参加	将来、農地を借りて農業者になりたい	食育の実施に協力する	学校で行われる子供の農業体験に協力する	特にない	その他	無回答
全体	485	822	356	16	19	9	43	172	54	10	15	39	71	12	6
		169%	73%	3%	4%	2%	9%	35%	11%	2%	3%	8%	15%	2%	1%
農村ゾーン	21	38	13	1	1	0	2	6	4	2	1	1	6	0	1
		181%	62%	5%	5%	0%	10%	29%	19%	10%	5%	5%	29%	0%	5%
混在ゾーン	133	238	100	7	9	2	13	55	18	1	4	12	11	3	3
		179%	75%	5%	7%	2%	10%	41%	14%	1%	3%	9%	8%	2%	2%
市街地ゾーン	328	542	240	8	9	7	28	110	32	7	10	26	54	9	2
		165%	73%	2%	3%	2%	9%	34%	10%	2%	3%	8%	16%	3%	1%
無回答	3	4	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
		133%	100%	0%	0%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

詳細地区

	n	合計	直売所等で市内産農産物を購入する	援農（農業）ボランティアとして作業を手伝う	農家が忙しい時期にアルバイトで働く	働くパート・正社員として定期で	貸し農園（市民農園）を利用する	梨・いちごなどの味覚狩りを行う	食育講座や農業イベントへの参加	将来、農地を借りて農業者になりたい	食育の実施に協力する	学校で行われる子供の農業体験に協力する	特にな	その他	無回答
全体	485	822	356	16	19	9	43	172	54	10	15	39	71	12	6
		169%	73%	3%	4%	2%	9%	35%	11%	2%	3%	8%	15%	2%	1%
神久保	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大和田	21	33	14	0	0	0	1	10	0	0	0	1	6	0	1
		157%	67%	0%	0%	0%	5%	48%	0%	0%	0%	5%	29%	0%	5%
大和田新田	74	128	52	2	5	2	12	22	10	3	4	7	8	1	0
		173%	70%	3%	7%	3%	16%	30%	14%	4%	5%	9%	11%	1%	0%
尾崎	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%
勝田	7	12	3	0	0	0	1	3	2	0	0	1	2	0	0
		171%	43%	0%	0%	0%	14%	43%	29%	0%	0%	14%	29%	0%	0%
勝田台	37	59	26	1	1	3	4	8	3	2	0	3	7	1	0
		159%	70%	3%	3%	8%	11%	22%	8%	5%	0%	8%	19%	3%	0%
勝田台北	7	11	7	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0
		157%	100%	0%	0%	0%	14%	29%	0%	0%	14%	0%	0%	0%	0%
勝田台南	6	13	4	0	0	0	1	3	2	0	0	1	2	0	0
		217%	67%	0%	0%	0%	17%	50%	33%	0%	0%	17%	33%	0%	0%
神野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
上高野	24	45	20	1	2	0	1	8	3	0	2	4	4	0	0
		188%	83%	4%	8%	0%	4%	33%	13%	0%	8%	17%	17%	0%	0%
萱田	11	15	7	0	0	0	2	5	0	0	0	0	1	0	0
		136%	64%	0%	0%	0%	18%	45%	0%	0%	0%	0%	9%	0%	0%
萱田町	12	19	9	1	1	0	2	3	0	0	0	1	2	0	0
		158%	75%	8%	8%	0%	17%	25%	0%	0%	0%	8%	17%	0%	0%
桑納	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
小池	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%
佐山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
島田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
島田台	3	8	2	0	0	0	0	3	2	0	0	0	1	0	0
		267%	67%	0%	0%	0%	0%	100%	67%	0%	0%	0%	33%	0%	0%
下市場	4	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
		100%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	50%	0%	0%
下高野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
桑橋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
高津	31	57	29	0	0	0	1	15	3	0	1	3	2	3	0
		184%	94%	0%	0%	0%	3%	48%	10%	0%	3%	10%	6%	10%	0%
高津東	7	16	7	0	0	0	1	4	1	0	1	2	0	0	0
		229%	100%	0%	0%	0%	14%	57%	14%	0%	14%	29%	0%	0%	0%
大学町	3	4	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
		133%	100%	0%	0%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
平戸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
保品	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		100%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	50%	0%	0%
堀の内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
真木野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
緑が丘	23	29	18	1	0	0	0	4	0	0	0	2	4	0	0
		126%	78%	4%	0%	0%	0%	17%	0%	0%	0%	9%	17%	0%	0%
緑が丘西	17	37	12	1	1	1	2	10	4	0	1	3	2	0	0
		218%	71%	6%	6%	6%	12%	59%	24%	0%	6%	18%	12%	0%	0%
麦丸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
村上	45	75	33	2	3	0	6	18	6	0	0	2	2	1	2
		167%	73%	4%	7%	0%	13%	40%	13%	0%	0%	4%	4%	2%	4%
村上南	14	20	9	0	0	0	1	4	1	0	0	0	4	0	1
		143%	64%	0%	0%	0%	7%	29%	7%	0%	0%	0%	29%	0%	7%
八千代台北	31	49	20	1	1	0	0	12	4	0	1	2	7	1	0
		158%	65%	3%	3%	0%	0%	39%	13%	0%	3%	6%	23%	3%	0%
八千代台西	11	21	7	0	0	0	1	4	3	0	1	2	2	1	0
		191%	64%	0%	0%	0%	9%	36%	27%	0%	9%	18%	18%	9%	0%
八千代台東	29	48	21	2	1	1	1	11	3	1	1	0	5	1	0
		166%	72%	7%	3%	3%	3%	38%	10%	3%	3%	0%	17%	3%	0%
八千代台南	14	23	12	0	0	1	1	5	0	1	0	1	1	1	0
		164%	86%	0%	0%	7%	7%	36%	0%	7%	0%	7%	7%	7%	0%
ゆりのき台	35	63	27	2	2	1	2	14	5	1	1	3	2	2	1
		180%	77%	6%	6%	3%	6%	40%	14%	3%	3%	9%	6%	6%	3%
吉橋	1	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		300%	100%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
米本	11	22	7	1	1	0	2	2	2	2	1	1	2	0	1
		200%	64%	9%	9%	0%	18%	18%	18%	18%	9%	9%	18%	0%	9%
無回答	3	4	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
		133%	100%	0%	0%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

<性別・年齢別クロス集計>

	n	合計	直売所等 入する	援農(農業) して作業を 手伝う	ボランティア アと	農家が忙しい 時期にアルバイ トで働く	働く パート・正社員として 定期で	貸し農園(市民農園) を利用 する	梨・いちごなどの 味覚狩りを行 う	参加 食育講座や農業イ ベントへの	将来、農地を借 りて農業者に なりたい	食育の実施に協 力する	学校で行われる 子供の農業体 験に協力する	特 に ない	その他	無 回 答
男性全体	202	332	138	7	6	6	23	62	17	7	4	18	40	2	2	
～20代	14	21	5	0	1	0	0	7	1	1	1	1	4	0	0	
30代	16	27	11	0	0	0	0	8	2	0	0	2	4	0	0	
40代	37	85	31	0	1	1	7	18	8	1	2	12	3	1	0	
50代	37	64	26	3	2	2	5	13	3	2	0	0	7	1	0	
60代	39	51	27	1	1	2	3	6	1	0	0	1	9	0	0	
70代	41	59	27	2	1	1	3	7	1	3	1	2	11	0	0	
80歳以上	18	25	11	1	0	0	5	3	1	0	0	0	2	0	2	
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
女性全体	276	480	213	9	13	3	19	109	36	3	11	20	30	10	4	
～20代	17	32	14	1	1	1	1	8	0	1	1	2	2	0	0	
30代	34	68	25	2	2	0	3	20	8	0	2	4	1	1	0	
40代	44	83	31	1	1	1	2	20	6	1	1	9	6	2	2	
50代	64	108	51	2	5	1	6	19	8	0	3	3	8	2	0	
60代	45	74	36	1	2	0	3	17	6	0	2	1	5	0	1	
70代	56	81	44	1	2	0	2	18	3	0	0	0	6	4	1	
80歳以上	16	34	12	1	0	0	2	7	5	1	2	1	2	1	0	
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

➤ 担い手に関する市民の意向

農業者として農業をする、正社員・パート労働で定期的に働く、の項目では男性の方が多く、幅広い年齢層の市民に意向がある。一方、アルバイト労働と農業ボランティアの項目では女性の方が多く、こちらも幅広い年齢層で意向がある。市民農園については、男女とも多数の意向が確認され、幅広い年齢層で意向がある。

男性：●70代以上●60代●50代○40代以下

女性：●70代以上●60代●50代○40代以下

農業者になりたい	7人 3人	●●●●●○○ ●○○
正社員・パート労働	6人 3人	●●●●●○ ●○○
アルバイト労働	6人 13人	●●●●○○ ●●●●●○○○○○
農業ボランティア	7人 9人	●●●●●● ●●●●○○○○
市民農園	23人 19人	●●●●●●●●●●●●●●●●●○○○○○○○○○ ●●●●●●●●●●●●●●●●○○○○○○○

➤ 食育に関する市民の意向

食育の実施に協力する、学校で行われる子供の農業体験に協力する、食育講座や農業イベントへの参加では、男性より女性の回答者が多くみられた。また、どの選択肢においても男女ともに40代以下の回答者が比較的多かった。

男性：●70代以上●60代●50代○40代以下

女性：●70代以上●60代●50代○40代以下

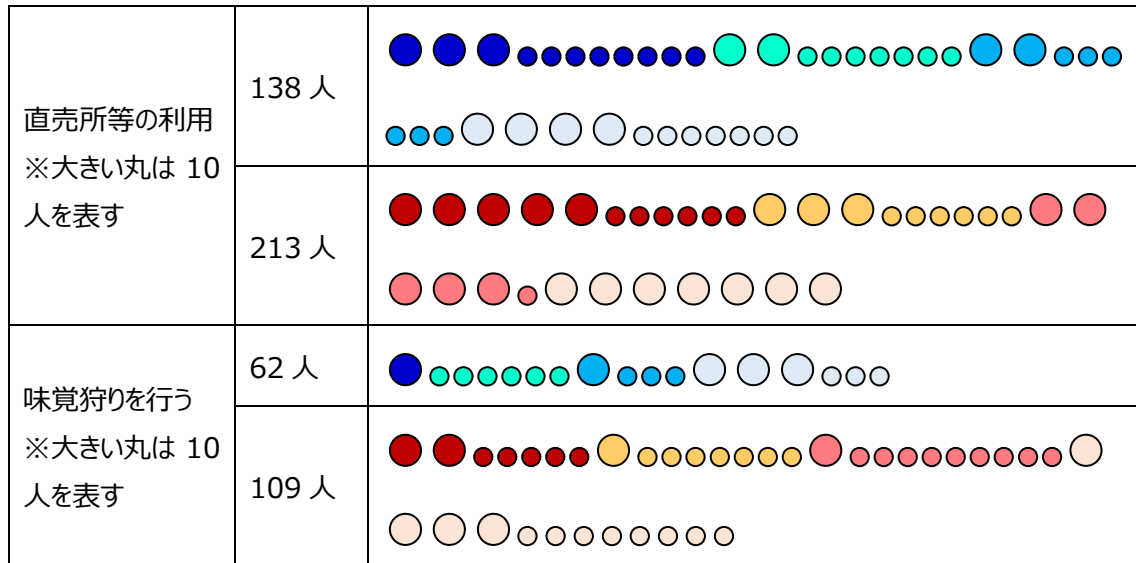
食育の実施に協力する	4人 11人	●○○○ ●●●●●○○○○○
学校で行われる子供の農業体験に協力する	18人 20人	●●●○○○○○○○○○○○○○○○○○ ●●●●●○○○○○○○○○○○○○○○○○
食育講座や農業イベントへの参加	18人 36人	●●●●●○○○○○○○○○○○○○○○ ●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○

➤ 消費者としての市民の意向

直売所等で市内農産物を購入する、梨・いちごなどの味覚狩りを行うでは、どちらの選択肢も男性より女性の回答者が多くみられた。また、どちらの選択肢においても、男女ともに幅広い年齢層に多く意向がある。

男性：●70代以上 ●60代 ●50代 ○40代以下

女性：●70代以上 ●60代 ●50代 ○40代以下



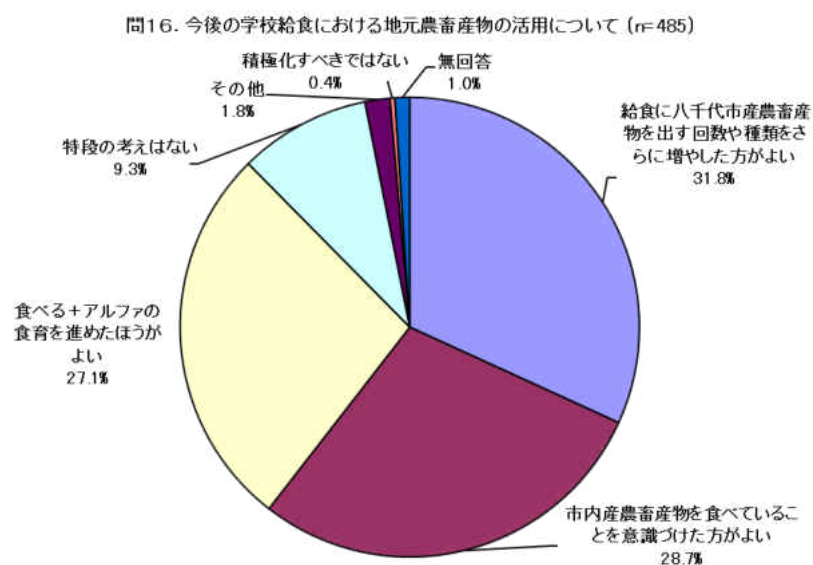
問16. 学校給食への地元農畜産物の活用について

「給食に八千代市産農畜産物を出す回数や種類をさらに増やした方がよい」が 31.8%と最も多く、次いで「市内産農畜産物を食べていることを意識づけた方がよい」が 28.7%、「食べる+アルファの食育を進めた方がよい」が 27.1%と多くみられた。

	回答数	比率
給食に八千代市産農畜産物を出す回数や種類をさらに増やした方がよい	154	31.8%
市内産農畜産物を食べていることを意識づけた方がよい	139	28.7%
食べる+アルファの食育を進めたほうがよい	131	27.1%
特段の考えはない	45	9.3%
その他	9	1.8%
積極化すべきではない	2	0.4%
無回答	5	1.0%
合計	485	100.0%

その他

子供がいないのですみません
アンテナショップを作り八千代産をPRする。
3番の項目とともに、子供達だけでなく親などにも八千代市阿武農畜産物を理解させた方がよい。現在は親世代が意識が低いと感じます。食育の授業は小学校全学年、中学校でも行った方がよい。
地元農畜産物に特別にこだわる必要はないと思います。新鮮で価格の安価なものを、必要に応じて提供できる産地から手配すればOKです。昔の銀行「護送船団」みたいです。各農家は価格競争力を持つべき)
学校だけではなく、幼稚園や保育員、福祉施設の給食に拡充したり、公共施設(市役所のレストラン)とか、市内レストランにも働きかけては？
現状でよい。
特になし …2件



問17. 八千代市の農業の保全のための取組みについて（複数回答）

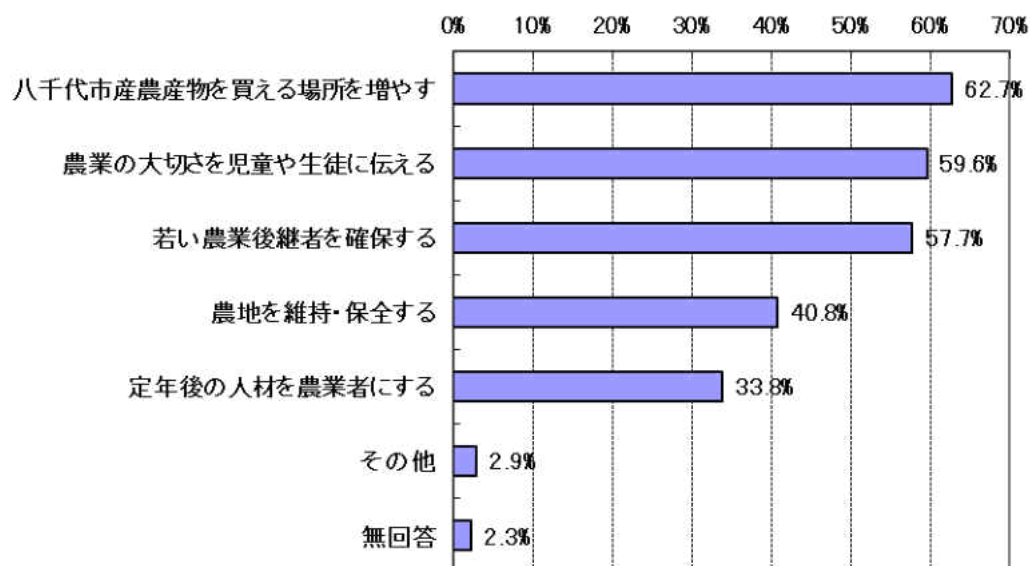
「八千代市産農産物を買える場所を増やす」が 62.7%、次いで「農業の大切さを児童や生徒に伝える」が 59.6%、「若い農業後継者を確保する」が 57.7%と多くみられた。

	回答数	比率
八千代市産農産物を買える場所を増やす	304	62.7%
農業の大切さを児童や生徒に伝える	289	59.6%
若い農業後継者を確保する	280	57.7%
農地を維持・保全する	198	40.8%
定年後の人材を農業者にする	164	33.8%
その他	14	2.9%
無回答	11	2.3%
合計	1260	-
n	485	

その他

学校給食での八千代市農業のアピール
荒地をなくす施策を行政が推進する
財政的な支援
農業法人など収益性の向上
市場価値のある作物の推進 地産地消などスケールの小さい事をやっても意味無し
八千代市産農産物を変える場所の开店時間を長くする。
わからない
イオンなどスーパーを使って八千代市PR
補助事業等で支援
飲食業への八千代産農産物の提供を増やす。主婦が従事しやすくする。繁忙期にアルバイト等あるのなら、求人がよく分かるようにあると良いと思います。
農業だけでも生計が成り立つようにできればよいと思います。
農業もだが若い人がもっとしっかり働けるようにする事の方が大事
地産食材のレストランを増やす ロサンゼルスやKURA6330のようなお店を
地産地消

問17. 今後、八千代市の農業の保全を図るために力を入れる必要があるものについて (n=485)



問 18. 八千代市の農業・農地の保全に対するご意見について（記述式）

自由意見について、意見の種類別に大まかにまとめたところ、下記のとおりとなった。意見一覧はまとめの後に記載。

- ◇ **農地・耕作放棄地に関するご意見では、耕作放棄地の解消、農地による魅力的な景観の維持、都市部との調和を求める声が多くみられた。**
 - ・ 耕作放棄地が多すぎる。冬に大風が吹くと空が茶色になり我が家は 20 年間に 10 cm 以上庭に土が飛んできて花壇が埋まった。立春過ぎになると恐怖になる。息するのも苦しい。赤土が空を舞う。耕作放棄地をなくす事が必要。
 - ・ 市内で田園風景を見ることが出来るのは貴重であるので是非守ってほしい。
 - ・ 昔ながらの田園風景が広がる八千代市であってほしいので、農地保全につながるよう、微力ながら地場野菜を今後も購入していこうと思う。
 - ・ 自然との調和は八千代市の大きな財産であり、今後も市の農業、農地の保全を積極的に進めるべきと考える。

- ◇ **担い手に関するご意見では、農業後継者への支援、定年退職者や高齢者、若年層へのアピール、農業アルバイト・パートの活用の推進、法人化の検討など多様な担い手の確保を求める声が多くみられた。**
 - ・ 農家の担い手となる後継者に補助金を出すことは大事だと思う。
 - ・ PR の方法を考え、若い力を確保すると共に、高齢者にも活躍してもらう。定年された元気なお父様方に知恵を出してもらい、若者にアピールする。
 - ・ 農業へのアルバイトやボランティアの窓口はあるのか？ あるのなら、もっと知らせてほしい。ないのならぜひ作るべきと思う。
 - ・ 後継者不足改善の為、若者が参入しやすい様に法人化等のシステム作りを拡大。

- ◇ **農産物の生産に関するご意見では、環境に配慮した生産や安全な農産物の生産、自然災害への対応といった声が多くみられたほか、スマート農業の推進や農機の共有化等による効率的な生産、周辺の住環境に考慮した生産を求める声があった。**
 - ・ 出来るだけ有機農法、無農薬の農産物生産に努力して頂きたい。
 - ・ 近年の自然災害の多発により農家の方々のさらに甚大な被害も予想される。もっと公共の予算を農業の分野にあててもよいのではないか。
 - ・ 先進農業（AI・ドローン等々）への取組みを積極的に進めてみたらどうか。
 - ・ 牛舎のにおいは正直気になる。市として農地を守りたいのであれば、住宅地との共存を考えていかねばならないと思う。

- ◇ **ブランド化・農産物の販売に関するご意見では、八千代市産農産物の PR や販売先の増加、買いやすい価格での提供を求める声が多くみられた。**

 - ・ 八千代市でお米も多く作られているが、どこに出回っているかが知られていないような気がする。梨がとてもおいしいので、もっとアピールした方がいいと思う。
 - ・ 地場産（安心安全をモットーにした野菜）野菜を各スーパー等に置いてほしい。
 - ・ 最近スーパーにて地産（八千代市）の野菜コーナーが見られるようになりましたがまだまだ少ない量と PR がありません。安価で新鮮さを期待する。

- ◇ **農業交流に関するご意見では、収穫体験や市民農園等の農業体験の機会拡充、道の駅の機能強化や改善を求める声が多くみられた。**

 - ・ 収穫体験が（さつまいも以外）すぐいっぱいになり、なかなか体験できない。また、貸農地は料金が高く、手が出せません。子供たちと一緒に、野菜作りや収穫が出来る機会のハードルを下げただけだと嬉しい。
 - ・ 道の駅や農業研修センターの有効活用を望む。ただ施設を造るのではなく、いろいろ市外にも発信できるような、人が集まる活動があれば、農作物の利用も人も多く集まるのではないかな。
 - ・ 道の駅をよく利用するが駐車場が少なくいつも困っている。通常の駐車場枠を増やす他イベント時に臨時駐車場の確保をお願いしたい。
 - ・ 道の駅、野菜売場陳列を改善した方がいいと思う。下に置くやり方はよくない。八千代の道の駅は汚いし、しょぼい。他の農産物を扱っている所、店を参考にして買いやすくして、八千代の農産物をアピールしたらいいと思う。
 - ・ やちよ農業交流センターの活用 すごくきれいな施設なのにあまり活用されている感じがしない。農産物の販売も少ないし、調理場も使用されているのか？ 毎回行くと人もおらずさみしい感じ。もっとアピールして活用してみてもいいかな？

- ◇ **食育に関するご意見では、学校給食や収穫体験等を通じた農業理解の促進を求める声など、多くのご意見があった。**

 - ・ 小学校の給食試食会で、八千代市産の人参をたくさん使った給食をいただいた。とてもおいしく調理して、大切に野菜を使っているのだなと感じた。学校に限らず、野菜等の大切さ、農業の大切さを子供たちに、きちんと理解してもらえる環境を大切にしていきたい。
 - ・ 学校では畑や田を所有していることが多いが、育て方等よく分からぬ教員が多く、伝えたい収穫の喜びや、命の大切さ、農家の方のすごさにせまれている気がする。中学校区、1名程度農業指導員を配置していただくと助かる学校は多いと思う。

【意見一覧】

➤ 農地・耕作放棄地に関するご意見

生きていくためには食料が必要であり、それを作る場所や人がいなくなったら生きていけない。人口が減っていくのに農地に住宅開発を進めている状況に違和感を感じる。空き家を建て直すなどして住宅は確保していき、土地を開発するべきではない。農業に参加したい人は多いと思う。自分で作ったものを食べる喜びはとても大きいはずだ。耕作放棄地 141ha をそのままにするのはもったいない。これを市がどうにかして市民に活用できる体制にするべきだ。まず 10m×10m にニンジンを植えると何ヶ月でどれくらい収穫できるか、他の野菜の場合の収穫はなど具体的に教えてくれて苗にかかるお金はいくらで購入するのと自分で育てる比較なども提示してくれたらおもしろそうと思い、地域で共同してやってみようかと思う人がでてくるかもしれません。共同耕作者のマッチングもやってくれと助かると思います。市は農地を保全したいのか、開発して宅地にしたいのか、どうすれば経営していけるのか、どうすれば人が増えるのか考えを市民に広報すればいろんな意見がでると思います。これからの方向はこれ以上開発をすることなく農地保全をすることが私は良いと思います。副業が会社で認められれば農業アルバイトもやる人はいると思います。

耕作放棄地が多すぎます。冬に大風が吹くと空が茶色になり我が家は 20 年間に 10 cm 以上庭に土が飛んできて花壇が埋まりました。立春過ぎになると恐怖になります。息するのも苦しいです。赤土が空を舞います。耕作放棄地をなくす事が重要です。役所の方、農家の方、責任を持って対策を立てて下さい。食料危機が叫ばれているこの頃真剣に考えてください。農業をやりたいが土地が無いという人もいます。大きく宣伝して耕作放棄地をなくしてください。もっと行政と当事者が話し合っこのための未来のためしっかり話し合う事が重要です。

80 歳以上の戦中派、食糧難時代を経験した者としては農地を維持してほしい。これらの方針はアメリカでも肉食はしなくなるとのこと知ってますか、食料品としては米と大豆が基本と言われている。日本の土地はどこの国よりも気候の関係で肥えているとのこと。今米から牛乳と石油に近いものが研究されている時代。千葉県は農産物が良くとれる所ときいている。農地を農薬等で汚さない様研究してほしい。小さな農場の方が高齢者は働きやすいのでは。

今後の八千代市の将来は農業、農地の保全にかかっていると思います。大変だと思いますがご担当の皆様がんばってください。

年々、農業放棄地が増えているのが気になっています。地域では一括して作業をしている所もみられますので荒地にする前に大変でしょうがせつかく土地改良された土地を（田んぼ）市が率先して公社などをつくって維持されてはどうでしょうか

八千代市に一昨年転入しましたが春には鶯の声で目が覚めることがありとても気に入っています（しかしながら村上駅周辺に飲食店等があまりなくまた閉店時間が早いので（通勤時間がかかるのに店がもう閉まっている…）困る時がある。→鶯の鳴く里山のある都会を目指して欲しい（せつかく大手町まで一本で行けますし）→知人の中には古民家カフェをやりたいので農地のある良い所を探しているという人もいます・そのような稀な人材を積極的に受け入れてはどうでしょうか→新しい人材、新しいおしゃれな野菜作りそして vivid garden のようなネットでの販路など

<p>を市がバックアップしていくと良いと思う（全体的な都市計画必要では、特に狭くてぐちゃぐちゃな道路なんとかして欲しいです）</p>
<p>大規模経営したいが農地がとびとびしか無いとのことなので、寄せ集めて広げ、大型機械を使えるようにし効率を上げる。後継者のことを考えると会社経営にするのが望ましいと思う。市が行っている「まちづくり」で農業は北側の環境維持に役割を果たしていると思うが、水田の緑を見るとホッとす。地産地消が理想。市内で田園風景を見ることが出来るのは貴重であるので是非守ってほしい。</p>
<p>農地の保存には賛成です。その為にはどのような食材を作っているかだけでなく、どのような環境で育てているかも広く知らせることも重要だと思います。食材に関して親近感がわけば購買欲を向上する傾向があると思うためです。</p>
<p>八千代市は人口 20 万人都市でありながら、水稻、野菜、果樹、酪農とさまざまな農畜産物が産出できる恵まれた都市であると感じております。しかしながら、農業に対して行政機関などのアピールがほとんどなく、直売以外で八千代市産の文字を見ることがありません。千葉、船橋、白井、多古、八街、富里など他市町村で出来ていることが、なぜ八千代市にはできないのかいつも感じております。八千代市の農業、農地の保全のためには補助事業などの支援と共に、農地を守る場合の税制優遇などがあってもよろしいのではないのでしょうか？このままでは農業の衰退は進む一方です。八千代市も本腰を入れて、農畜産物のアピール、積極的支援を市長をはじめ、関係団体一丸となって進めてください。</p>
<p>八千代市はとても住みやすい所なので、これからもただの市街地化にするのではなく、緑地化した大地と共に、共存が持続できる未来になればいいと思います。</p>
<p>市街化調整区域と農業区域を明確にしたら？</p>
<p>八千代市産農産物を購入できる場所は少ないと思います。目につくとやはり身近で作られている野菜に安心感があり、選んでいます。後継者問題等で農業を続けられるのは厳しい状況かもしれませんが、田畑を常に目にしてきたので、今まで緑があったところが駐車場や家になっていると寂しく感じます、勝手な意見ですが、利便性のよい場所なのに、昔ながらの田園風景が広がる八千代市であってほしいので、農地保全につながるよう、微力ながら地場野菜を今後も購入していこうと思います。</p>
<p>休耕地を無料で貸す</p>
<p>八千代市内の農地は地形から見ても、大規模化は困難であり、小さい農地を効率よく収益を上げる方法が適していると思う。農地の活用として営農型太陽光発電により、収益を上げることが好ましいと思われる。ぜひ農政課として営農型太陽光発電の推進をお願いしたい。</p>
<p>耕作放棄地の管理・保全が重要。通学路の荒地に注意が必要。所有者の高齢化が原因か？所有者の出資による人材センターなどの活用。</p>

多くの農地が耕作されなくなり、宅地に変更されるのを見てきました。八千代市に引っ越ししてきた 20 年前と景色が大きく変わりました。自然との調和は八千代市の大きな財産であり、今後も市の農業、農地の保全を積極的に進めるべきと考えます。
市内では農地の宅地化が進んでいます。農地の保全が大切だと思います。耕作放棄地が増えないような取り組みも必要と考えます。
農業用地をもう少し貸出し、休眠地を減らす方がよいのでは。
耕作放棄地を無くすため、ホームページ等で利用者を無料でもよいから募集して、無くすようにしていただきたい。指導も含めて。
宅地が増え、農家が減るのが残念。
市南にもある程度の農地があっても良いと思う。八千代台南勝田台線計画 & 実行をお願いします。そして早期完成をお願いします。人生計画が立てられません。
休耕農地を市や県で借りて、農業従事者、後継者に貸し与えるシステムを作り上げたらと思う。
今はどこのお店にある農産物も新鮮なものがあり鮮度が良いことは当然です。価格に納得できれば産地にこだわらないのが現状です。市内産が他所のものに劣らないよう願います。農地が放置されそのまま…ということがないと良いと思います。農業をされている方がさまざまな理由で辞められるのは仕方ないと思いますがその後の管理がされず荒地にならないよう願います。

➤ 担い手に関するご意見

農業をしたい人に農業をさせる。
八千代市の魅力は住宅地と農地が比較的近いところにあることだと思います。農業従事者を増やすには幼児期から農業体験を積ませることも大切だと思います。
農業や農地を保つ為には後継者を育てて更に農業で生活できる環境を作ることです。
上記の問にある農業へのアルバイトやボランティアの窓口はあるのか？あるのなら、もっと知らせてほしい。ないのならぜひ作るべきだと思います。
若者が農業に関心が持てるように。農業をする若者が増えるようになれば良いなと思います。
ボランティアに対する募集を行う際に、ネットや市役所の掲示板などでなく、大学生以上がいる家庭に積極的に手紙や募集の紙があると意欲が出ると感じています。2 年前からネットは見えていたが、場所や日時が自分の空いている日程と合わなかったのですが、1 つ 1 つのボランティアに手紙としてあると嬉しいと感じています。
農家が減少しているとは知っているが農家の担い手となる後継者に補助金を出すことは大事だと思う。ただ根本的な問題解決（農家減少に対して）にはならないと思う。市が企業を誘致して農家に頼らない産業（利益があるビジネス）への仕組みを作っていく必要があると考えます。
後継者不足解消の為に他市で行っているように資金を出してあげて訓練も援助してサポート体制を充実させたら休耕地を農地にする為に募集したら八千代市に移住してこられる人もいないでしょうか

<p>ブランド野菜を育てて青空レストランなどメディアで取り上げてもらうと、若者の気を引くことが出来ると思います。基本的に、農業＝古くさいというイメージがあるので、農業がかっこイイものとして捉えてもらえるような工夫が、後継者確保に大切だと思います。</p>
<p>PRの方法を考え、若い力を確保すると共に、高齢者にも活躍してもらう。定年された元気なお父様方に知恵を出してもらい、若者にアピールする。</p>
<p>農業就業人口の減少が気になりました。でも国産、地元産を食べたいと思っています。協力をしたいと思っても、何をすれば…と分からないので、広報などで担い手を守る事など、PRしてもよいかもしれません。障害者の就業とか、いろんなことが出来るかもしれません。</p>
<p>農業をやりたいと思っている若い人たちに農業指導をし農地を貸している町村の取組みをTVで見た事があります。八千代市は農地の多い場所でも車を利用すれば買い物や医療にも困らないし教育の環境や都市への交通も恵まれていると思います。市内だけではなく外から農業後継者を確保する環境を整えば良いと思います。</p>
<p>個人での農業経営については難しい状況が今後も続くと思います。高齢化、後継者不足も大きな問題となるのも全国的に同じ状況です。その中での打開策を見つけるのは大変ですが大規模農園として経営出来るように舵を切る時が近づいていると考えます。(株式会社化など)</p>
<p>後継者不足改善の為、若者が参入しやすい様に法人化等のシステム作りを拡大</p>
<p>定年後、若者(無職の人)が働くことができる様に…</p>
<p>いつもおいしく食べさせていただいている食材、ありがとうございます。“作る”にはとても長い年月のご苦労があると思います。いろいろな意味で豊食となり、食べ物へのありがたみが薄れていることが残念です。「農業」という仕事が大変なこと、またみんなにとって幸せを運べる幸せな仕事と思える、知ることで後継者が育成されることを願います。</p>

➤ 農産物の生産に関するご意見

<p>・出来るだけ有機農法、無農薬の農産物生産に努力して頂きたいです ・農地の宅地化が多いのかわかりませんが高層ビル建設、杉の伐採などさせて頂きたいと思います。</p>
<p>都心に近い八千代の利点を生かして特色ある付加価値の高い新鮮な野菜、くだもの開発を行い供給する必要があるのでは また将来的には農業の大規模化、機械化、企業化による集団経営を行い収益力のある体制を整えるならば農業がますます魅力的になり後継者問題や対外競争力など一挙に解決。</p>
<p>先進農業(AI・ドローン等々)への取組みを積極的に進めてみたらどうでしょう。都心へも近く、大学等の研究機関もあるので、企業との提携でモデル地区として発展できるのでは？</p>
<p>牛舎のにおいは正直気になります。近くには住めないと思います。ただ、元々農業が盛んであった土地に住宅地が進出していった経緯があると思うので、農家の方もそれで苦情を言われても困るだろうと思います。市として農地を守りたいのであれば、住宅地との共存を考えていかなければならないと思います。</p>

<p>環境にやさしい農業をしてもらいたい。特に子供にはなるべく農薬を使わない野菜を食べさせたい。またそのような農業を見せて、食と環境について考える子に育ててほしい。そのためにも生産性ばかり求める農業ではなく、後世に残せる農業を目指してほしい。</p>
<p>虫のための農薬を使用しないでほしい。</p>
<p>農業保全の重要性も理解できますが、我が家には小さい子供がいるので、食の安全、健康というのが一番の関心事です。野菜の放射能汚染が気になり、関東、東北のものをさけてしまう（100%ではないが）のが正直なところです。本当に安心して地元の野菜を購入できる世の中になってほしいと思っています。</p>
<p>森林が減少しそこで暮らしていた動物達が畑に下りて来て害を増やしている。宅地化で農家も周囲の圧力に負け農地を縮小せざる得ない状況も発生している。街が発展して暮らしは便利になっているが環境の悪化や自然災害の恐怖が増している。自然破壊の重大さを企業に意識してもらいたい。農家の収入が少ないため後継者が減少しているのではないか？</p>
<p>地元の方が、後から入居してきた人に遠慮しては継続が大変なのは当然。（臭いや土ぼり等の苦情）。不動産屋さんと協力して、「八千代は農業や酪農に力を入れて市内の子供達にも教え伝えている」と宣伝してもらったり、貸農田情報を発信しては？</p>
<p>八千代市に住んでいるが、他市（県内）に実家の畑があり、そちらの方で営農を行っている。八千代市に限定せず、近隣の市町とのタイアップや農機の共有化を進め、営農者を支援したり、営農へのハードルを下げるなどの事業を行って、農業に対する興味を持ってもらうことが必要に思う。</p>
<p>後継者を確保するには収入という点は重要です。何か商品化するにも、商工会や信用金庫等バラバラのノウハウをマッチングしてもらったり、農機具は市が持っていて、安く貸し出すとか、ネットがけ、ビニール張りは近隣の高校、大学等を巻き込んで行ったり、小さな関りから若い人の声を聞くことも出来ると思います。</p>
<p>農作業はなくてはならないものだと思います。近年の自然災害の多発により農家の方々のさらに甚大な被害も予想されます。もっと公共の予算を農業の分野にあててもよいのではないのでしょうか</p>
<p>去年は台風で千葉県でもたいへんな被害を受けました。ハウスの修理に何年もかかるかもしれないと言っているのを聞きました。今まで八千代市は大きな被害をわりと受けずにこれでしたがこれからは保全も考えながら災害にも力をいれる時ではないのでしょうか。</p>
<p>現在、世界中で温暖化等により水害が田畑を使用できない状態が多く発生しています。今年は、千葉県等も台風による水害等により田畑が多くの被害を受けました。八千代市の農地を維持、保全に私も少しでも協力していきたいと思っています。</p>

➤ ブランド化・農産物の販売に関するご意見

<p>特産品等の普及を推進する。</p>
<p>八千代産のアピールが少ないので前面に「やっち」などのキャラクターを使ってどんどんアピールしたほうがよい！</p>

<p>・ブランド農産物を作る ・市民農園をふやす</p>
<p>荒地をなくす ・後継者を確保する ・土地の所有者と農業をしたい人に行政が関り借りやすくする ・販売所を増やして人の目に多くふれさせ販売の促進により収入の確保をはかる ・八千代市の野菜を買うことのアピール・八千代産とはっきりするためシールをはったりする ・荒地は景観が悪くさびれた地域に見えて八千代市のイメージを悪くする 農政のなさを感じる</p>
<p>どーんと祭りなどイベントでのアピール。またスーパーで地元祭りとイベントを行って、積極的に知ってもらうことなど。B 級グルメみたいに、八千代市は「これ！」というものがあるといいなあと思います。 (八街のピーナッツとか)。</p>
<p>八千代産をもっとアピールしてほしい。地場のものを食べたいです。農薬を減らしたり、地場の種の保守(外国産に頼らない)をがんばってほしいです!</p>
<p>地産地消について地元のスーパー、コンビニ等と協力して農地、店、市で共に発展を進めて行き 増収(市の)の増加に伴い市民がより良い生活環境(市民税の減額等)を進めて頂く等ご 検討願います。</p>
<p>最近では近くのスーパー3 か所やヨーカドーでも八千代市の野菜があり価格的にも高くないものを見て買っています。新鮮で美味形にこだわらずどんどん出荷して欲しい。</p>
<p>八千代市内に職場があります。職場に行商にきてくれたら主婦はうれしいと思います。きたら買いたい。(グリーンハウスが家からとても遠いので)</p>
<p>八千代市産の農産物を買えるようにする上では、地産地消のメリットを消費者も市民も理解を深める必要があると思います。また、顔の見える農業とあわせて、農産物も規格外や形が不揃いなものに対する偏見を取り除くことで、もっと身近に農業を当事者として考えてもらえる工夫が必要かと思っています。農家の方々にも難しいのかもしれませんが、そのような規格外や不揃いな農産物も、市内で流通、あるいは消費者・市民に食べてもらえる場があれば、食品ロスの削減という点でも、よい食育の機会になると思います。同時に安心、安全な食を確保することの重要性も、認識が向上されるのではないかと思います。</p>
<p>子供に農業の大切さや、どういうふうに出て、育てる大変さなど知ることが大切だと思う。八千代市産を買いたいと思うが、いざ買い物に行くと価格の安い方を買ってしまっているかなと思う。これからはもう少し意識してみようと思う。</p>
<p>自分も家庭菜園経験アリ。曲がったキュウリ、ナス味が変わらない事知っている。安く売る事で高齢者やシングルマザー等比較的収入の余裕の無い方助かると思うし、生産者も売れば有りがたい。すみません字がキタナクテ</p>
<p>スーパーの入り口のドアの店頭で、氏名記名の野菜が気になり、特にトマト、きゅうりなどを買うことが多くなりました。価格が大切ですね。すごく甘く新鮮でおいしいです。</p>
<p>八千代市の「オリジナル」名産品を、農政課が主導のもとで数多くの農家と連携して、全国でも認められる特産品を生み出してほしい。</p>
<p>八千代市産の野菜はまったくイメージがわからず、今回のアンケートで初めて意識しました。</p>

八千代市でお米も多く作られているが、どこに出回っているかが知られていないような気がします。梨がとてもおいしいので、もっとアピールした方がいいと思う。(船橋よりおいしいです)
八千代の梨は自慢です。野菜も美味しいので積極的に購入し守っていきたい
新鮮でおいしい野菜、果物がいつでも手に入り値段も高くないものを多く出して欲しい(道の駅へ)
スーパーの売場や野菜の入った袋に〇〇さんの作ったものと顔写真のあるものを購入しています。安心、安全な食材を子供達や孫に食べさせたいです。
いつもありがたく感謝をして八千代産のお野菜をいただいております。我家は転勤族でして様々な土地に住んでおりますが必ず地元の野菜を食するよう心がけております。虫食い、見た目気にしません。安全で新鮮で真心こもったお野菜をこれからも食して行きたいです。小学生の3人の息子は健康に育ってます。食べ物大切ですね。◎学校給食はあまりおいしくないと言ってます… 残念…
大手スーパーで主力商品として選ばれること。品質、価格で優位になること。
八千代産のものは農協で買えると思いますが、スーパーなどと比べて値段が高いと感じます。
売場をお知らせする。チラシ等
もっと強み(ブランドのある農産物など)があると良いと思います。
ミニトマトを毎日食べているので、形などにはこだわらないが、新鮮な八千代産のミニトマトを買って食べたいが、あまり見かけないので近くで販売してほしい。なかなか直売所には行けませんが、出かけてみたいと思う。近くの農地で何を作っているのか、もう少し気にしてみたいと思う。親の介護などで、ゆっくり出かけられないが、八千代市の農業や農地など、今回のアンケートに関わって少し見て回りたい気分にもなりました。
地場産農産物の見える化の必要がある。市内消費に止まらず全国に世界に販売ができるよう努力すべきである。一つの方法として地域の名称と商品からなる標章と一定程度有名にして「地域団体商標」として登録しブランドとして IT などで世界に発信するなど。
・地場産(安心安全をモットーにした野菜)野菜を各スーパー等に置いてほしい ・農業従事者が希望を持って生産できる体制(行政)を強めていただきたい。
私は緑が丘在住で、まちの駅をよく利用します。お米、いちご、なし、お野菜など、地元の食材がたくさん売っています。やはりおいしいです。今後は地元の食材の加工品を開発し、魅力ある商品がたくさん売れたら、八千代市の知名度も上がると思います。なしやぶどう、いちごなどはよく親族やお世話になった方に贈りますが、加工品で贈答品に良いと思うものは残念ながらまだないので、農家と企業が協力し、よりよいものが出来たら良いと思います。
東京に出ると八千代市の知名度の低さを実感します。“八千代市といえば”という名産品があるとよいと思います。住んでいるのが八千代台西なのもあり、周辺に田んぼや農地などの自然が少ないです。小学校の時も就農体験はなかったので、教育に盛り込んでいただけるとよいと思います。

<p>色々なスーパーに八千代市のがあれば買います。地元のだと値段も安いので。後顔写真（作った人の）があると最も安心する。</p>
<p>八千代市産物を購入したいが、近所にもっと売っているところがあればよい。老人が多くなり、近所にお店が無くなってしまい、スーパーへ行くのにもバスが出ているが、ゆっくりと買物が出来ず、バスの時間に間に合うよう買って帰る次第です。</p>
<p>八千代産の PR が不足している。市場での八千代産を広く特色ある場所を多くする。現況ではダメです。</p>
<p>八千代市産農産物売り場を見てから買い物をしていますが形がわるくて見栄えが悪くても味に変わらないのなら袋づめして売るように給食でも見た目だけでなく食に対してもったいない考えで利用するようにマーケットでは入口に入ってすぐに設けているのでわかりやすく買いやすい。八千代の梨も農協協会のとなりへ買いに行く状態でスーパーでも取り扱ってもらいと助かります。</p>
<p>私は八千代台に住んでいますが地元の農産物を購入するのに歩いて買い求める場所が遠いのです。昔はグリーンハウス、道の駅等行っていました。今は他の直売所に週一回程度買い求めるようになりました。ユアエルムの中に地元の野菜がありますが種類が少ないです。グリーンハウスの様に種類沢山のもがあると嬉しいです。年寄りですが新しい、めずらしい野菜見て食べ方など参考にしたり作ったり味わっています。</p>
<p>八千代市産の農産物の普及について、市の積極性が見られない。</p>
<p>最近スーパーにて地産（八千代市）の野菜コーナーが見られるようになりましたがまだまだ少量と PR がありません。安価で新鮮さを期待します。広報での PR 及び売場での PR を期待します。</p>
<p>道の駅などで八千代市産の農業製品を大々的に展開するだけでなく市内に展開している大手スーパーチェーンなどにも協力して貰って市民の目に留まる機会を増やすことが出来れば”八千代市産”の農製品により関心が集まると思う</p>
<p>八千代市の農産物を購入する機会（どんと祭）みたいなものが増えると良い</p>

➤ 農業交流に関するご意見

<p>農産物を市内で作ることは良いことだと思います。道の駅や農業研修センターの有効活用を望みます。ただ施設を造るのではなく、いろいろ市外にも発信できるような、人が集まる活動があれば、農作物の利用も人も多く集まるのではないのでしょうか。チャレンジするリーダーや考案者が必要なのではないのでしょうか。やちパンはおいしかった。</p>
<p>農業体験がもっと気軽にできる条件をと思う。</p>
<p>ぜひ農産物を育て買える場所を提供してほしい。</p>
<p>・道の駅をよく利用しますが駐車場が少なくいつも困っています。通常の駐車場枠を増やす他イベント時に臨時駐車場の確保をお願いします ・今年の台風、大雨の被害で市場に出せなかった</p>

梨も廃棄することなく「傷あり梨」として少し値下げで売っていただければ復興支援の思いを込めて購入します！
市内の若者に農業の魅力を積極的に奨励する事
市民農園を増やしてほしい。
空き地を共同で耕し、作る。
都市化区域と農業区域の境にある地であり、この地域性を大事にし、農業とオートキャンプや学校、地域住民との関わりを行政で支援し、維持するようにしてほしい。
学校やさまざまなイベントで紹介するとよい。
道の駅、野菜売場陳列を改善した方がいいと思います。下に置くやり方はよくない。八千代の道の駅は汚いし、しょぼい。他の農産物を扱っている所、店を参考にして買いやすくして、八千代の農産物をアピールしたらいいと思います。陳列方法を勉強してください。駐車場も狭いので買物しづらい。他県の道の駅を見学してみてください。
もしあいている農地があるのなら貸し農園にしたら借りる方がいると思います。そのままにしておくのはもったいないかも。やちよ農業交流センターの活用 すごくきれいな施設なのにあまり活用されている感じがしない。農産物の販売も少ないですし、調理場も使用されているのですか？毎回行くとももたずさみしい感じです。もっとアピールして活用してみてもいい？
貸農園を増やしてほしい。
収穫体験が（さつまいも以外）すぐいっぱいになり、なかなか体験できません。また、貸農地は料金が高く、手が出せません。子供たちと一緒に、野菜作りや収穫が出来る機会のハードルを下げていただけると嬉しいです。
柏の道の駅にある、地元野菜を使った食べ放題レストランのような魅力的な施設がほしい。
近くに貸農園（小区画（2坪くらい））があると便利。
市街中に農業と一般市民を繋げる場や売場が欲しい。PRも！
・高齢化、引き継ぎ手がなく耕作放棄地が増えている。これを活用し市民農園として貸し出し家庭菜園を増やす ・梨・牛乳以外にも野菜を作っているが八千代市産を知らない、もっとPRが必要 ・都会に近いので体験農業として都市部にPRし農業従事者を増やす ・農産物を利用した加工食品をコラボして作り出す ・親交換会は農業関係者だけでなく一般市民の参加者も必要
農地の維持管理は大変ですが頑張って下さい。公民館などでも地産地消の野菜の料理教室をお願いいたします。
八千代でいちご狩りが出来るのは楽しみです。
このアンケートで初めて農業等について考えることになりました。もっと情報を発信する、もしくは情報に接する機会を作るべきだと思います。農業等を考えることはとても大事なことです。
農業関係者と市民との対話機会をイベント等で拡充する必要性を感じる

<p>貸農園が近くにほしいです。(八千代台地域)昔はけっこうありましたよネ。現在 30 歳の子の徒歩で行ける畑へトマトやきゅうりなど取りに行き当時野菜ぎらいな子が多い割にはウチの子は積極的に野菜食べました。(今も)ファミレスなどでは大人でも野菜残す人はいますよネ(もったいない)わざわざ遠く迄農園借りるのはどんなもんなんでしょうか? 毎日の成長、世話をして収穫してそれが楽しみです。なかなか家の庭では沢山の種類ができません。問 12 で 2.3 そんなシステムがあるのを知りません。もっと広めて下さい。主人も私も参加したいです。近所の気が合わない人に無理に気を使うより同じ事に興味がある人達と付き合いたいものです。畑の虫たちもけっこうかわいいですよネ。青虫も蝶になったり八千代にもそういう事好きな人もいますはずです。農政課さんががんばって♡</p>
<p>農地を市民農園として貸し出すことで、農業従事者以外の市民に農業への参画を促す。</p>
<p>八千代台西からふるさとステーションは遠いので、八千代台近辺に八千代市の野菜を置いてほしいです。また、給食や授業などでもっと八千代市を PR してほしい。(イオンやヨーカ堂、ヨークマートやタイヨーなど) ドーンと祭りで牛や野菜などふれる機会があってよかったので、もっと季節ごとにもイベントを増やすといいかも。また、ふるさとステーションは遠いので、八千代台近辺でふるさとステーションみたいな料理体験を増やしてほしい。</p>
<p>農作業が精神衛生の維持に効果があるという報告があります。近年は心の疾患の問題が社会全体の関心を集めており、農作業による回復への試みは一考の価値があると思われます。</p>
<p>もっと高齢者など、コミュニティーの一環として、荒れた畑や田んぼなど活用して、もっと八千代市が豊かな生活になるとよいと思います。高齢者の方が運動のかわりとして、農業に関わると健康的になり、保険(医療)に対するお金も少なくなると思う。</p>

➤ 食育に関するご意見

<p>子供の通学路沿いの畑から、強風の時に土ぼこりがものすごいことになるので、通るのに難儀しておりますがどうにもならないですよネ。季節ごとの野菜を見ながら、登園していたのを思い出します。農地がある風景はやはりよいものですね。どんどん宅地になってしまいさびしいです。無人販売の畑の野菜でほしい物がある時は利用しています。ずっと利用できるとよいなあと願っています。いろんな昆虫も見られるので、少しでも多くの畑が残るとよいです。ジュニアトライアルの競技に、八千代産農畜産物をからめたものを加えると楽しく学べるかもしれません。問 16 : 農業交流センターの収穫体験を、学年で違う品で毎年行う。人参農家さんで協力いただける方がいれば、人参収穫はなかなかないのでよい体験になりそうです。ねぎ、キウイも可能ならば…。例、1 年 : ブルーベリー、2 年 : そらまめ、3 年 : 落花生、4 年 : さつまいも、5 年 : えだまめ、6 年 : 米、乳しぼりなど。幼稚園まではじゃがいも掘り、さつまいも掘りが定番行事であります、小学生になるとあまりないので、学校行事に入っているとよいと思います。田植え、稲刈りも楽しかったです。規模が大きすぎるなら、中学生でもよいかもしれません。小学生なら奇数年か偶数年にしぼるなど。やちよカレーを出す。家庭科で作る(人参収穫もからめられたら、なおいいですね)八千代産農産物でカレー以外もやってみたらどうでしょうか。生徒にメニューを考えてもらって、1 日その献立の日を作ってみ</p>

<p>る。(八千代高校生がやちよパンを作っていたので、その小中学生バージョンで、給食メニューを考えてもらうと楽しそうだと思います。)</p>
<p>イチゴ狩りなどの体験や自然や生きものと触れあえる環境など子供達にとって大切な教育環境となっています。農地を保全しそのまま自然と共存できる八千代市であってほしいです。</p>
<p>八千代市の小中学校に通っていたにも関わらず、八千代市でとれたお米が給食で出ていたことを知らなかったため、もっと周知するべきと感じました。また、高校の頃の通学路には田んぼが広がっていて、今後も景観保全に取り組んでいってほしいと感じました。将来、機会があれば貸農園や農地を借りて、農業をしてみたいと考えています。</p>
<p>以前 SNS で見かけたものですが、子供たち、若い人への農業の授業の際に「作業の大変さを教える」ばかりではなく、現代の機械をうまく取り入れたスマートな農業を教えてほしいと思いました。苦労も大切ですが、古い人の言う「自分は（昔）これだけ苦労したんだから今の人も苦労すべき」、手間を省けるところは機械など便利なものに任せて、効率的に農業をできる環境づくりのために色々取り入れてほしいです。問 14：重要だと思うのですが、農家の方々のさまざまな苦労を考えると、「お願いします。今のままずっと続けてください」とは言いにくいです。問 16：私の地元は別の市ですが、小学校 1～3 年生のどこかで、田植えの授業がありました。泥に入り田植え、とても記憶に残っています。このくらいの稲の束でごはん一杯分など、実際に見ることで大切さがわかり、食事を残さないことにもつながるかなと思います。</p>
<p>結婚前は他の市に住んでおり、そこで父が家庭菜園（50 歳を過ぎてから始めました）をやっていました。新鮮な野菜はとてもおいしいし、野菜嫌いの子供も収穫に携わることで、野菜を食べようになり、季節ごとに「もうすぐトマトがたくさん食べられるね」など、旬の野菜を楽しみにするようになりました。自分も小さい子供のころに農業ともっと関わることがあれば、興味を持ったと思います。児童や生徒に課外授業などで、農業について考える機会があれば、とてもいいんじゃないかなと思います。</p>
<p>小学校などでの食育は、すごく子どもたちに良い影響を与えていると思います。スーパーなどに並ぶ農作物は、生産者が長い間大切に育てた野菜やお米などなのだと知って、食べ残しを少しでも減らしてほしいと思います。地産地消の割合が増えるよう、地元の農作物により親しんでいけるようにしたいです。畑や田んぼのない風景はさみしいので、ぜひ農地存続に力を入れてほしいと思います。</p>
<p>小学校の給食試食会で、八千代市産の人参をたくさん使った給食をいただきました。とてもおいしく調理して、大切に野菜を使っているのだなと感じました。学校に限らず、野菜等の大切さ、農業の大切さを子供たちに、きちんと理解してもらえ環境を大切にしていきたいです。</p>
<p>子ども達に「食べられる」ことをあたりまえに思わずいろいろな人の働きと自然の恩恵に感謝する気持ちをもっていくようなことを伝えてほしい。</p>
<p>「食育」を通じて八千代市の農業の発展を意識づけるため『学校給食』には毎食八千代市の農産物を使用するのが大切だと思います。できたら保育園から『食育』をした方が良い！</p>

地産地消に対して前向きに今まで以上に取り組んでほしい。子供達への食育は大切なことで、特に小学生に体験を含め学んでほしい。
八千代市内で教員をしているが、食育という言葉にしばられて、給食や単発の食に関する授業のみになってしまい、農業の未来といった話にまでは発展していないと思います。小学校 5 年生の社会科で日本の産業を扱いますが、就農人口と放棄地の話がサラッと出るくらいなので、市教委と農政課でタッグを組んで、子供たちに現状を知ってもらい、共に考える授業をやりたいと思いました。また、学校では畑や田を所有していることが多いのですが、育て方等よく分からぬ教員が多く、伝えたい収穫の喜びや、命の大切さ、農家の方のすごさにせまれていない気がしています。中学校区、1 名程度農業指導員を配置していただけると助かる学校は多いと思います。
小学生時代に、ぜひ自分たちで育てて食べる農業体験を、市の南側地域でもやってあげてほしいです。

➤ その他のご意見

採れたての野菜がとても新鮮でおいしい。毎日食べてます。
今回のアンケートの意味が理解できない。税金の無駄だと思う。
大変な仕事だと思いますが、これからも頑張ってください。
特になし
おいしい野菜で明るい未来！
農産物の生産から流通、販売の考え方を根本的に見直し、デジタル化により競争力を上げる。農業においても世の中の変化のスピードに追い付く必要がある。
考えた事がない為特に意見はなし！
特になし
今後積極的に八千代産を購入したいと思います。
市議の公約を見ても農業に関する内容は稀であり市の農業が衰退するのも当然と思える
意見交換会、その他の感想とありますがそれこそが農政課に対する意見どころか緊急動議くらいに受け止めたらいかがですか？今回の意見をふまえて「何ができるか？」「何をすべきか？」を行政がプラン（たたき材料で良いので）を作り目標設定、達成に向けてほしい。
私は以前、八千代中央の学習塾に勤務していましたが、市北部に住む農家のお子さんは車での送り迎えが必須で大変そうでした。農業従事者への子育て支援策を充実させることが、八千代市の農業の未来を守ることにつながるように思います。
農地だけでなく雑木林や竹林の手入れもきちんとすべきと思う
災害に強い農業のためにテレビで見たことがあるのですがレタス等建物内で年中作れる工場をやっていました。野菜は価格変動があるのでいつでも安定価格でできれば良いと思います。

<p>重労働の農業をするよりはマンションを建てた方が楽という風潮が多い感じがします。根底には税金問題等色々考えられますが緑があって子供達にも喜ばれる産業として市がバックアップして頂ければと思います。</p>
<p>林等の減少も問題と思います。</p>
<p>市民が知恵を出し合い、八千代市の将来を展望する意識改革が必要だと思います。</p>
<p>PR が下手、PR 不足 八千代市の農業と言われても全くイメージできない</p>
<p>市の農畜産者に感謝しています。今後も頑張ってください。</p>
<p>今回まで八千代市の農業に関して全く何も思っていませんでした。このアンケートで少し興味を持ちました。</p>

調査結果の総括

1. 若年層、都市部住民への地元農産物の供給拡大対策が必要

普段農産物を購入する場について、50~60 歳代に比べ、20~40 歳代は、道の駅・直売の割合が低い。20~30 歳代は、スーパー地場産コーナーの割合も低い。また、「購入したいが近くに売っていない」、「購入したいが購入できる場所がわからない」、「購入したいが八千代産かわからない」の回答は40 代以上と比較して30 代以下は低く、若年層では八千代市産農産物の購入意欲が低いことがわかる。こうした点から、今後、若年層のニーズ・生活様式を踏まえた地産地消の推進策が必要となる。

地域別では、世帯数の多い大和田新田、村上、八千代台北において、「購入したいが近くに売っていない」、「購入したいが購入できる場所がわからない」、「購入したいが八千代産かわからない」の回答が多くなっており、地元農産物を購入しにくい状況と考えられる。今後の取組により、供給拡大の余地がある。また、このような比較的市域の南側において八千代産農産物の需要があることを鑑み、道の駅などの直売所も含めた農産物の直売所の配置や運営方法などについて、検討するとともに、併せて道の駅のあり方についても、包括的な検討を図る必要がある。

2. 地産地消のメリット（市民が八千代産を選ぶメリット）を伝える必要がある

農産物の購入に際して鮮度を重視する人は、鮮度を重視しているにも関わらず、八千代産農産物を積極的に購入する人が少なく、特に八千代産であることを気にしない人が35%となっている。八千代産の農産物を八千代市内で消費することは、鮮度の面で優れているが、鮮度と八千代産であることとの関連に気づいていない消費者が多いことを示していると考えられる。八千代産の農産物は鮮度に優れている、新鮮は美味しいという地産地消のメリットの理解を広めることで、八千代産農産物の選択購入につながる余地が残されていると考えられる。

3. 都市を中心に7割以上の市民が農地を保全することを重要とする

市内の農地を保全することは、73.8%の市民が重要との回答を示した。重要と思うとするのは、特に大和田新田・勝田台・高津といった世帯数の多い地域で高い。農業の多面的機能に対する期待や自由回答の意見から、市内の農地が、新鮮な農産物の提供、洪水の防止、大気の調整、教育、景観保全に貢献していることの理解を広めること、都市部等多くの人の目につく農地の荒廃防止や土ほこり対策等周辺への対応を進めることにより、農地を重要とする市民の増加につながると考えられる。

4. にんじん・ねぎの認知度はなしに比べて低い

にんじん、ねぎは、八千代で比較的生産量の多い作物であるが、認知度はなしの87.8%に比べて、にんじん36.3%、ねぎ25.2%と低い。特に、年代別では、なしがいずれの年代でも8割以上に認知されているのに対し、30歳代の認知度はにんじんで12%、ねぎで10%である等、若年層に認知され

ていない。

5. 市民と農業の関わりは増える余地がある。労働力の供給も期待できる。

市民の農業との関わりは、現状における農業との関わりに比べ、将来の関わりへの回答が全般的に高い。特に、直売所は、現状が46.0%に対し、今後関わりを持ちたいとの回答が73.4%、味覚狩りは、現状が18.1%に対し、今後が35.5%となっており、利用を拡大することが期待できる。

農繁期の労働力で働く意向は農繁期のアルバイト3.9%と割合としては低いが、八千代市の生産年齢人口（15～64歳約12.4万人 R1.9.30時点）に換算すると、5,000名程度の労働力確保に結び付けられる可能性がある。

6. 食育の積極化への期待は高い

学校給食における地元農畜産物の活用については、地元農産物の給食回数を増やす、市内の農畜産物であることを示す等、積極化を志向する意見が合計して約9割と高い。自らが食育の実施に協力するとの回答者も存在することから、市民の協力を得て食育を積極化して展開することが期待される。

7. 市民の農業に対する興味関心が高い

本アンケート調査において、自由意見記載欄を設けたところ、多くの方から収穫体験等の機会の増加、道の駅の機能強化など多様な意見をいただいた。これは市民の農業への興味関心が高いことを示しており、都市部と農村の調和のとれた農業へのヒントを多く含むと考えられることから、頂いた意見について施策を考慮する際に活かしていく必要がある。

**八千代市の農業の
現状と振興に向けた課題**

1 八千代市の農業の現状

(1) 農地

① 規模拡大に適した畑・樹園地の確保が困難

八千代市の農地は、水田と畑がそれぞれ半数ずつ占める。畑は、整形の畑が少なく、収量の安定に必要となる用水が整備された畑が少ない。畑の整備が進んでいないため、にんじん、ねぎ等の露地野菜及び飼料用作物の生産者は、畑が小規模に点在し、機械作業に適した農地の確保が難しい状況にある。樹園地においては、規模拡大の意向があるが、利用権の設定期間について短期のケースが多く、投資を回収するために必要な長期的な農地の貸し出しに結びつきにくいことから経営の規模拡大が困難という意見がある。

こうした状況の中で、八千代市の農業者の生産規模は小さい。また、条件にあう農地を望む意見がある。

② 未整備水田の存在

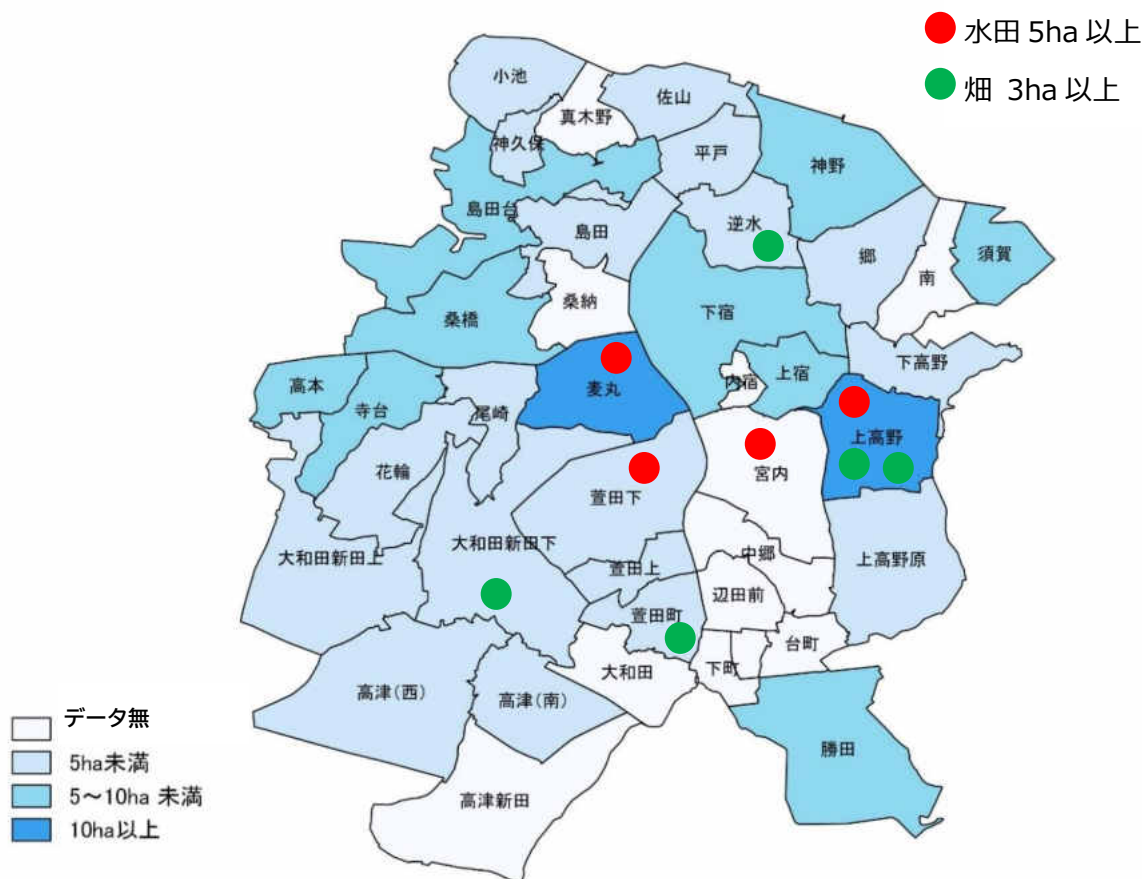
八千代市の水田は、市全体でみると1.0ha以上の区画の割合が多く、県下トップクラスの整備水準である（千葉県1.9%、八千代45% 平成27年農業基盤情報基礎調査）が、集落単位でみると、麦丸、桑納、桑橋、平戸、上高野、下高野、萱田下等で未整備の水田が残されている。また、整備済みの水田においても設備の老朽化が進んでいる。

現在、桑納川地区（桑橋・寺台・高本）において、土地改良事業の導入に向けた検討が進んでいる。

③ 耕作放棄地の拡大と耕地の減少

八千代市の耕作放棄地は、県全体と比べても早いペースで拡大している。理由としては、農地所有者が土地持ち非農家に世代交代したことや整備された畑地が少ないこと、未整備水田での耕作放棄等が考えられる。また、経営耕地面積は、畑を中心に減少している。農業者アンケートの結果、上高野等の特定の地域では一定規模の耕作面積を有しながら後継者のいない農業者がみられ、将来的に担い手が消失し耕作放棄地がさらに増加する可能性がある。

参考：耕作面積が一定規模以上であり後継者のいない回答者の耕作地区（複数回答）



※丸の数は、回答者数を表す

④ 農地中間管理事業への関心の高さ

農業者アンケートの結果、農地中間管理機構への貸付については、検討したいとの回答を含め、島田、麦丸、萱田町、桑納、寺台、上高野、下高野、萱田下、島田台等を中心に合計 43 名と多数の農業者が関心を示した。農村ゾーンにおいても意見が上がっている。

⑤ 農地集積・生産基盤整備に向けた環境の進展

国は、農林水産業・地域の活力創造プラン等の方針に基づき、農地の 8 割を担い手が耕作する方向を目指している。こうした方針に基づき、農地中間管理機構による農地集積・集約化や、基盤整備等の取組が推進されている。

⑥ 都市農地の位置付けの変化

都市農業振興基本法が成立し、市街化区域の農地に対する国の方針は、従来の宅地化すべきものから、都市にあるべきものへと変更された。これに伴い、生産緑地の指定期限を延長する特定生産緑地制度の創設、生産緑地の建築規制の緩和（直売所や農家レストラン等が開設可能になった）、生産緑地を貸与した場合の相続税納税猶予の継続等、都市と調和し、都市の特性を生かして営農を維持・発展するための制度改正が行われた。また、都市の農地と農業に対しては、新鮮な農産物の供給、良好な景観の形成、農業体験の場の提供等の多面的な役割が期待されている。

八千代市においては、約47haの生産緑地がある。

⑦ 北部地域の市街化調整区域を農業中心の土地利用とする市の方針

八千代市都市マスタープランでは、市の北部地域を中心とした市街化調整区域について、農産物の生産の場として農業を中心とした土地利用を図り、優良農地の確保などに努めるとともに、南部市街地と対をなす自然を満喫できる場として維持保全していく方針としている。

(2) 担い手

① 生産性向上に意欲的な担い手と組織の存在

認定農業者、法人経営体等を中心に、ブームスプレーヤー等の大型機械の導入、ハウスの導入等に取り組む考えを持っている（農業者アンケート 問15 認定農業者クロス分析結果「規模拡大、省力化に向けた機械の導入・更新」18%、「栽培ハウスの導入」5%）。

また、八千代市には、にんじん、ねぎ、なし、施設栽培等において、農業者の組織が存在する。こうした組織は、生産者が協力して気候変動への対応や栽培方法の改善、品種等に関する情報を共有し、対策を検討・研究するといった組織的対応を積極化する意向を持っている。

② 規模拡大を志向する担い手の存在

農業者アンケートの結果、認定農業者や法人経営体を中心に、経営規模を拡大する考えの担い手が、5年後11名、10年後9名と少数ながら存在する。このような規模拡大を希望する農家の存在は貴重で、地域の営農を支える力になると思われることから、早急に支援を行うことにより、早期に成果が得られると考えられる。

また、農業者アンケートの結果、法人化を検討する農業者が存在することから、このような農業者を支援する必要がある。

③ 担い手支援の充実

国は、農地中間管理機構による担い手への農地集積・集約化の取組と合わせ、人・農地プランで位置付けられた中心となる経営体等に対し、機械・施設等の設備投資に対する支援を継続して行っている。

千葉県では、JA 等の関係機関と連携し、千葉県農業者総合支援センターを開設し、農地確保、生産技術、販路確保、法人化等の農業経営に関する様々な相談に応じ、農業者の個別の状況を踏まえて支援策を提案し、推進する体制を整備している。また、八千代市では、千葉農業事務所改良普及課により、にんじん、梨、施設野菜等の園芸の生産者組織に対する指導等の支援が行われている。

④ 新規就農支援の充実

新規就農者への支援については、農業次世代人材投資資金により、就農の準備期間と就農後を合わせ、最長 7 年間 150 万円を支給する支援を継続して行っており、年齢制限は従来の 45 歳未満から 50 歳未満へと変更された。また、50 歳代の就農希望者を研修する機関に対し、研修費用を助成する支援が始まる等、国の新規就農支援は年齢層の拡大と拡充が行われている。

⑤ 市民の農業への参画の意欲

市民アンケートの結果、農地を確保して就農を希望する人材が存在する。また、農繁期に働く考えや食育の実施に協力する考えの市民も多数存在する。一方、多面的機能の活動組織は、活動参加者の確保に苦慮している状況や、農業ボランティアの活動者が減っている状況もある。このことから人材のマッチングがうまくいっていない状況にあることが読み取れる。

国の新たな食料・農業・農村基本計画のとりまとめに向けた検討では、女性の経営・社会参画、多様な人材（高齢者、障がい者等）の確保を進める必要性が検討されているため、今後の国の動向にも注目し、検討・推進の必要がある。

⑥ 労働力不足の深刻化

農業者アンケートの結果、労働力の不足は、上位の問題となっている。特に八千代市では、多品目の経営等、機械化が難しい状況や物流に手間をとられている担い手がいる。こうした農業者は、親世代の高齢化に伴って労働力が不足し、経営規模を縮小する状況になることを心配している。

また、品目別には、特に、以下の工程で労働力が不足しているとされる。

◆ 農業者アンケートより

果樹	収穫・剪定
にんじん	箱詰・ほ場からの運搬・洗浄
ねぎ	仕分け、箱詰
稲	田植（補植、苗の運搬等）

⑦ 新規就農が困難

耕作放棄地が拡大している状況や、後継者不在の経営耕地が半数を占める状況から、経営耕地を維持するため、新たな担い手の確保が必要な状況にある。八千代市では、農業協同組合が、農外から就農者を確保し、部会等の生産者として確保する取組が模索されている他、就農希望者を研修生として受け入れる農家がある等の新規就農に向けた取組が行われている。しかしながら、貸与希望等の農地の情報に関する周知が不足していること、就農希望者が農地を借りる信用を得にくいこと、就農時の設備投資資金の確保が困難なことから、就農が進みにくいとされる。

⑧ 担い手の不足

高齢化、後継者不足により、担い手が不足している。この結果、農地集積を進めつつも農地の受け手が不足して耕作放棄地の拡大に歯止めがかからない、農産物直売所では地元の農産物が集まらない、共同販売作物の出荷量が減少しているといった問題が起きている。また、経営耕地面積の約半数が後継者不在の農地であり、今後の耕作放棄地の拡大が心配される。

基盤が整備された水田では、集落の法人により水田農業が営まれているが、法人の中心的な担い手が高齢化し、組織の後継者を確保できていない法人もある。

(3) 生産

① 環境保全型農業の基盤

八千代市は、都市農業としては珍しく、耕種・畜産の両方の農業がおこなわれており、畜産以外の有機系農業廃棄物も含め、環境保全型農業の基盤を有している。現状では、堆肥の品質の面から、畑作における堆肥の利用が限られている等、環境保全型農業の取組は限られているが、市民に八千代市産を差別化する上でのキーワードとして、環境保全型農業の積極化を期待する意見がある。

② スマート農業の進展

情報通信技術やセンサーで観測する技術を活用したいいわゆるスマート農業が進展し

ている。今後の情報通信技術の進展や、生産基盤の整備等の環境整備に伴い、スマート農業の導入領域は広がり、スマート農業に取り組む地域では、生産効率が増すと考えられる。

③ 気候変動による生産環境の悪化

近年の相次ぐ台風等により、八千代市内外において、農産物や農業施設への被害が発生している。農業者アンケートの結果でも「温暖化、台風増加等の自然環境の変化」は、八千代市の農業者が直面する上位の問題となっている。

④ 都市化による生産環境の悪化と制約

都市化により、防除、機械作業の音、土ぼこり等に対するクレームがあり、従来のやり方で農作業をしにくい状況となっている。八千代市で件数の多い酪農は、糞尿の処理量に応じた畑の面積が必要となること等から、飼養頭数を増加して経営を拡大することができない状況にある。こうした問題は、市街地の農地の他、市北部の農業振興地域においても起きている。

⑤ 鳥獣による農産物被害

農業者アンケートの結果、鳥獣による農産物の被害は上位の問題となっている。

(4) 流通・販売

① 直売所の品不足

八千代市の地産地消は、多品目を生産し、直売所で販売することにより拡大してきたが、生産者の高齢化等を背景に、直売所・道の駅への出荷が減少し、品不足となっている。利用者確保の面では、従来の顧客が高齢化・減少する一方、市域南部の世帯数の多い地域の消費者を顧客として確保できていない状況や消費者の生活様式の変化を背景に、売上が低迷しているとされる。

② 市内の農産物の需要

農業者のアンケートの結果、道の駅・直売所といった市内の需要は、将来の販路として最も多くの農業者が選択している。コメについては、大規模な経営体も道の駅・直売を販路として志向している。また、いちごは交流センターで集客し市内の各いちごハウスに人を誘導する仕組みづくりを求めている。

市民アンケートの結果、市域南部の世帯数の多い地域を中心に、地元農産物の販売を拡大する余地が残されている。また、農産物の年間消費額と八千代市の世帯数が

ら、市内の需要を推計した結果、市民の需要が農業産出額を上回っており、地産地消により農業振興を図る余地が残されている。一方、にんじん、ねぎ、ほうれんそう、なしといった生産量の多い作物は、市民の需要を農業産出額が上回っているものもあり、市外に向けた販売戦略が重要となる。

◇ 耕種農業の地産地消の市場規模（推計）

市民が購入する主な農産物の総額は55億円と推計される。この金額から、流通コストを差し引いても、八千代市の農業産出額を上回る。ただし、一部の生産量の多い作物は、市民の需要を農業産出額が上回っているものもある。

	年間消費額 (円/年間)	総世帯数	市民の年間 購入金額 (千万円)	左記から流通コストを 差し引いた金額 (千万円)	八千代市の 農業産出額 (千万円)
コメ	19,180	89,887	172	121	41
主な生鮮野菜	31,813		286	200	136
内にんじん	2,113		19	13	12
内ねぎ	2,803		25	18	35
内ほうれんそう	1,844		17	12	27
主な生鮮果物	10,238		92	64	71
なし	1,691		15	11	58
主な生鮮野菜・主な生鮮果物計	42,051		378	265	207
コメ、主な生鮮野菜・主な生鮮果物計	61,231		550	385	248

品目別年間支出2018年家計調査総世帯（関東地区）

総世帯は2019年12.31現在（八千代市HP）

流通コストを差し引いた金額は、流通コストを30%として試算（直売所プラスαレベルを想定）

農業産出額とは、農家庭先販売価格（手取り）の意味（2018年農林水産省市町村別農業産出額の推計）

本表の主な生鮮野菜とは、だいこん、にんじん、さといも、はくさい、キャベツ、ほうれんそう、レタス、ねぎ、ブロッコリー、きゅうり、なす、トマト、ピーマンである。

本表の主な生鮮果物とは、いちご、すいか、ぶどう、なし、キウイフルーツである。

※ 畜産については、流通の経路が野菜と異なっており地産地消を推進しにくいことから推計に含めず。

③ 地元農産物に対する量販店のニーズ

地元農産物は、多くの量販店が地場野菜コーナーを設置し、取り扱い拡大の意向を示すが、他産地と差別化されていない八千代産の農産物が、通常の売場の同一品目より割高となると売れ行きが鈍る状況がある。一方、鮮度で優位性のある葉物、ブランド化しているなしは、差別化されているため割高でも売れる状況がある。こうした中、地元農産物を取り扱う量販店は、適正価格に留意しつつも、地元農産物のブランド化・優位性の周知・消費拡大に向けた取組について、行政や出荷団体と連携して取り組む意向を示している。さらに、地場野菜コーナーを一定面積確保するために、時期に応じ、地場農産物が、売り場を埋めるだけの量揃うことを望んでいる。

④ 共同販売の仕組み

八千代市は、指定野菜のにんじんの他、ねぎ等において、農業協同組合が共同販売を行っている。農業者アンケートの結果、今後の販売についても、認定農業者、専業農家を中心に、品目では、にんじん、ねぎにおいて、共同販売を重要な販路と捉えている。

(5) その他

① 市民の農業への関心の高さ

アンケート調査について、市民用・農業者用ともに自由に意見を記述できる問を設けたところ、多くの方から多様な意見を頂いた。このことは市民が農業に対して高い関心を持っていることを示しており、上手く関心の高さを活かすことにより農業振興につながる可能性を秘めている。

② 持続可能性と家族農業への関心の高まり

国連が提唱したSDGs（持続可能な開発目標）により、農業に対しても、持続可能性のある生産方式や経営が重要視される時代となってきた。また、大規模な農業経営に加え、家族単位の農業が世界の食料生産の一翼を担っていることが注目されるとともに、家族農業の継続や機械導入等の効率化を進める必要性が重要視されつつある。

2 課題の整理

現状を踏まえ、以下に課題を整理する。

	機会	脅威
	A. 農地中間管理事業への関心の高さ B. 農地集積・生産基盤整備に向けた環境の進展 C. 都市農地の位置づけの変化 D. 担い手支援の充実 E. 新規就農支援の充実 F. 市内の農産物の需要 G. 地元農産物に対する量販店のニーズ H. 市民の農業への参画意欲 I. 市民の農業への関心の高さ J. 持続可能性と家族農業への関心の高まり	A. 耕作放棄地の拡大と耕地の減少 B. 気候変動による生産環境の悪化 C. 都市化による生産環境の悪化と制約 D. 鳥獣による農産物被害 E. スマート農業の進展
強み	強みを活かし機会を捉える	強みを活かし脅威に備える
① 北部地域を農業中心の土地利用とする市の方針 ② 生産性向上に意欲的な担い手と組織の存在 ③ 規模拡大を志向する担い手の存在 ④ 環境保全型農業の基盤 ⑤ 共同販売の仕組み	1. 農地集積集約化の推進【①③AB】 2. 農機導入の支援【②③D】 3. 八千代産農産物の差別化【②④CFGJ】 4. 法人化の推進【③D】	1. 食育による市民の農業理解の促進【①C】 2. 共選化の検討支援【②③⑤AE】 3. ほ場直売型農業の拡大【③C】
弱み	機会を活かし弱みを補う	事態の悪化を避ける
① 規模拡大に適した畑・樹園地の確保が困難 ② 未整備の水田の存在 ③ 労働力不足の深刻化 ④ 新規就農が困難 ⑤ 直売所の品不足 ⑥ 担い手の不足	1. 未整備水田等の整備【②AB】 2. 畑地の整備【①AB】 3. 計画的な労働力の育成【③H】 4. 新規就農の推進【④⑥EDI】 5. 販売先と連携した生産振興【⑤⑥FG】 6. ニーズに応えた地産地消の拡大【⑤CG】	1. 環境変化に対応する栽培技術の研究支援【②⑤⑥BCDE】 2. 市民の積極的な農業参画の促進【⑥A】 3. 農地の保全【①AC】

3 農業振興に向けた課題

(1) 農地

① 未整備水田等の整備

未整備の水田について、土地改良事業の導入等による整備を検討する他、畦畔除去によって、大区画化が可能な農地については、大区画化を進める必要がある。

また、老朽化した水田の生産基盤については、多面的機能支払交付金の活用等による補修と長寿命化に取り組む必要がある。

② 畑地の整備

規模拡大を志す農業者にとって、大型機械の導入等の条件に合う畑地を確保できない状況を改善するため、畑地の整備を検討する必要がある。

③ 農地集積集約化の推進

未整備水田の整備や、畑地の基盤整備と合わせ、規模拡大を志す担い手への集積集約化を進める必要がある。

集積集約化に際しては、農地中間管理事業への関心の高い地域や将来的に離農・引退が多く発生することが予想される地域において、土地所有者を対象とした農地中間管理事業の説明を行うとともに、規模拡大希望者を確保する等の対応を進め、農地中間管理事業の導入を検討する必要がある。

④ 農地の保全

八千代市の特産物であるなしは、農薬散布が必要であるが都市化により生産環境が悪化していること、酪農経営には頭数の維持が必要であること、にんじん、ねぎ等の露地野菜の生産者が規模を拡大するために畑地が必要なことを踏まえ、周辺の住環境に配慮した営農方式の検討や、市民の農業理解を促進する取組と合わせ、北部地域は、引き続き農地を中心とした土地利用を維持することが必要となる。

(2) 担い手

① 新規就農の推進

将来の経営耕地を維持すること、生産・出荷量を増加することを目的に、農業後継者や新規に農業に取り組む人材といった新規就農者を確保する必要がある。

実現に向けては、人・農地プランにより、新規就農者を地域の担い手候補に位置付け

ることや、出荷団体の生産部会が就農を希望する研修生を受け入れる等、就農希望者の地域への浸透を手助けすること、農地の確保等、総合的な支援を行政と出荷団体が連携して進めることが必要となる。

② 法人化の推進

農業者アンケートの結果、自らの経営を法人化する意思の農業者が認定農業者で5名、その他の農業者で3名存在する。こうした農業者の法人化を支援し、経営の持続可能性の高い生産者を確保する必要がある。

③ 食育による市民の農業理解の促進

都市化が進む中、住民の農業に対する理解を促進し、農作業に対する理解を得ることを目的に、生産緑地や農地と宅地が近接する地域において、農業者と食育に協力意欲のある市民が連携し、食育を推進する必要がある。

④ 計画的な労働力の育成

生産者が、農繁期のみが必要となる労働力を確保し、高齢化に伴う出荷量の減少を防ぐこと、規模拡大志向の農業者の規模拡大を実現することを目的に、なしにおける収穫、剪定、稲における田植えの補助等、労働力が不足する工程の人材を確保すべく、農業ボランティアの育成に取り組む必要がある。併せて、農業ボランティアの人材が不足している状況を踏まえ、有償による取組の検討が必要と考えられる。

⑤ 市民の積極的な農業参画の促進

市民アンケートの結果、将来農業者となることを考える人材がいることから、こうした人材が、適性を確認したうえで、就農できる仕組みを検討する必要がある。また、就農形態の一つとして、水田の法人への雇用就農により、水田の法人の後継者の確保に結び付ける方向性も検討の必要がある。

(3) 生産振興

① 農機導入の支援

露地野菜の生産者は、大型農業機械の導入を検討しているため、畑地の整備により大型機械の作業環境を確保するとともに、活用可能な交付金の導入を支援する等、農機導入を支援する必要がある。

② 環境変化に対応する栽培技術の研究支援

耐風性のある品種、市場からニーズのある時期に出荷可能な品種等の新たな品種の導入の検討や、ICTの有効性の検証、鳥獣被害対策等、栽培環境の変化に対応し、収量と品質の安定・向上、生産の効率化を実現するための研究について、農業者共同による取組を支援する必要がある。

③ 販売先と連携した生産振興

直売所等の品不足に対応するため、直売所等の運営者と出荷者が連携し、不足する農産物の確保に取り組む等、販売先と連携した生産振興の取組を進め、地元農産物を確保することを検討する必要がある。

(4) 流通・販売

① 八千代産農産物の差別化

地産地消は新鮮でおいしいといった、地産地消の利点を周知するとともに、生物多様性に貢献する水田の農業等、地域の環境に貢献する市の農業をPRし、市民に対する地元農産物の差別化を行う必要がある。また、差別化に向けた取組の一環として、酪農家のふん尿や梨の剪定枝などを地域で有効に利用しきれていない事への対応策の検討と合わせ、他の有機系農業廃棄物も考慮の上、堆肥としての利用等による環境保全型農業の推進を検討する必要がある。

② 共選化の検討支援

指定産地のにんじんについて、高齢化による生産量減少を抑制するとともに、規模拡大を希望する担い手の規模拡大を実現するため、選別・箱詰めといった選果工程を軽減することが、有効とされている。一方、選果場を整備した場合、選果手数料がかかるため、生産者は、栽培面積の拡大や品質の向上に取り組み、手数料を上回る売り上げを確保することが必要となる。

今後、共選化する工程や、必要となる施設の規模・機能、整備費用、維持管理コストを試算し、共選化の可否を検討する必要がある。

③ ほ場直売型農業の拡大

八千代市では、生産者がなしを直売している。また、若手の農業者を中心に、いちご狩りの経営が増えている。こうした観光体験農業については、市民アンケートによると、市民のニーズも高いため、今後の拡大に向けた対応が求められる。

④ ニーズに応えた地産地消の拡大

市域南部の鉄道沿線の住民を対象として、市内産農産物の販売を拡大する余地があるため、道の駅や出荷団体との連携も視野に、市内の量販店に、安定して地元農産物を供給する取組と体制の整備を推進する必要がある。

一方、市域北部の直売所においては、交流や観光的な魅力を付加し、農産物の購入にレジャーの要素を取り入れて、休日における利用者確保に取り組むなど、市域の南部から消費者を呼び込む戦略を検討する必要がある。また、道の駅については、他の直売所も含めてあり方を包括的に検討する必要がある。

この他に、農産物を購入する際に鮮度を重視しているにも関わらず八千代産であることを気にしない購入者が一定割合いることから、八千代産の農産物は鮮度が高く美味しいという地産地消のメリットの啓発を図り、八千代産農産物の選択購入につなげていく必要がある。